



平成 26 年度

第 49 回

県政に関する世論調査

報 告 書

平成 27 年 5 月

千 葉 県

は し が き

この調査は、県民の皆さまの生活意識や、県政に対してどのような関心や、期待などを持っておられるかを把握し、県政推進の基礎資料とするため、昭和50年度から実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、今回は平成26年度第2回目の調査で、県内在住の満20歳以上の男女3,000名を対象に、昨年11月から12月にかけて、郵送法で実施しました。

具体的内容としては、「高齢者福祉施策」、「医療」、「ワーク・ライフ・バランス」、「環境保全に関する取組」、「道路整備」、「青少年の健全育成」、「起業・創業」、「県民の文化芸術活動」、「男女共同参画社会の形成促進」、「県民の治安に対する意識と警察に求めること」、「社会全体での暴力団排除の推進」の11項目について調査を実施しました。

この報告書が、県の施策立案や諸事業の推進などに活用されるだけでなく、広く県民の生活意識や県政に関心を寄せる方々にご活用いただければ幸いです。

終わりに、この調査にご協力いただきました県民の皆さまを始め、関係の方々に厚くお礼申し上げます。

平成27年5月

千葉県総合企画部長 鶴巻 郁夫

目 次

調査の概要	1
調査の結果 調査結果の解説	15
1 高齢者福祉施策について	17
(1) 高齢者の年齢	17
(2) 高齢者のイメージ	19
(3) 高齢者が意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っているか	21
(4) 高齢者が活躍できる生活を送るために必要な施策	23
(5) 高齢者が社会とかかわりを持ちながら生活を送っているか	25
(6) 高齢者が社会とかかわりを持ちながら生活していないと思う理由	27
2 医療について	30
(1) 県内の医療の満足度	30
(2) 県内の医療で不満な点	32
(3) 今後、県に力を入れて欲しい医療	34
3 ワーク・ライフ・バランスについて	37
(1) 「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」言葉の認知度	37
(2) 実現社会に近づくための取り組み重要度	39
(3) 取り組みの中で最も重要なこと	55
(4) 女性が活躍できる仕事・職場環境にするために必要な条件	57
(5) 1年前と比べて生活ごとの時間変化	60
4 環境保全に関する取組について	69
(1) 普段の生活での取組実施状況	69
(2) セミナーやボランティア活動の参加経験	75
5 道路整備について	78
(1) 普段の生活での道路利用目的	78
(2) 県内の道路状況の満足度	80
(3) 今後、優先的に対策すべき課題	82
6 青少年の健全育成について	86
(1) 「ひきこもり」の若者の存在	86
(2) 「ひきこもり」の若者に必要な行政支援	88
(3) 青少年健全育成条例で知っている内容	91

7	起業・創業について	94
(1)	起業の経験・関心	94
(2)	起業を相談された場合の評価	96
(3)	起業を応援する場合の条件	98
(4)	起業を応援しない理由	100
(5)	起業が増えると影響する内容	101
8	県民の文化芸術活動について	104
(1)	特に関心を持っている文化芸術	104
(2)	この1年間に県内でふれた文化芸術	107
(3)	この1年間に県内の文化芸術にふれなかった理由	110
(4)	文化振興にあたっての県の取り組み評価	112
(5)	地域の文化的環境に必要なこと	118
(6)	文化芸術を振興するために県が果たす役割	120
9	男女共同参画社会の形成促進について	123
(1)	今後、行政が力を入れるべきこと	123
(2)	「男女共同参画センター」で充実すべき事業	127
(3)	DVやセクハラ、ストーカー行為をなくすためにすべきこと	130
10	県民の治安に対する意識と警察に求めることについて	134
(1)	居住地域における最近の犯罪発生状況	134
(2)	身近な人が巻き込まれる危険性について不安を感じる犯罪	136
(3)	移動交番車の認知度	140
(4)	移動交番車の運用に期待すること	142
(5)	警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪	144
(6)	安全で安心できる生活を守るために必要なこと	148
11	社会全体での暴力団排除の推進について	152
(1)	千葉県暴力団排除条例の認知度	152
(2)	千葉県暴力団排除条例の規定内容の認知度	154
(3)	暴力団排除の取組に参加する上で必要な支援	156
(4)	暴力団排除の取組で参加する内容	158
12	自由回答	161
	(付) 調査票および単純集計結果	169

調査の概要

調 査 の 概 要

1. 調査の目的

この調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の項目

県政の主要課題

- ①高齢者福祉施策について
- ②医療について
- ③ワーク・ライフ・バランスについて
- ④環境保全に関する取組について
- ⑤道路整備について
- ⑥青少年の健全育成について
- ⑦起業・創業について
- ⑧県民の文化芸術活動について
- ⑨男女共同参画社会の形成促進について
- ⑩県民の治安に対する意識と警察に求めることについて
- ⑪社会全体での暴力団排除の推進について

3. 調査の設計

- (1) 調査地域 千葉県全域
- (2) 調査対象 満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックごとに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して（二段）、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

- (5) 調査方法 郵送法（郵送配付－郵送回収）
- (6) 調査時期 平成26年11月27日～12月15日

4. 調査機関

株式会社 マーケティング・リサーチ・サービス

5. 回収結果

標本数 (A)	3,000件
総回収数 (B)	1,445件
有効回収数 (C)	1,442件
無効回収数	3件
回収率 (B/A)	48.17%
有効回収率 (C/A)	48.07%

標本抽出方法

調査対象 : 千葉県内の市町村に居住する満 20 歳以上の男女個人
 標 本 数 : 3,000 人
 地 点 数 : 市 部 193 地点
 郡 部 7 地点
 計 200 地点
 抽 出 法 : 層化二段無作為抽出法

〔層 化〕

1. 県内を、次の 11 地域に分類した。

地 域 名	該 当 市 郡 名
①千葉地域	千葉市、市原市
②葛南地域	市川市、船橋市、習志野市、八千代市、浦安市
③東葛飾地域	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市
④印旛地域	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、印旛郡
⑤香取地域	香取市、香取郡
⑥海匝地域	銚子市、旭市、匝瑳市
⑦山武地域	東金市、山武市、大網白里市、山武郡
⑧長生地域	茂原市、長生郡
⑨夷隅地域	勝浦市、いすみ市、夷隅郡
⑩安房地域	館山市、鴨川市、南房総市、安房郡
⑪君津地域	木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市

2. 各地域内においては、
 さらに市部、郡部に分け、層とした。

(注) ここでいう市とは、
 平成26年4月1日現在市制施行の
 地域をさす。



[標本数の配分]

各地域・市郡規模別の層における満 20 歳以上の人口（平成 26 年 4 月 1 日現在の推定数）に対して、3,000 の標本数を比例配分した。

[抽 出]

1. 平成 22 年国勢調査時に設定された調査区を、第 1 次抽出単位となる調査単位として使用した。

2. 調査地点の抽出は、調査地点が 2 地点以上に割り当てられた層については、

$$\left[\frac{\text{層における調査区数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right] \text{を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。}$$

3. 抽出に際しての各層内における市町村の配列順序は、平成 22 年国勢調査時の「標準地域コード一覧」に従った。

4. 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地等を指定）を、住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。

以上の結果、各地域・市郡別（層別）の標本数・調査地点数は、次のとおりである。

地域 \ 市郡	市部	郡部	計
①千葉地域	1,018,431 593 39	0 0 0	1,018,431 593 39
②葛南地域	1,319,454 768 51	0 0 0	1,319,454 768 51
③東葛飾地域	1,203,020 701 47	0 0 0	1,203,020 701 47
④印旛地域	556,040 324 22	36,864 22 1	592,904 346 23
⑤香取地域	69,313 40 3	31,521 18 1	100,834 58 4
⑥海匝地域	147,411 86 6	0 0 0	147,411 86 6
⑦山武地域	139,299 81 5	43,000 25 2	182,299 106 7
⑧長生地域	77,381 45 3	53,992 31 2	131,373 77 5
⑨夷隅地域	52,186 30 2	15,832 9 1	68,018 39 3
⑩安房地域	107,414 63 4	7,639 4 0	115,053 67 4
⑪君津地域	272,657 159 11	0 0 0	272,657 159 11
計	4,962,606 2,890 193	188,848 110 7	5,151,454 3,000 200

（注）上段は満 20 歳以上の人口（平成 26 年 4 月 1 日現在）、中段は標本数、下段は調査地点数である。

調査地点一覧

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
①千葉地域	千葉市中央区栄町	15	②葛南地域	市原市泉台5丁目	15
	千葉市中央区末広2丁目	15		市原市五井西7丁目	15
	千葉市中央区椿森2丁目	15		市川市鬼高1丁目	15
	千葉市中央区宮崎町	15		市川市平田4丁目	15
	千葉市中央区白旗1丁目	15		市川市八幡3丁目	15
	千葉市中央区今井3丁目	15		市川市若宮2丁目	15
	千葉市中央区村田町	15		市川市大和田2丁目	15
	千葉市花見川区瑞穂3丁目	15		市川市宮久保1丁目	15
	千葉市花見川区検見川町2丁目	15		市川市原木1丁目	15
	千葉市花見川区幕張町3丁目	15		市川市市川南4丁目	15
	千葉市花見川区幕張本郷3丁目	15		市川市曾谷6丁目	15
	千葉市花見川区作新台6丁目	15		市川市妙典2丁目	15
	千葉市花見川区内山町	15		市川市曾谷5丁目	15
	千葉市稲毛区天台2丁目	15		市川市富浜3丁目	15
	千葉市稲毛区稲毛3丁目	15		市川市入船	15
	千葉市稲毛区あやめ台	15		市川市行徳駅前4丁目	15
	千葉市稲毛区小仲台8丁目	15		市川市福栄3丁目	15
	千葉市稲毛区長沼原町	15		市川市新井2丁目	15
	千葉市若葉区都賀2丁目	15		船橋市湊町3丁目	15
	千葉市若葉区若松町	15		船橋市東船橋3丁目	15
	千葉市若葉区源町	15		船橋市浜町1丁目	15
	千葉市若葉区千城台東1丁目	15		船橋市二子町	15
	千葉市若葉区中野町	15		船橋市西船4丁目	15
	千葉市緑区鎌取町	15		船橋市北本町1丁目	15
	千葉市緑区下大和田町	15		船橋市旭町1丁目	15
	千葉市緑区あすみが丘8丁目	15		船橋市古作3丁目	15
	千葉市美浜区幕張西1丁目	15		船橋市金杉8丁目	15
	千葉市美浜区高洲3丁目	15		船橋市高野台1丁目	15
	千葉市美浜区高浜1丁目	15		船橋市坪井町	15
	千葉市美浜区幸町2丁目	15		船橋市新高根4丁目	15
	市原市大坪	15		船橋市高根台7丁目	15
	市原市辰巳台西3丁目	15		船橋市習志野台8丁目	15
	市原市青葉台2丁目	15		船橋市飯山満町3丁目	15
	市原市島野	15		船橋市薬円台2丁目	15
	市原市五井	15		船橋市田喜野井6丁目	15
	市原市八幡	15		船橋市前原町4丁目	15
	市原市八幡石塚2丁目	15		船橋市湊町2丁目	15

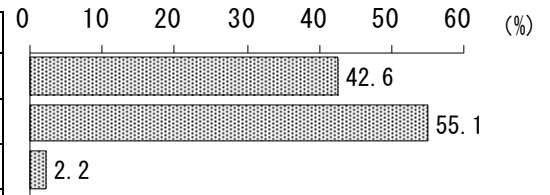
地域	調 査 地 点 名	標 本 数	地域	調 査 地 点 名	標 本 数
② 葛南地域	習志野市津田沼7丁目	15	③ 東葛飾地域	野田市岡田	15
	習志野市秋津4丁目	15		柏市中央2丁目	15
	習志野市藤崎2丁目	15		柏市豊四季台2丁目	15
	習志野市花咲2丁目	15		柏市松ヶ崎	15
	習志野市東習志野4丁目	15		柏市新柏1丁目	15
	八千代市大和田新田／高津	15		柏市豊四季	15
	八千代市米本団地	15		柏市松葉町7丁目	15
	八千代市村上	15		柏市増尾8丁目	15
	八千代市勝田台2丁目	15		柏市南増尾2丁目	15
	八千代市八千代台北17丁目	15		柏市中原2丁目	15
	八千代市八千代台北9丁目	15		柏市西原4丁目	15
	浦安市北栄2丁目	15		柏市青葉台2丁目	15
	浦安市富士見3丁目	15		柏市高南台1丁目	15
	浦安市堀江4丁目	15		流山市古間木	15
	浦安市入船1丁目	15		流山市大字 鰯ヶ崎	15
	浦安市当代島1丁目	15		流山市三輪野山3丁目	15
③ 東葛飾地域	松戸市小根本	15		流山市富士見台2丁目	15
	松戸市北松戸1丁目	15		流山市大字 東深井	15
	松戸市日暮3丁目	15		我孫子市我孫子／高野山	15
	松戸市上矢切	15		我孫子市つくし野4丁目	15
	松戸市栄町8丁目	15		我孫子市天王台6丁目	15
	松戸市常盤平1丁目	15		我孫子市新木	15
	松戸市常盤平7丁目	15		鎌ヶ谷市南初富4丁目	15
	松戸市西馬橋4丁目	15		鎌ヶ谷市鎌ヶ谷9丁目	15
	松戸市新松戸6丁目	15		鎌ヶ谷市鎌ヶ谷1丁目	15
	松戸市三ヶ月	15		鎌ヶ谷市道野辺中央1丁目	15
	松戸市小金原6丁目	15	④ 印旛地域	成田市美郷台1丁目	15
	松戸市五香5丁目	15		成田市松崎	15
	松戸市高塚新田	15		成田市本三里塚	15
	松戸市小金	15		成田市吉岡	15
	松戸市六実2丁目	15		成田市郷部	15
	松戸市紙敷1丁目	15		佐倉市鏑木町	15
	松戸市本町1番地	15		佐倉市城	15
	野田市木野崎	15		佐倉市南臼井台	15
	野田市山崎	15		佐倉市上座	15
	野田市柳沢	15		佐倉市西志津3丁目	15
	野田市春日町	15		四街道市美しが丘1丁目	15

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
④ 印旛地域	四街道市大日	15	⑨ 夷隅地域	勝浦市墨名の一部	15
	四街道市めいわ2丁目	15		いすみ市岩船	15
	八街市みどり台1丁目	15		夷隅郡大多喜町平沢	15
	八街市大谷流	15	⑩ 安房地域	館山市八幡	15
	印西市大森	15		館山市下真倉／上真倉	15
	印西市小倉台2丁目	15		鴨川市貝渚／磯村	15
	印西市戸神台2丁目	15		南房総市和田町海発	15
	白井市根	15	⑪ 君津地域	木更津市文京2丁目	15
	白井市清水口2丁目	15		木更津市大久保6丁目	15
	富里市七栄	15		木更津市万石	15
	富里市十倉	15		木更津市港南台1丁目	15
	印旛郡栄町押付	15		君津市中野5丁目	15
⑤ 香取地域	香取市津宮	15		君津市三直	15
	香取市住金住宅団地	15		君津市笹	15
	香取市沢	15		富津市上飯野	15
	香取郡多古町多古高根	15		富津市大堀3丁目	15
⑥ 海匝地域	銚子市仲町／港町	15		袖ヶ浦市福王台1丁目	15
	銚子市長崎町	15		袖ヶ浦市久保田	15
	銚子市松本町3丁目	15			
	旭市二	15			
	旭市江ヶ崎	15			
	匝瑺市堀川東和田・西和田	15			
⑦ 山武地域	東金市東金岩崎	15			
	東金市家徳	15			
	山武市井之内	15			
	山武市八田	15			
	大網白里市北飯塚	15			
	山武郡芝山町大里／飯櫃／岩山	15			
	山武郡横芝光町宮川	15			
⑧ 長生地域	茂原市高師	15			
	茂原市小林	15			
	茂原市本納	15			
	長生郡睦沢町大谷木	15			
	長生郡白子町関	15			

回答者の属性

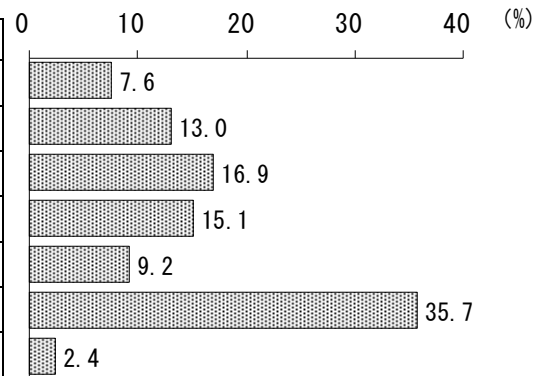
1. 性

	基数	構成比
1 男性	615	42.6
2 女性	795	55.1
(無回答)	32	2.2
全 体	1,442	100.0



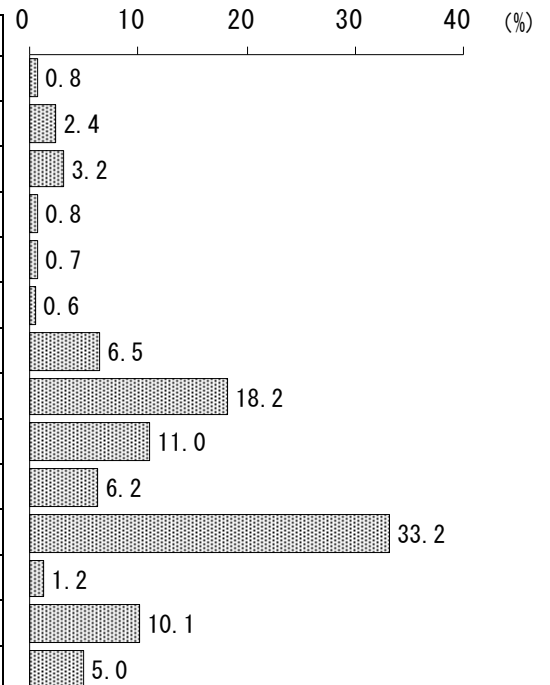
2. 年 代

	基数	構成比
1 20 代	110	7.6
2 30 代	187	13.0
3 40 代	244	16.9
4 50 代	218	15.1
60～64 歳	133	9.2
6 65 歳以上	515	35.7
(無回答)	35	2.4
全 体	1,442	100.0



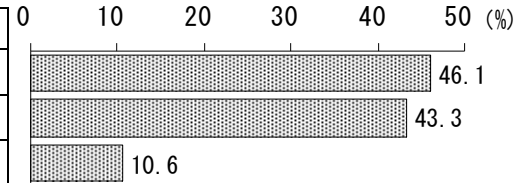
3. 本人職業

	基数	構成比
自 営 業	1 農林漁業	11 0.8
	2 商工サービス業	35 2.4
	3 自由業	46 3.2
従 家 業 族	4 農林漁業	12 0.8
	5 商工サービス業	10 0.7
	6 自由業	9 0.6
勤 め 人	7 管理職	94 6.5
	8 専門技術・事務職	262 18.2
	9 販売・サービス職	159 11.0
	10 労務職	90 6.2
無 職	11 主婦	479 33.2
	12 学生	18 1.2
	13 その他	145 10.1
(無回答)		72 5.0
全 体		1,442 100.0



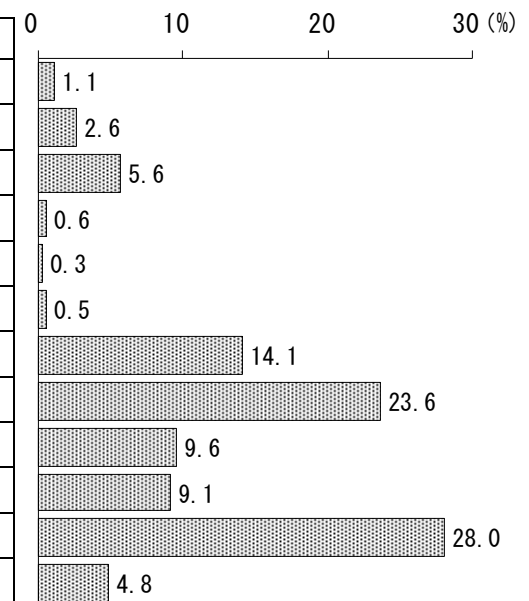
4. 世帯内の地位

	基数	構成比
1 主として家計を支えている	665	46.1
2 家計を支えていない	624	43.3
(無回答)	153	10.6
全 体	1,442	100.0



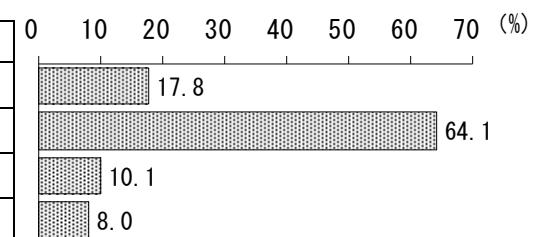
5. 世帯主職業

	基数	構成比
自営業	1 農林漁業	7 1.1
	2 商工サービス業	16 2.6
	3 自由業	35 5.6
従家業族	4 農林漁業	4 0.6
	5 商工サービス業	2 0.3
	6 自由業	3 0.5
勤め人	7 管理職	88 14.1
	8 専門技術・事務職	147 23.6
	9 販売・サービス職	60 9.6
	10 労務職	57 9.1
	11 無職	175 28.0
	(無回答)	30 4.8
全 体 (「4.世帯内の地位」の2)	624	100.0



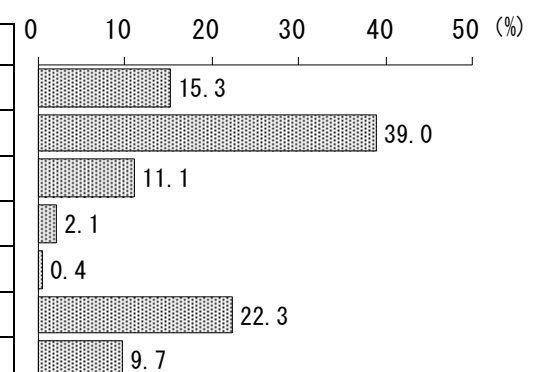
6. 未既婚

	基数	構成比
1 未婚	257	17.8
2 既婚（配偶者有）	924	64.1
3 既婚（配偶者離死別）	146	10.1
(無回答)	115	8.0
全 体	1,442	100.0



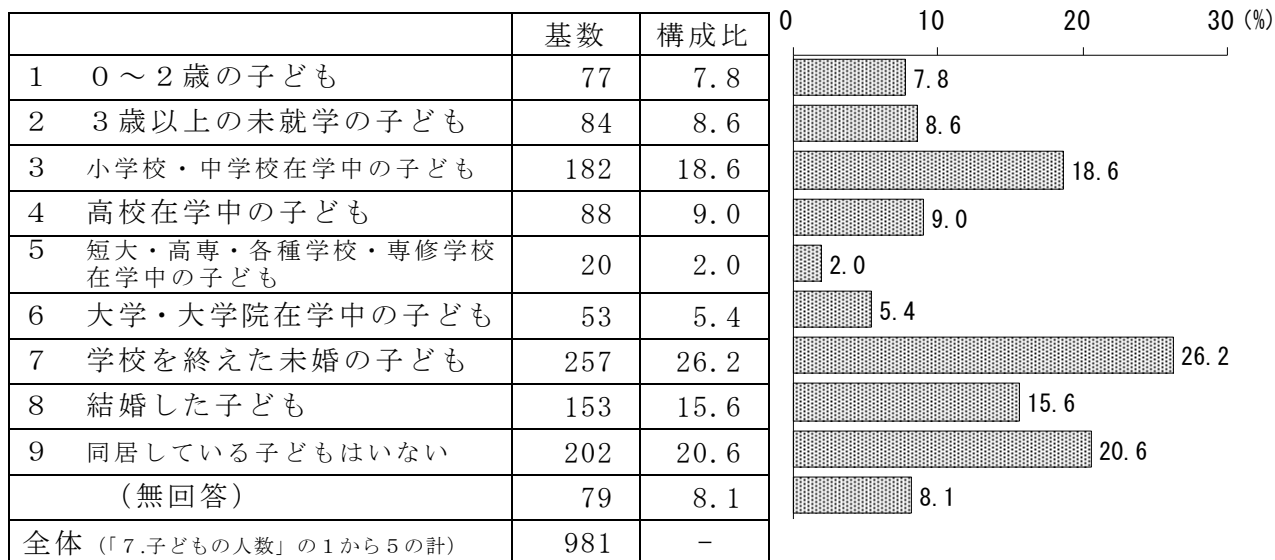
7. 子どもの人数

	基数	構成比
1 1人	221	15.3
2 2人	563	39.0
3 3人	160	11.1
4 4人	31	2.1
5 5人以上	6	0.4
6 子どもはいない	321	22.3
(無回答)	140	9.7
全 体	1,442	100.0

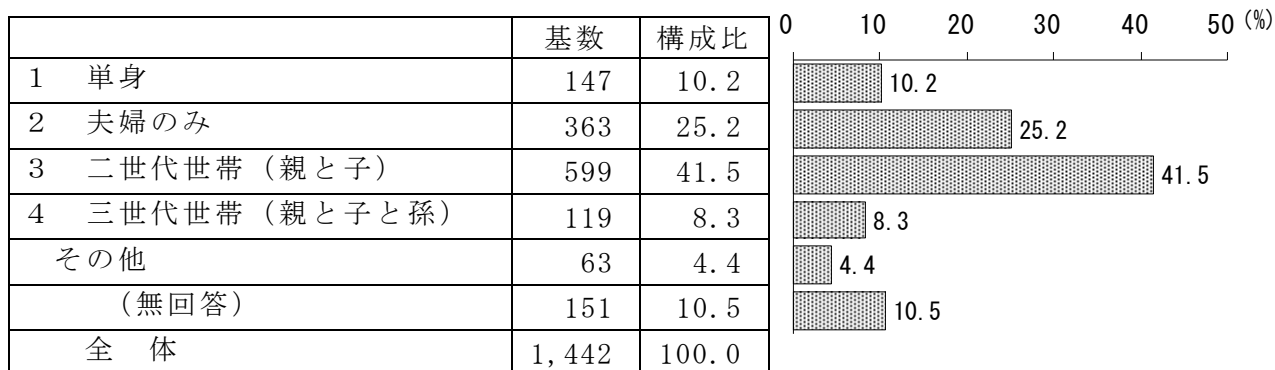


8. 子どもの成長段階

※1人の回答者が複数回答で行う設問であるため、基数・構成比ともに選択項目の合計が全体数を上回る。



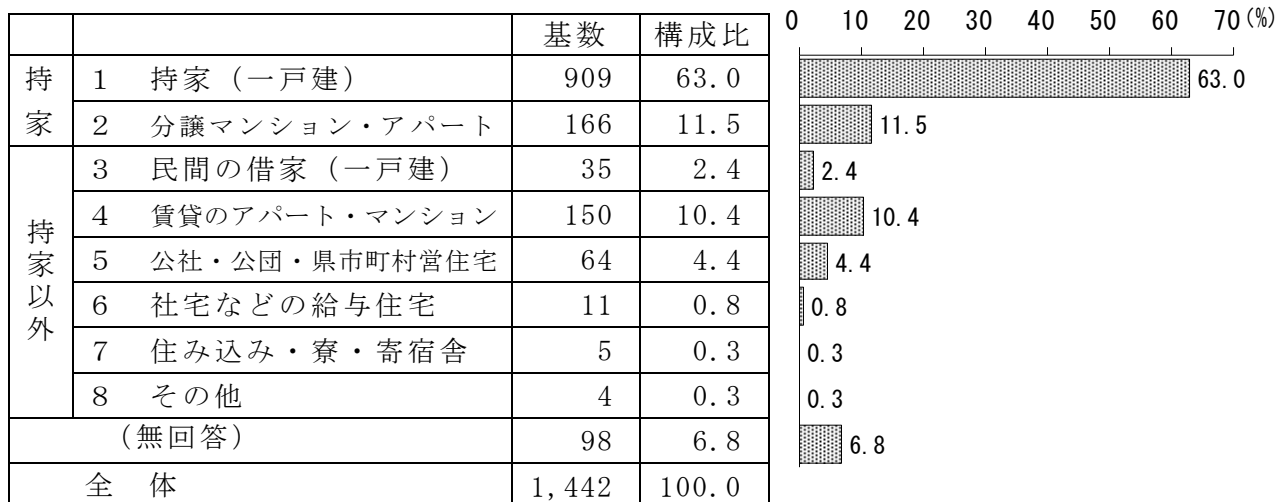
9. 家族構成



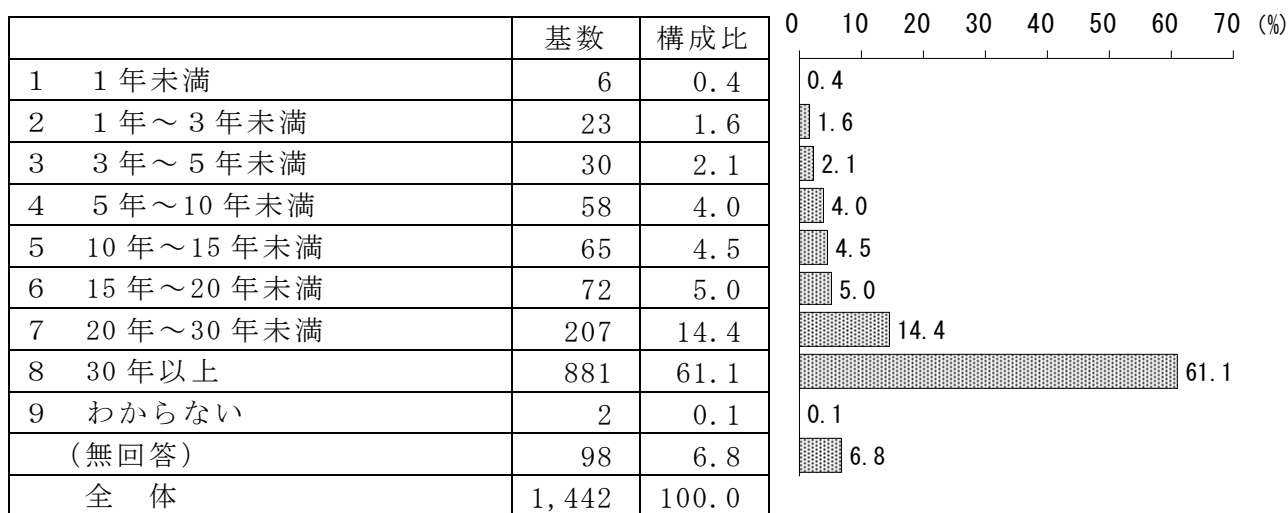
10. 高齢者の同居の有無



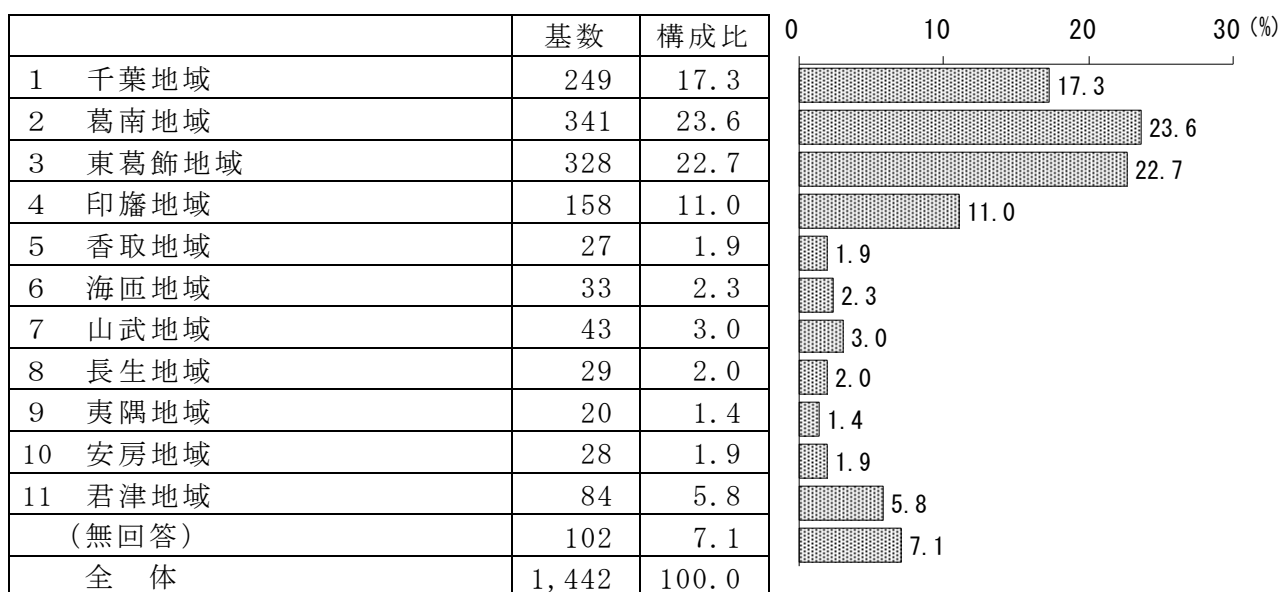
11. 住 宅



12. 県内居住年数



13. 地 域



(報告書の見方)

本報告書を読む際に、次の点に留意してください。

- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- (3) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (4) この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数 (サンプル数)
 P = 回答比率

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答比率 (P)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
基数 (n)						
総 数	1,442 人	± 2.23%	± 2.98%	± 3.41%	± 3.65%	± 3.72%
千葉地域	249	± 5.38%	± 7.17%	± 8.21%	± 8.78%	± 8.96%
葛南地域	341	± 4.59%	± 6.13%	± 7.02%	± 7.50%	± 7.66%
東葛飾地域	328	± 4.68%	± 6.25%	± 7.16%	± 7.65%	± 7.81%
印旛地域	158	± 6.75%	± 9.00%	± 10.31%	± 11.02%	± 11.25%
香取地域	27	± 16.33%	± 21.77%	± 24.94%	± 26.66%	± 27.21%
海匝地域	33	± 14.77%	± 19.69%	± 22.56%	± 24.12%	± 24.62%
山武地域	43	± 12.94%	± 17.25%	± 19.76%	± 21.13%	± 21.56%
長生地域	29	± 15.76%	± 21.01%	± 24.07%	± 25.73%	± 26.26%
夷隅地域	20	± 18.97%	± 25.29%	± 28.98%	± 30.98%	± 31.62%
安房地域	28	± 16.03%	± 21.38%	± 24.49%	± 26.18%	± 26.72%
君津地域	84	± 9.26%	± 12.34%	± 14.14%	± 15.12%	± 15.43%
男 性	615	± 3.42%	± 4.56%	± 5.23%	± 5.59%	± 5.70%
女 性	795	± 3.01%	± 4.01%	± 4.60%	± 4.91%	± 5.01%

調 査 の 結 果

調査結果の解説

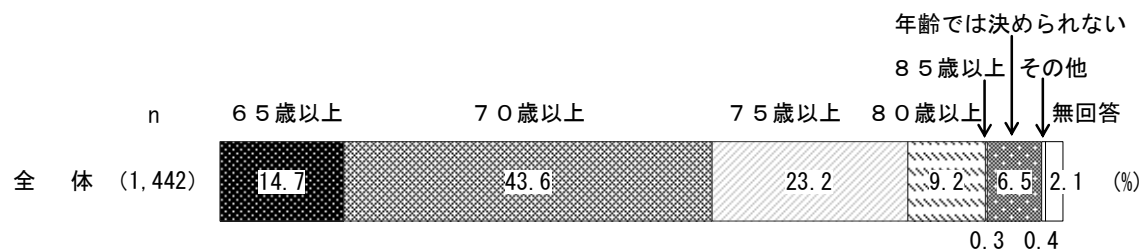
1 高齢者福祉施策について

(1) 高齢者の年齢

◇「70歳以上」が4割台半ば

問1 あなたは、「高齢者」とは何歳くらいと考えますか。(○は1つ)

＜図表1－1＞高齢者の年齢



「高齢者」とは何歳くらいかと考えるかを聞いたところ、「70歳以上」(43.6%)が4割台半ばと最も多く、「65歳以上」(14.7%)とした人は、1割台半ばにとどまる。(図表1－1)

【地域別】

地域別にみると、“葛南地域”で「70歳以上」(48.7%)が約5割と、他の地域に比べて高くなっている。(図表1－2)

【性・年代別】

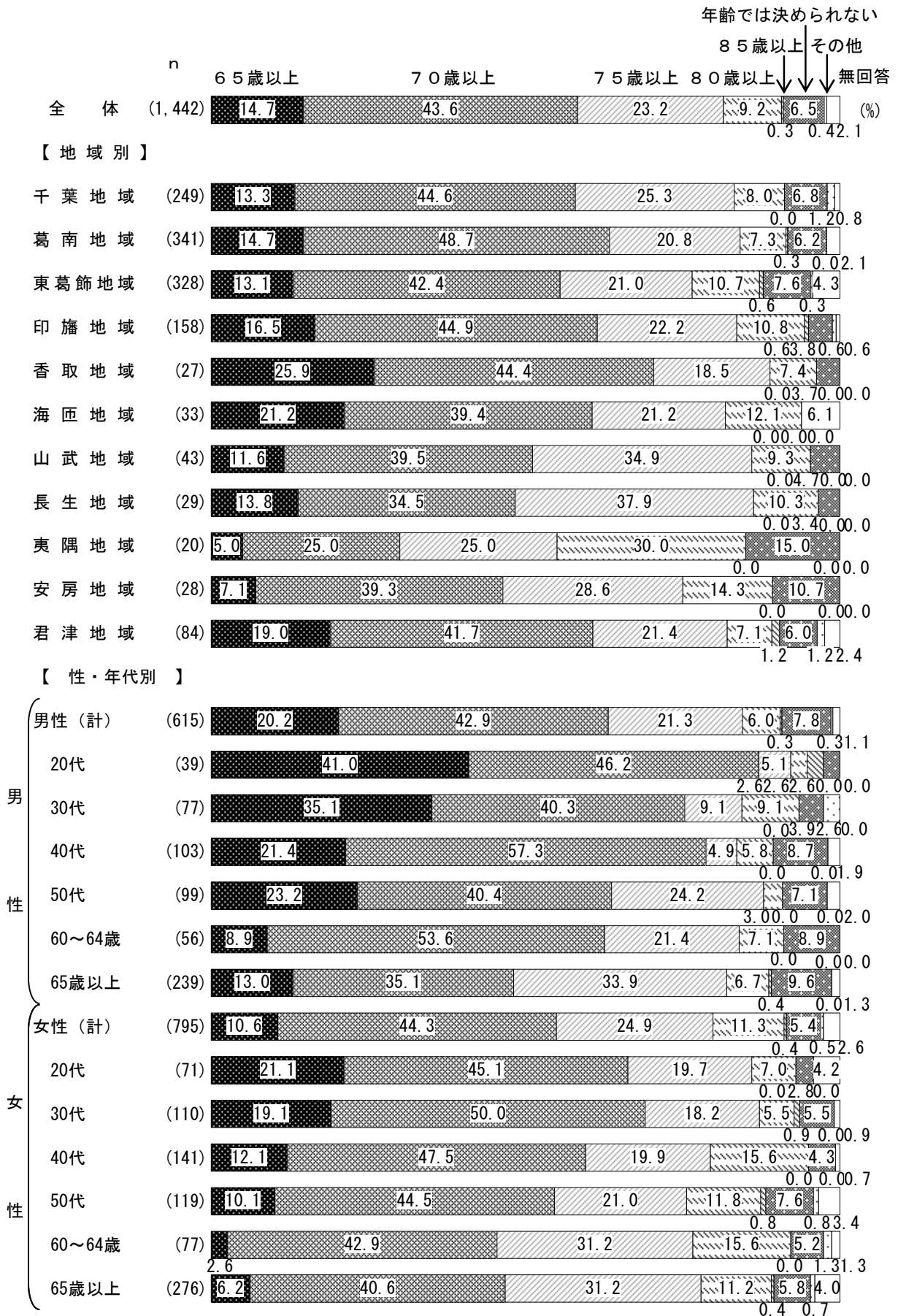
性別でみると、男性の方が、「65歳以上」(20.2%)が2割と高くなっている。

性・年代別にみると、男性の20代(41.0%)、30代(35.1%)で「65歳以上」が他の年代に比べて高くなっている。

一方、男女とも60～64歳で「65歳以上」が他の年代に比べ、目立って低くなっている。

また、男性の65歳以上(33.9%)、女性の60～64歳(31.2%)、65歳以上(31.2%)で、「75歳以上」が3割を超え、他の年代に比べて高くなっている。(図表1－2)

<図表 1 - 2> 高齢者の年齢／地域別、性・年代別

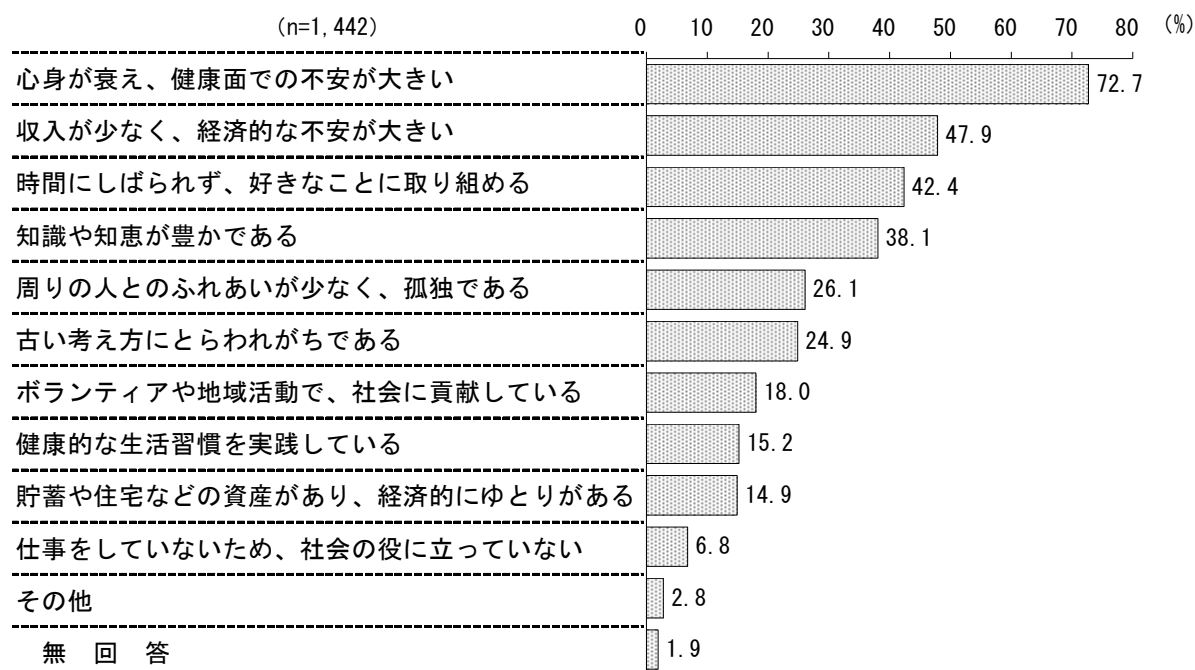


(2) 高齢者のイメージ

◇「心身が衰え、健康面での不安が大きい」が7割

問2 「高齢者」のイメージはどのようなものですか。(○はいくつでも)

＜図表1-3＞高齢者のイメージ（複数回答）



「高齢者のイメージ」を聞いたところ、「心身が衰え、健康面での不安が大きい」(72.7%)が7割を超えて最も多く、以下、「収入が少なく、経済的な不安が大きい」(47.9%)、「時間にしばられず、好きなことに取り組める」(42.4%)、「知識や知恵が豊かである」(38.1%)が続く。(図表1-3)

【地域別】

地域別にみると、「収入が少なく、経済的な不安が大きい」は“山武地域”(55.8%)、“君津地域”(54.8%)で5割台半ば、「時間にしばられず、好きなことに取り組める」は“印旛地域”(51.3%)、“山武地域”(51.2%)で5割を超え、他の地域に比べて高くなっている。

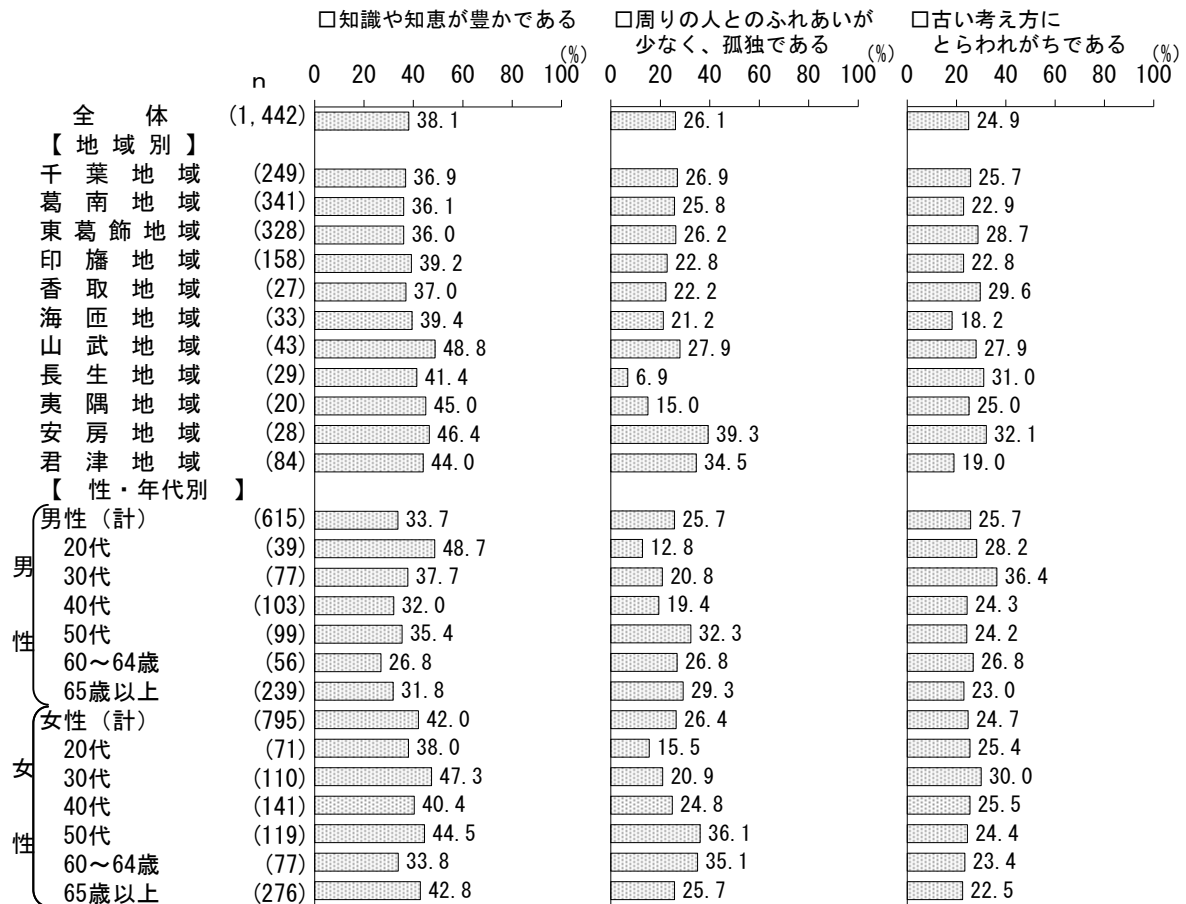
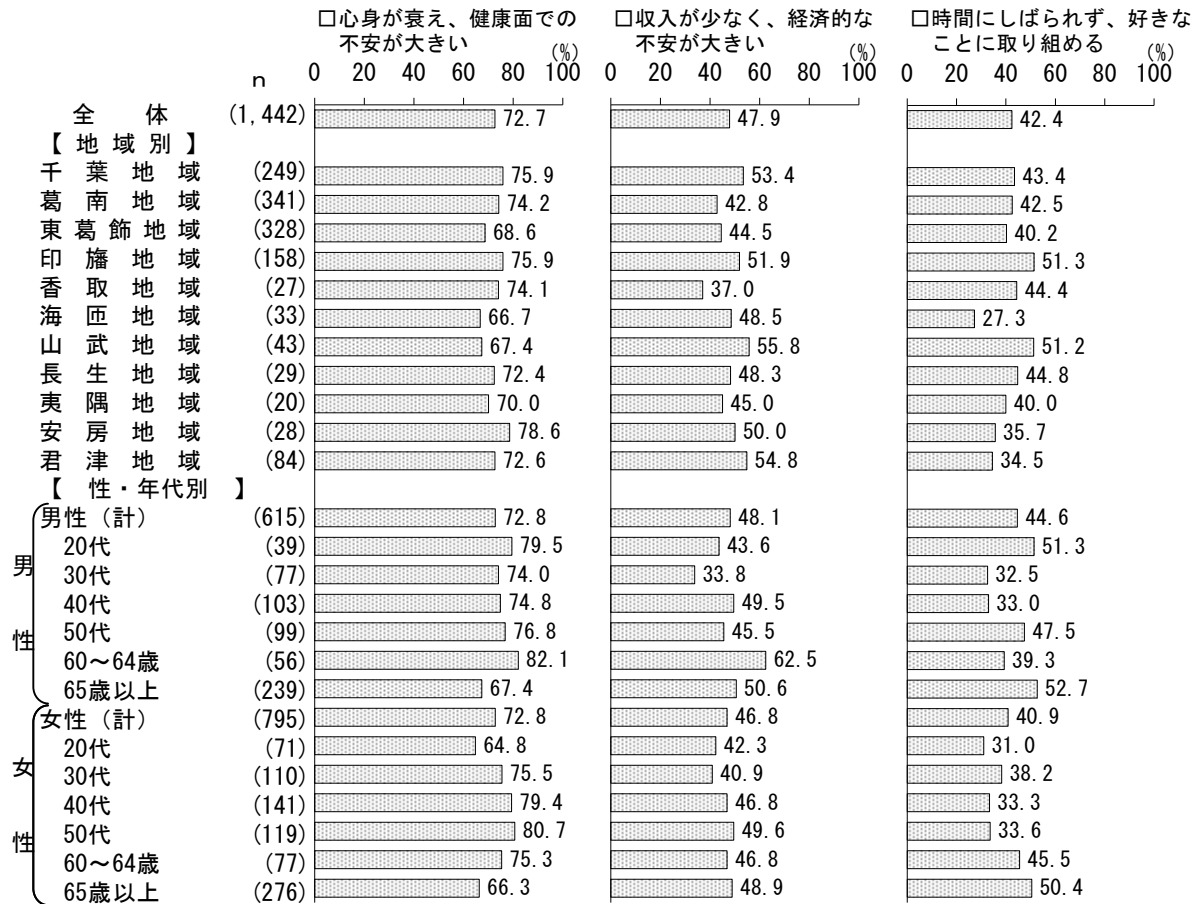
一方、「周りの人とのふれあいが少なく、孤独である」は“長生地域”(6.9%)で1割未満と低くなっている。(図表1-4)

【性・年代別】

性別でみると、女性で「知識や知恵が豊かである」(42.0%)が4割を超えて高くなっている。

性・年代別にみると、「収入が少なく、経済的な不安が大きい」は男性の60～64歳(62.5%)で6割を超えて高く、「時間にしばられず、好きなことに取り組める」は男性の65歳以上(52.7%)、女性の65歳以上(50.4%)で5割を超えて他の年代に比べて高くなっている。(図表1-4)

＜図表１－４＞高齢者のイメージ／地域別、性・年代別（上位６項目）

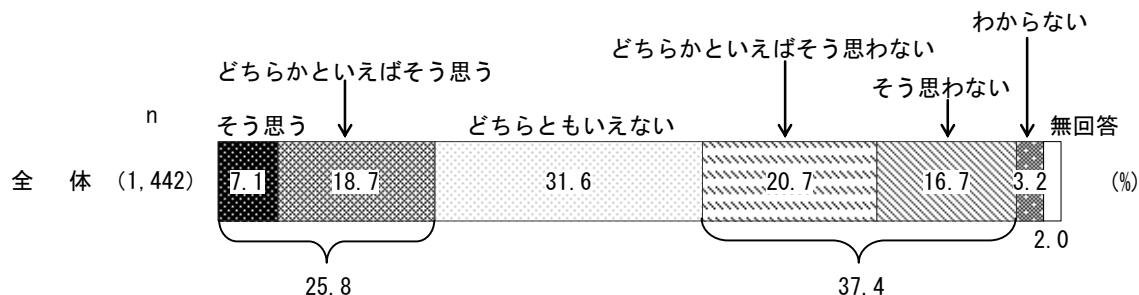


(3) 高齢者が意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っているか

◇『そう思わない』が約4割

問3 あなたは、高齢者が年齢にとらわれず、意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っていると思いますか。(○は1つ)

<図表1-5> 高齢者が意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っているか



高齢者が意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っていると思うかを聞いたところ、「そう思う」(7.1%)、「どちらかといえばそう思う」(18.7%)を合わせた『そう思う』(25.8%)は2割台半ばである。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(20.7%)、「そう思わない」(16.7%)を合わせた『そう思わない』(37.4%)が、約4割となっている。(図表1-5)

【地域別】

地域別にみると、“夷隅地域”(50.0%)で『そう思う』が5割と、他の地域に比べて高くなっている。また、“香取地域”(18.5%)で『そう思わない』が2割未満と低くなっている。

(図表1-6)

【性・年代別】

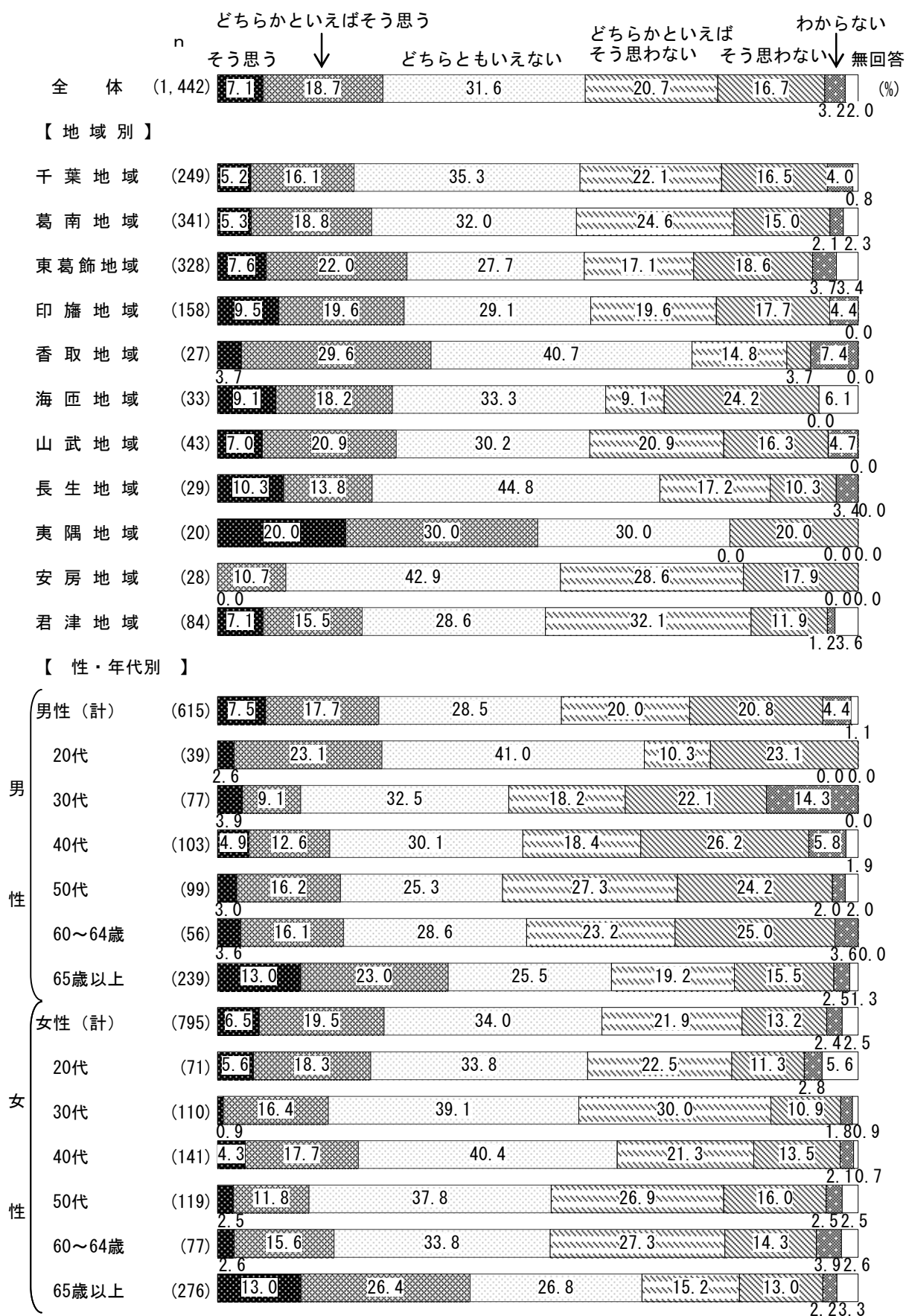
性別でみると、男性の方が『そう思わない』(40.8%)が4割と高くなっている。

性・年代別にみると、男性の50代(51.5%)で『そう思わない』が5割を超えて、他の年代に比べて高くなっている。

また、女性では50代(42.9%)、60～64歳(41.6%)で、『そう思わない』が4割を超えて他の年代に比べて高くなっている。

一方、『そう思う』は男性の65歳以上(36.0%)で3割台半ば、女性65歳以上(39.5%)で約4割と、他の年代に比べて高くなっている。(図表1-6)

＜図表 1－6＞高齢者が意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っているか／地域別、性・年代別

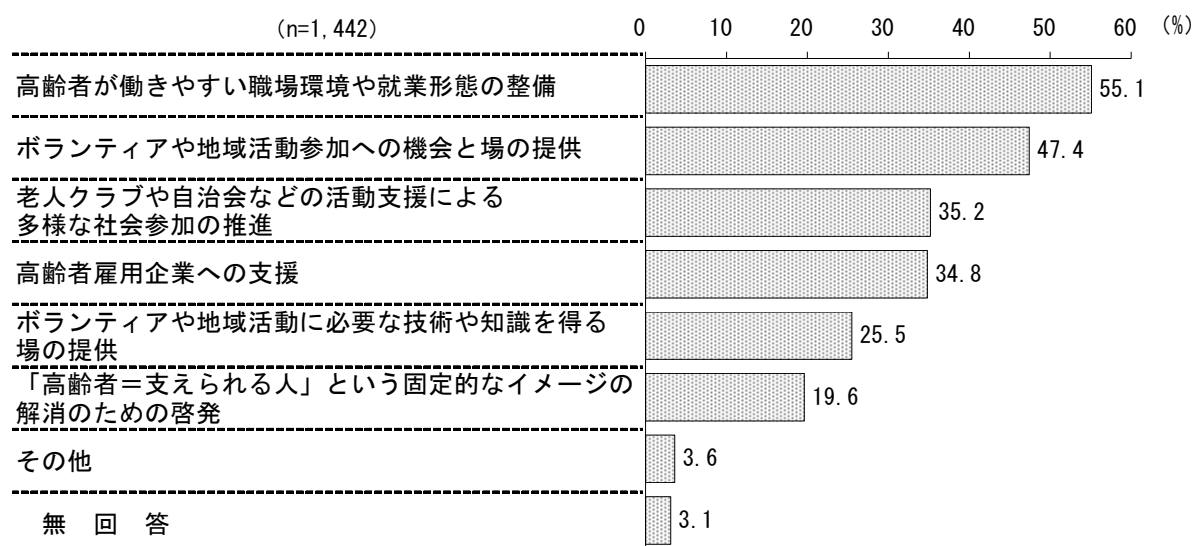


(4) 高齢者が活躍できる生活を送るために必要な施策

◇「高齢者が働きやすい職場環境や就業形態の整備」が5割台半ば

問4 高齢者が、意欲や能力に応じて活躍できる生活を送るためには、どのような施策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

<図表1-7> 高齢者が活躍できる生活を送るために必要な施策(複数回答)



高齢者が活躍できる生活を送るために、どのような施策が必要であるかを選んでもらったところ、「高齢者が働きやすい職場環境や就業形態の整備」(55.1%)が5割台半ばで最も多く、以下、「ボランティアや地域活動参加への機会と場の提供」(47.4%)、「老人クラブや自治会などの活動支援による多様な社会参加の推進」(35.2%)、「高齢者雇用企業への支援」(34.8%)が続く。(図表1-7)

【地域別】

地域別にみると、「高齢者が働きやすい職場環境や就業形態の整備」は“香取地域”(70.4%)で7割、「君津地域」(61.9%)や“印旛地域”(60.8%)で6割以上と、他の地域に比べて高くなっている。

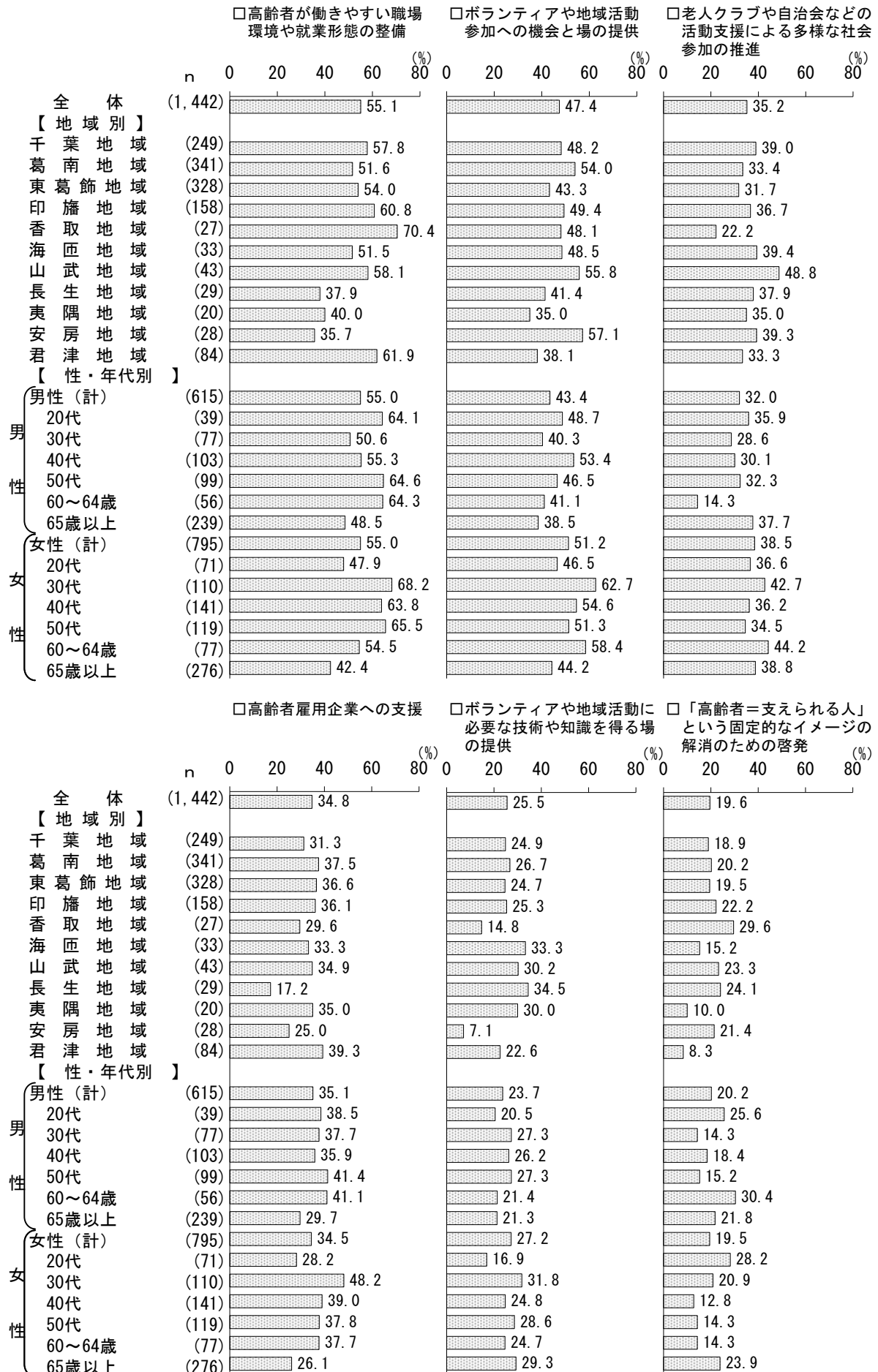
「ボランティアや地域活動参加への機会と場の提供」は“安房地域”(57.1%)、“山武地域”(55.8%)、“葛南地域”(54.0%)が5割台半ばと高く、「老人クラブや自治会などの活動支援による多様な社会参加の推進」は“山武地域”(48.8%)が約5割で、他の地域に比べて高くなっている。(図表1-8)

【性・年代別】

性別では、女性の方が「ボランティアや地域活動参加への機会と場の提供」(51.2%)、「老人クラブや自治会などの活動支援による多様な社会参加の推進」(38.5%)が高くなっている。

性・年代別にみると、「高齢者が働きやすい職場環境や就業形態の整備」は女性30代(68.2%)、50代(65.5%)、男性50代(64.6%)、60～64歳(64.3%)、女性40代(63.8%)で6割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。(図表1-8)

＜図表１－８＞高齢者が活躍できる生活を送るために必要な施策／地域別、性・年代別（上位６項目）

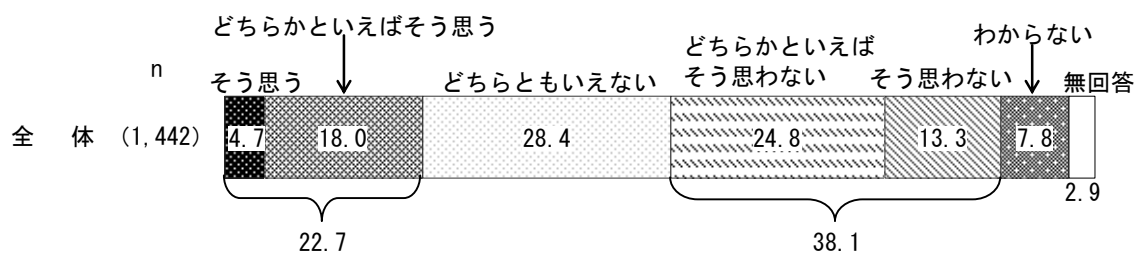


(5) 高齢者が社会とかかわりを持ちながら生活を送っているか

◇『そう思わない』が約4割

問5 あなたは、高齢者が多様な社会参加を通じ、社会とかかわりを持ちながら生活を送っていると思いますか。(○は1つ)

<図表1-9> 高齢者が社会とかかわりを持ちながら生活を送っているか



高齢者が社会とかかわりを持ちながら生活を送っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.7%)、「どちらかといえばそう思う」(18.0%)を合わせた『そう思う』(22.7%)は2割にとどまる。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(24.8%)、「そう思わない」(13.3%)を合わせた『そう思わない』(38.1%)は、約4割となっている。(図表1-9)

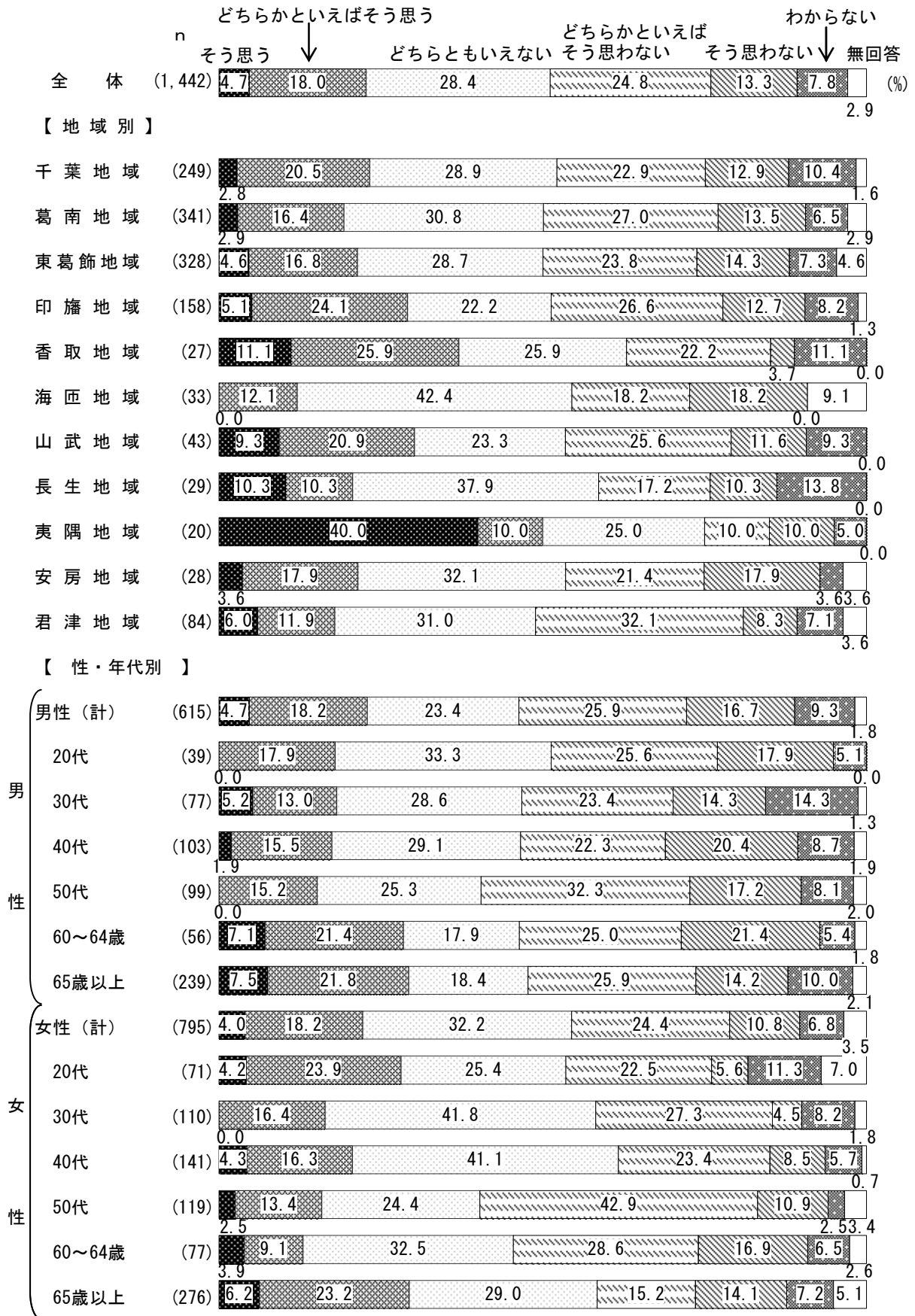
【地域別】

地域別にみると、“夷隅地域”(50.0%)で『そう思う』が5割と高く、他では、“香取地域”(37.0%)で約4割、“山武地域”(30.2%)、印旛地域(29.1%)で約3割と、他の地域に比べて高くなっている。(図表1-10)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思わない』が女性50代(53.8%)で5割台半ば、男性50代(49.5%)で約5割と、他の年代に比べて高くなっている。(図表1-10)

＜図表 1－10＞高齢者が社会とかかわりを持ちながら生活を送っているか／地域別、性・年代別

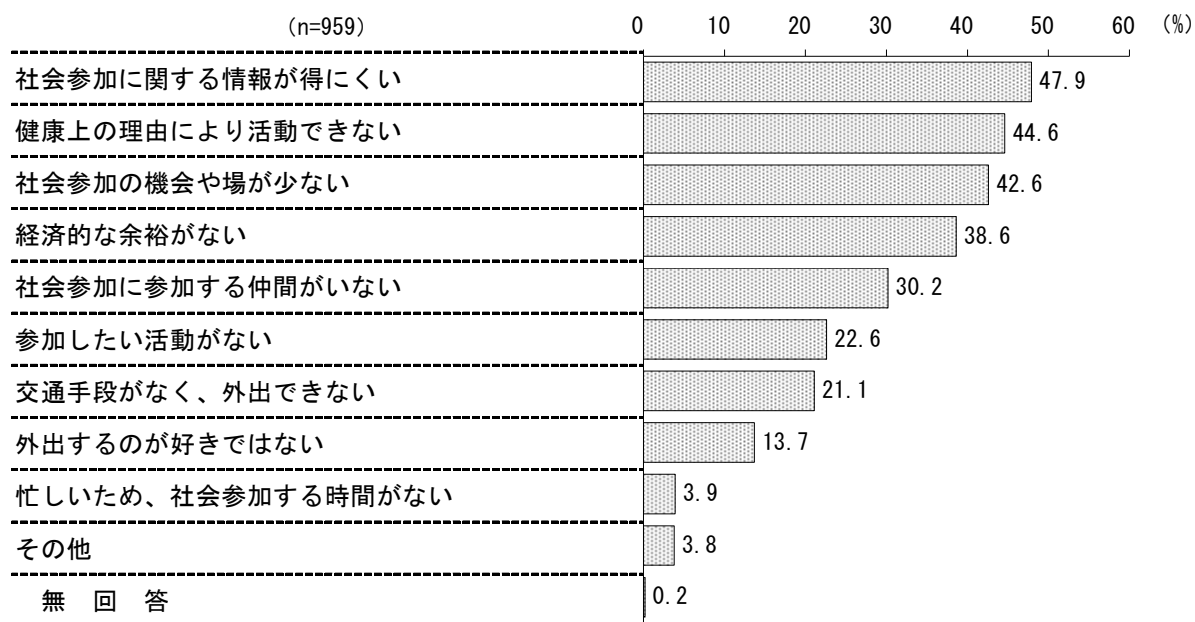


(6) 高齢者が社会とかかわりを持ちながら生活していないと思う理由

◇「社会参加に関する情報が得にくい」が約5割

問6 その理由は何だと思いますか。(〇はいくつでも)

＜図表1－11＞高齢者が社会とかかわりを持ちながら生活していないと思う理由（複数回答）



高齢者が社会とかかわりを持ちながら生活を送っていると思うかとの設問に対し、『どちらともいえない～そう思わない』と回答した959人に、その理由を聞いたところ、「社会参加に関する情報が得にくい」(47.9%)が約5割で最も多く、以下、「健康上の理由により活動できない」(44.6%)、「社会参加の機会や場が少ない」(42.6%)、「経済的な余裕がない」(38.6%)が続く。(図表1－11)

【地域別】

地域別にみると、「社会参加に関する情報が得にくい」は“香取地域”(57.1%)、“葛南地域”(56.8%)で5割台半ばと、他の地域に比べて高くなっている。

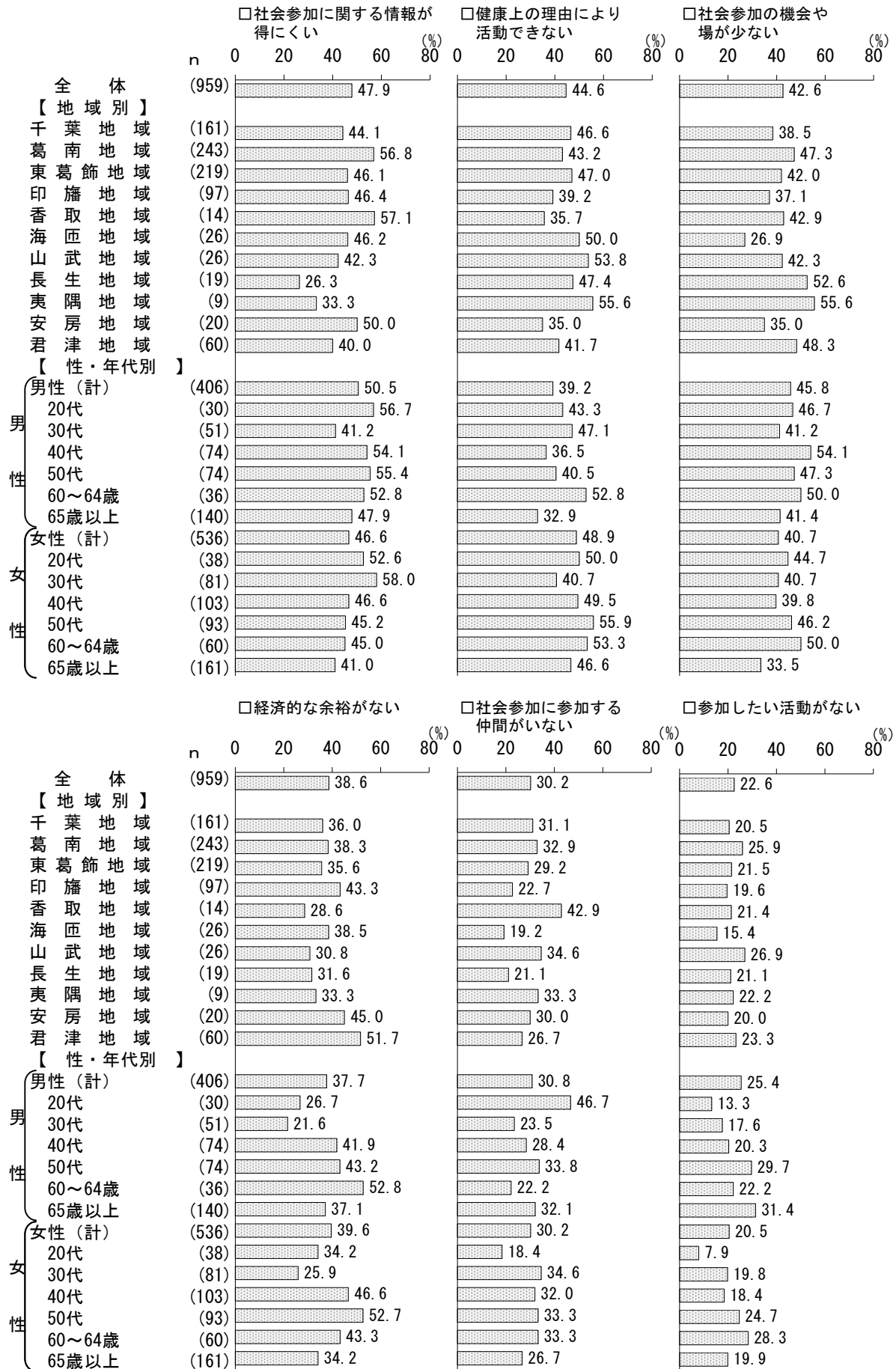
また、「経済的な余裕がない」は“君津地域”(51.7%)で5割を超え、他の地域に比べて高くなっている。(図表1－12)

【性・年代別】

性別でみると、「健康上の理由により活動できない」は女性(48.9%)の方が約5割と高くなっている。

性・年代別にみると、「社会参加の機会や場が少ない」は男性の40代(54.1%)で5割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。「経済的な余裕がない」は男性の60～64歳(52.8%)、女性の50代(52.7%)で5割を超えて高くなっている。「参加したい活動がない」は男性の65歳以上(31.4%)で3割を超えて他の年代に比べて高くなっている。(図表1－12)

＜図表１－１２＞高齢者が社会とかかわりを持ちながら生活していないと思う理由
／地域別、性・年代別（上位６項目）



このほかに、「高齢者福祉施策について」やここまでの質問（問1～問6）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、266人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「高齢者福祉施策について」の自由回答（抜粋）

○身体は健康はもちろんですが心の健康につながる老人が元気に自信をもって頑張れる環境や場をつくることも必要ではないかと思います。（女性、65歳以上、印旛地域）

○経済的に不安のある方は自治会、町会などにも参加しにくいと不安を言う方もいます。話し相手がない方も。そんな気持ちをきくと淋しさが増しますが、人と話すという大事さが考えられます。サロンなどが多くなっていますが、こられない方への目配り気配りができるような組織があると良いと思います。（女性、60～64歳、東葛飾地域）

○高齢者の方にしかできないことがあると思う。昔のことは、その時代に生きた方しか知らない。それをついだり、聞いたりするのは、後世の発展のために重要なことだと思う。それは子供たちだけでなく、大人も同じだと思う。大人も高齢者を毛嫌いするのではなく、学ぶべきだと思う。（女性、50代、印旛地域）

○60～70才位は元気な方が多くおられると思われるので高齢者が働きやすい環境づくりが必要となる。（男性、60～64歳、千葉地域）

○心身や経済的に余裕のある人、ない人、家族環境により様々だと思います。今では便利になりインターネットなどで調べたり、相談できるというのも全ての人ではないので、人それぞれに合った何かが必要なんだと思います。自分の将来も、今の世の中を見ているととても不安に感じています。（女性、40代、印旛地域）

○年齢でくくらず、交流や助けを求める人には最適な支援を行える様、窓口など相談出来る場をもっと作るべき。（男性、30代、東葛飾地域）

○一人暮らしの高齢者を巡回して、色々な事柄の相談相手のような人間の配置が必要だと思います。問題が起きた時、どこに相談したら良いかわからない場合がある。

（男性、65歳以上、東葛飾地域）

○私は子育て世代ですが、高齢者の方との接点が少ないように思うので、世代を超えて交流をもつことで、私たちは子育てをフォローしてもらうことが可能になり、高齢者の方の孤立を防ぐことができるのではないのでしょうか。（女性、30代、安房地域）

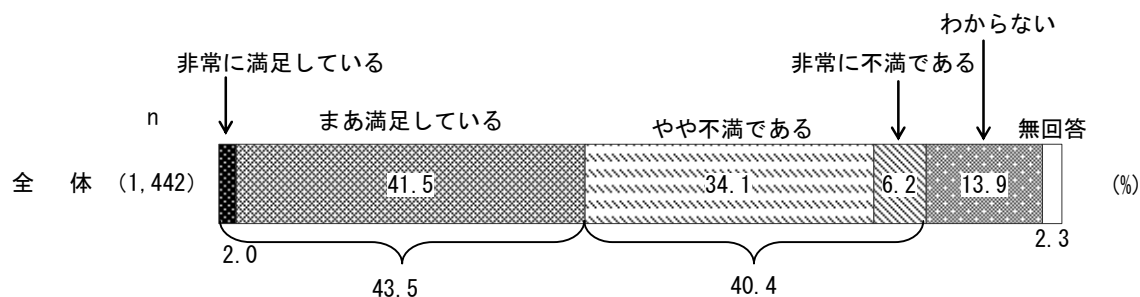
2 医療について

(1) 県内の医療の満足度

◇『満足している』『不満である』が、ともに4割以上

問7 あなたは、千葉県内の医療についてどう感じですか。(○は1つ)

＜図表2－1＞県内の医療の満足度



千葉県内の医療についての満足度を聞いたところ、「非常に満足している」(2.0%)、「まあ満足している」(41.5%)を合わせた『満足している』(43.5%)は4割台半ばである。

一方、「やや不満である」(34.1%)、「非常に不満である」(6.2%)を合わせた『不満である』(40.4%)は4割となっている。(図表2－1)

【地域別】

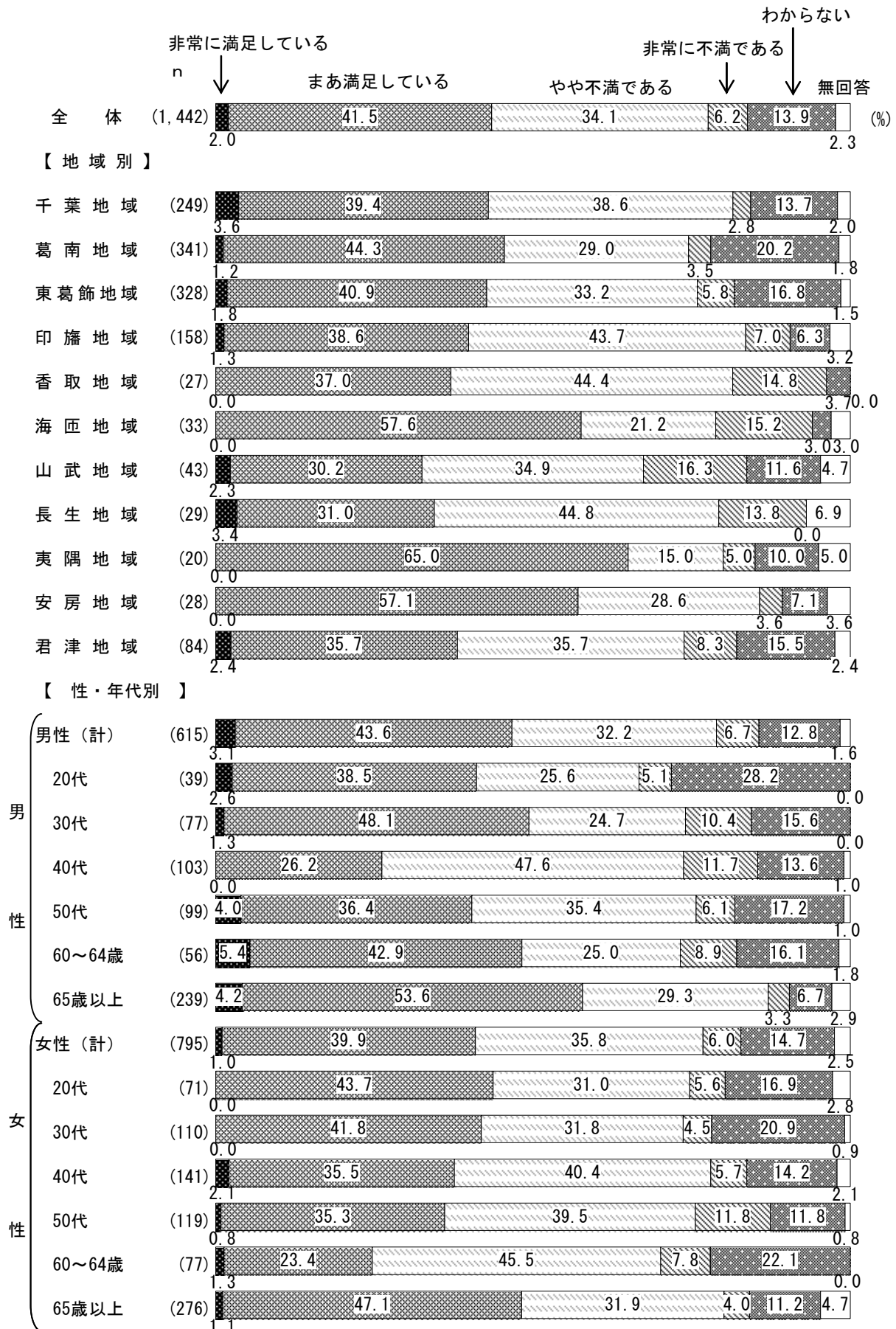
地域別にみると、『不満である』が“香取地域”(59.3%)、“長生地域”(58.6%)、“山武地域”(51.2%)、“印旛地域”(50.6%)で5割を超えており、他の地域に比べて高くなっている。(図表2－2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『満足している』は男性の65歳以上(57.7%)で約6割と、他の年代に比べて高くなっている。

一方、『不満である』は男性の40代(59.2%)、女性の60～64歳(53.2%)、50代(51.3%)で5割を超え、高くなっている。(図表2－2)

＜図表２－２＞県内の医療の満足度／地域別、性・年代別

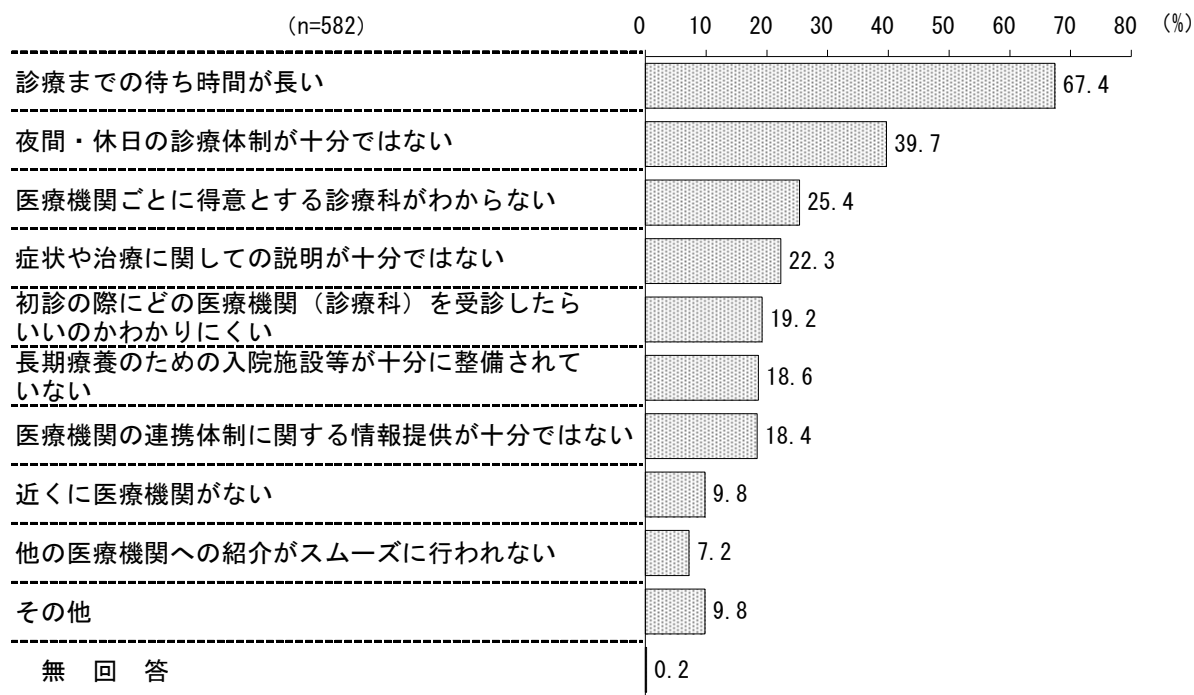


(2) 県内の医療で不満な点

◇「診療までの待ち時間が長い」が約7割

問8 あなたは、どのような点に不満を感じていますか。(〇は3つまで)

<図表2-3>県内の医療で不満な点(3つまで)



千葉県内の医療について『不満である』と回答した582人を対象に、不満な点を3つまで選んでもらったところ、「診療までの待ち時間が長い」(67.4%)が約7割で最も多い。

以下、「夜間・休日の診療体制が十分ではない」(39.7%)、「医療機関ごとに得意とする診療科がわからない」(25.4%)、「症状や治療に関しての説明が十分ではない」(22.3%)が続く。(図表2-3)

【地域別】

地域別にみると、「診療までの待ち時間が長い」は“君津地域”(83.8%)、“海匝地域”(83.3%)で8割台半ばと、他の地域に比べて高くなっている。

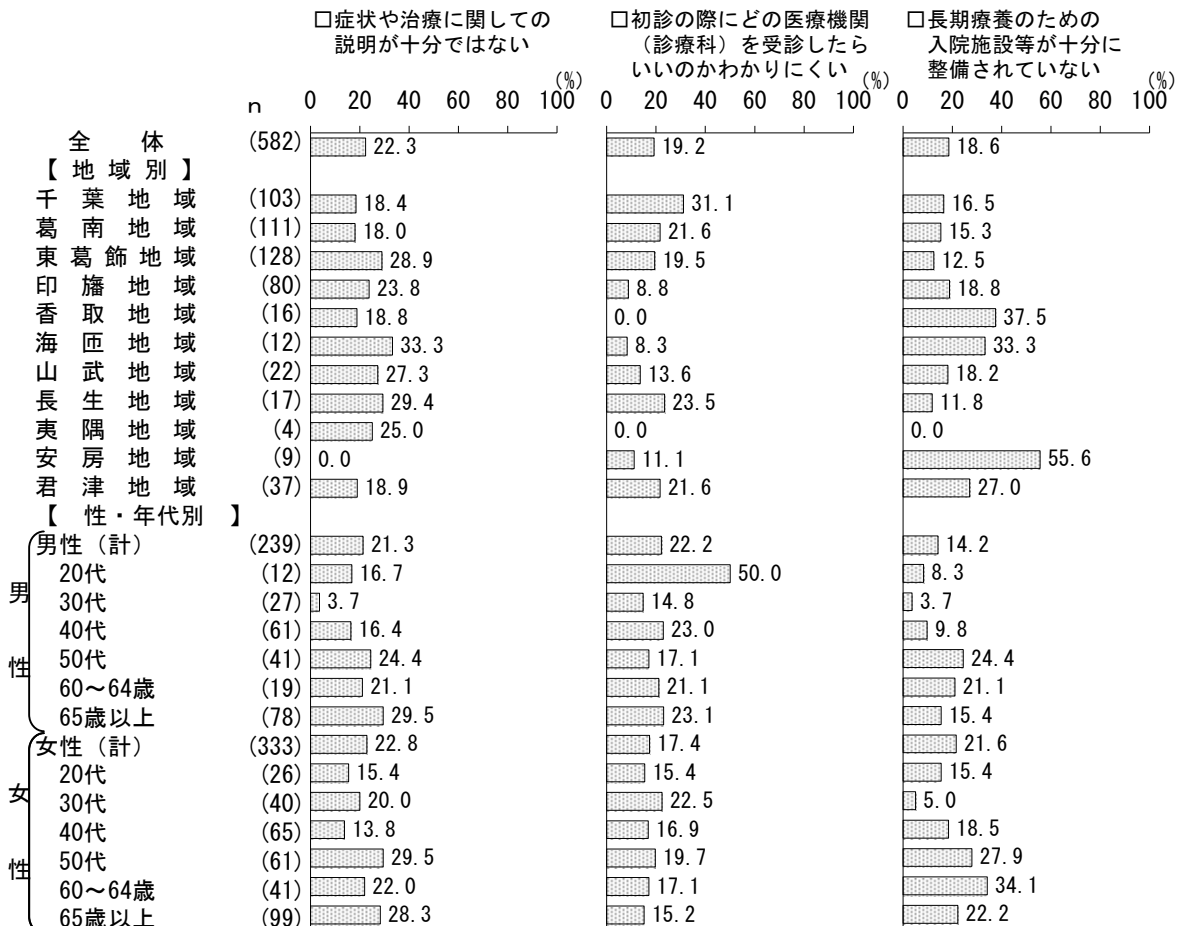
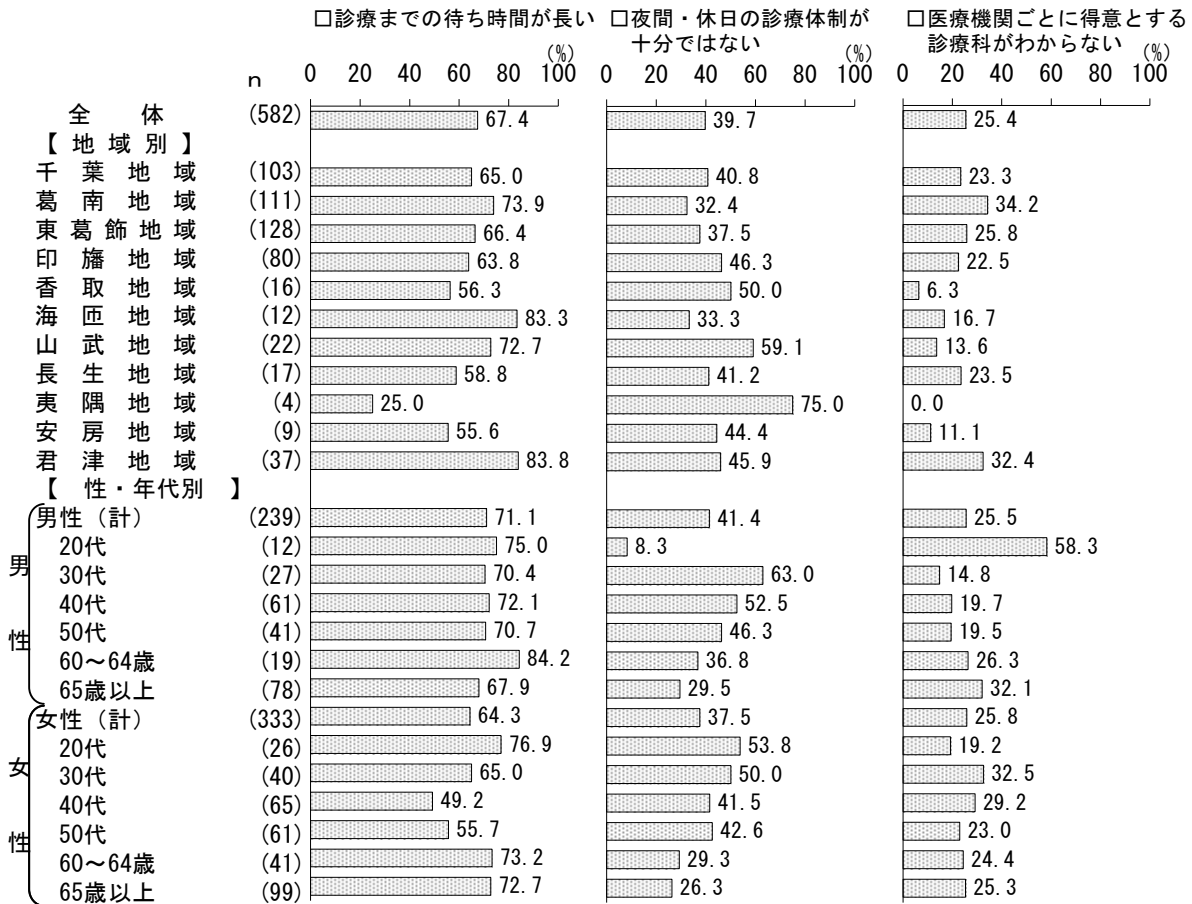
「医療機関ごとに得意とする診療科がわからない」は“葛南地域”(34.2%)で3割台半ば、「初診の際にどの医療機関(診療科)を受診したらいいのかわかりにくい」は、“千葉地域”(31.1%)と3割を超えており、他の地域に比べて高くなっている。(図表2-4)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「夜間・休日の診療体制が十分ではない」は男性の30代(63.0%)で6割台半ば、女性の20代(53.8%)、男性の40代(52.5%)、女性の30代(50.0%)で5割を超えており、他の年代に比べて高くなっている。

「長期療養のための入院施設等が十分に整備されていない」は女性(21.6%)の方が高く、女性の60～64歳(34.1%)で3割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。(図表2-4)

＜図表２－４＞県内の医療で不満な点／地域別、性・年代別（上位６項目）

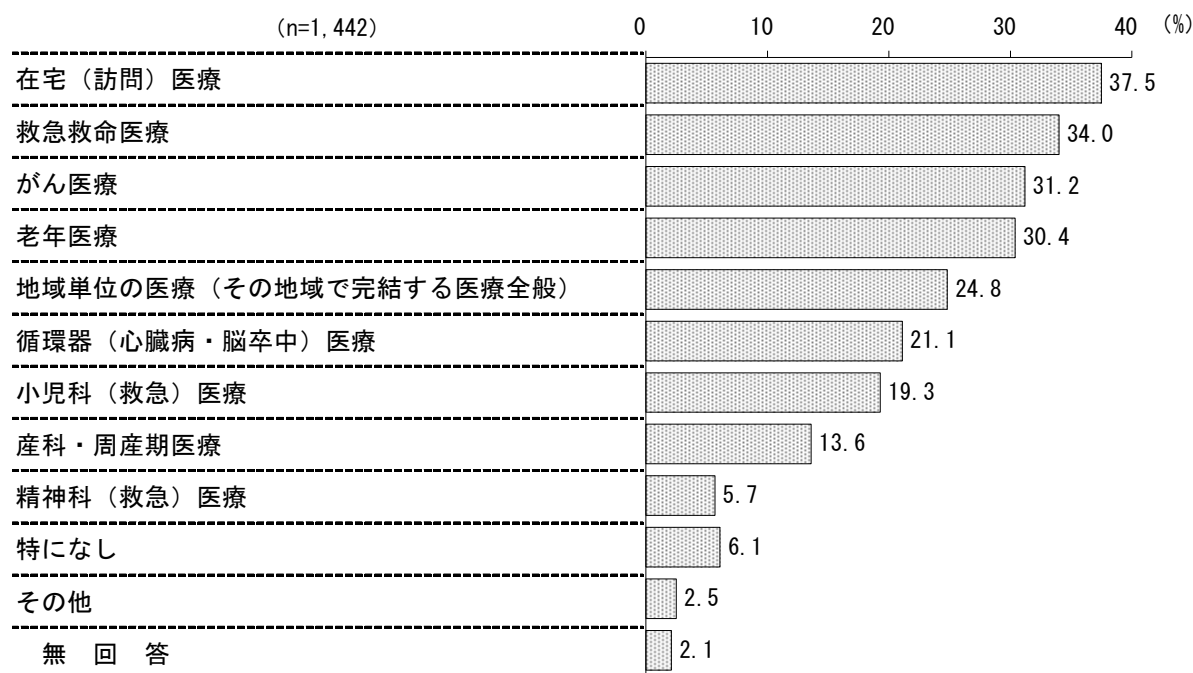


(3) 今後、県に力を入れて欲しい医療

◇「在宅（訪問）医療」が約４割

問９ あなたが、今後、県に力を入れて欲しい医療について、次の中から選んでください。
(○は３つまで)

<図表２－５> 今後、県に力を入れて欲しい医療



今後、県に力を入れてほしい医療について３つまで選んでもらったところ、「在宅（訪問）医療」（37.5%）が約４割と最も多くあげられ、以下、「救急救命医療」（34.0%）、「がん医療」（31.2%）、「老年医療」（30.4%）となっている。（図表２－５）

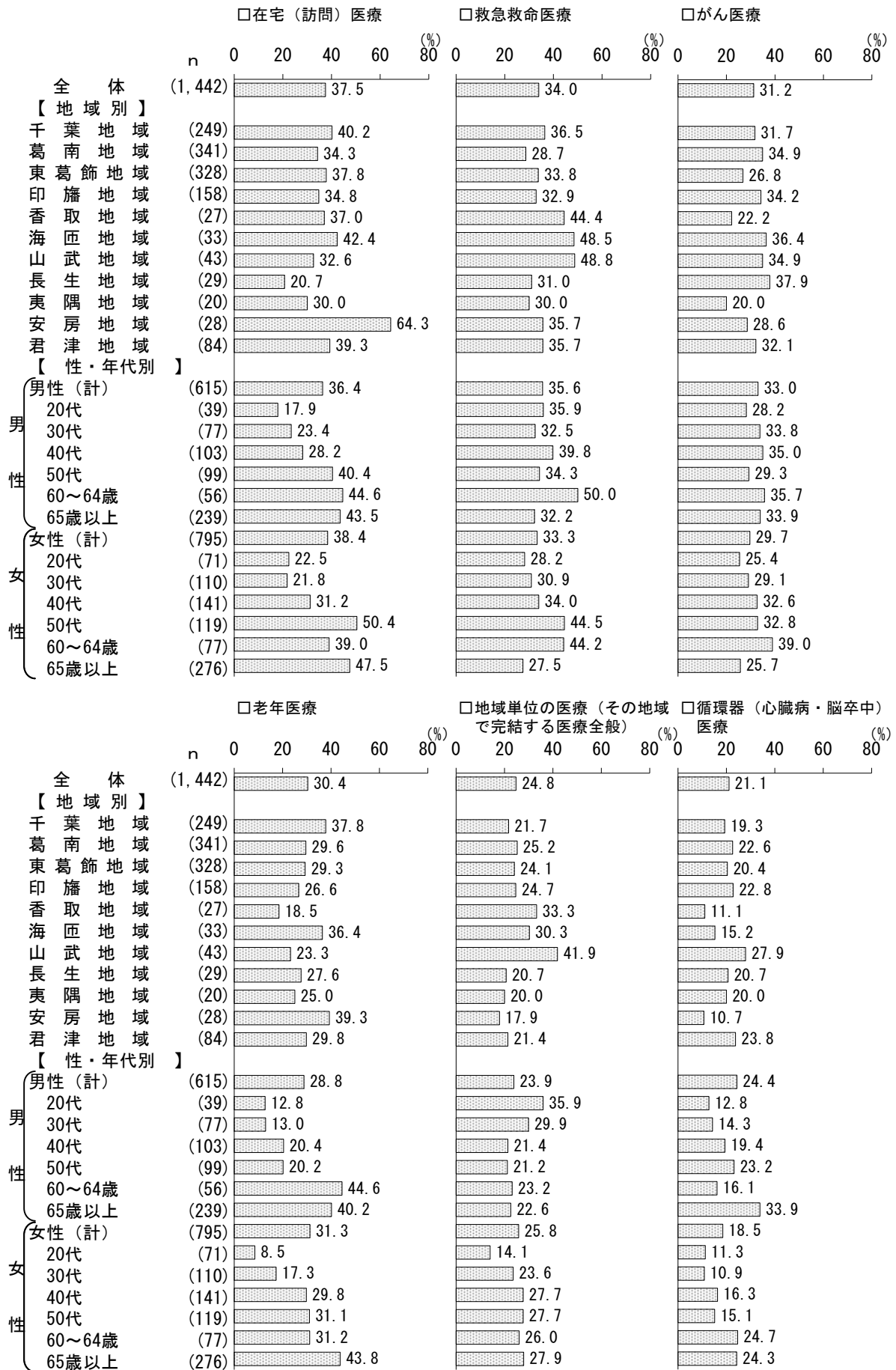
【地域別】

地域別にみると、「在宅（訪問）医療」は“安房地域”（64.3%）で６割台半ば、「救急救命医療」は“山武地域”（48.8%）、「海匝地域”（48.5%）で約５割、「老年医療」は“安房地域”（39.3%），“千葉地域”（37.8%）で約４割、「地域単位の医療（その地域で完結する医療全般）」は“山武地域”（41.9%）で４割を超えており、他の地域に比べて高くなっている。（図表２－６）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「在宅（訪問）医療」は女性の50代（50.4%）で、「救急救命医療」は男性の60～64歳（50.0%）で５割を超えて高い。「老年医療」は男性の60～64歳（44.6%）、女性の65歳以上（43.8%）、男性の65歳以上（40.2%）で４割を超えて高い。「循環器（心臓病・脳卒中）医療」は男性の65歳以上（33.9%）で３割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。（図表２－６）

<図表２－６> 今後、県に力を入れて欲しい医療／地域別、性・年代別



このほかに、「医療について」やここまでの質問（問7～問9）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、216人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「医療について」の自由回答（抜粋）

○過度の医療からの脱却。ラジオ体操などやっている地域はあるのですか？ 県・市が積極的に場を作って、健康増進、医療費削減に取り組んでは？（男性、50代、葛南地域）

○大きな病院は今、紹介状なくして初診してもらえず、自分の行きたい病院にすぐには行けない！（男性、60～64歳、香取地域）

○限られた医療資源を如何に効率的、効果的に利用していくかが重要だと考えます。医療機関ごとの役割分担を明確にして病院間での連携を図っていくような枠組み作りが急務ではないでしょうか。家庭医制度の推進など県レベルでできることを早急に進められることを要望致します。（男性、65歳以上、長生地域）

○国や県では掛りつけ医、在宅医療を推奨しているし私もこれには賛成ですがそれを実施してくれるような医者は近くにはない。仕方無くみな総合病院に行ってしまう。開業医を増やせないものか？ 高齢者がバスや電車に乗って病院通いするのも大変だし、現実には総合病院は高齢者であふれている。（女性、65歳以上、東葛飾地域）

○医療スタッフを増員する。（女性、20代、香取地域）

○先日、小児救急でお世話になりました。受入の医師も何人かいて、適切な対応をして頂きました。夜間は人手不足などあると思いますが、医療スタッフの方に出来るだけ負担とならない環境づくりを願います。（男性、30代、葛南地域）

○待ち時間は1時間で診察は5分位で、いつも高血圧の薬を出してもらっています。患者は医師に思った事はなかなか言えません。医師の方から患者に話しかける指導をお願いします。（女性、65歳以上）

○各市町村で夜間休日診療医の制度があるところと、ないところがあるので、すべての市町村であった方がよい。（女性、40代、印旛地域）

○もっと産婦人科を充実してほしい。近くに産科がどんどんなくなり、安心して子供が産めるか不安。（女性、30代、印旛地域）

○救急車についてですが、市の境に住んでいると、隣の市の消防署の方が近いのに、あえて遠い市内の消防署から救急車が来るとなると遅くなります。その連携をお願いしたい。（女性、30代、千葉地域）

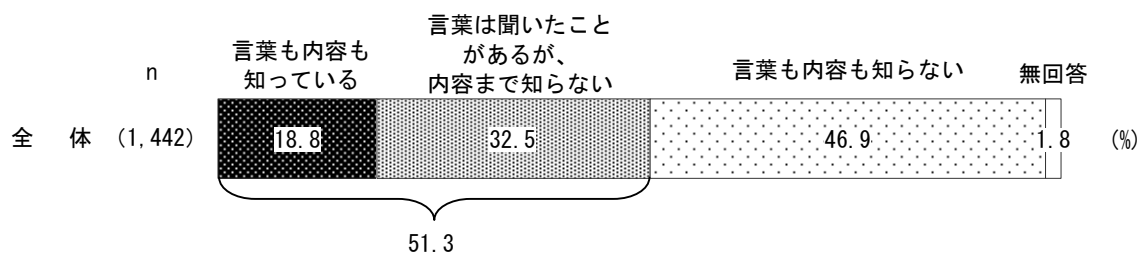
3 ワーク・ライフ・バランスについて

(1) 「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」言葉の認知度

◇『知っている』は5割

問10 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉を知っていますか。（○は1つ）

＜図表 3－1＞「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」言葉の認知度



「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉を知っているかを聞いたところ、「言葉も内容も知っている」（18.8%）、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」（32.5%）を合わせた『知っている』（51.3%）は5割を超える。（図表 3－1）

【地域別】

地域別にみると、“君津地域”（59.5%）、“安房地域”（57.1%）で『知っている』が約6割と他の地域に比べて高くなっている。

一方、「言葉も内容も知らない」は“海匝地域”（63.6%）で6割を超えて、高くなっている。

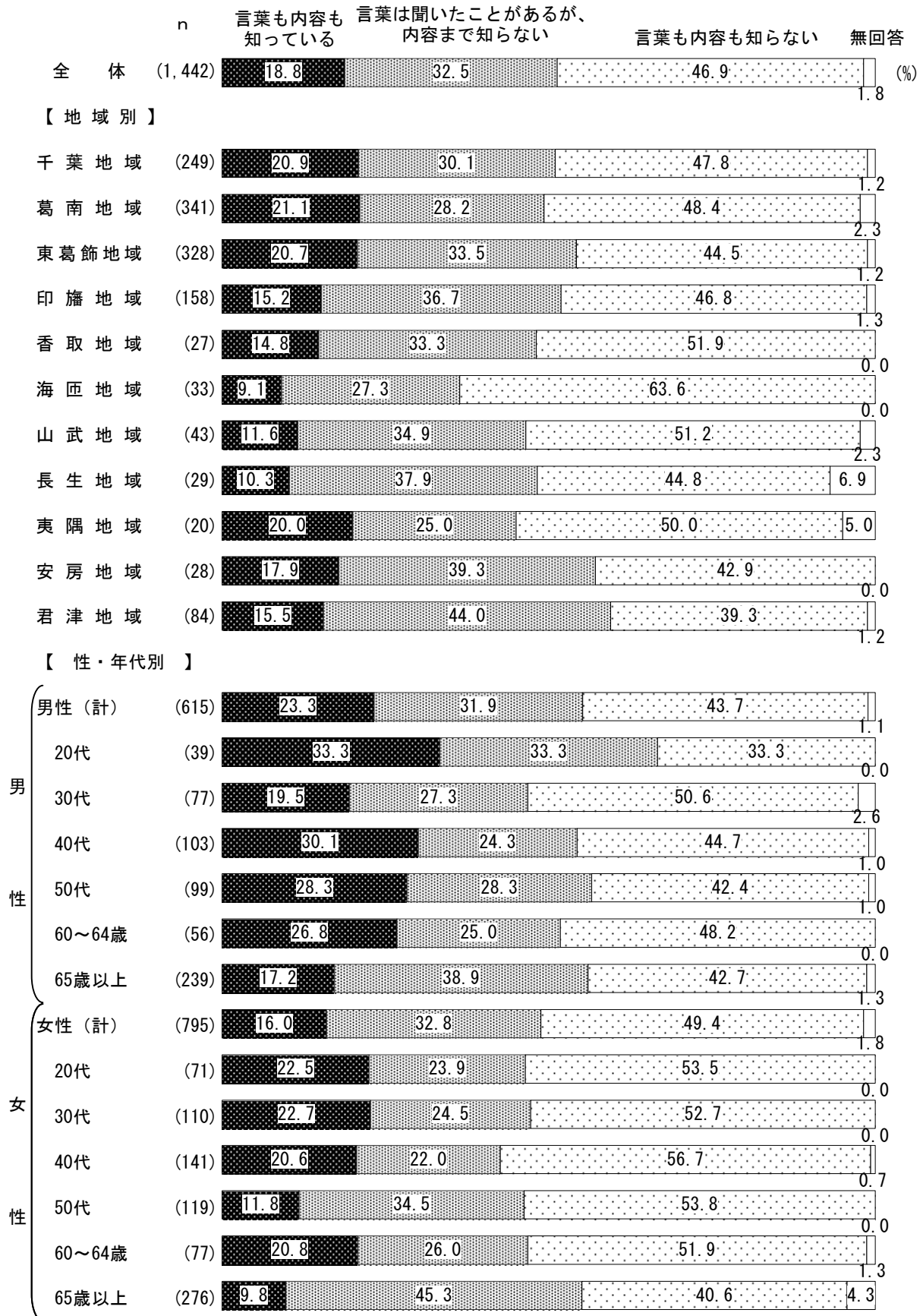
（図表 3－2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、男性の20代で『知っている』（66.7%）が6割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。

一方、「言葉も内容も知らない」は女性の40代（56.7%）で5割台半ばと高く、女性の65歳以上では「言葉も内容も知っている」（9.8%）は約1割と低い。（図表 3－2）

<図表3-2>「ワーク・ライフ・バランス」言葉の認知度／地域別、性・年代別

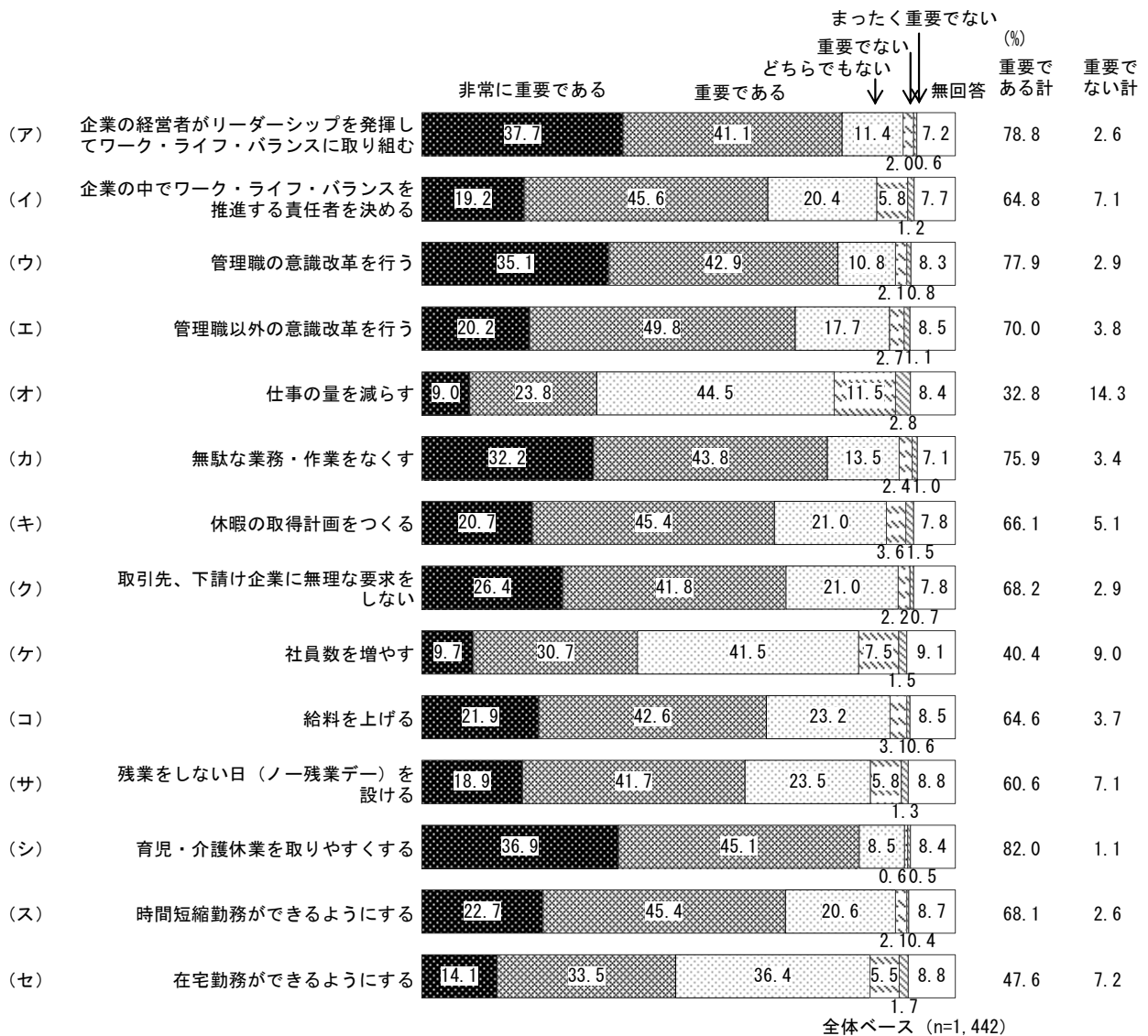


(2) 実現社会に近づくための取り組み重要度

◇「育児・介護休業を取りやすくする」が8割を超え、「企業の経営者がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」、「管理職の意識改革を行う」が約8割

問11 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現された社会」に近づくための取り組みに関する次の項目について、どう思いますか。（○はそれぞれ1つ）

<図表3-3>実現社会に近づくための取り組み重要度



「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現された社会」に近づくために各14項目がどの程度重要であるかを聞いたところ、「育児・介護休業を取りやすくする」（82.0％）が、「非常に重要である」、「重要である」を合わせた『重要である』が8割を超え、最も高い。

他の『重要である』が高い項目は、「企業の経営者がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」（78.8％）、「管理職の意識改革を行う」（77.9％）が約8割、「無駄な業務・作業をなくす」（75.9％）が7割台半ば、「管理職以外の意識改革を行う」（70.0％）が7割となっている。

（図表3－3）

【地域別】

地域別にみると、「企業の経営者がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」は“夷隅地域（90.0％）”で9割、「管理職の意識改革を行う」は“君津地域（85.7％）”“葛南地域（82.7％）”で8割を超えており、他の地域に比べて高くなっている。（図表3－4－3）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「育児・介護休業を取りやすくする」は、女性の20代（97.2％）、30代（96.4％）、男性の20代（92.3％）、女性の40代（91.5％）と9割を超えて、他の年代に比べて高くなっている。（図表3－4－12）

「企業の経営者がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」は、女性の30代（92.7％）で9割を超え、特に高い。（図表3－4－1）

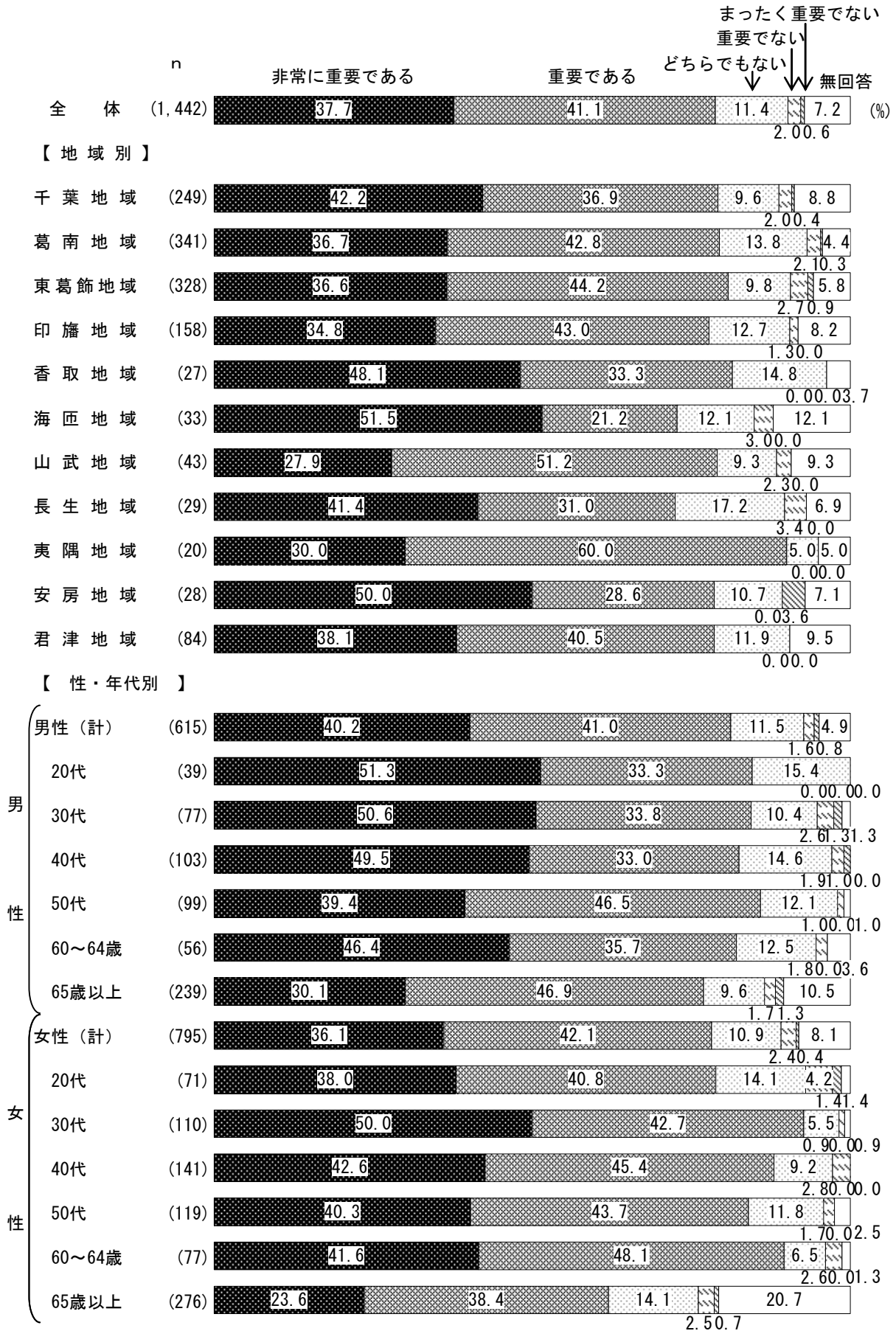
「管理職の意識改革を行う」は、女性の30代（95.5％）、男性の20代（92.3％）、30代（90.9％）で9割を超えて高くなっている。（図表3－4－3）

「無駄な業務・作業をなくす」は、女性の30代（86.4％）、20代（85.9％）、男性の40代（85.4％）で8割台半ばと高くなっている。（図表3－4－6）

「管理職以外の意識改革を行う」は、男性の20代（87.2％）、女性の30代（85.5％）、40代（80.9％）、50代（80.7％）で8割を超えて高くなっている。（図表3－4－4）

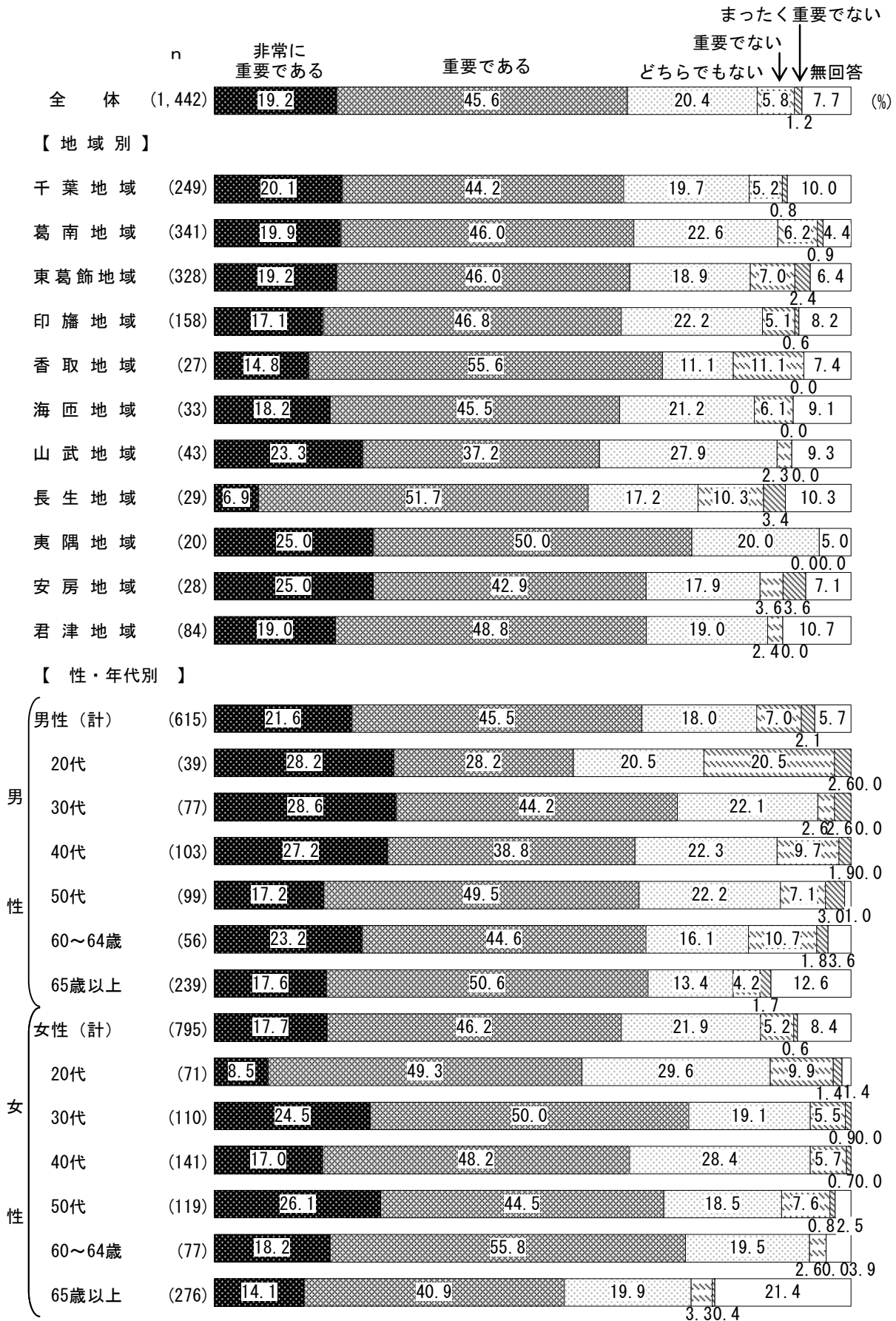
<図表3-4-1>実現社会に近づくための取り組み重要度／地域別、性・年代別

(ア) 企業の経営者がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む

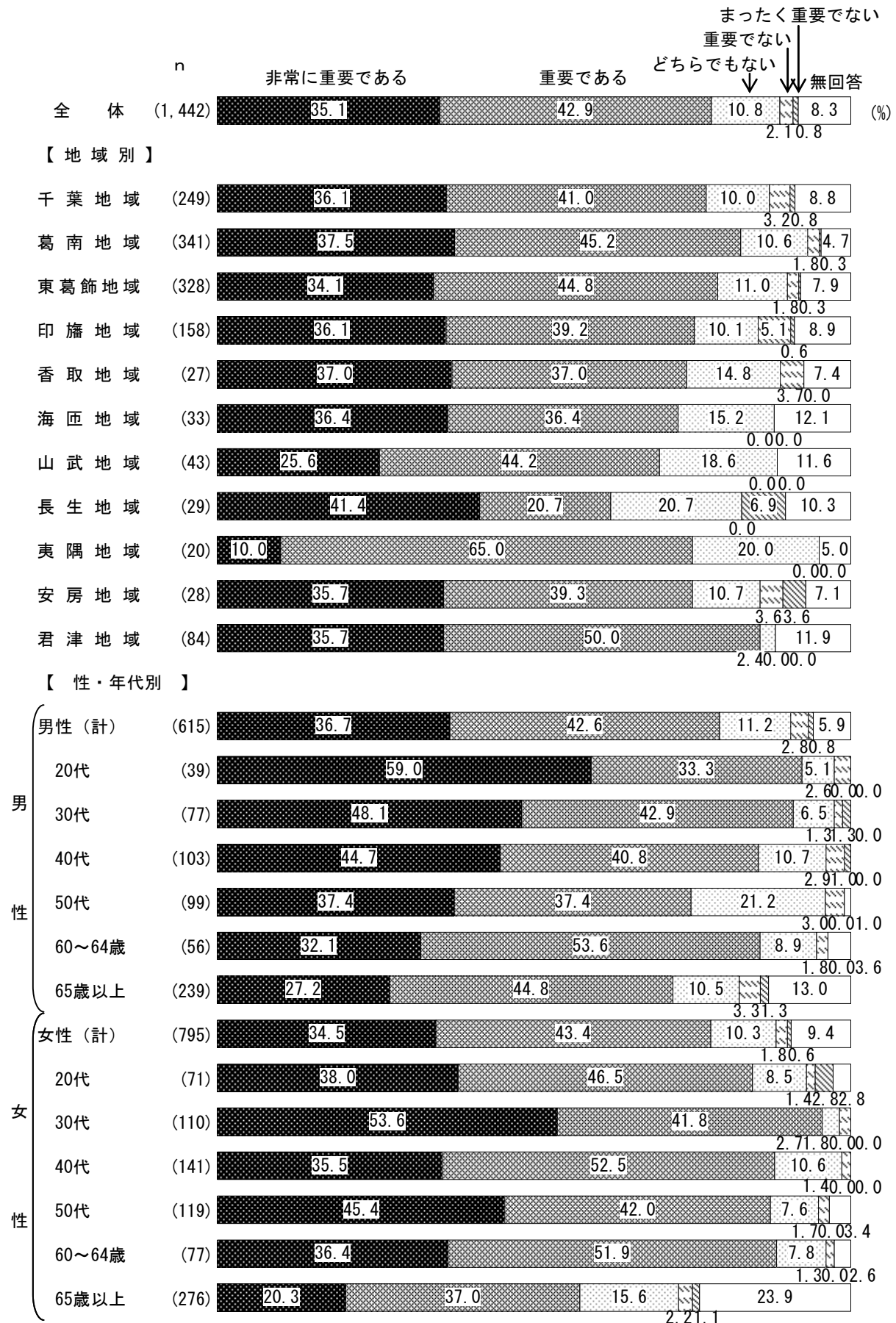


<図表3-4-2>実現社会に近づくための取り組み重要度／地域別、性・年代別

(イ) 企業の中でワーク・ライフ・バランスを推進する責任者を決める

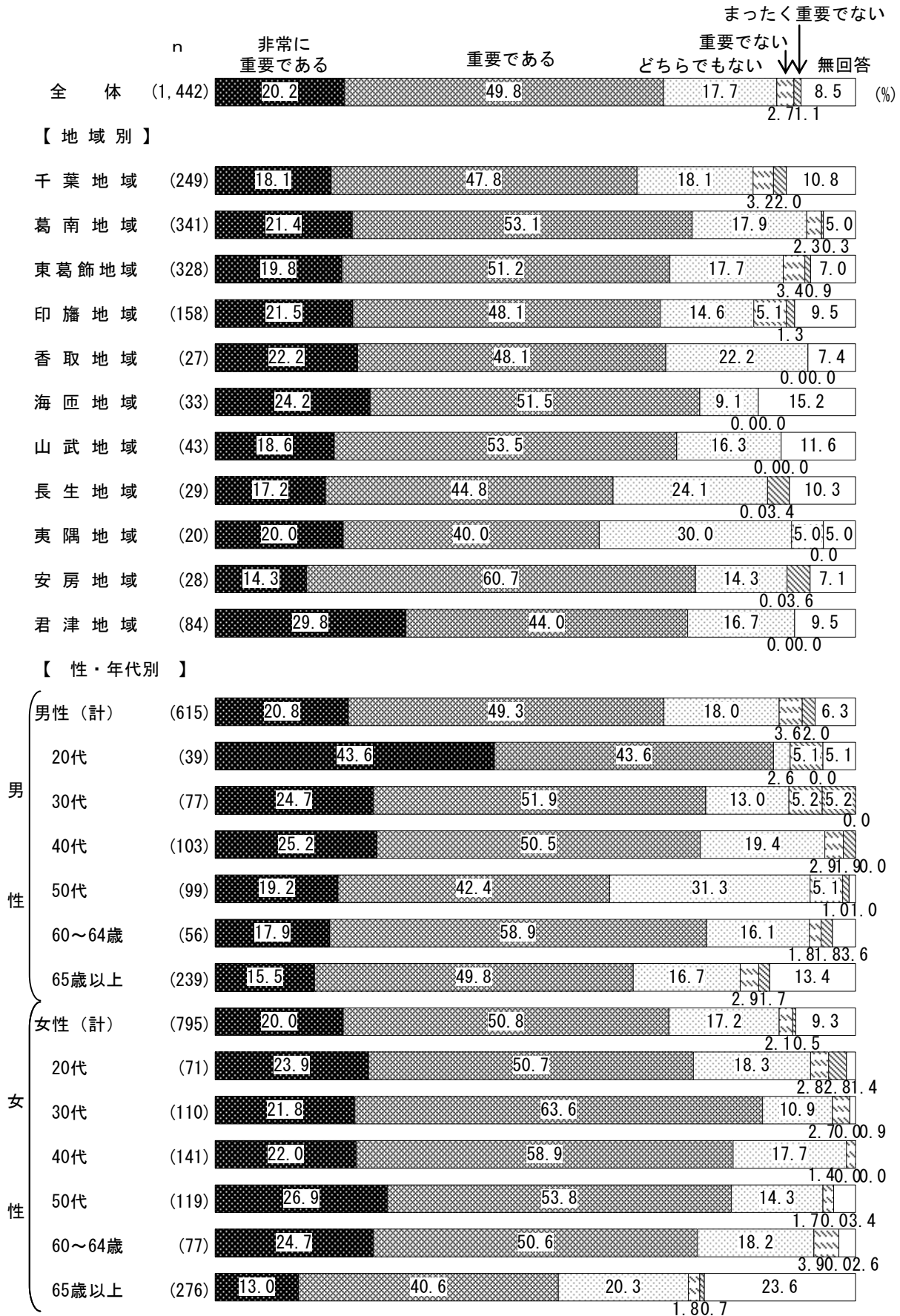


<図表3-4-3>実現社会に近づくための取り組み重要度／地域別、性・年代別
 (ウ) 管理職の意識改革を行う



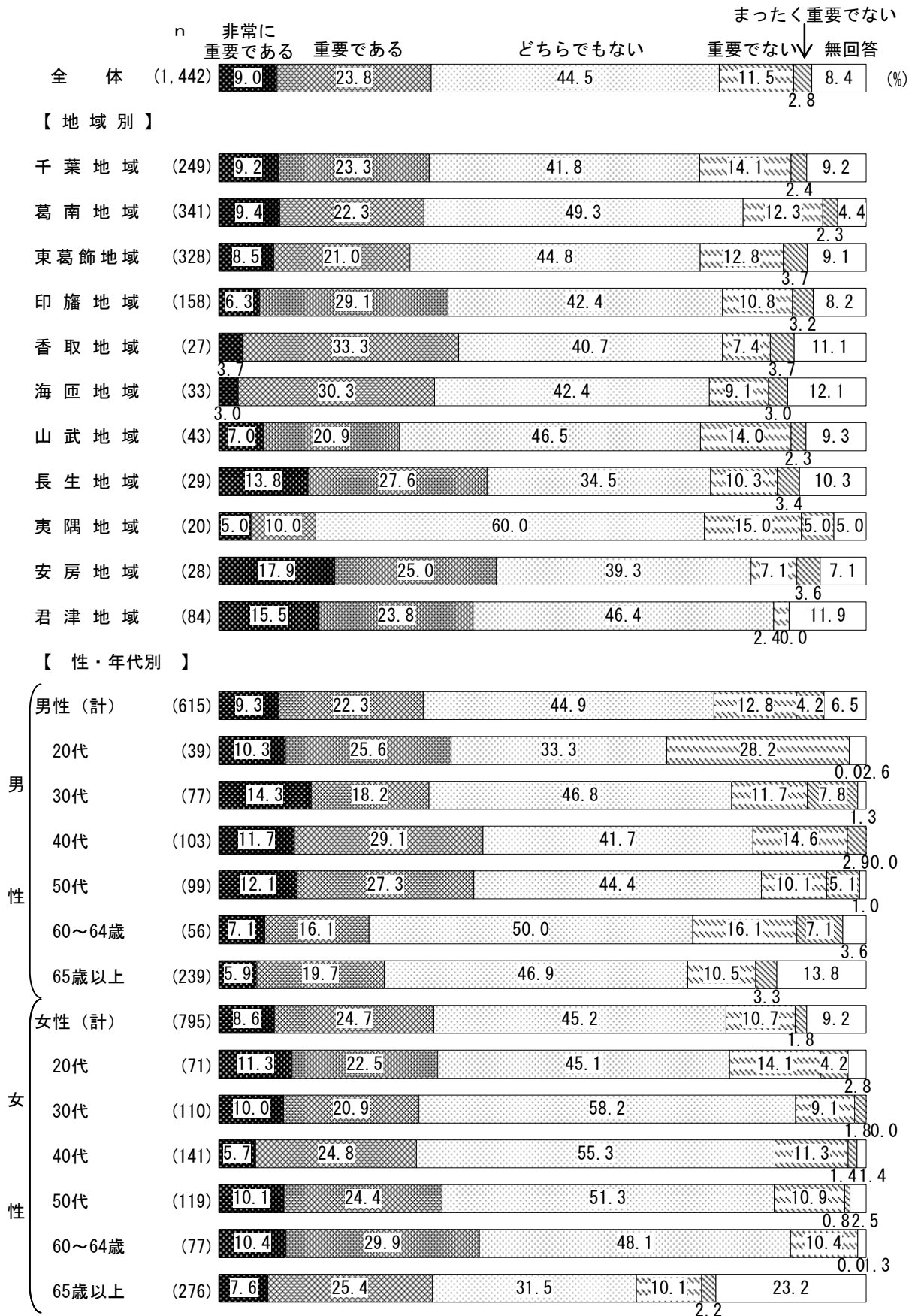
<図表3-4-4>実現社会に近づくための取り組み重要度／地域別、性・年代別

(エ) 管理職以外の意識改革を行う



<図表3-4-5>実現社会に近づくための取り組み重要度／地域別、性・年代別

(オ) 仕事の量を減らす

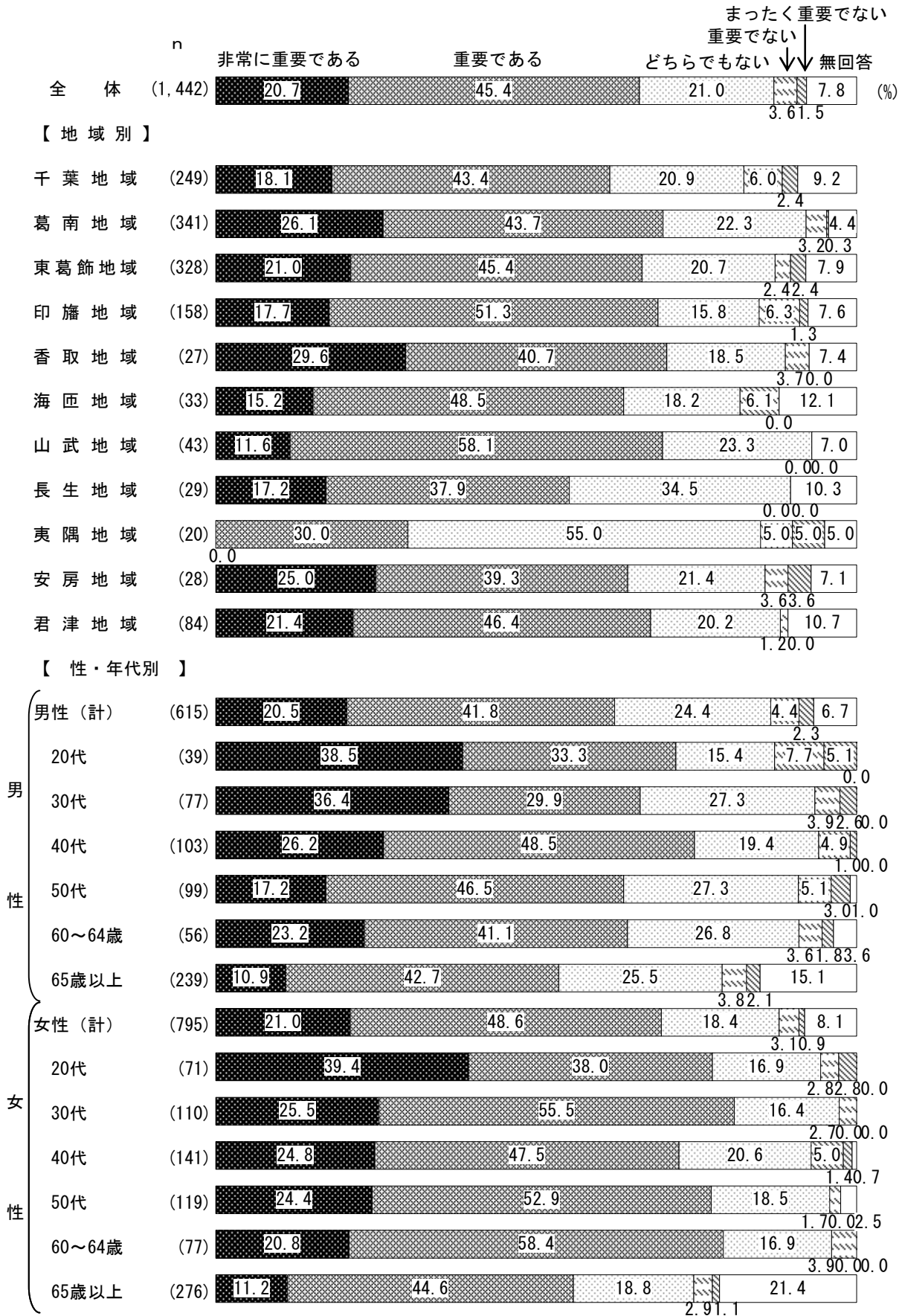


(力) 無駄な業務・作業をなくす



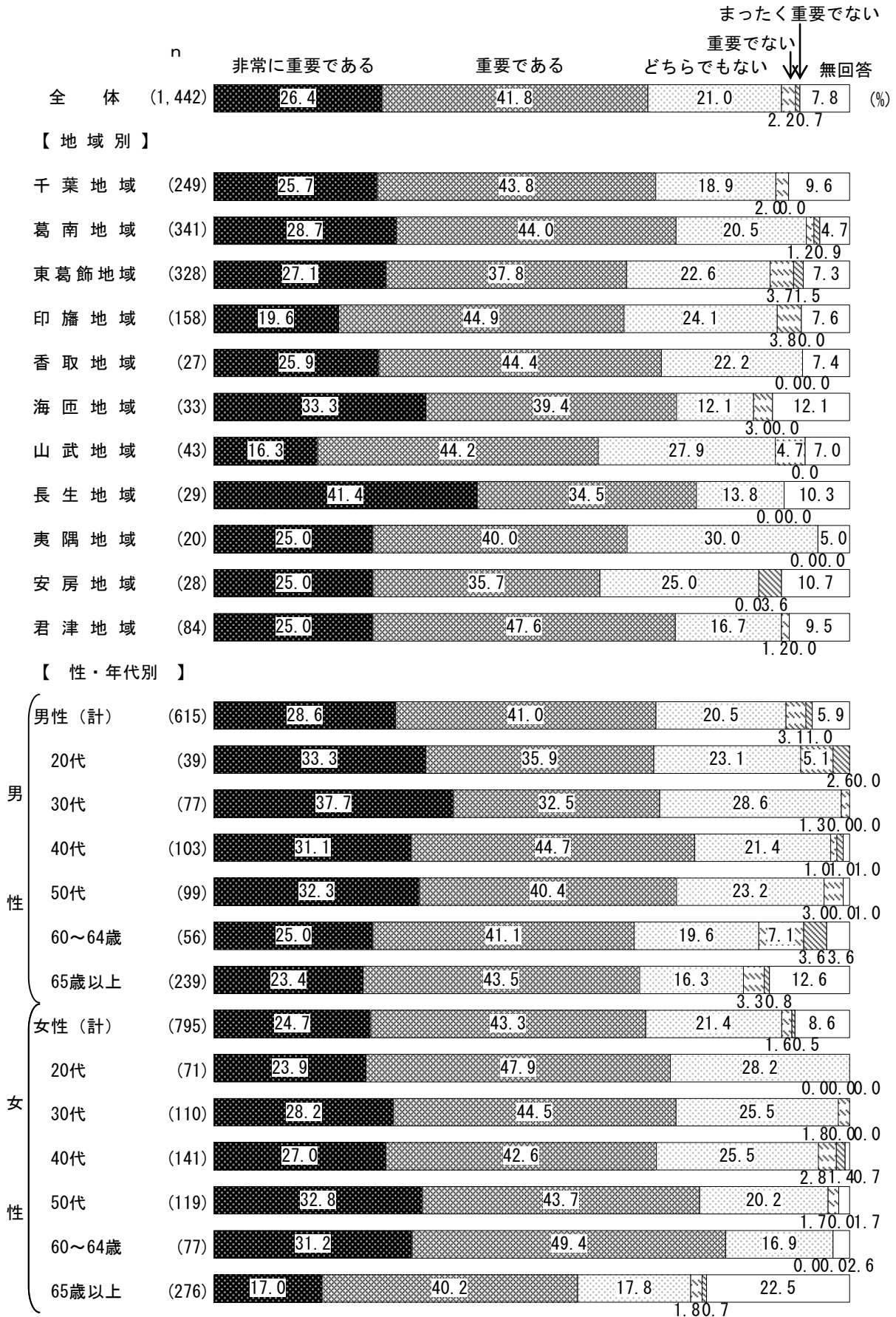
<図表3-4-7>実現社会に近づくための取り組み重要度／地域別、性・年代別

(キ) 休暇の取得計画をつくる



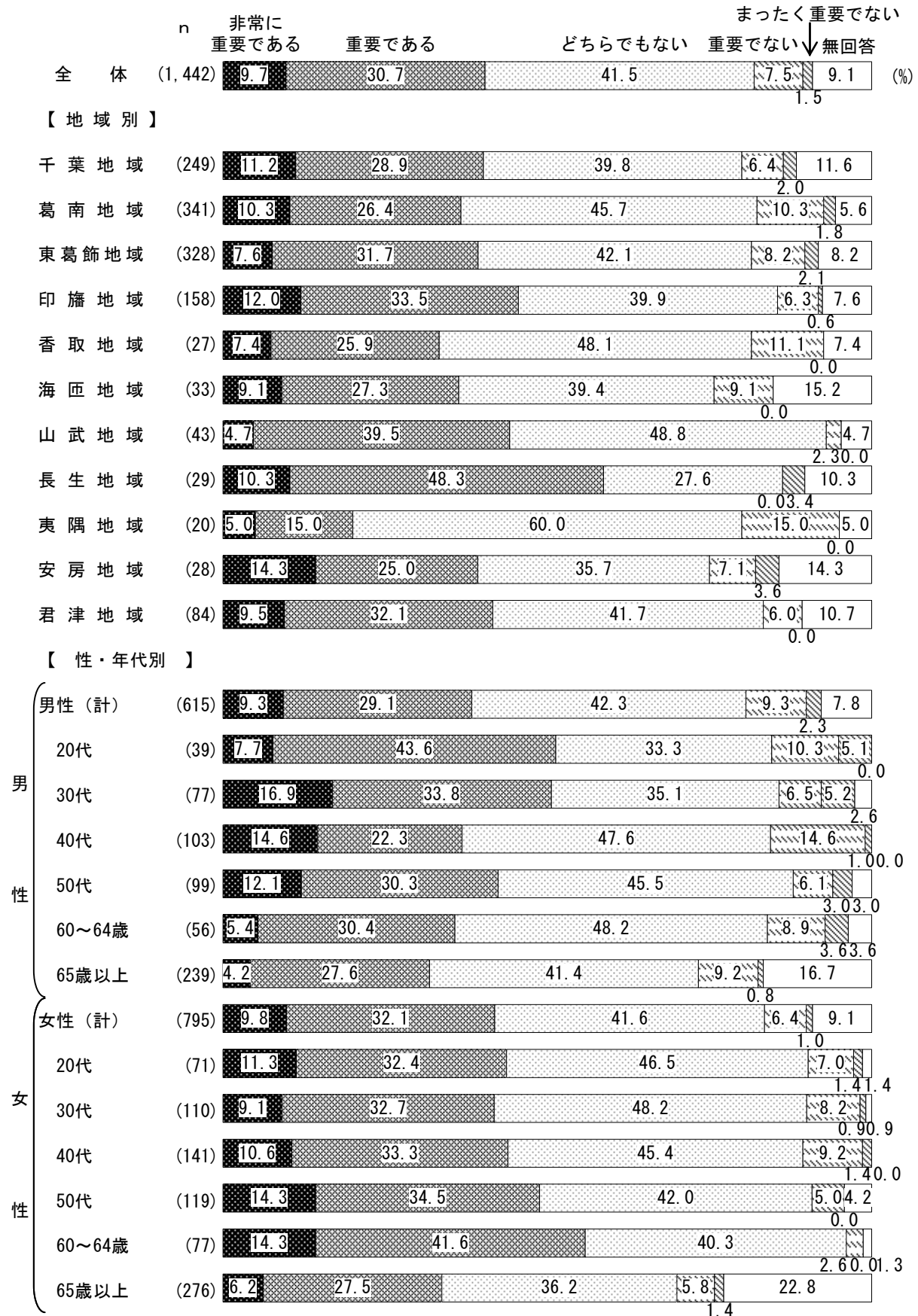
<図表3-4-8>実現社会に近づくための取り組み重要度／地域別、性・年代別

(ク) 取引先、下請け企業に無理な要求をしない



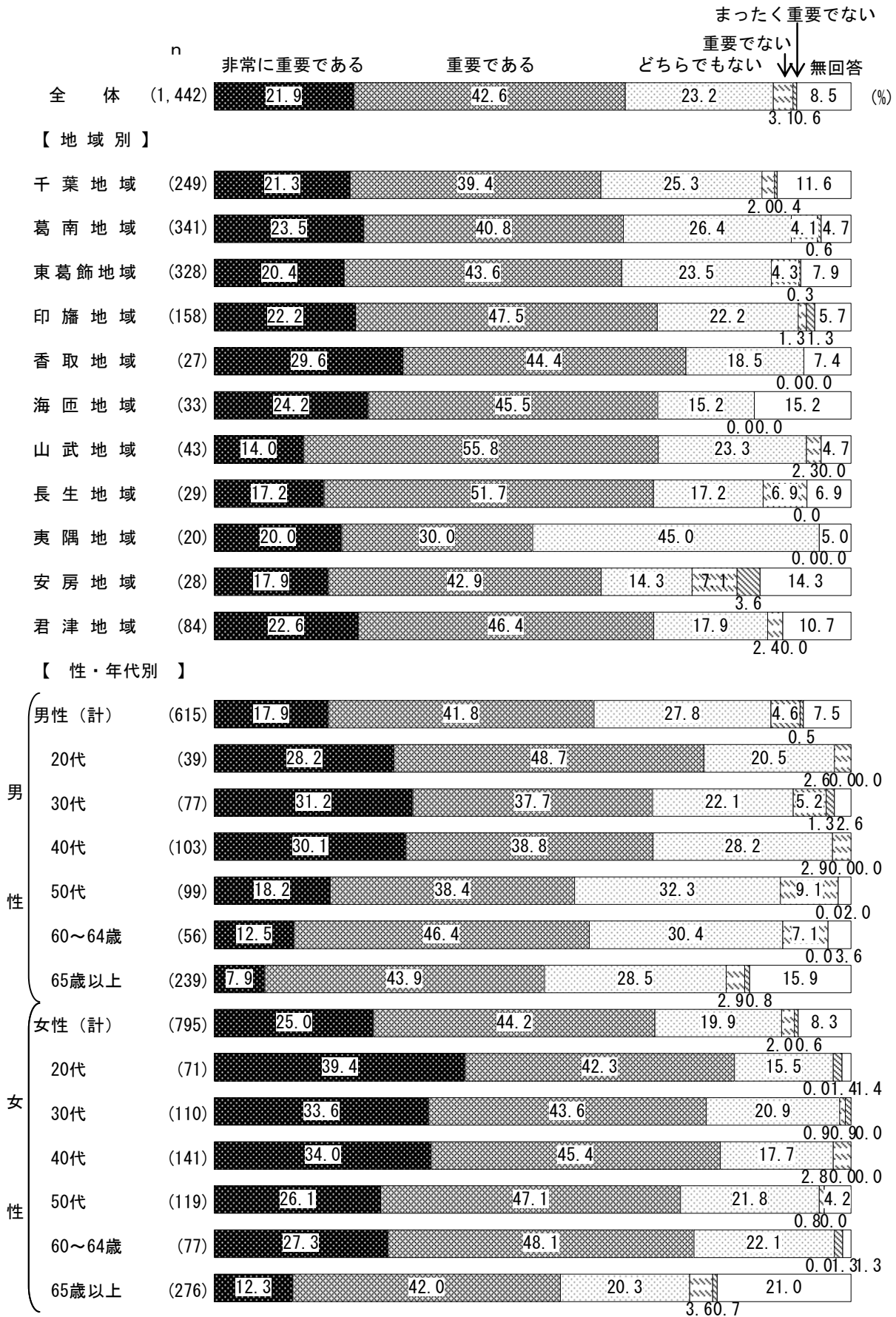
<図表3-4-9>実現社会に近づくための取り組み重要度／地域別、性・年代別

(ケ) 社員数を増やす

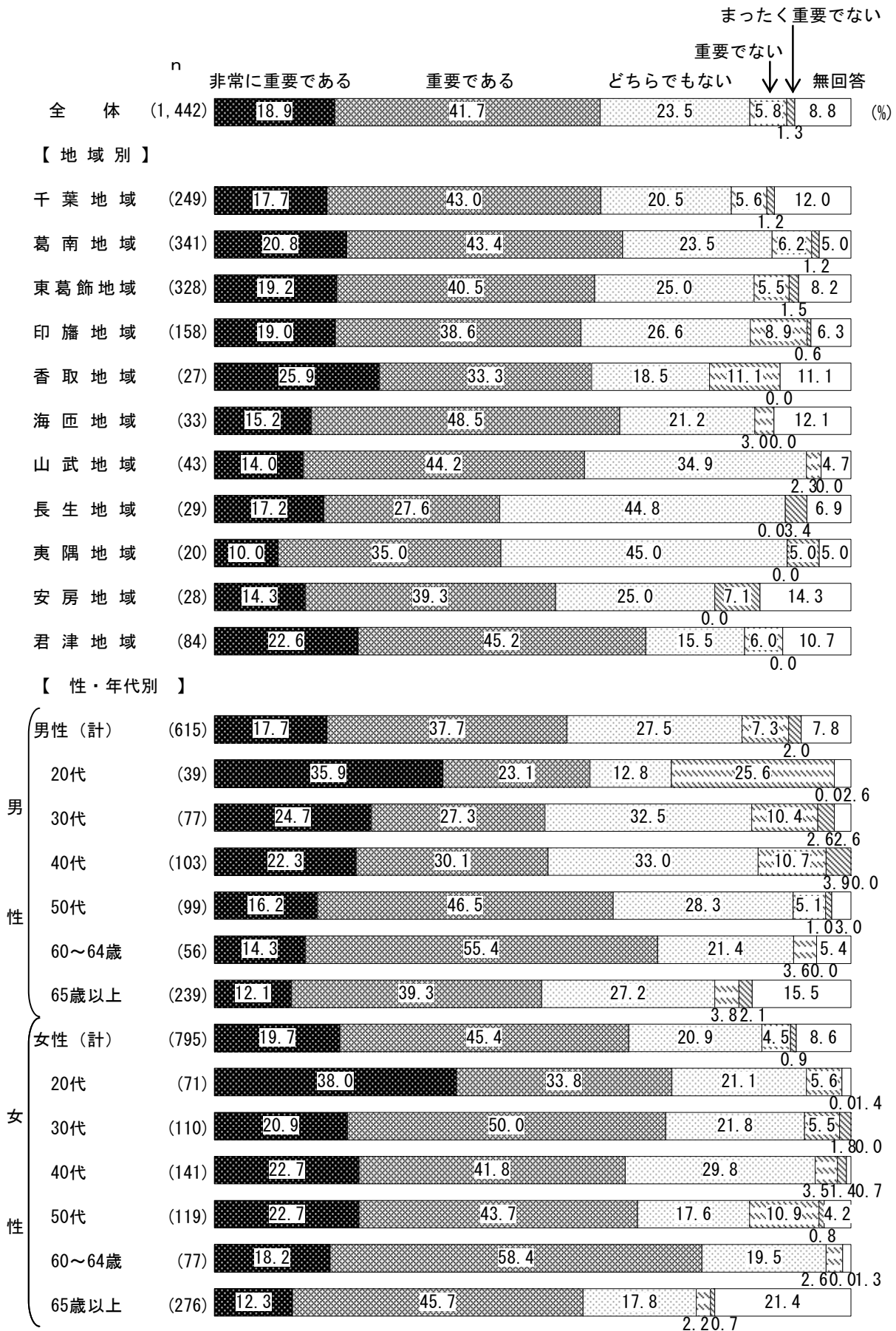


<図表3-4-10> 実現社会に近づくための取り組み重要度／地域別、性・年代別

(コ) 給料を上げる

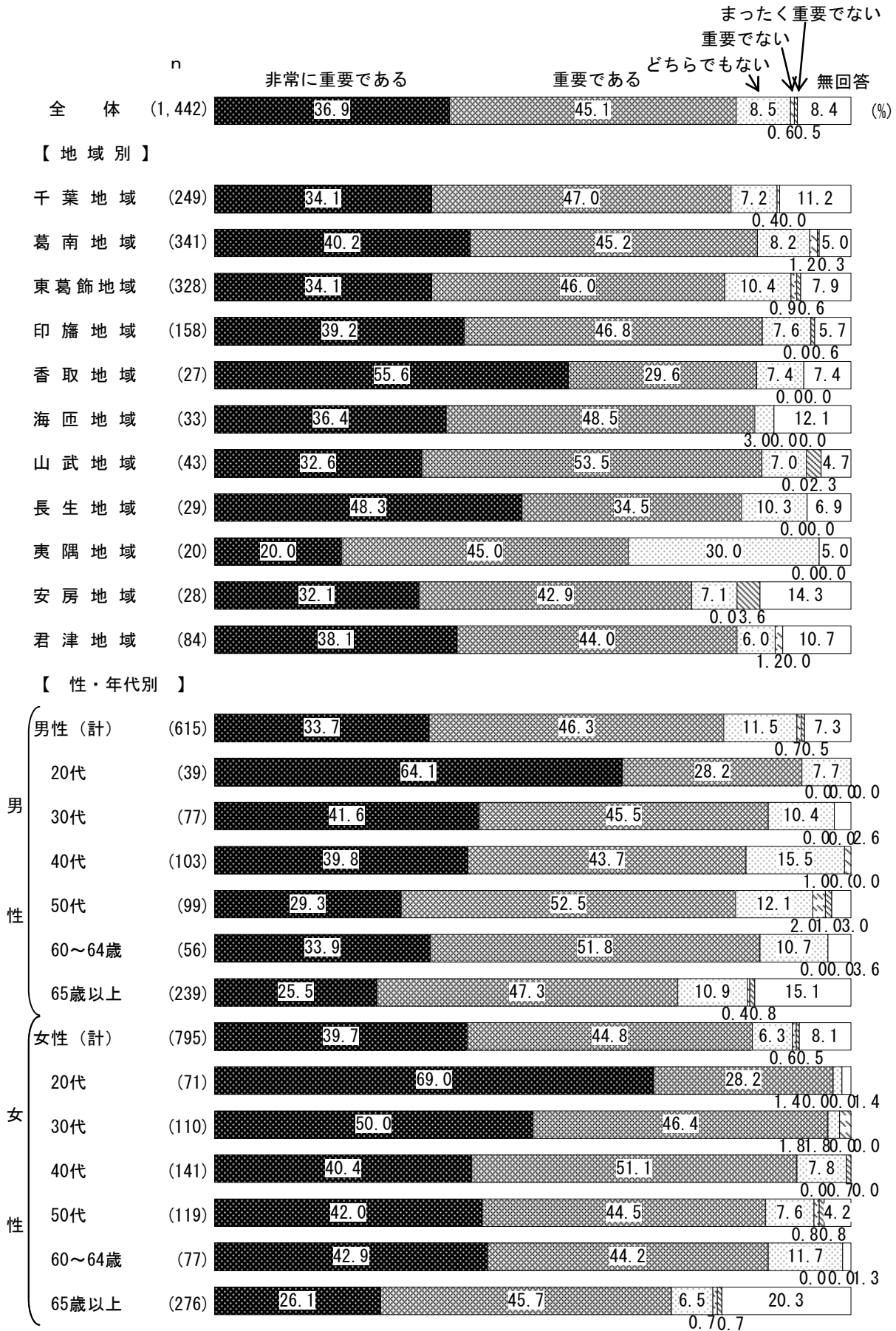


＜図表３－４－１１＞実現社会に近づくための取り組み重要度／地域別、性・年代別
 (サ) 残業をしない日（ノー残業デー）を設ける

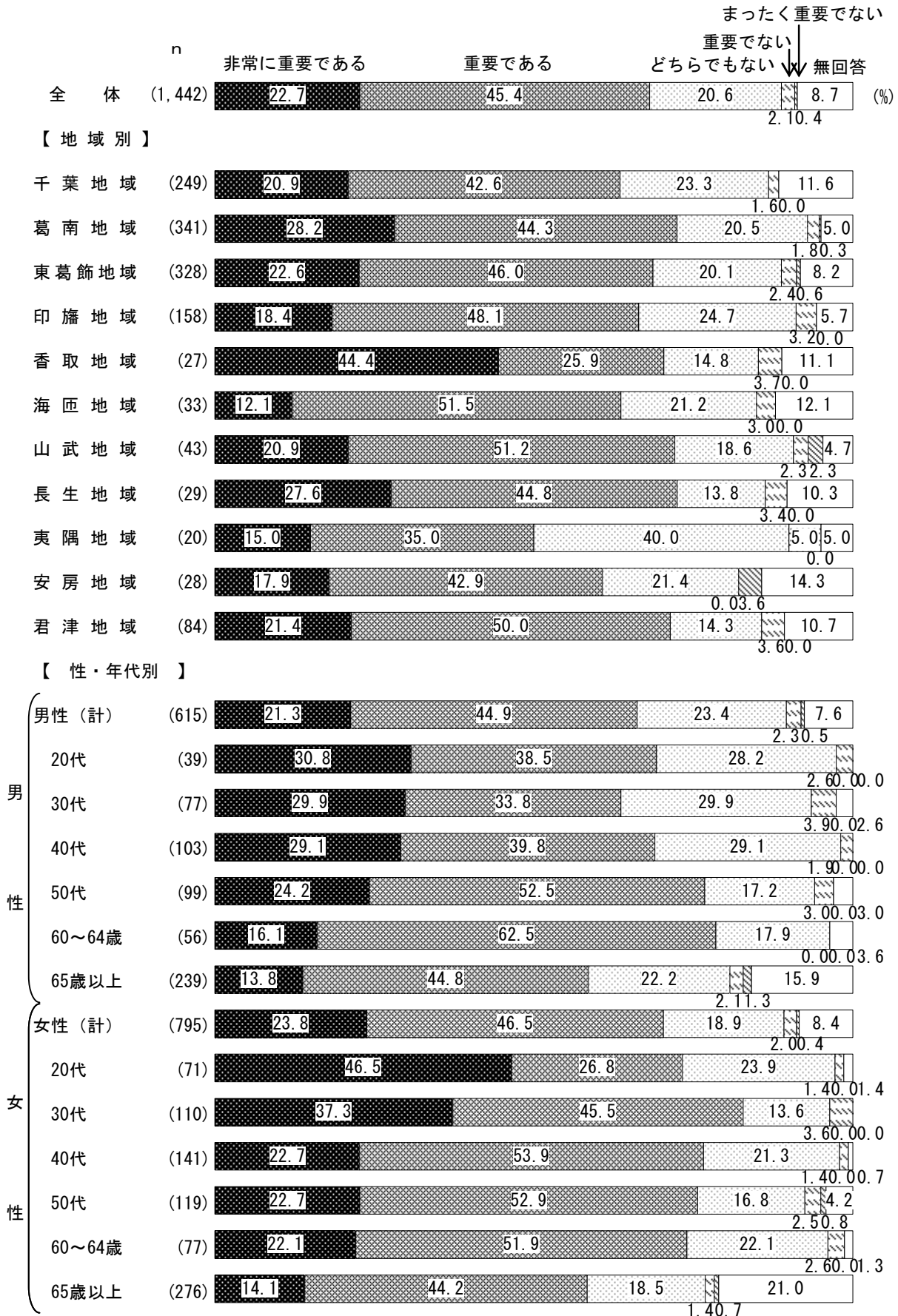


<図表3-4-12> 実現社会に近づくための取り組み重要度／地域別、性・年代別

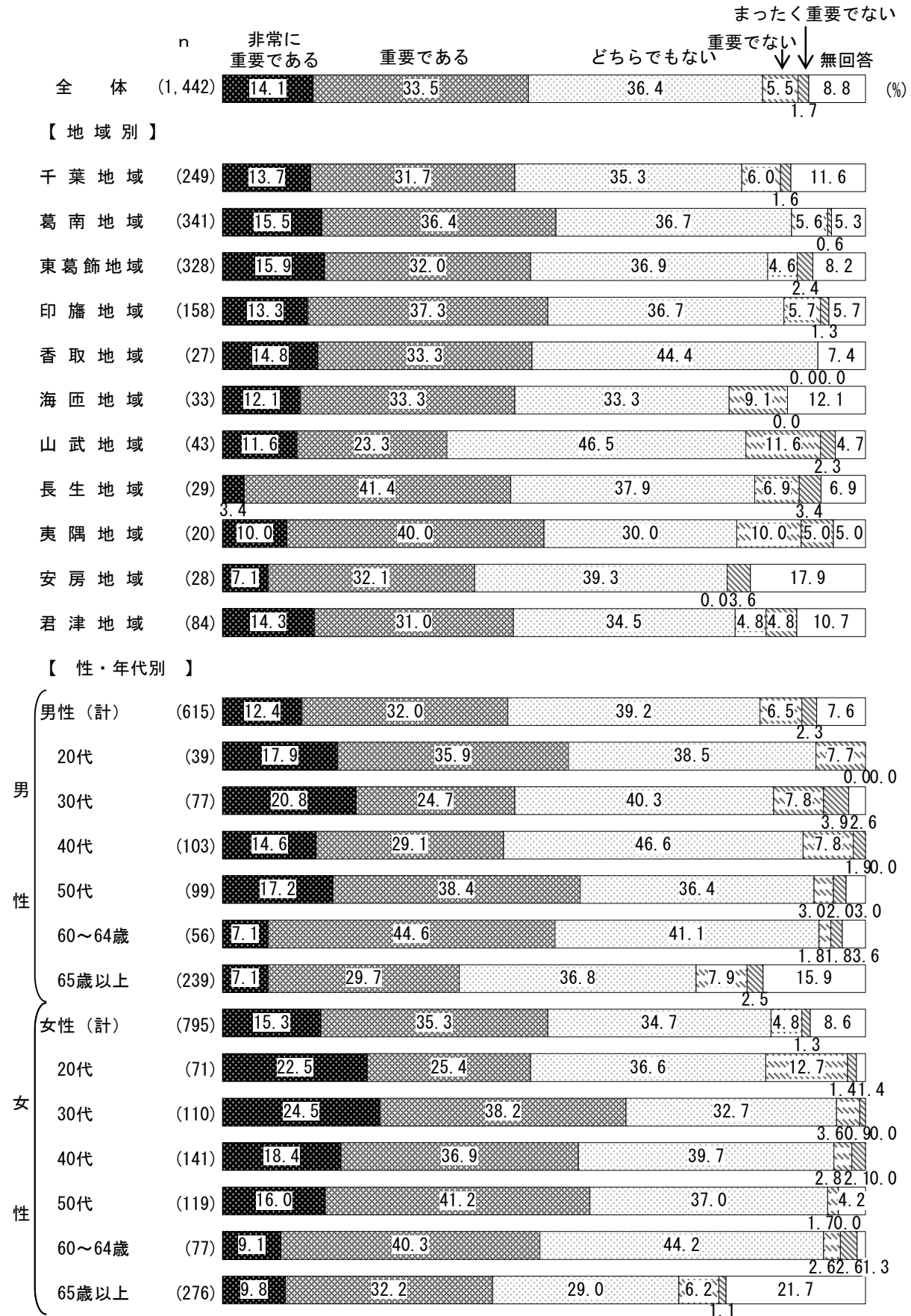
(シ) 育児・介護休業を取りやすくする



<図表3-4-13> 実現社会に近づくための取り組み重要度／地域別、性・年代別
(ス) 時間短縮勤務ができるようにする



<図表3-4-14>実現社会に近づくための取り組み重要度／地域別、性・年代別
(セ) 在宅勤務ができるようにする

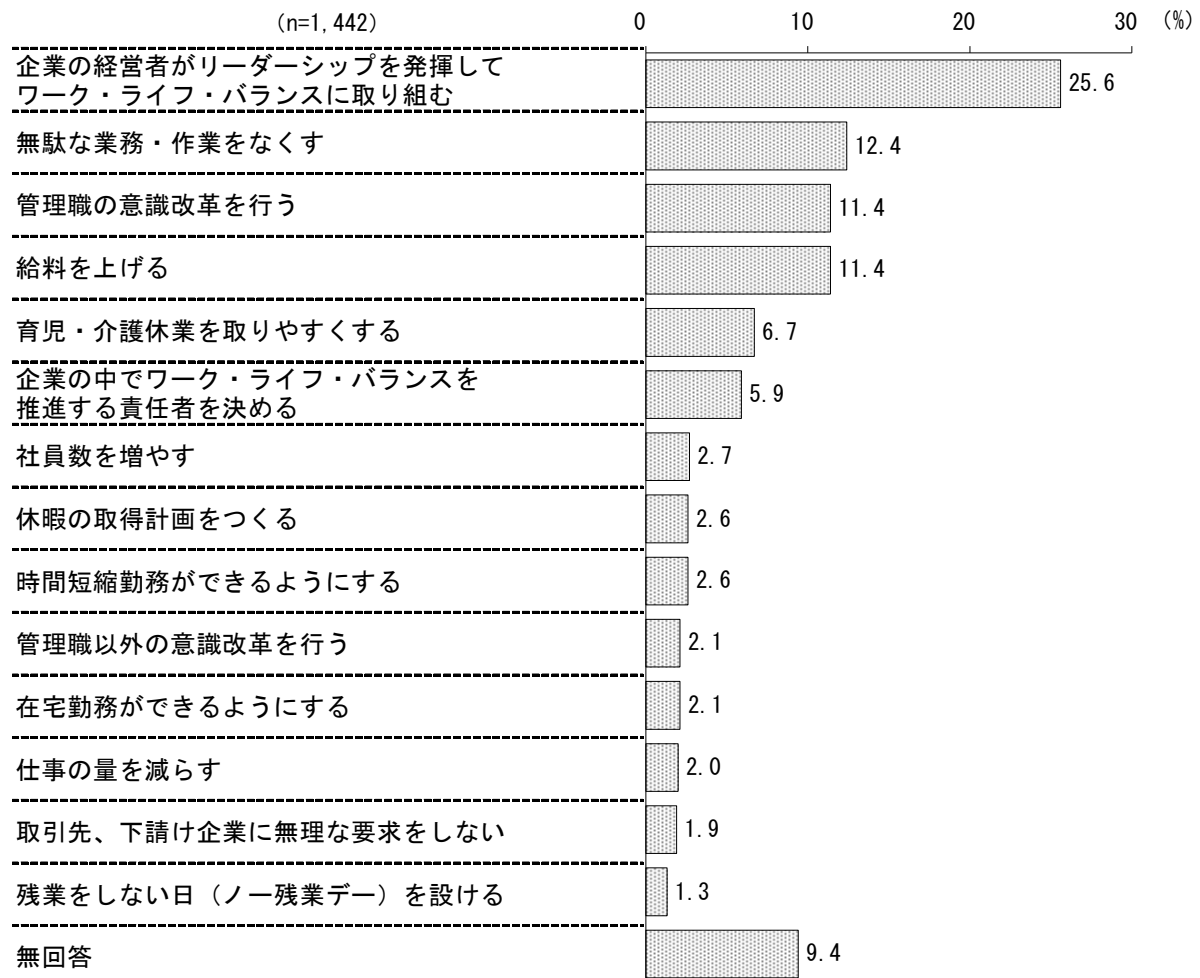


(3) 取り組みの中で最も重要なこと

◇「企業の経営者がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」が
2割台半ば

問12 問11でお答えいただいたうち、もっとも重要だと思うものはどれですか。(〇は1つ)

＜図表3-5＞取り組みの中で最も重要なこと



14項目の中で、「企業の経営者がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」(25.6%)が最も高く、「無駄な業務・作業をなくす」(12.4%)、「管理職の意識改革を行う」「給料を上げる」(ともに11.4%)となっている。(図表3-5)

【地域別】

地域別にみると、「企業の中でワーク・ライフ・バランスを推進する責任者を決める」は、“夷隅地域”(25.0%)で2割台半ばと高い。(図表3-6)

【性・年代別】

「企業の経営者がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」は男性(31.2%)の方が高く、男性の60～64歳(42.9%)で4割を超えて高くなっている。

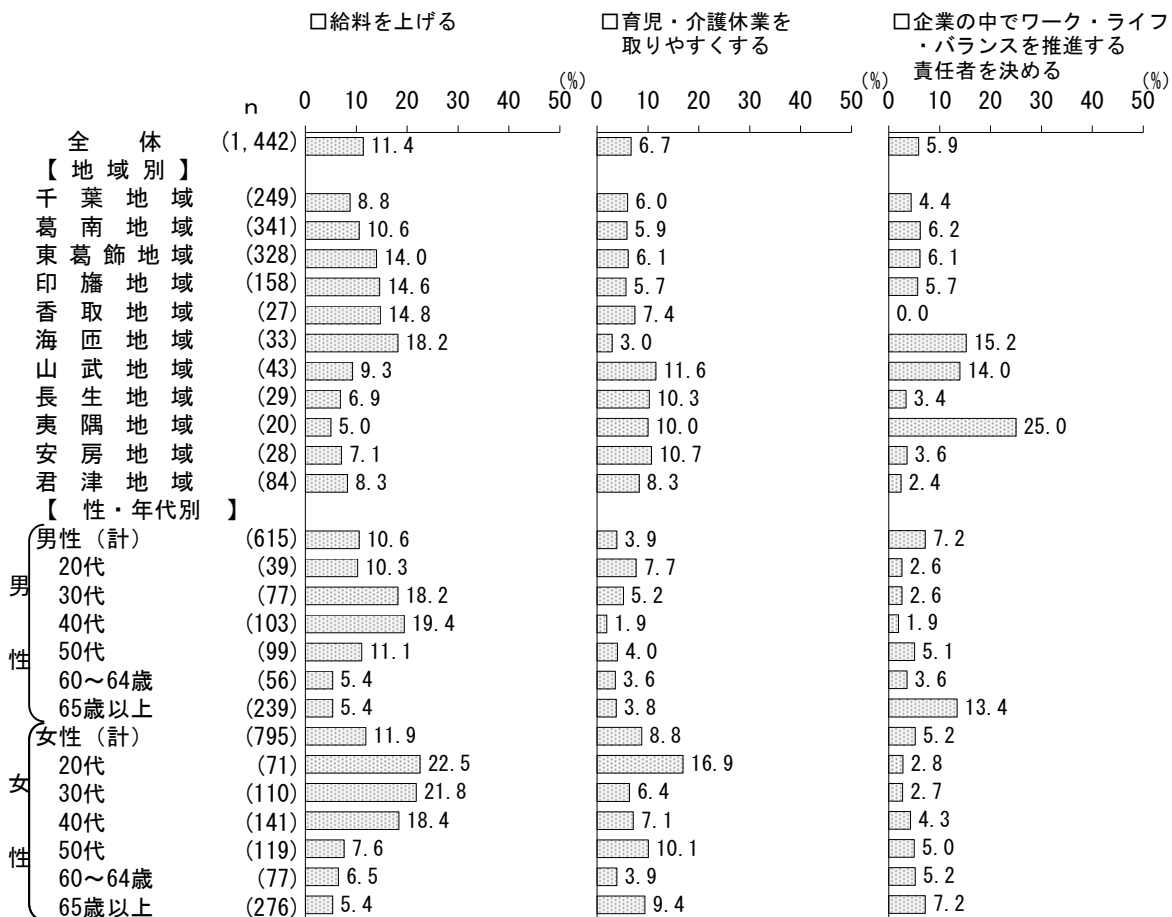
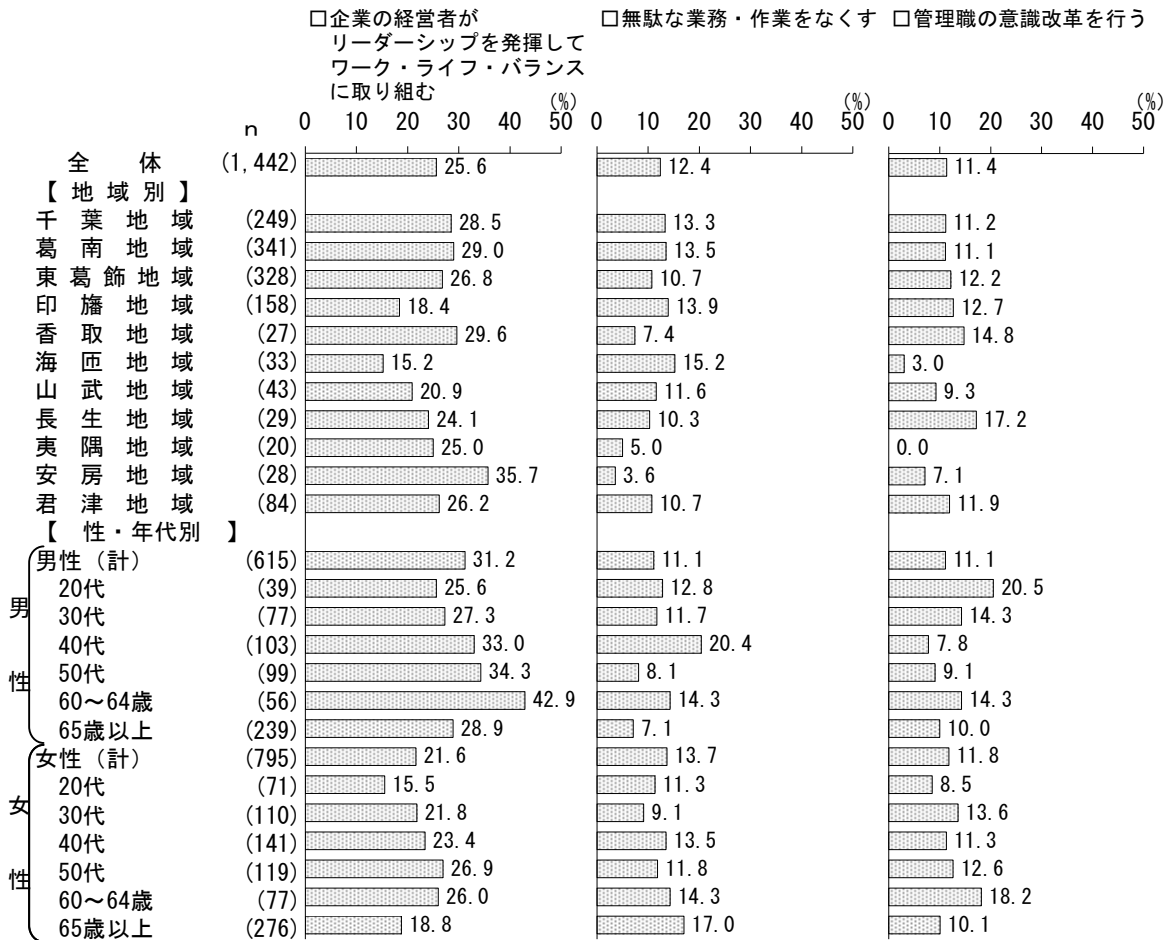
「無駄な業務・作業をなくす」は男性の40代(20.4%)で2割と特に高くなっている。

「給料を上げる」は女性の20代(22.5%)、30代(21.8%)で2割を超えて、特に高くなっている。

「育児・介護休暇を取りやすくする」は女性の20代(16.9%)で1割台半ばと高くなっている。

(図表3-6)

＜図表３－６＞取り組みの中で最も重要なこと／地域別、性・年代別（上位６項目）

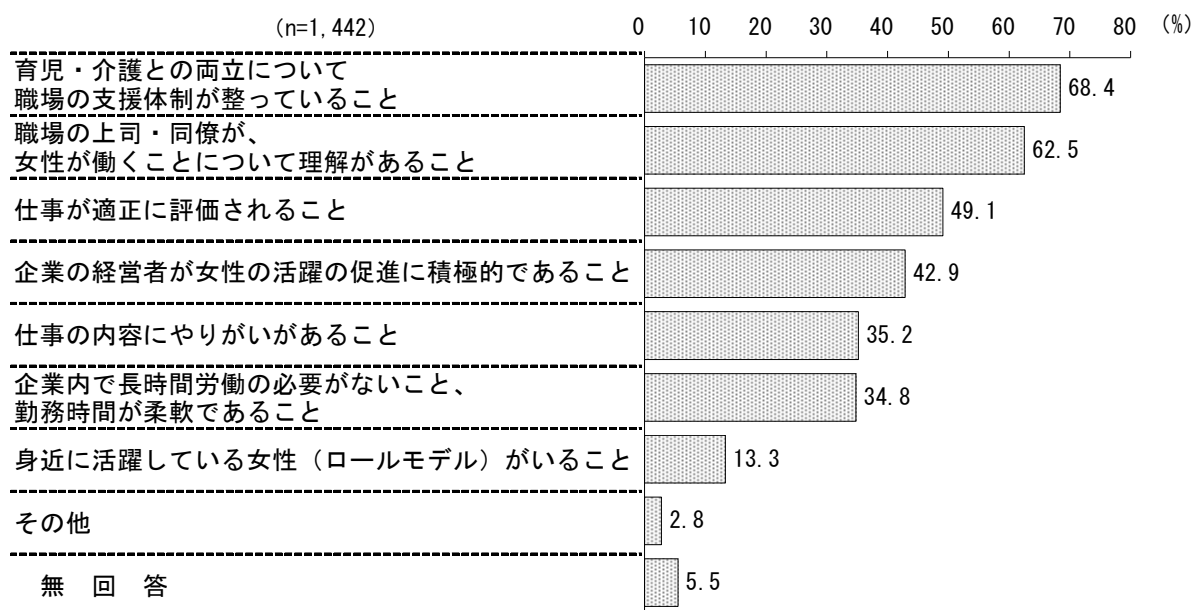


(4) 女性が活躍できる仕事・職場環境にするために必要な条件

◇「育児・介護との両立について職場の支援体制が整っていること」が約7割

問13 雇用されている女性が活躍できる仕事・職場環境にするためには何が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

<図表3-7>女性が活躍できる仕事・職場環境にするために必要な条件



女性が活躍できる仕事・職場環境にするためには、「育児・介護との両立について職場の支援体制が整っていること」(68.4%)が約7割と最も高くなっている。以下、「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」(62.5%)、「仕事が適正に評価されること」(49.1%)、「企業の経営者が女性の活躍の促進に積極的であること」(42.9%)となっている。(図表3-7)

【地域別】

地域別にみると、「育児・介護との両立について職場の支援体制が整っていること」は、“安房地域”（78.6%）、“葛南地域”（73.3%）、“山武地域”（72.1%）、印旛地域（70.9%）で7割を超えて高くなっている。「企業の経営者が女性の活躍の促進に積極的であること」は“安房地域”（53.6%）、“山武地域”（53.5%）で5割台半ば、「仕事の内容にやりがいがあること」は“君津地域”（46.4%）で4割台半ば、「企業内で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること」は“葛南地域”（39.6%）で約4割と、他の地域に比べて高くなっている。（図表3－8）

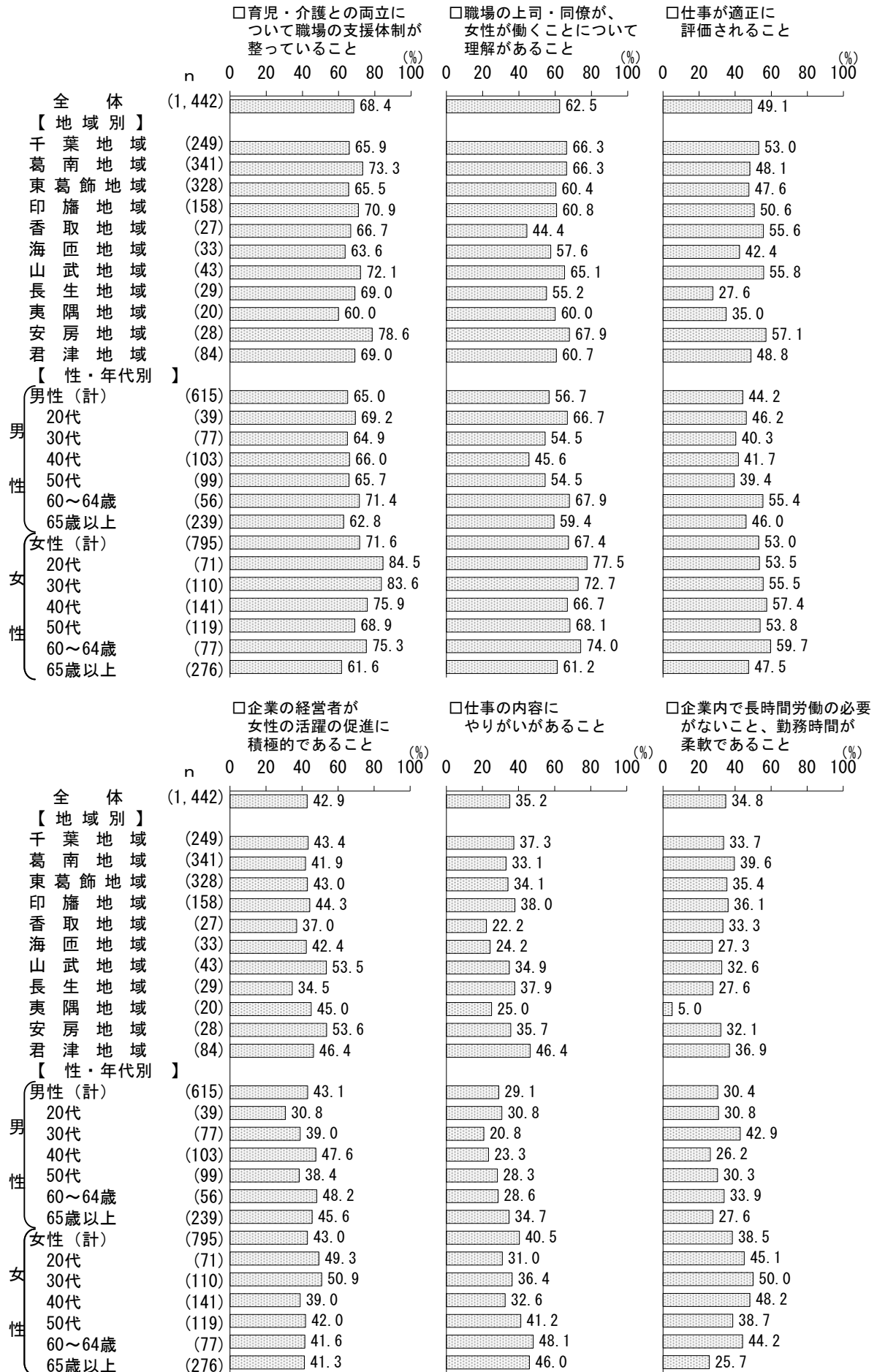
【性・年代別】

性別では、女性の方が「育児・介護との両立について職場の支援体制が整っていること」（71.6%）「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」（67.4%）、「仕事が適正に評価されること」（53.0%）「仕事の内容にやりがいがあること」（40.5%）、「企業内で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること」（38.5%）が高い。

性・年代別にみると、「育児・介護との両立について職場の支援体制が整っていること」は女性の20代（84.5%）、30代（83.6%）で8割台半ば、「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」は女性の20代（77.5%）、30代（72.7%）で7割を超え、特に高くなっている。

「仕事の内容にやりがいがあること」は、女性の60～64代（48.1%）、65歳以上（46.0%）で4割台半ば、「企業内で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること」は女性の30代（50.0%）で5割と高くなっている。（図表3－8）

<図表3-8>女性が活躍できる仕事・職場環境にするために必要な条件／地域別、性・年代別
(上位6項目)

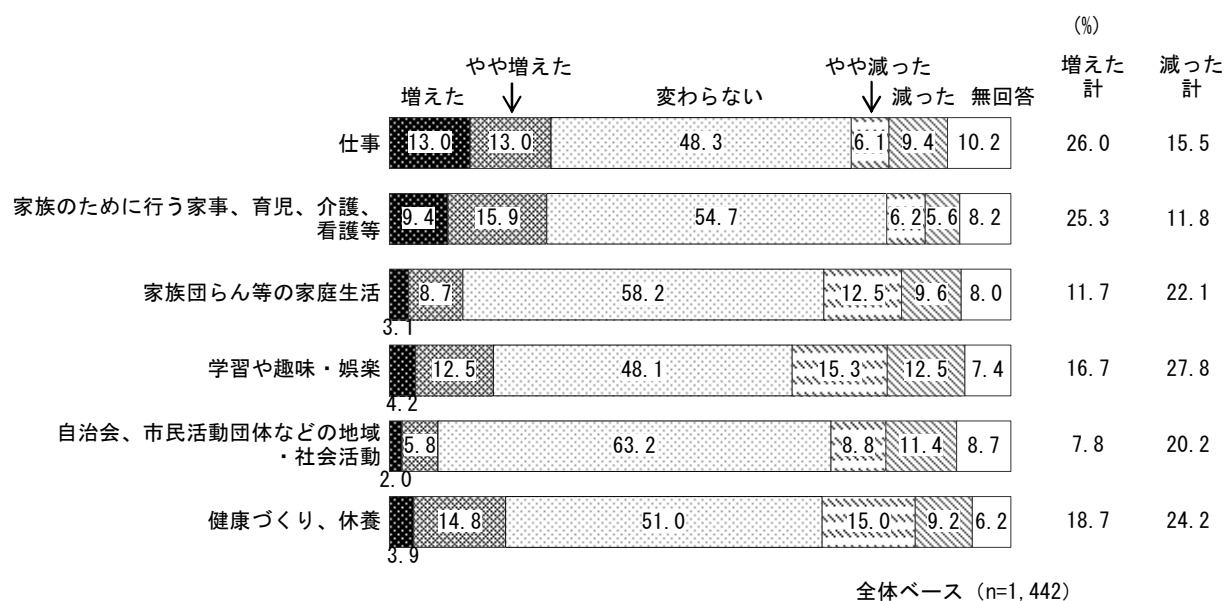


(5) 1年前と比べて生活ごとの時間変化

◇「仕事」、「家族のために行う家事、育児、介護、看護等」が『増えた』は2割台半ば、
「学習や趣味・娯楽」が『減った』は約3割、「健康づくり・休養」が『減った』は2割台半ば

問14 あなたは、1年前と比べて次の生活ごとの時間について、どう変わりましたか。
(○はそれぞれ1つ)

<図表3-9> 1年前と比べて生活ごとの時間変化



1年前と比べて生活ごと6項目の時間変化を聞いたところ、「増えた」、「やや増えた」を合わせた『増えた』割合をみると、「仕事」(26.0%)、「家族のために行う家事、育児、介護、看護等」(25.3%)が、2割台半ばである。

一方、「やや減った」「減った」を合わせた『減った』割合をみると「学習や趣味・娯楽」(27.8%)が約3割、「健康づくり・休養」(24.2%)が2割台半ばとなっている。(図表3-9)

【地域別】

「家族のために行う家事、育児、介護、看護等」は“長生地域”で「増えた」（20.7%）が2割と高くなっている。（図表3-10-2）

「学習や趣味・娯楽」が『減った』割合は、“夷隅地域”（45.0%）、“長生地域”（44.8%）で4割台半ばと高くなっている。（図表3-10-4）

「自治会、市民活動団体などの地域・社会活動」は“夷隅地域”（35.0%）で『増えた』が3割台半ばと高くなっている。一方、“君津地域”（28.6%）で『減った』が約3割と高くなっている。

（図表3-10-5）

「健康づくり・休養」は“山武地域”（30.2%）で『増えた』が3割と高くなっている。

（図表3-10-6）

【性・年代別】

「仕事」が『増えた』は男性の20代（64.1%）、40代（53.4%）、女性の20代（46.5%）、男性の30代（40.3%）で特に高くなっている。（図表3-10-1）

「家族のために行う家事、育児、介護、看護等」は女性の20代（36.6%）、男性の60～64歳（35.7%）、女性の30代（35.5%）で『増えた』が3割台半ばで高くなっている。（図表3-10-2）

「家族だんらん等の家庭生活」が『増えた』は、女性の30代（22.7%）で2割を超え、高くなっている。一方、『減った』は男性の20代（38.5%）、40代（35.9%）で3割台後半と、高くなっている。

（図表3-10-3）

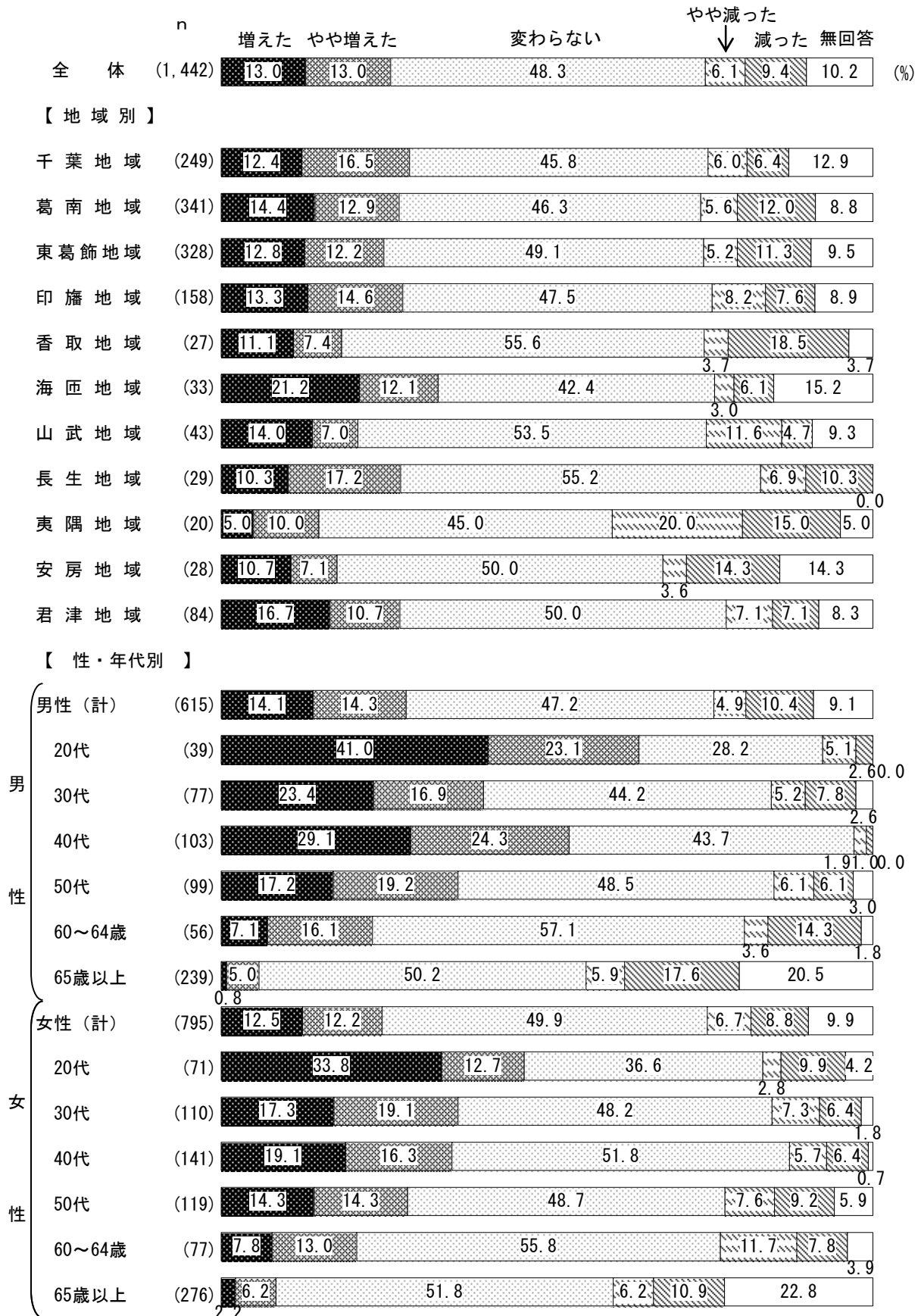
「学習や趣味・娯楽」が『減った』割合は、男性の40代（45.6%）、女性の30代（40.0%）で4割を超えて高くなっている。（図表3-10-4）

「自治会、市民活動団体などの地域・社会活動」が『減った』割合は、女性の65歳以上（27.2%）で約3割と高くなっている。（図表3-10-5）

「健康づくり・休養」が『減った』割合は、女性の30代（45.5%）、男性の40代（44.7%）、20代（43.6%）で4割台半ばと高くなっている。（図表3-10-6）

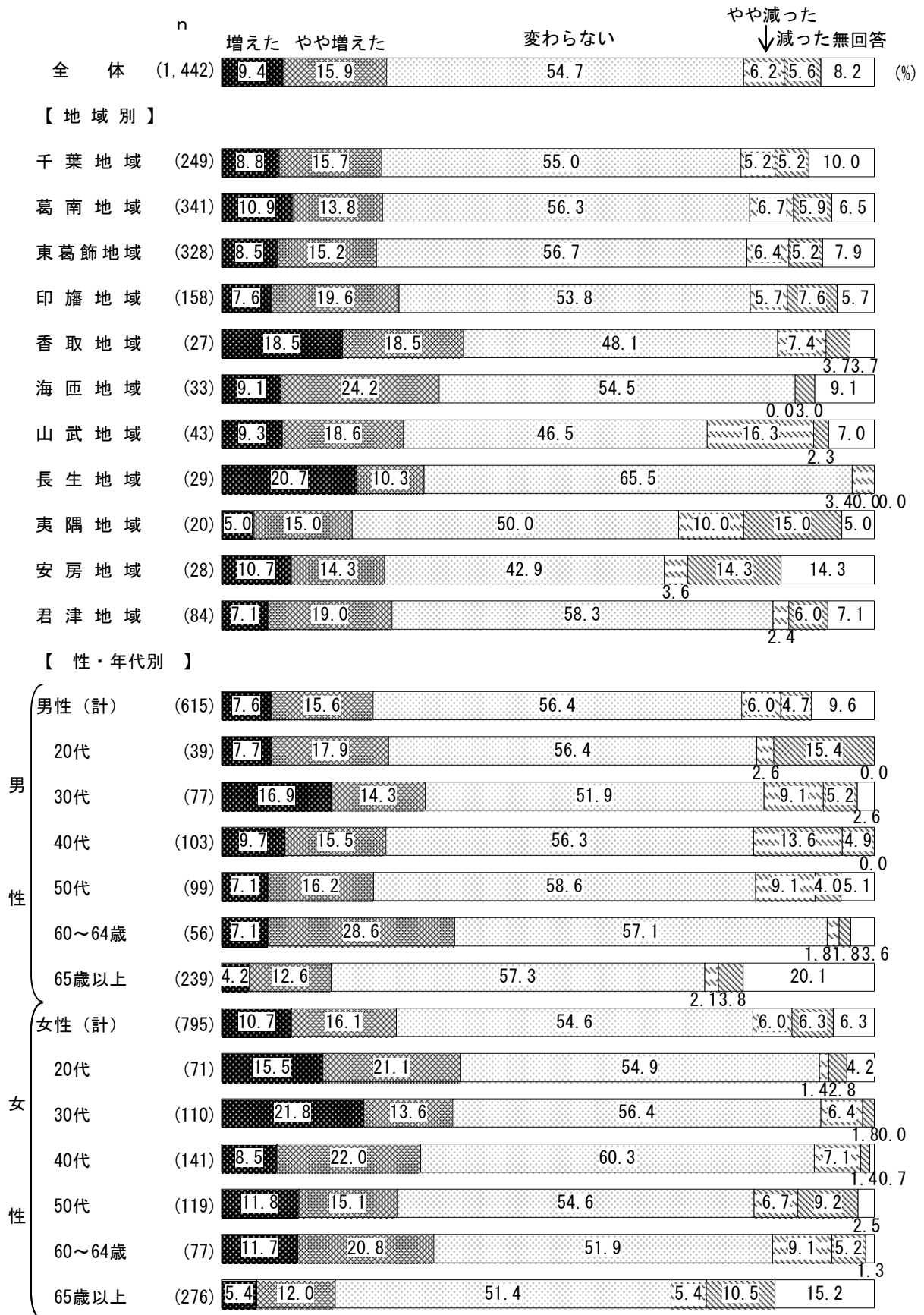
<図表3-10-1> 1年前と比べて生活ごとの時間変化／地域別、性・年代別

(ア) 仕事



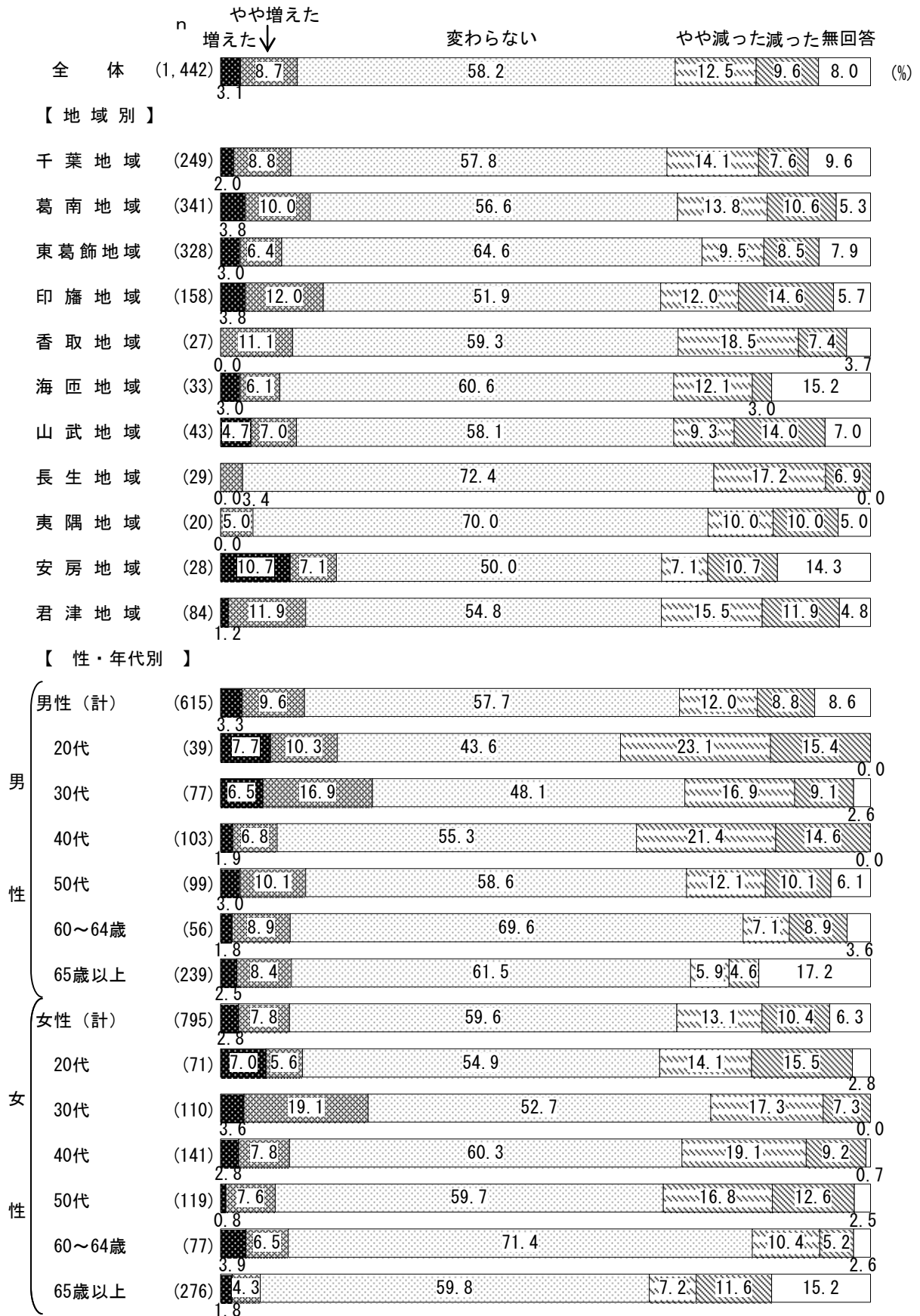
<図表3-10-2> 1年前と比べて生活ごとの時間変化／地域別、性・年代別

(イ) 家族のために行う家事、育児、介護、看護等



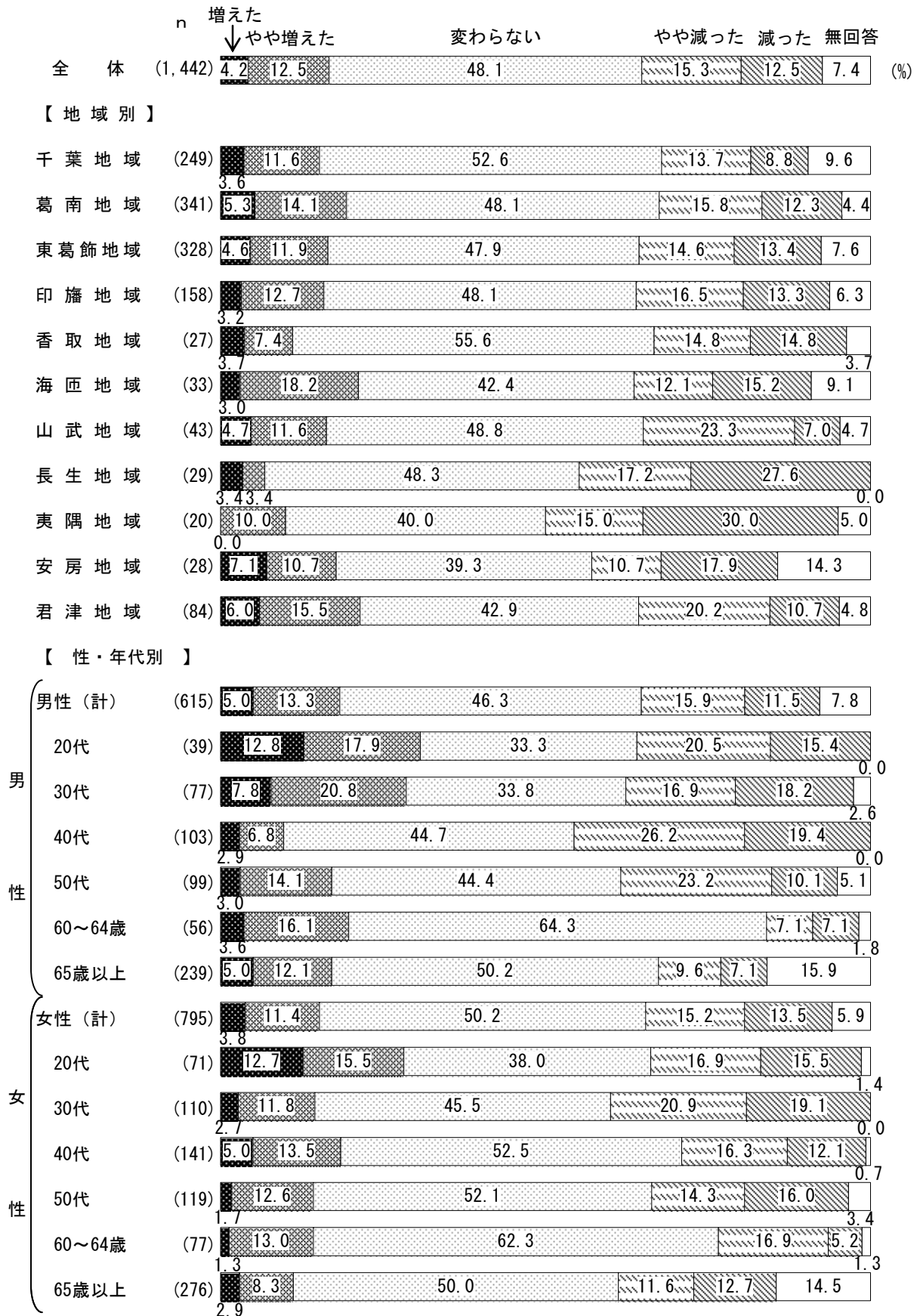
<図表3-10-3> 1年前と比べて生活ごとの時間変化／地域別、性・年代別

(ウ) 家族団らん等の家庭生活



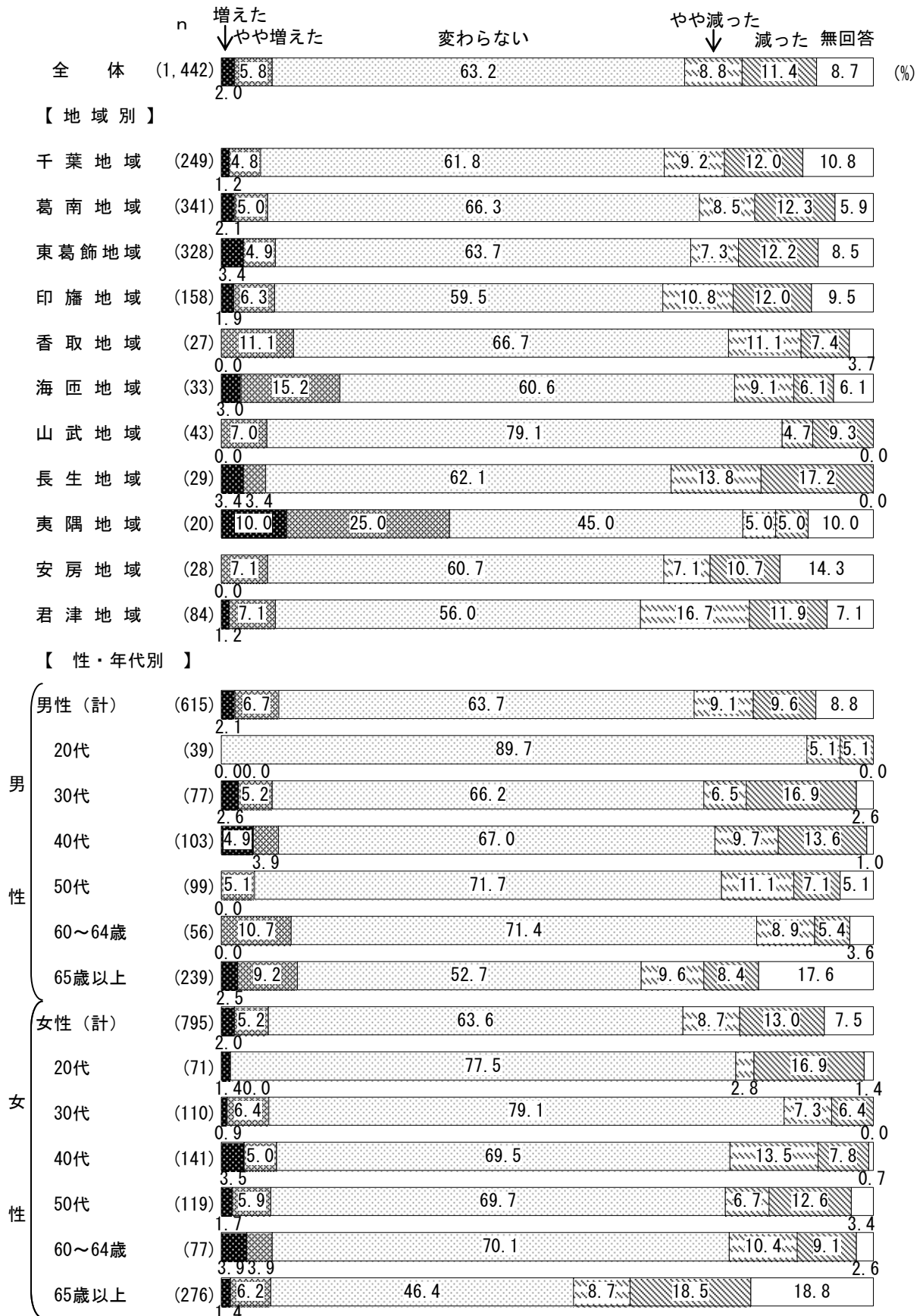
<図表3-10-4> 1年前と比べて生活ごとの時間変化／地域別、性・年代別

(エ) 学習や趣味・娯楽



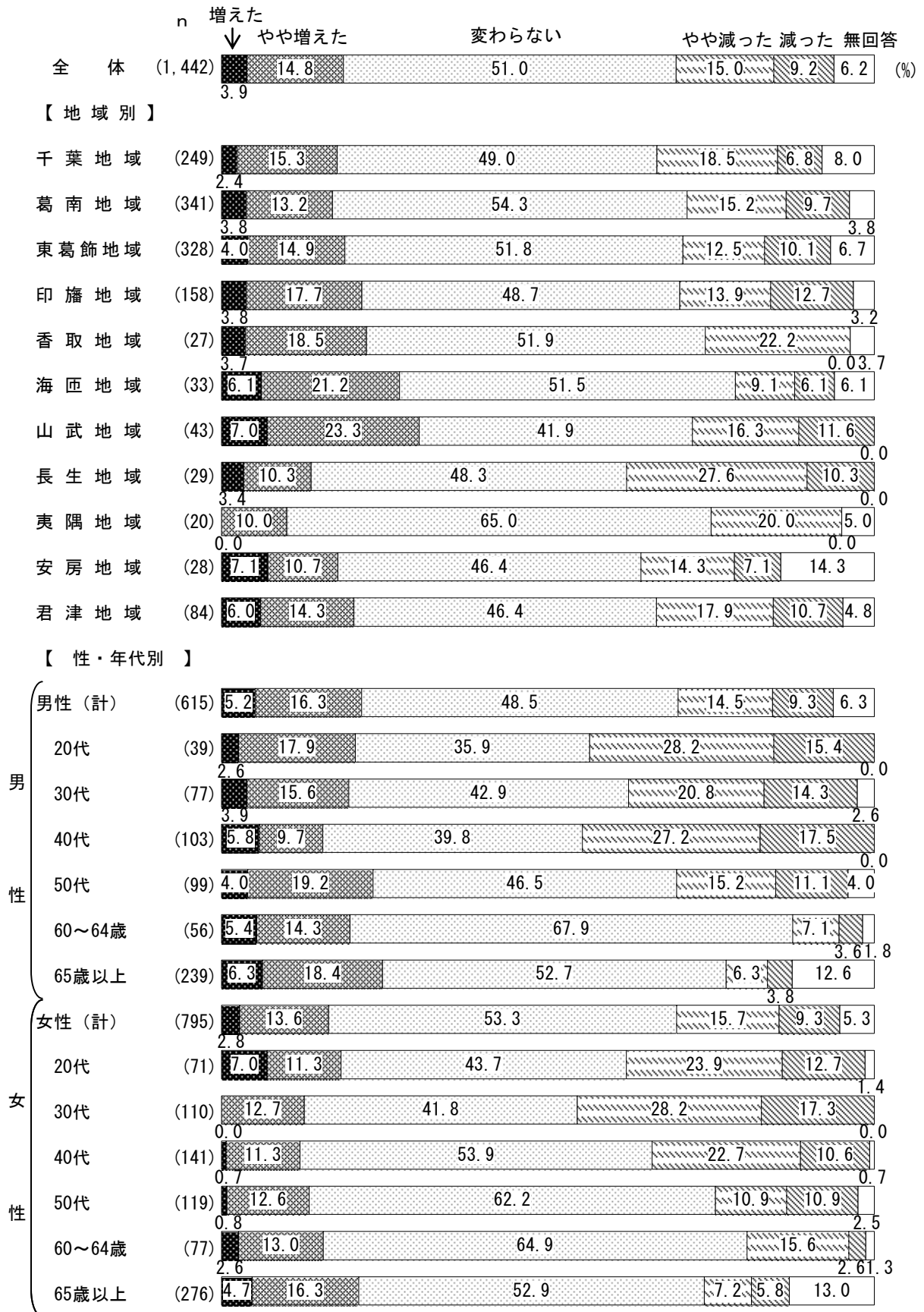
<図表3-10-5> 1年前と比べて生活ごとの時間変化／地域別、性・年代別

(オ) 自治会、市民活動団体などの地域・社会活動



<図表3-10-6> 1年前と比べて生活ごとの時間変化／地域別、性・年代別

(カ) 健康づくり、休養



このほかに、「ワーク・ライフ・バランスについて」やここまでの質問（問10～問14）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、179人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「ワーク・ライフ・バランスについて」の自由回答（抜粋）

- 会社のトップの方達が、「ワーク・ライフ・バランス」についてよく理解し、賛同してくれない事には、現実的には働いている人間はどうしようもないと思う。そういうバランスのとれた生き方をしたくても、トップが賛同し、動いてくれないなら、全く意味がないと思う。職場環境が変わるにはトップが動かないと…。（女性、30代、東葛飾地域）
- 子供ができると、職場での立場が悪くなったり、肩身の狭い思いをするのは残念なことである。少しでもバランスのとれた社会が実現されればいいと思う。（女性、30代、印旛地域）
- 経営者側の意見も取り入れ、日本の経済状況をふまえた現実的な取り組みになることを期待しています。キレイ事だけでは、社会は成立しません。（女性、20代、東葛飾地域）
- 現実には今働いているわけではないので何とも言えない。しかし働いている人が働き易い職場にすることが大切だと思う。（女性、65歳以上、東葛飾地域）
- 言葉が先行し過ぎている。むしろ多様性（ダイバーシティ）を許容する社会が望ましい。ワーク・ライフ・バランスが決して悪いことではない。また女性が専業主婦であることも一つの選択肢である。ワーク・ライフ・バランスをどうするか、個人・家庭の問題で、先ずそこをしっかりおさえることが肝心。（男性、65歳以上、東葛飾地域）
- 常に人手不足の職業の為バランスが全く取れない。福祉施設の職員は自分の生活を犠牲にして人の世話をしている。給料は平均以下だがバランスが全く取れない。（男性、30代、葛南地域）
- 適正な労働環境が整っていれば、自ずとワーク・ライフ・バランスは保てるものとする。従って各職場、企業に於いて労働環境の調査を行い、適正、合法的な労働環境が整備されるよう努めるべき。（男性、50代、葛南地域）
- とても難しい問題。家族に介護などが必要な人間がいると、その費用を捻出するためにどうしても働かざるを得なくなり、とても「こんなこと」（ワーク・ライフ・バランス）言ってもらえない。（男性、40代、千葉地域）
- 保育園や学童保育所の整備と保育時間の延長等の柔軟な対応が必要。仕事を探す時に保育園が見つからなければ、現実的に育児中の女性の社会復帰は困難。保育園の入園決定に不透明なところもある。（男性、30代、葛南地域）
- 若者の仕事等（ワーク、ライフ、バランス）の意識改革の教育が必要。何が大事なのか知らなさすぎると思う。（女性、60～64歳、葛南地域）

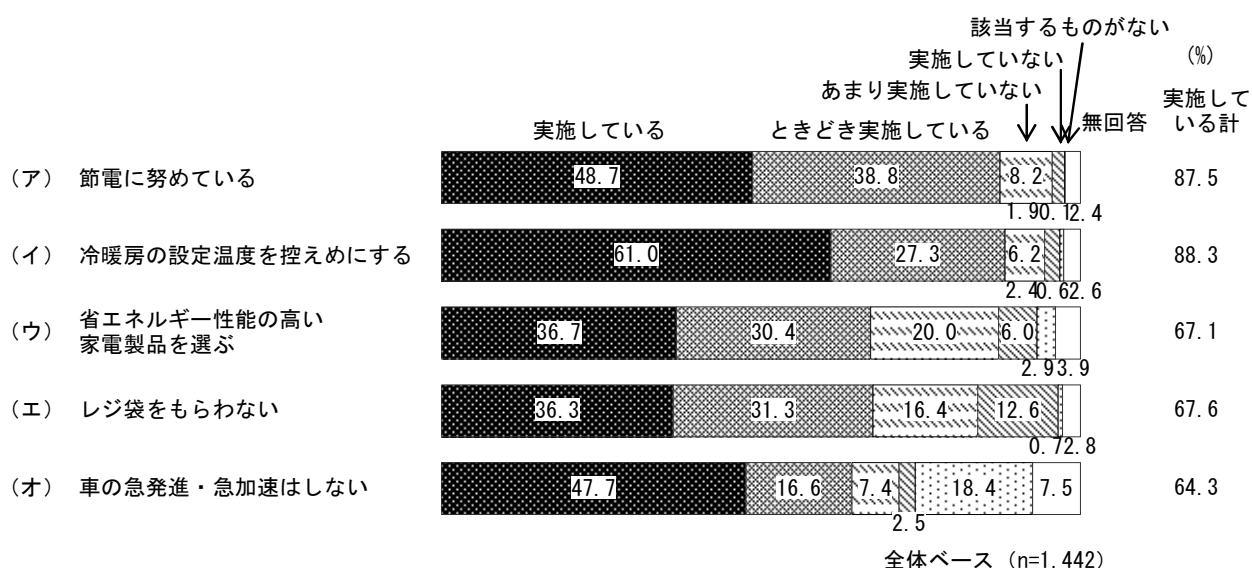
4 環境保全に関する取組について

(1) 普段の生活での取組実施状況

◇「冷暖房の設定温度を控えめにする」、「節電に努めている」が約9割

問15 あなたは普段の生活で次のようなことを行っていますか。(○はそれぞれ1つ)

<図表4-1> 普段の生活での取組実施状況



普段の生活での環境保全に関する取組状況で、「実施している」と「ときどき実施している」を合わせた『実施している』で見ると、「冷暖房の設定温度を控えめにする」(88.3%)、「節電に努めている」(87.5%)が約9割と、5項目の中では高くなっている。(図表4-1)

【地域別】

「車の急発進・急加速はしない」は、「安房地域」(85.7%)、「山武地域」(81.4%)で8割を超えており、特に高くなっている。(図表4-2-5)

【性・年代別】

「節電に努めている」は女性(90.8%)の方が9割と高く、女性50代(97.5%)で特に高くなっている。(図表4-2-1)

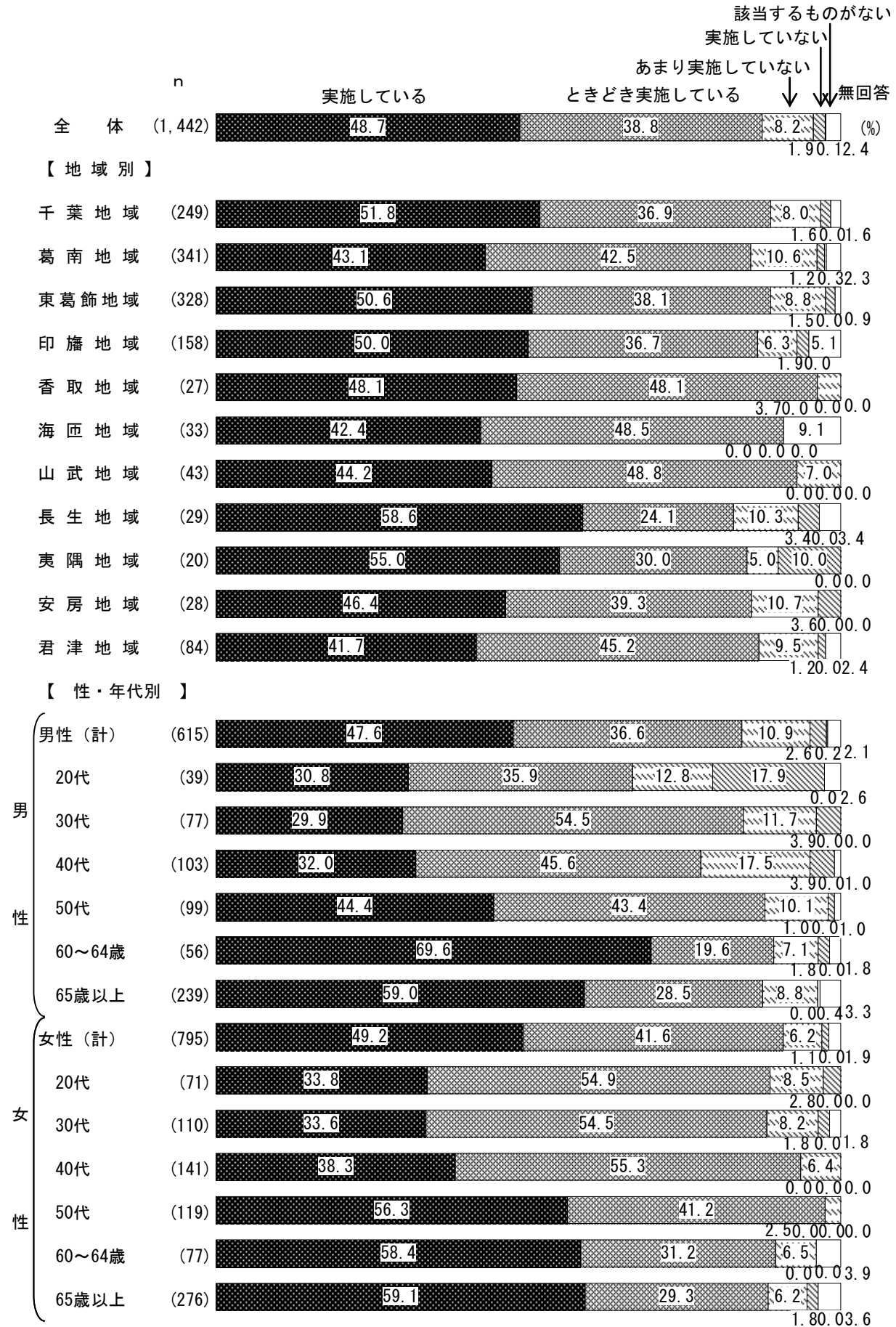
「冷暖房の設定温度を控えめにする」は女性(90.8%)の方が9割と高く、女性40代(95.7%)で特に高くなっている。(図表4-2-2)

「省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」は男性の60～64歳(80.4%)で8割と高くなっている。(図表4-2-3)

「レジ袋をもらわない」は女性(74.8%)の方が7割台半ばと高く、女性60～64歳(81.8%)、40代(79.4%)、50代(79.0%)で特に高くなっている。(図表4-2-4)

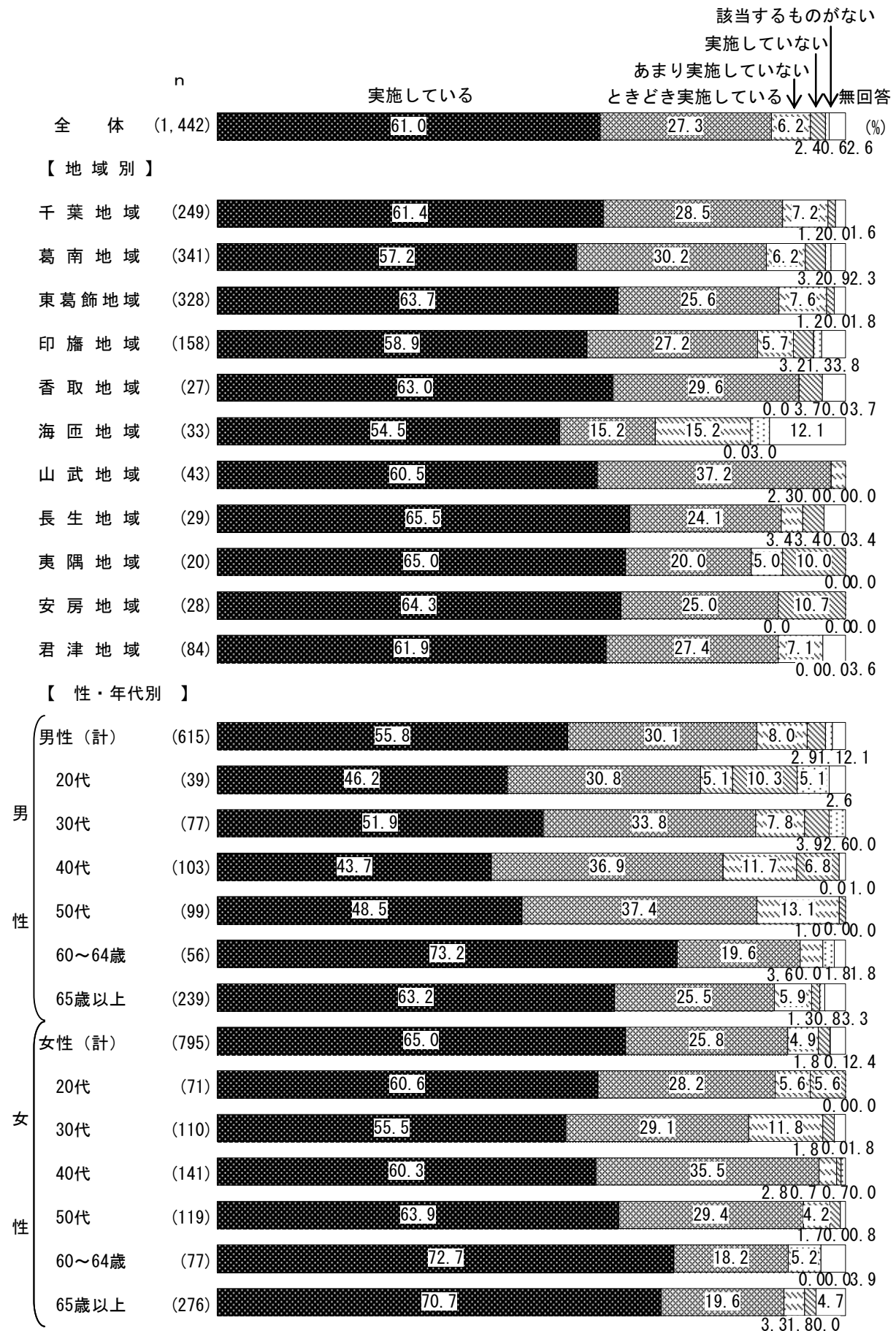
「車の急発進・急加速はしない」は、男性の50代(78.8%)、40代(78.6%)、60～64歳(76.8%)、女性の40代(75.2%)で、特に高くなっている。(図表4-2-5)

<図表4-2-1> 普段の生活での取組実施状況／地域別、性・年代別
(ア) 節電に努めている

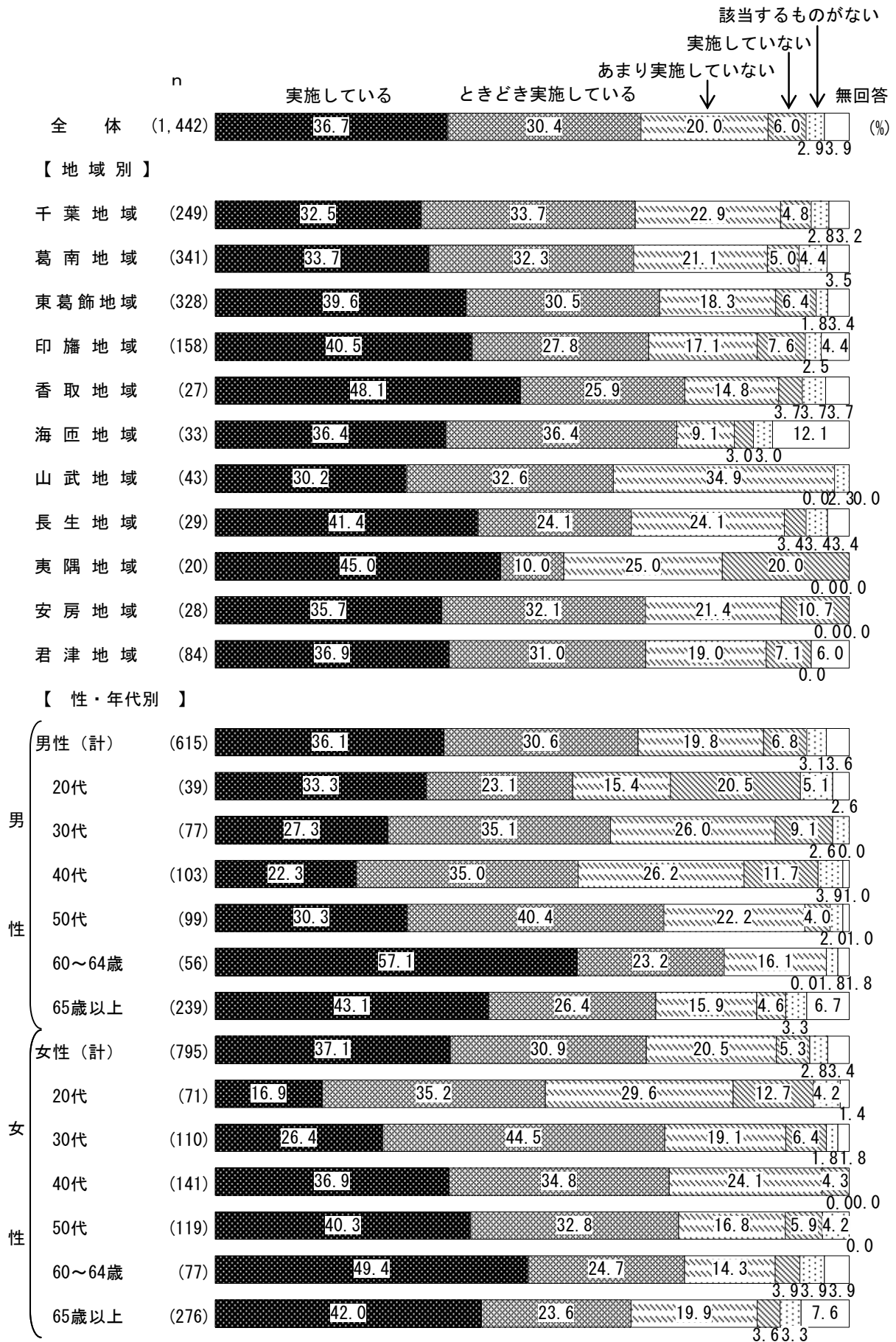


<図表 4-2-2> 普段の生活での取組実施状況／地域別、性・年代別

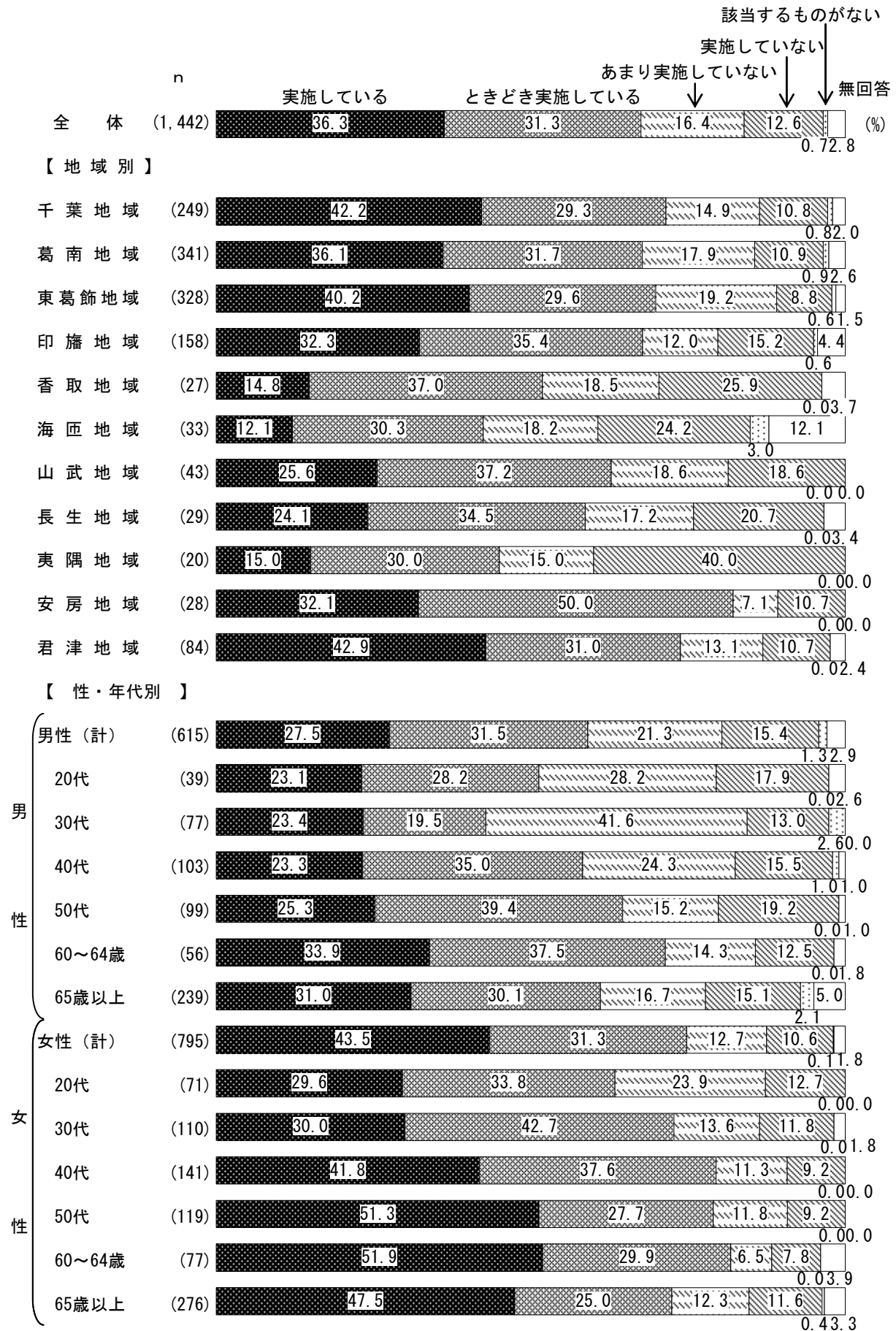
(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする



＜図表４－２－３＞普段の生活での取組実施状況／地域別、性・年代別
 (ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ

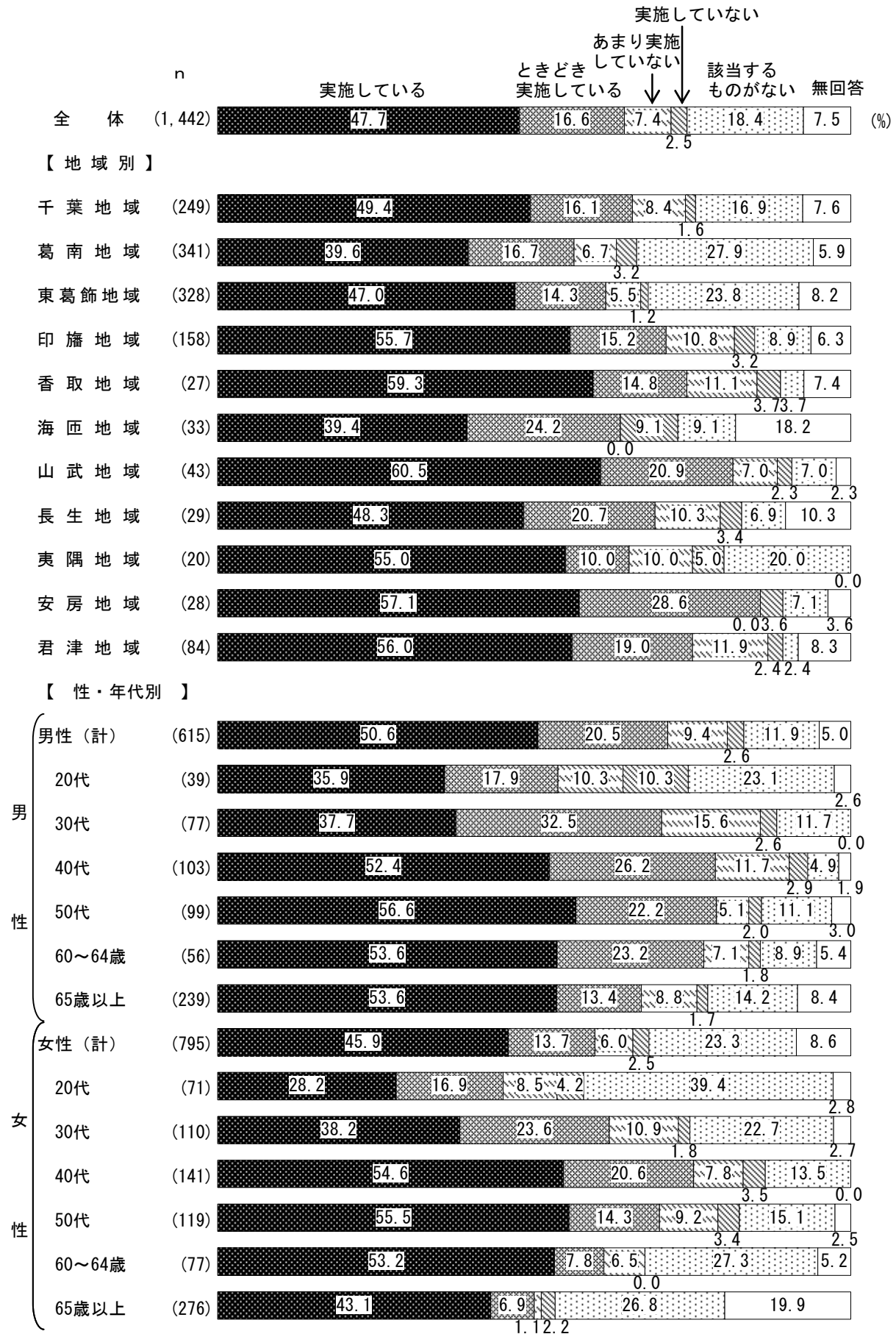


<図表4-2-4> 普段の生活での取組実施状況／地域別、性・年代別
(エ) レジ袋をもらわない



<図表 4-2-5> 普段の生活での取組実施状況／地域別、性・年代別

(オ) 車の急発進・急加速はしない

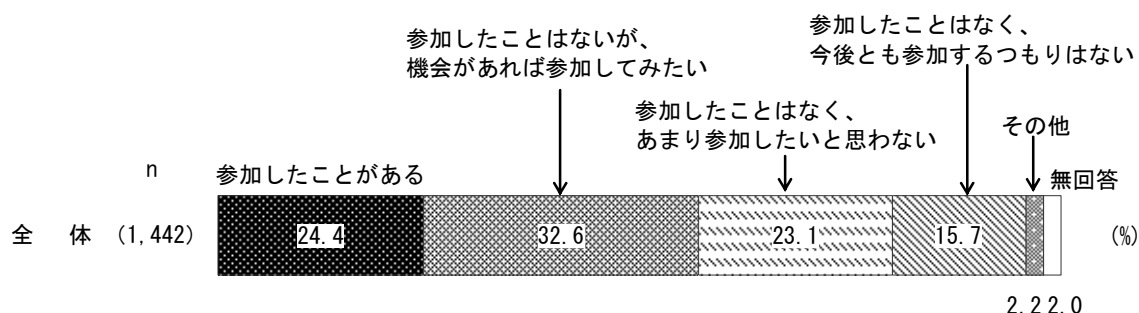


(2) セミナーやボランティア活動の参加経験

◇「参加したことがある」は2割台半ば

問16 あなたはこれまでに県・市町村などの行政や民間団体などが実施する環境保全に関する講演やセミナー、あるいは植林や清掃活動などの環境ボランティア活動などに参加したことがありますか。(○は1つ)

<図表4-3>セミナーやボランティア活動の参加経験



県・市町村などの行政や民間団体などが実施する環境保全に関する講演やセミナー、あるいは植林や清掃活動などの環境ボランティア活動に「参加したことがある」(24.4%)は2割台半ばである。

また、「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」(32.6%)が3割を超える。

(図表4-3)

【地域別】

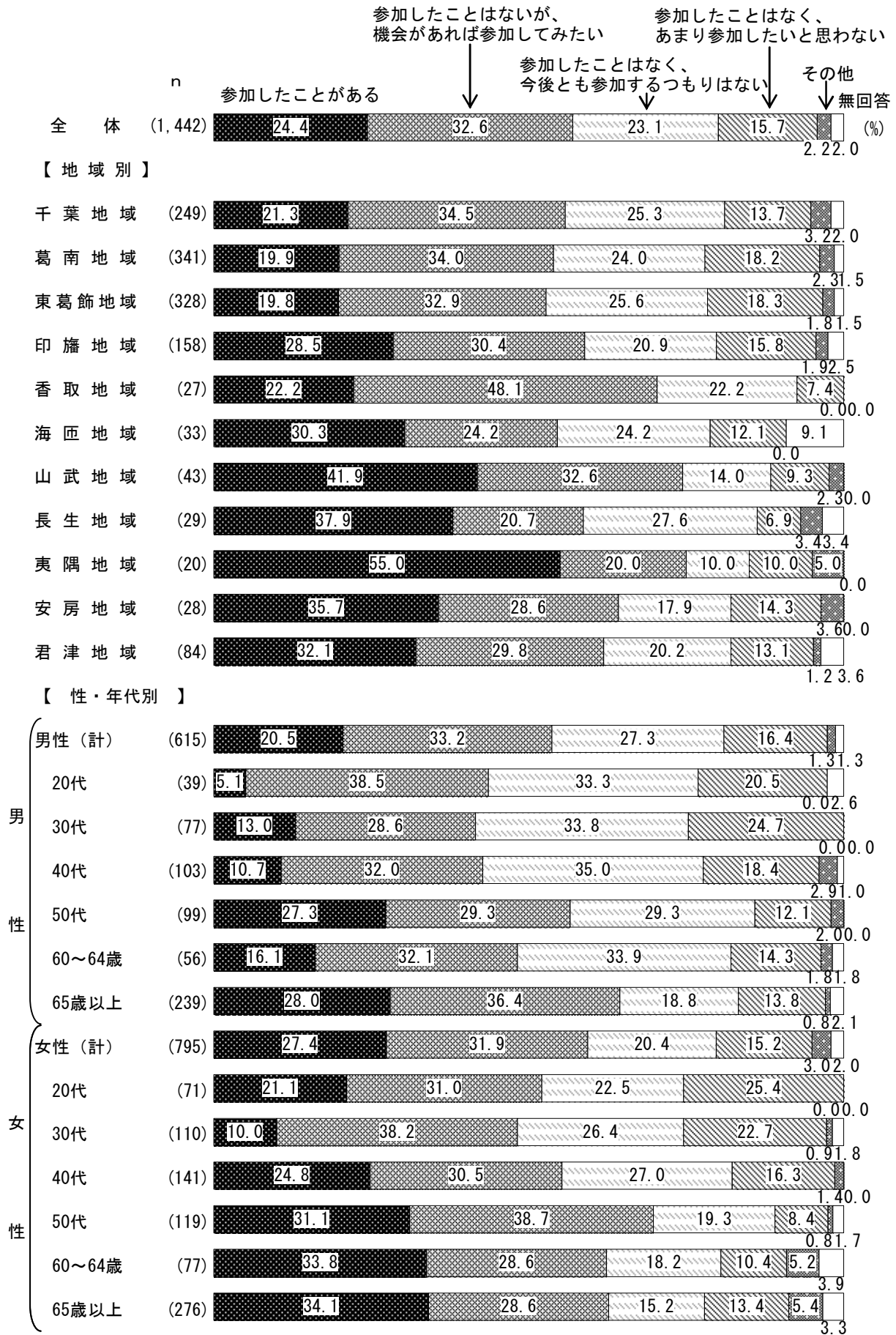
地域別にみると、「夷隅地域」(55.0%)で5割台半ば、「山武地域」(41.9%)で4割を超えて高くなっている。(図表4-4)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「参加したことがある」が女性の65歳以上(34.1%)、60～64歳(33.8%)で3割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。

一方、「参加したことはなく、今後とも参加するつもりはない」が、男性40代(35.0%)、60～64歳(33.9%)、30代(33.8%)、20代(33.3%)で3割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。(図表4-4)

＜図表４－４＞セミナーやボランティア活動の参加経験／地域別、性・年代別



このほかに、「環境保全に関する取組について」やここまでの質問（問15～問16）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、131人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「環境保全に関する取組について」の自由回答（抜粋）

○環境保全に関しては、人々の習慣によるものが大きいので、効果が出るまでに時間がかかるものがあると思うので、長期的な視点で計画を立てるべきだと考える。（男性、20代、印旛地域）

○何でも使い捨ての物があふれ、便利ではあるが環境保全の為にはならないと思う。リサイクルを考える以前に、1回使ったらゴミになる容器などできるだけなくすよう考えた方が良く思う。（女性、50代、安房地域）

○今まで以上に家庭や企業などへ節電等への呼びかけ強化（環境問題に興味を持ってもらう）。（男性、20代、葛南地域）

○衣類のリサイクルBOX箱（ポスト）の設置、車社会に依存しない、自転車（サイクリングロード）の設置等、エコ社会に向けての基盤作りが大切だと思う。（女性、40代、千葉地域）

○環境保全から循環型社会までのシステムづくりがないので環境保全に協力する企業・人に報われる補助が必要だと思う。（男性、50代、東葛飾地域）

○まだまだ関心を持っている人が少ない気がします。もっとわかりやすいように伝える場を多くして、誰もが関心が持てるようにしてほしいです。（女性、50代、印旛地域）

○県や市町村が実施するセミナーや活動があることを知らない人の方が多いのではないかと思います。そういった情報を得る機会をもっと増やしたらいいのでは？（女性、30代、東葛飾地域）

○自然の緑を減らさないために。山林等への不法投棄等の取締り強化。空家、空マンション、また公団等の有効利用（新規宅地化等の削減）。（男性、65歳以上、印旛地域）

○省エネ等の効果について、あらゆる年齢層に分かりやすく、情報を提供してほしい。（男性、50代、千葉地域）

○タバコのポイ捨て、ゴミの不法投棄に対する取り締まりを強化した方が早い。清掃活動も大事だが、悪の根源を断たなくては意味がない。ゴミの不法投棄に対するコールセンター、相談所でもうけたら良いかと。（男性、20代、千葉地域）

○毎月の清掃活動に参加している。国道沿いなどのゴミが多い。観光地、近くにあるせいか、外部からの車通りが多く、投げすてられたゴミが多いのが気になる。（女性、50代、安房地域）

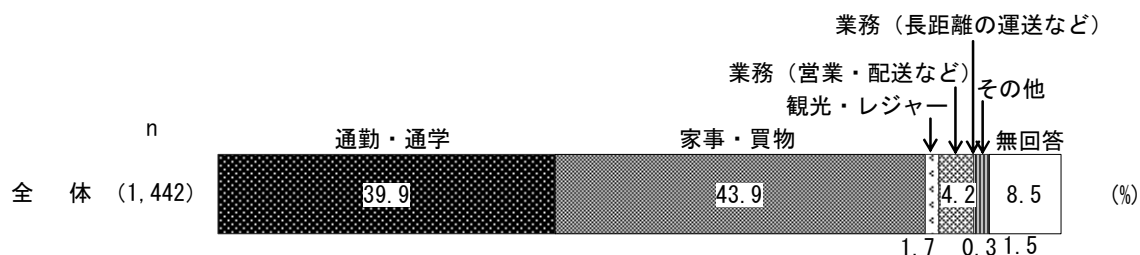
5 道路整備について

(1) 普段の生活での道路利用目的

◇「家事・買物」が4割台半ば、「通勤・通学」が約4割

問17 あなたは普段の生活の中でどのような目的で「道路」を利用することが多いですか。
(○は1つ)

<図表5-1> 普段の生活での道路利用目的



普段の生活で「道路」を利用する目的は、「家事・買物」(43.9%)が4割台半ばと最も多く、次いで「通勤・通学」(39.9%)が約4割となっている。(図表5-1)

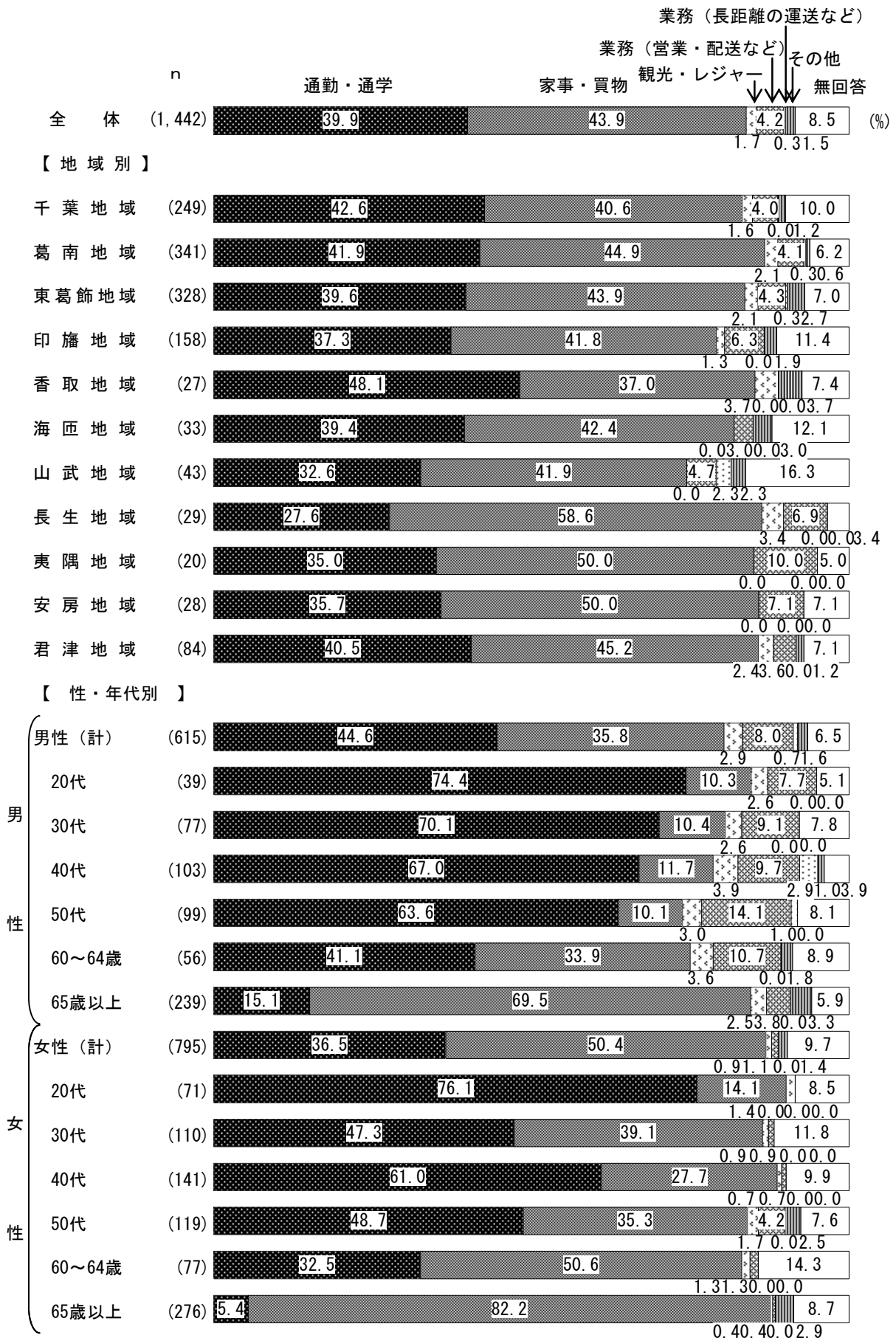
【性・年代別】

男性は「通勤・通学」(44.6%)が4割台半ば、女性は「家事・買物」(50.4%)が5割と高くなっている。

性・年代別でみると、「通勤・通学」が女性の20代(76.1%)、男性の20代(74.4%)、30代(70.1%)で7割を超えて特に高くなっている。

「家事・買物」は、女性の65歳以上(82.2%)で8割を超えて特に高くなっている。(図表5-2)

＜図表５－２＞普段の生活での道路利用目的／地域別、性・年代別

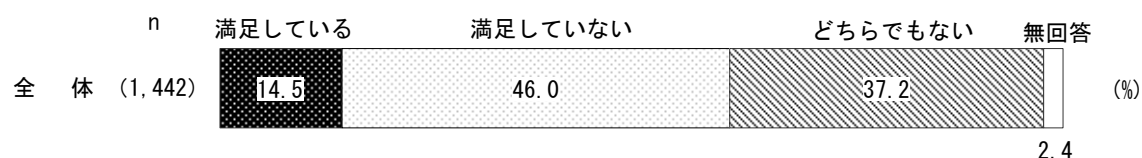


(2) 県内の道路状況の満足度

◇「満足していない」が4割台半ば

問18 あなたは、千葉県内の道路状況について、満足していますか。(○は1つ)

＜図表5－3＞県内の道路状況の満足度



千葉県内の道路状況に「満足していない」(46.0%)が4割台半ばとなっており、「満足している」(14.5%)は1割台半ばである。(図表5－3)

【地域別】

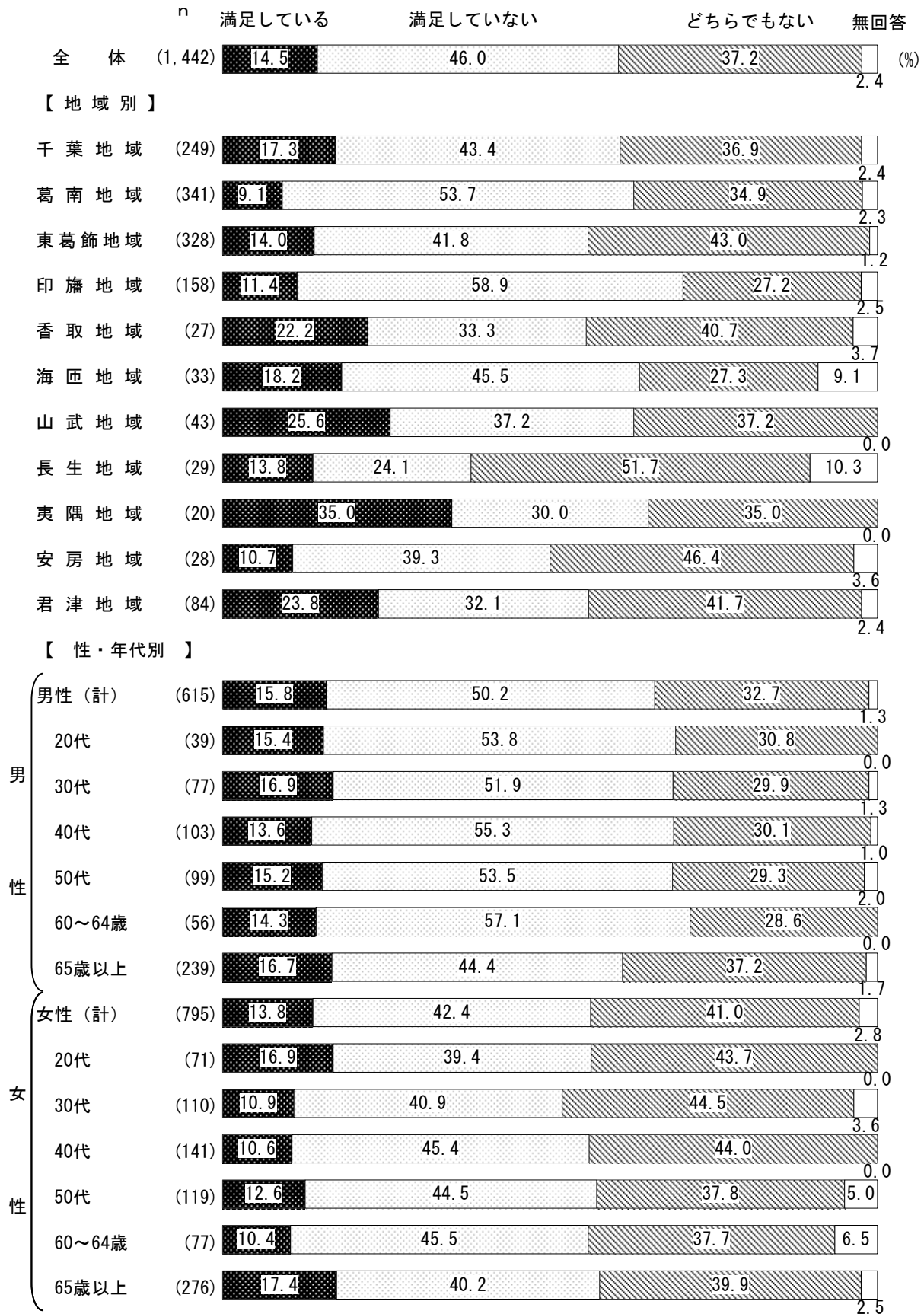
地域別にみると、「満足していない」は“印旛地域”(58.9%)、“葛南地域”(53.7%)が5割以上で他の地域に比べて高くなっている。(図表5－4)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「満足していない」は、男性60～64歳(57.1%)、40代(55.3%)は5割台半ばで他の年代に比べて高くなっている。

(図表5－4)

＜図表５－４＞県内の道路状況の満足度／地域別、性・年代別

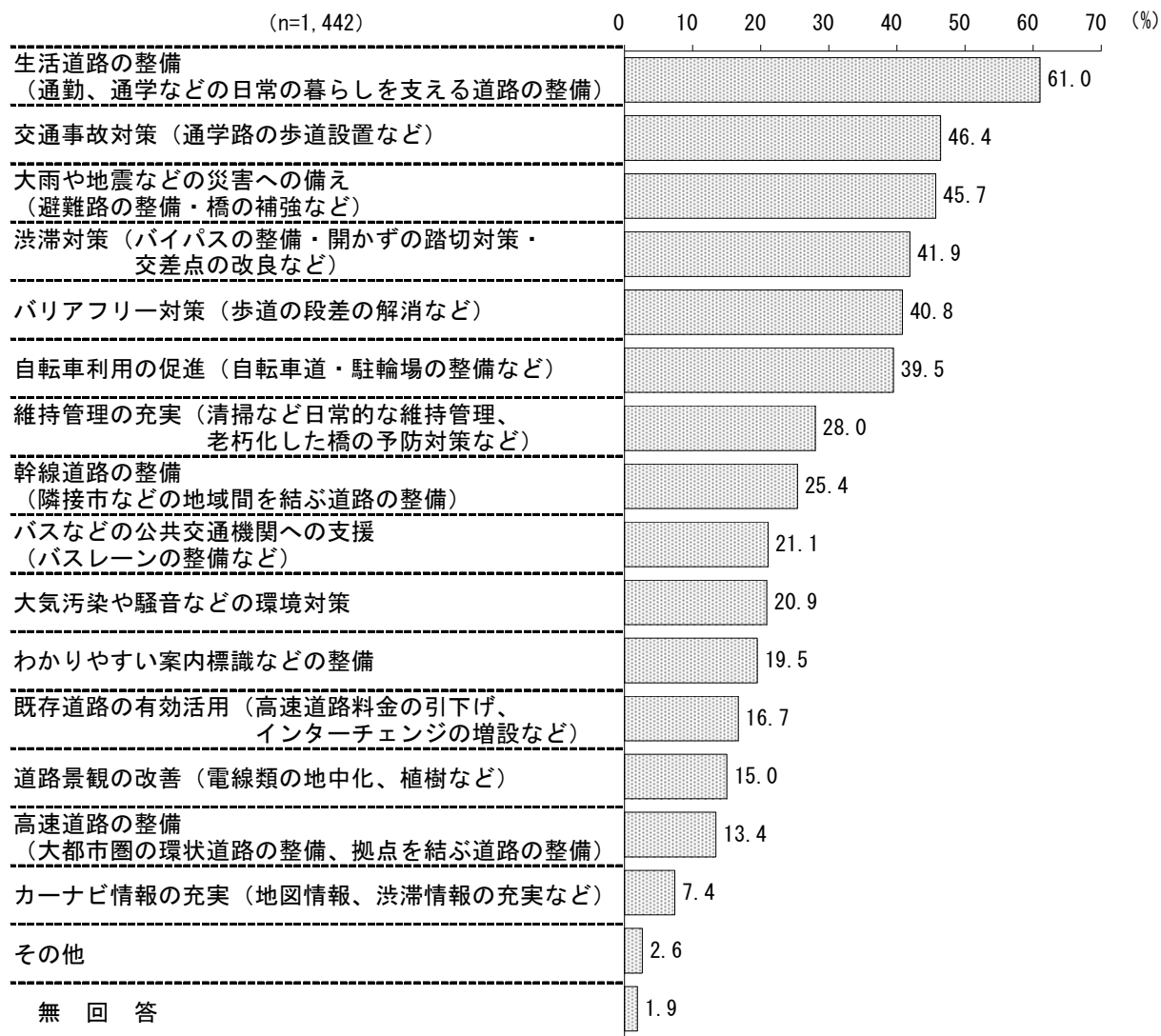


(3) 今後、優先的に対策すべき課題

◇「生活道路の整備（通勤、通学などの日常の暮らしを支える道路の整備）」が6割

問19 あなたは、今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題は何だと思いますか。
（〇はいくつでも）

<図表5-5> 今後、優先的に対策すべき課題



今後、道路整備で優先的に対策すべき課題として、「生活道路の整備（通勤、通学などの日常の暮らしを支える道路の整備）」(61.0%) が6割と最も高くなっている。

以下、「交通事故対策（通学路の歩道設置など）」(46.4%)、「大雨や地震などの災害への備え（避難路の整備・橋の補強など）」(45.7%)、「渋滞対策（バイパスの整備・開かずの踏切対策・交差点の改良など）」(41.9%)、「バリアフリー対策（歩道の段差の解消など）」(40.8%)、「自転車利用の促進（自転車道・駐輪場の整備など）」(39.5%) となっている。（図表5-5）

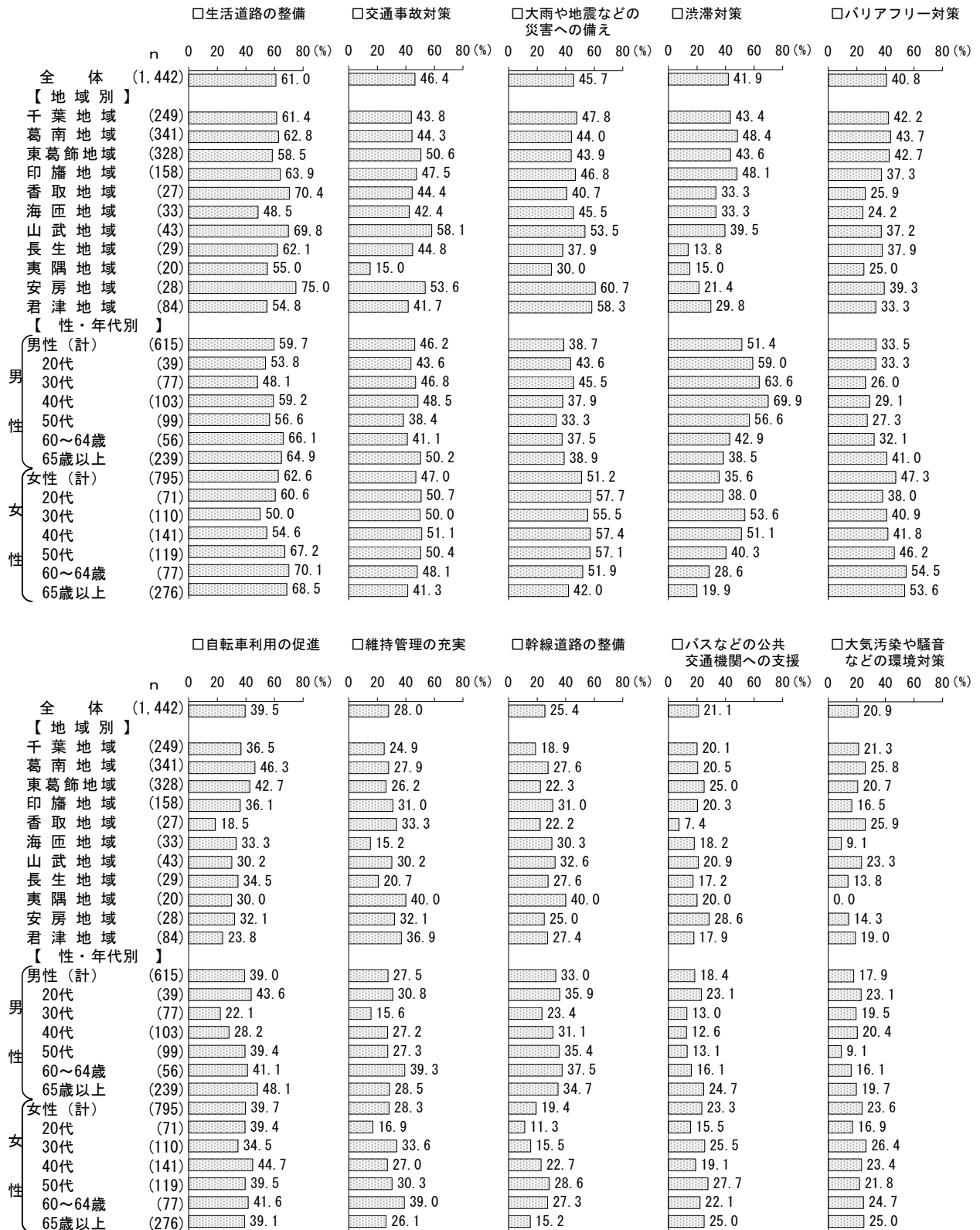
【地域別】

地域別にみると、「生活道路の整備（通勤、通学などの日常の暮らしを支える道路の整備）」は“安房地域”（75.0%）、“香取地域”（70.4%）で7割を超え、「交通事故対策（通学路の歩道の設置など）」は“山武地域”（58.1%）で約6割、「大雨や地震などの災害への備え（避難路の整備・橋の補強など）」は“安房地域”（60.7%）、“君津地域”（58.3%）で約6割、「渋滞対策（バイパスの整備・開かずの踏切対策・交差点の改良など）」は“葛南地域”（48.4%）、“印旛地域”（48.1%）で約5割、「自転車利用の促進（自転車道・駐輪場の整備など）」は“葛南地域”（46.3%）で4割台半ばと、他の地域に比べて高くなっている。（図表5－6）

【性・年代別】

「大雨や地震などの災害への備え（避難路の整備・橋の補強など）」は女性の20代から50代（55.5%～57.7%）で5割台半ば、「渋滞対策（バイパスの整備・開かずの踏切対策・交差点の改良など）」は男性の40代（69.9%）で約7割、「バリアフリー対策（歩道の段差の解消など）」は女性の60～64歳（54.5%）、65歳以上（53.6%）で5割台半ば、「自転車利用の促進（自転車道・駐輪場の整備など）」は男性の65歳以上（48.1%）で約5割、「幹線道路の整備（隣接市などの地域間を結ぶ道路の整備）」は男性の50代以上（34.7%～37.5%）で3割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。（図表5－6）

<図表5-6> 今後、優先的に対策すべき課題／地域別、性・年代別（上位10項目）



このほかに、「道路整備について」やここまでの質問（問17～問19）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、257人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「道路整備について」の自由回答（抜粋）

○銚子連絡道路を早く実現して下さい。

（男性、65歳以上、海匝地域）

○圏央道早期全面開通を望む。

（男性、65歳以上、夷隅地域）

○特に歩道が狭く、キケンが沢山です。自転車道も、しっかりあると安心です。今のままでは、事故多発が間違いありません。

（女性、65歳以上、葛南地域）

○観光客に多く来てもらう為にも大切だと思う。有料道路を無料にしたり高速の料金も安くなると良い。私の自宅には車は入れません。災害時の為にも車が入れる様になれば良いと思っています。（女性、50代、安房地域）

○路地を入るとよく「通り抜道路」と称して信号のない細い道を朝、夕になると急に増えるところがある…改善して欲しい。

（男性、65歳以上、君津地域）

○通勤時間の自然渋滞に困っています。脇道が少なく、一度渋滞につかまると逃げられないのが問題だと思います。難しいとは思いますが、道路を増やして、渋滞を緩和できるよう努力して下さい。

（女性、40代、葛南地域）

○いまだ、歩道を自転車スピードを出しながら走っているので危険。自転車の専用のレーンが出来れば、歩行者は安全です。（女性、65歳以上、東葛飾地域）

○都会と違い、田舎は通学路に歩道がありません。交通量が多く、道幅が狭い所は、とても危険です。（女性、40代、山武地域）

○車道、歩道、自転車道の分離は交通事故防止、歩行者保護の観点からも重要だと思います。

（男性、20代、千葉地域）

○歩道が狭くベビーカーで移動するのに歩道が通れない所も多いので、もう少し歩行者目線の整備もしてほしいです。（女性、30代、印旛地域）

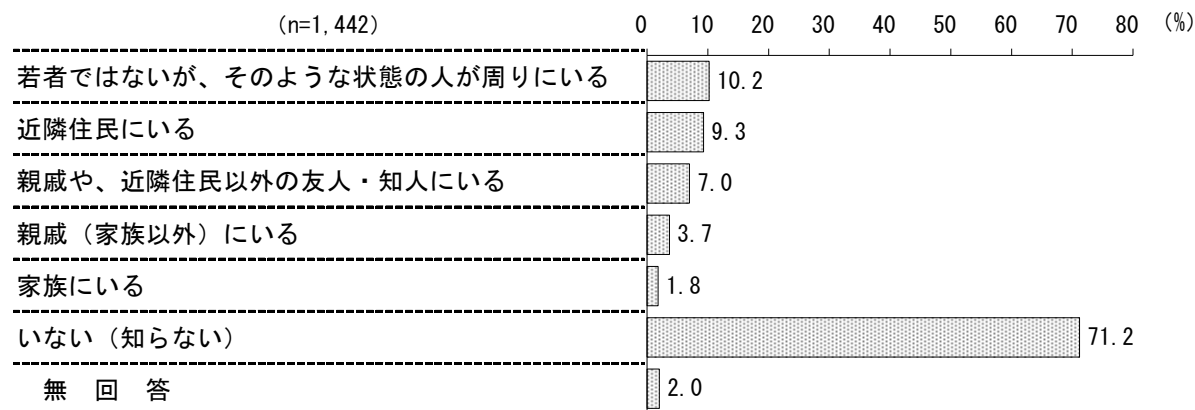
6 青少年の健全育成について

(1) 「ひきこもり」の若者の存在

◇「いない（知らない）」が7割を超える

問20 あなたのまわりに「ひきこもり」と呼ばれる状態の若者はいますか。（○はいくつでも）

＜図表6－1＞「ひきこもり」の若者の存在



まわりに「ひきこもり」と呼ばれる状態の若者が「いない（知らない）」（71.2%）が7割を超える。一方、「若者ではないが、そのような状態の人が周りにいる」（10.2%）が1割、「近隣住民にいる」（9.3%）、「親戚や、近隣住民以外の友人・知人にいる」（7.0%）が約1割程度となっている。

（図表6－1）

【地域別】

地域別にみると、“葛南地域”（75.7%）、“印旛地域”（75.3%）で「いない（知らない）」が他の地域に比べて高くなっている。

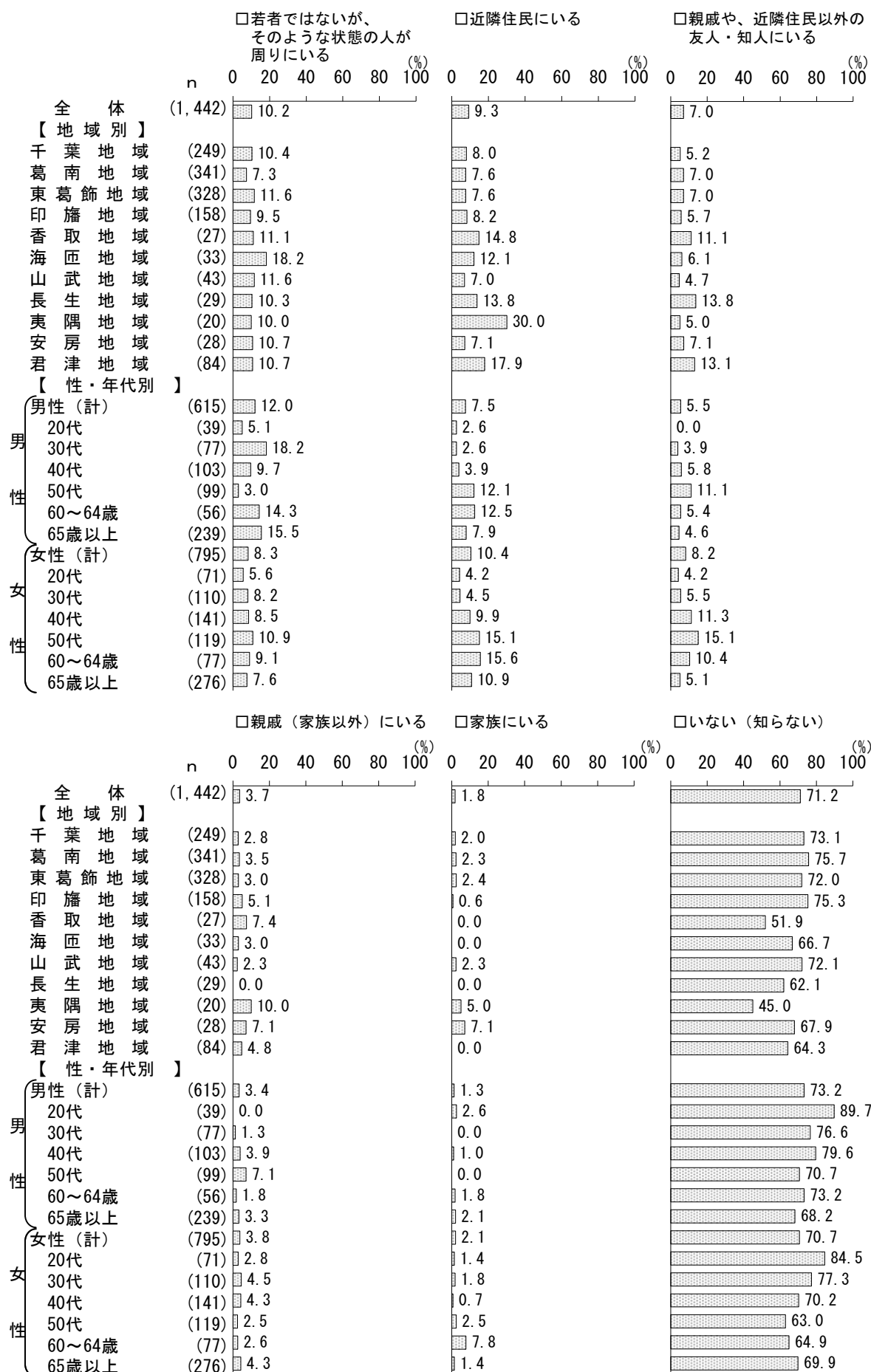
一方、「近隣住民にいる」が“夷隅地域”（30.0%），“君津地域”（17.9%）で幾分多くあげられている。（図表6－2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「いない（知らない）」が男性の20代（89.7%）で約9割、女性の20代（84.5%）で8割台半ばと、高くなっている。

一方、男性の30代（18.2%）で「若者ではないが、そのような状態の人が周りにいる」が約2割、女性の60～64歳（15.6%）、50代（15.1%）で「近隣住民にいる」が1割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。（図表6－2）

＜図表 6－2＞「ひきこもり」の若者の存在／地域別、性・年代別

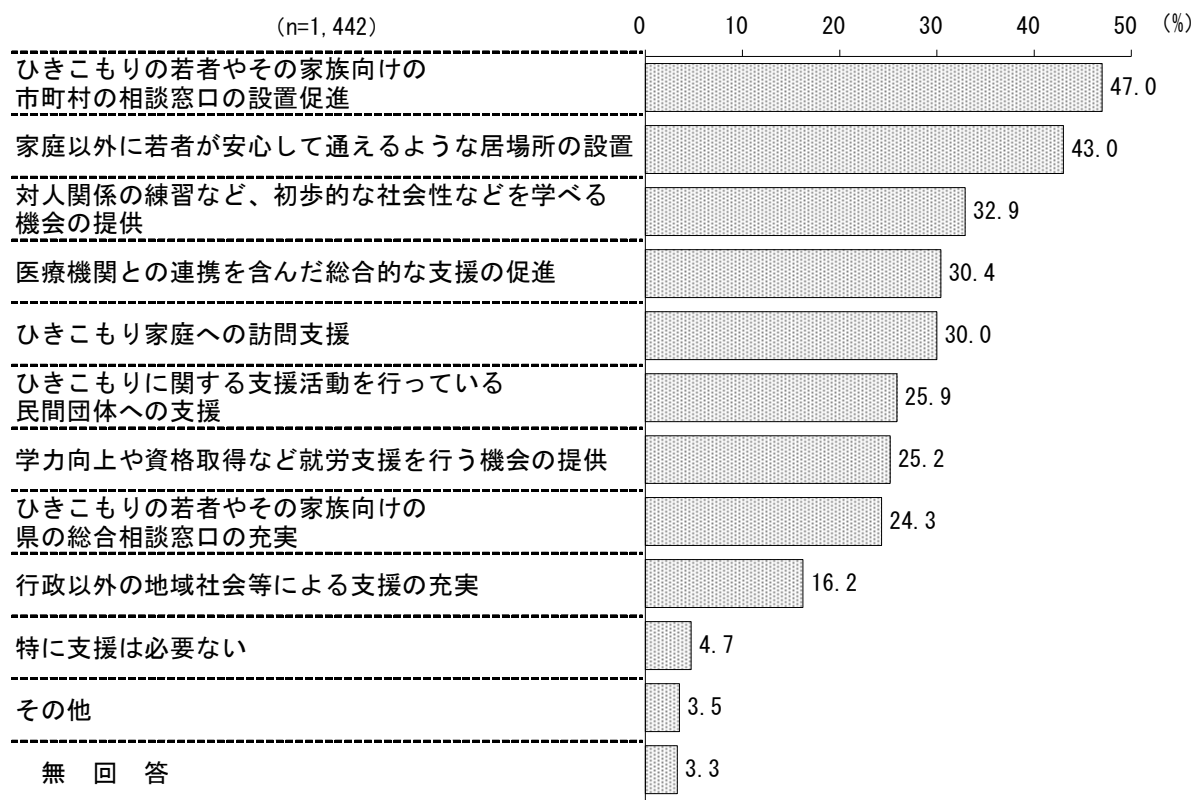


(2)「ひきこもり」の若者に必要な行政支援

◇「ひきこもりの若者やその家族向けの市町村の相談窓口の設置促進」が約5割

問21 あなたは「ひきこもり」と呼ばれる状態の若者に対し、行政はどのような支援を行うことが必要だと思われますか。(〇はいくつでも)

＜図表6－3＞「ひきこもり」の若者に必要な行政支援



「ひきこもり」と呼ばれる状態の若者に対し、行政の支援として「ひきこもりの若者やその家族向けの市町村の相談窓口の設置促進」(47.0%)が約5割で最も多く、以下、「家庭以外に若者が安心して通えるような居場所の設置」(43.0%)、「対人関係の練習など、初歩的な社会性などを学べる機会の提供」(32.9%)、「医療機関との連携を含んだ総合的な支援の促進」(30.4%)、「ひきこもり家庭への訪問支援」(30.0%)が続く。(図表6－3)

【地域別】

地域別にみると、「ひきこもりの若者やその家族向けの市町村の相談窓口の設置促進」は“香取地域”(59.3%)、“印旛地域”(57.0%)が約6割、「家庭以外に若者が安心して通えるような居場所の設置」は“海匝地域”(51.5%)が5割を超え、他の地域に比べて高くなっている。(図表6－4)

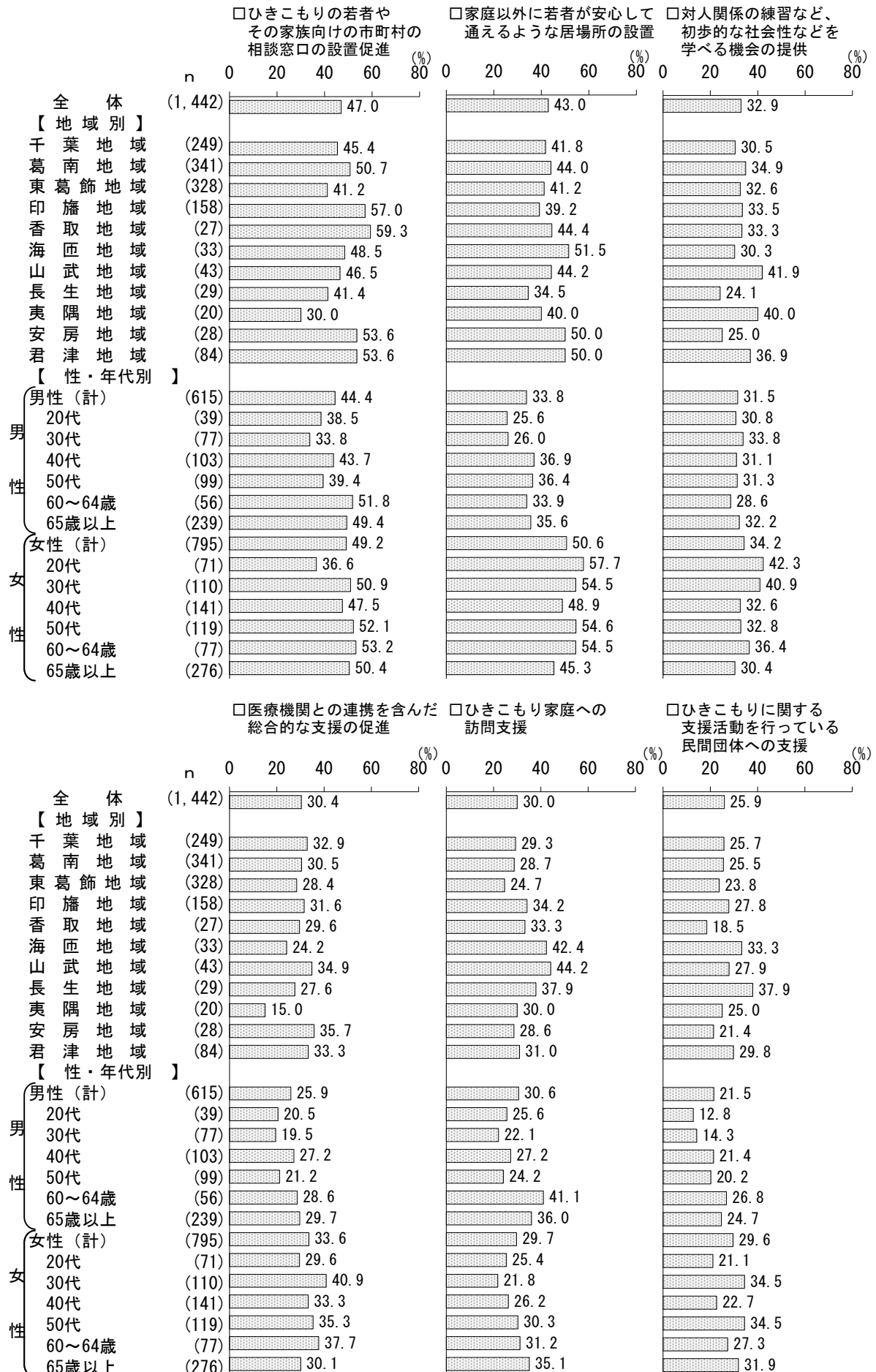
【性・年代別】

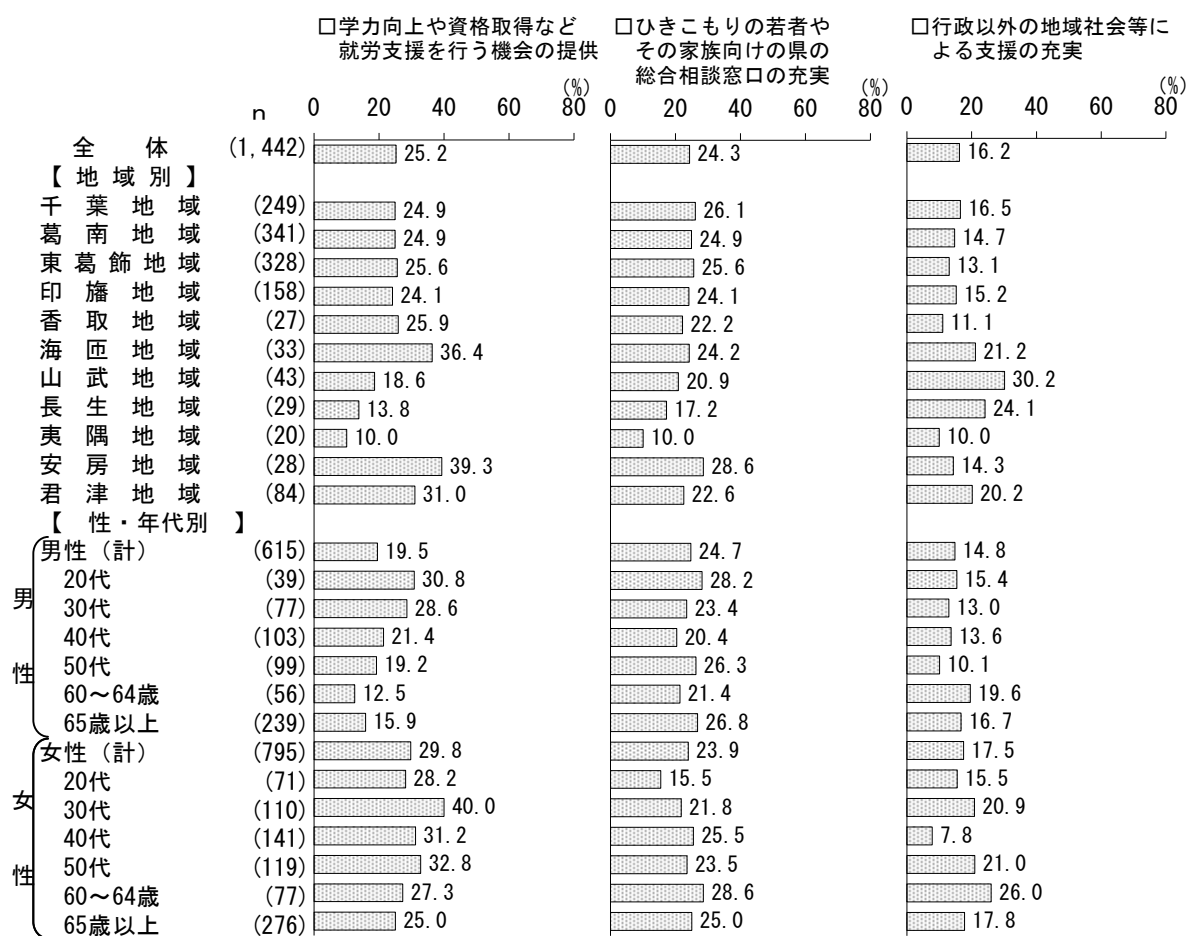
性・年代別にみると、「家庭以外に若者が安心して通えるような居場所の設置」が女性(50.6%)の方が高く、特に女性の20代(57.7%)で約6割と高くなっている。

「対人関係の練習など、初歩的な社会性などを学べる機会の提供」は女性の20代(42.3%)、「ひきこもり家庭への訪問支援」は男性の60～64歳(41.1%)で4割を超え、高くなっている。

「医療機関との連携を含んだ総合的な支援の促進」は、女性の30代(40.9%)で4割と高くなっている。(図表6－4)

<図表6-4>「ひきこもり」の若者に必要な行政支援／地域別、性・年代別



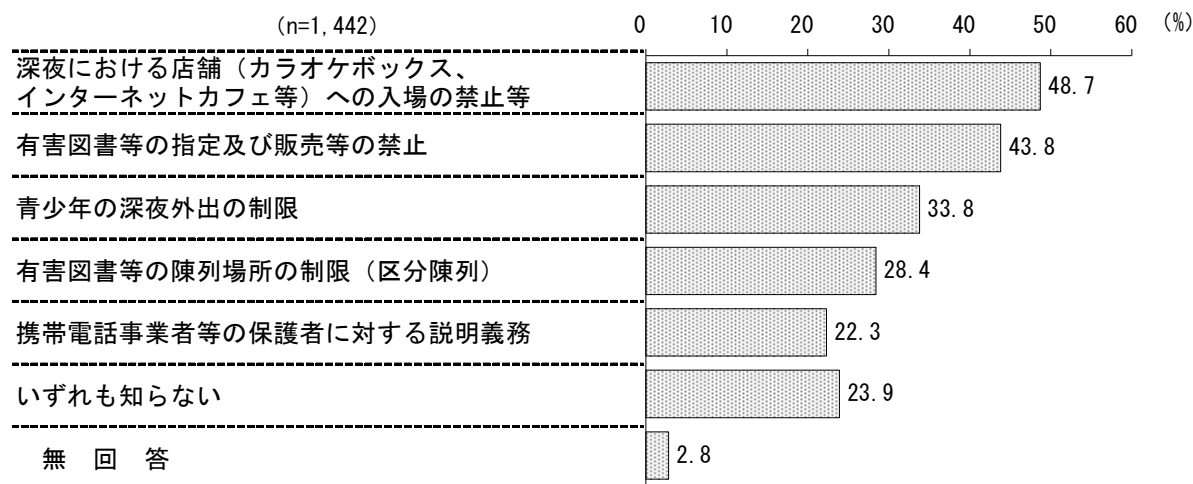


(3) 青少年健全育成条例で知っている内容

◇「深夜における店舗（カラオケボックス、インターネットカフェ等）への入場の禁止等」が約5割

問22 県では、青少年を有害環境から保護するため青少年健全育成条例を制定しています。条例の中の次の項目のうち、知っているものはありますか。（○はいくつでも）

<図表6-5> 青少年健全育成条例で知っている内容



青少年健全育成条例で知っている内容は、「深夜における店舗（カラオケボックス、インターネットカフェ等）への入場の禁止等」（48.7%）が約5割と最も多く、以下、「有害図書等の指定及び販売等の禁止」（43.8%）、「青少年の深夜外出の制限」（33.8%）となっている。

一方、「いずれも知らない」（23.9%）は2割台半ばとなっている。（図表6-5）

【地域別】

地域別にみると、「深夜における店舗（カラオケボックス、インターネットカフェ等）への入場の禁止等」は“香取地域”（63.0%）で6割台半ば、“山武地域”（60.5%）で6割、“葛南地域”（55.1%）で5割台半ばと高くなっている。

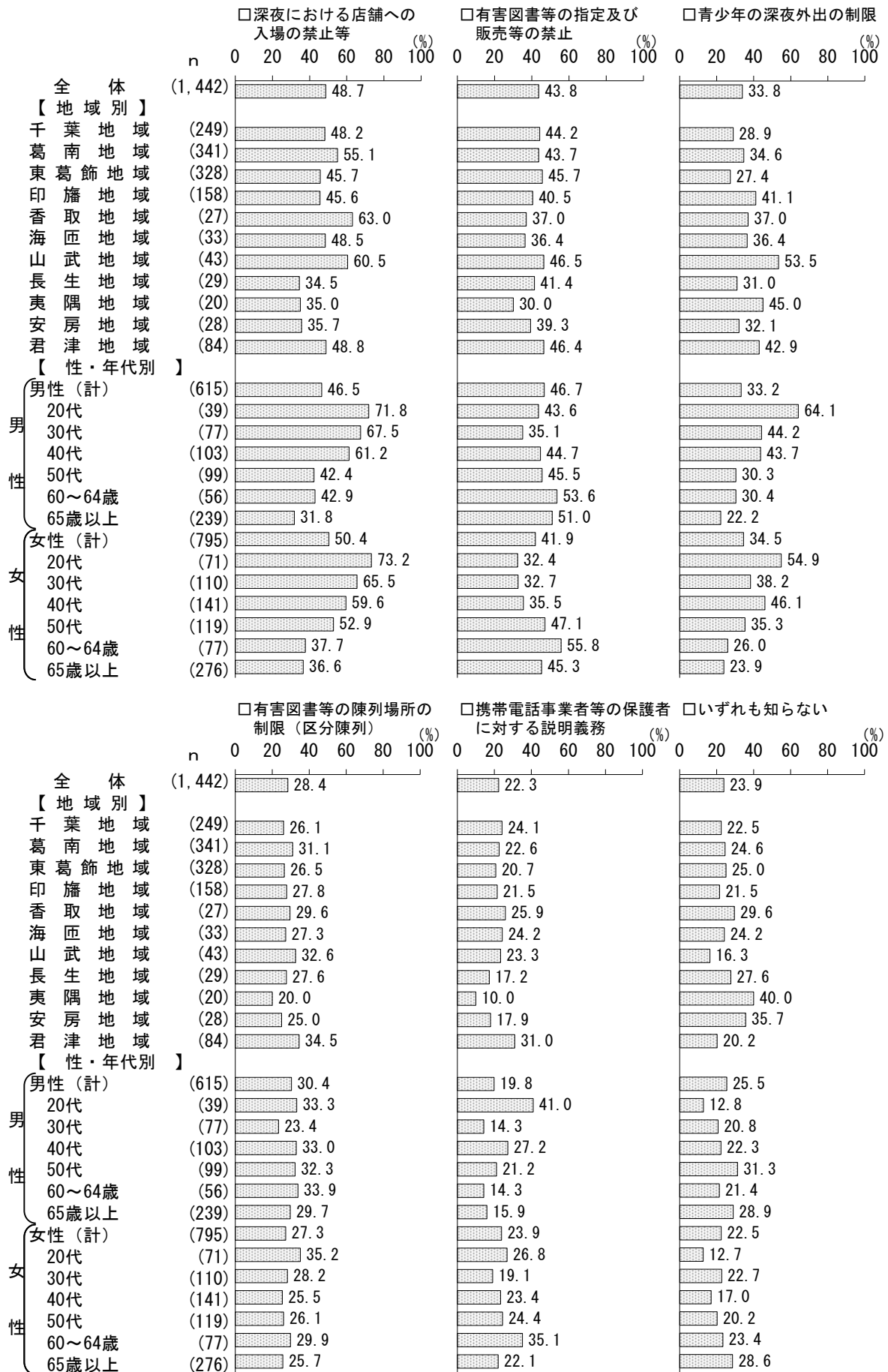
「青少年の深夜外出の制限」は“山武地域”（53.5%）で5割台半ば、「携帯電話事業者等の保護者に対する説明義務」は“君津地域”（31.0%）で3割を超えて高くなっている。（図表6-6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「深夜における店舗（カラオケボックス、インターネットカフェ等）への入場の禁止等」は女性の20代（73.2%）で7割台半ば、男性の20代（71.8%）で7割を超えて特に高くなっている。

「有害図書等の指定及び販売等の禁止」は、女性の60～64歳（55.8%）、男性の60～64歳（53.6%）で5割台半ば、「青少年の深夜外出の制限」は男性の20代（64.1%）で6割台半ば、女性の20代（54.9%）で5割台半ば、「携帯電話事業者等の保護者に対する説明義務」は男性の20代（41.0%）で4割を超えて高くなっている。（図表6-6）

<図表6-6> 青少年健全育成条例で知っている内容／地域別、性・年代別



このほかに、「青少年の健全育成について」やここまでの質問（問20～問22）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、164人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「青少年の健全育成について」の自由回答（抜粋）

○親、学校教育、企業を含めた社会全体、政治家を含めた全体的見地からのあらゆる倫理や道徳指導の必要性和環境整備。（男性、65歳以上、千葉地域）

○禁止や制限をするだけでなく、正しい知識や情報を得る機会や場を設けると更に良いと思う。
（男性、20代、印旛地域）

○実は親の教育が必要です。親の意識がしっかりしていないと、かわいそうな家庭環境になります。昔も今も「やっていいこと・悪いこと」は同じです。家庭での話し合いの場が大切です。
（女性、50代、葛南地域）

○条例の制定や罰則（あるのかどうかも含め）、県民の理解が足りないのではないかと。条例内容の保護者会での説明や街頭でのパンフ配布等の積極的なアピールをするべき。
（男性、30代、葛南地域）

○いわゆる「ひきこもり」のお子さんをお持ちのご家族のご要望を聞くことが第一である。第三者が行政はこうすべきだとは言えない（その苦しみや悩みは同情できても実感できない）。
（男性、65歳以上、東葛飾地域）

○青少年を守るにはマスコミ、有害図書、携帯電話等の影響が大変大きいと思います。その様な物の普及にも、更に相当の制限が必要かと思います。（女性、65歳以上、長生地域）

○まずは親と周囲の環境を改善した方が良い。子供は親を見て育ちます。私も親という立場になって気が付きましたが、自分勝手に幼い親が多いと思う。（男性、30代、東葛飾地域）

○親からのダメだけでなく、条例として制限や禁止などをしてもらえているのは助かると思う。
（女性、40代、葛南地域）

○青少年になって症状が出るのではなく、もっと幼い頃からのことが影響しているのではないかと。その為に、義務教育の段階で、学校と連携をとり、対処していくのはどうなのだろうか。（女性、30代、千葉地域）

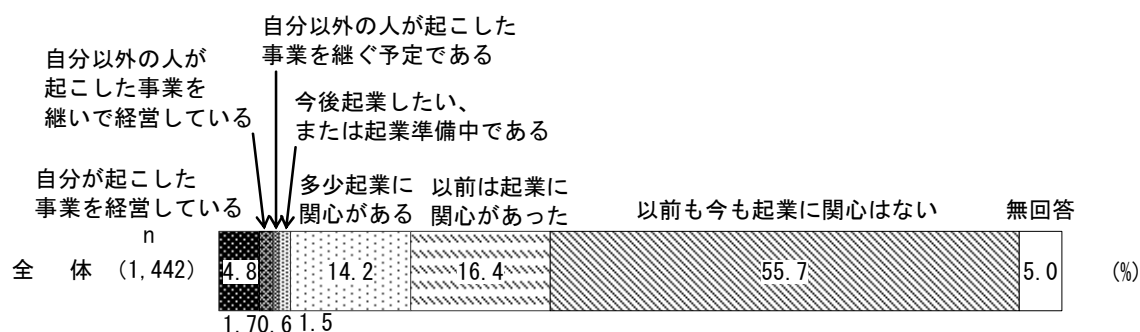
7 起業・創業について

(1) 起業の経験・関心

◇「以前も今も起業に関心はない」が5割台半ば

問23 あなたご自身が、起業したいと考えたことがありますか。(○は1つ)

<図表7-1> 起業の経験・関心



自身が起業することについて、経験・関心を聞いたところ、「自分が起こした事業を経営している」は4.8%だった。

「以前も今も起業に関心はない」(55.7%)が5割台半ばであり、「以前は起業に関心があった」(16.4%)、「多少起業に関心がある」(14.2%)が1割台半ばとなっている。(図表7-1)

【性・年代別】

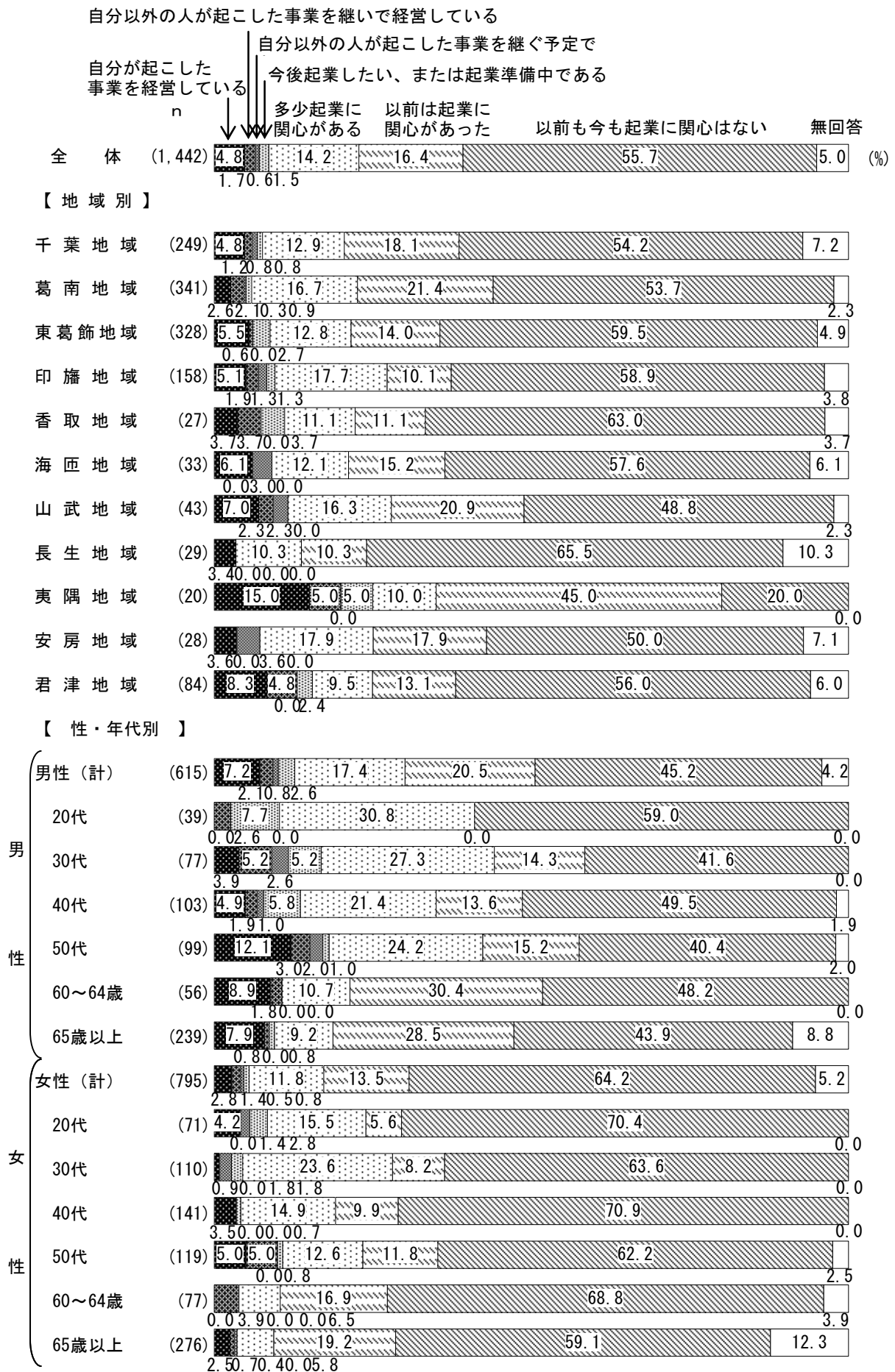
性・年代別にみると、どの年代でも男性の方が起業への関心が高くなっている。

「多少起業に関心がある」は男性では20代(30.8%)で3割、30代(27.3%)で約3割とほかの年代よりと高く、女性では30代(23.6%)でほかの年代より高くなっている。

「以前は起業に関心があった」は男性60～64歳(30.4%)で3割、65歳以上(28.5%)で約3割と高くなっている。

「今後起業したい、または起業準備中である」は、20代で男性(7.7%)女性(2.8%)とも最も高くなっている。(図表7-2)

<図表 7-2> 起業の経験・関心／地域別、性・年代別

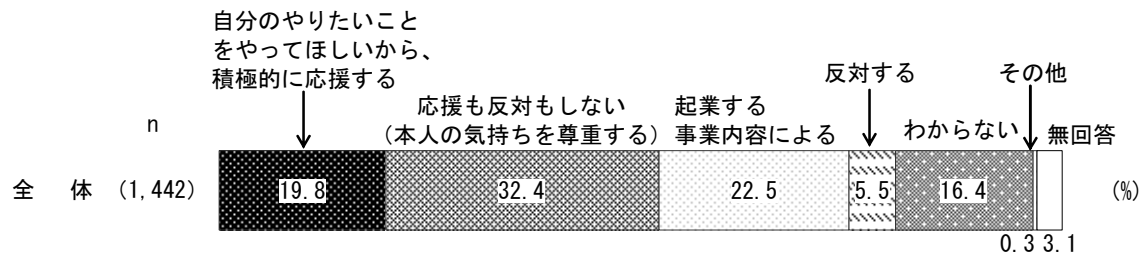


(2) 起業を相談された場合の評価

◇「応援も反対もしない（本人の気持ちを尊重する）」が3割を超える

問24 配偶者や子どもなど家族やごく身近な方から起業したいと相談されたらどう評価しますか。（一番近い方を想定して回答してください。）（○は1つ）

＜図表 7－3＞起業を相談された場合の評価



家族やごく身近な方から起業したいと相談を受けた場合、「応援も反対もしない（本人の気持ちを尊重する）」（32.4%）が3割を超えて最も高く、「起業する事業内容による」（22.5%）、「自分のやりたいことをやってほしいから、積極的に応援する」（19.8%）となっており、「反対する」は5.5%である。（図表 7－3）

【地域別】

地域別にみると、「応援も反対もしない（本人の気持ちを尊重する）」が“山武地域”（39.5%），“君津地域”（39.3%）で約4割、「積極的に応援する」が“夷隅地域”（50.0%）で5割、「起業する事業内容による」が“君津地域”（33.3%）で3割台半ばと他の地域に比べて高くなっている。

「反対する」は“香取地域”（14.8%），“山武地域”（14.0%）で1割台半ばと、他の地域に比べて幾分高くなっている（図表 7－4）

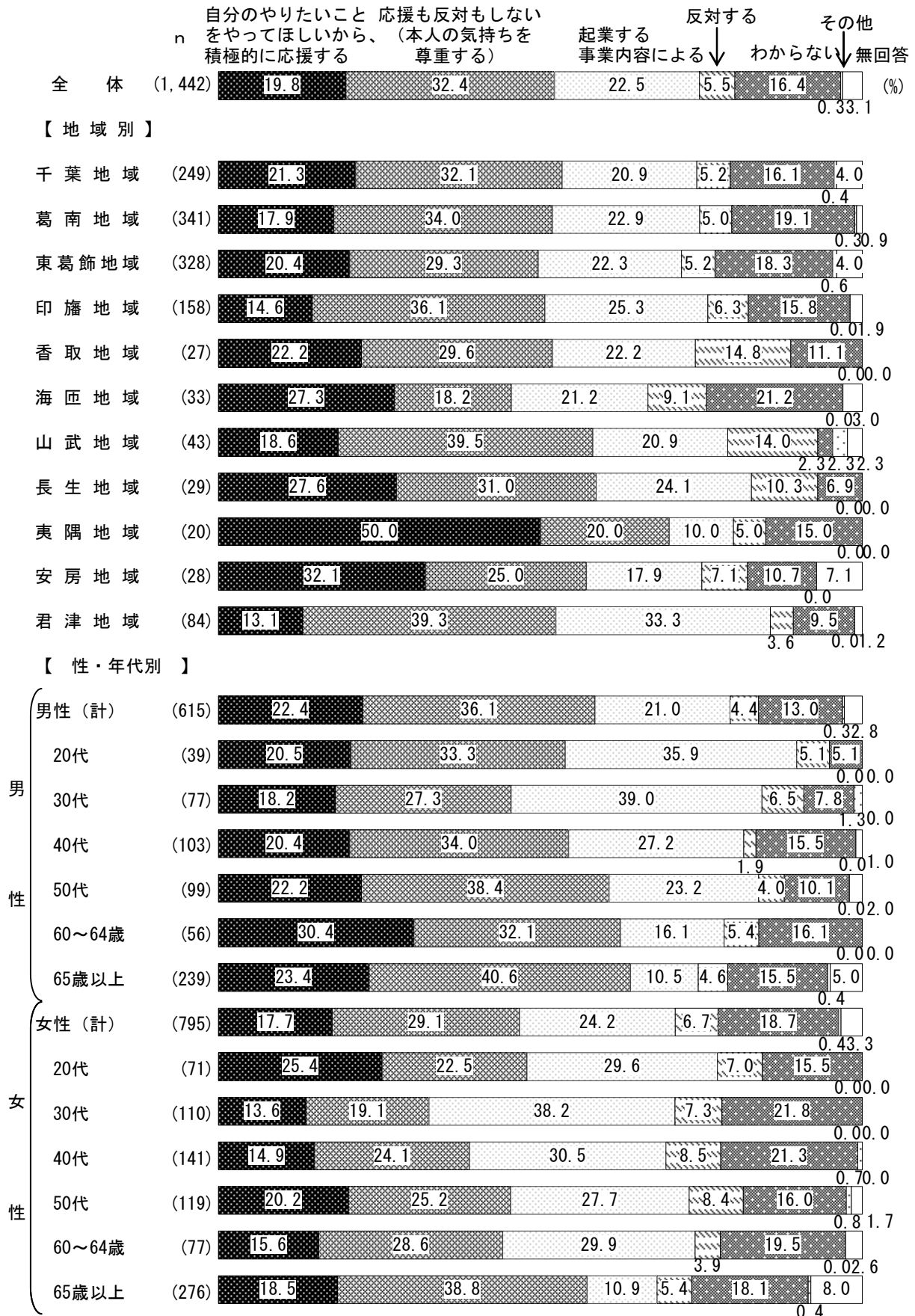
【性・年代別】

性・年代別にみると、「自分のやりたいことをやってほしいから、積極的に応援する」が男性60～64歳（30.4%）で3割と高くなっている。

「応援も反対もしない（本人の気持ちを尊重する）」は、男性の65歳以上（40.6%）で4割、女性の65歳以上（38.8%）で約4割と高くなっている。

「起業する事業内容による」が男性の30代（39.0%）、女性の30代（38.2%）で約4割と高くなっている。（図表 7－4）

＜図表 7-4＞起業を相談された場合の評価／地域別、性・年代別

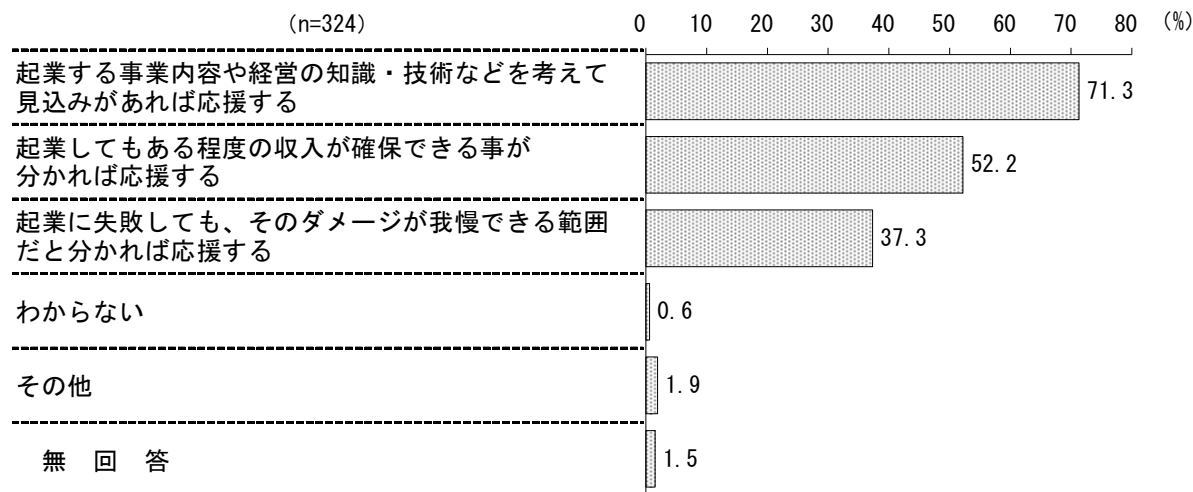


(3) 起業を応援する場合の条件

◇「起業する事業内容や経営の知識・技術などを考えて見込みがあれば応援する」が7割

問25 どのような場合に応援しますか。(〇はいくつでも)

＜図表 7－5＞起業を応援する場合の条件



家族やごく身近な方から起業したいと相談を受け、「起業する事業内容による」と評価した324人のうち、起業を応援する場合の条件は、「起業する事業内容や経営の知識・技術などを考えて見込みがあれば応援する」(71.3%)が7割と最も多い。

次いで、「起業してもある程度の収入が確保できる事が分ければ応援する」(52.2%)が5割となっている。(図表 7－5)

【地域別】

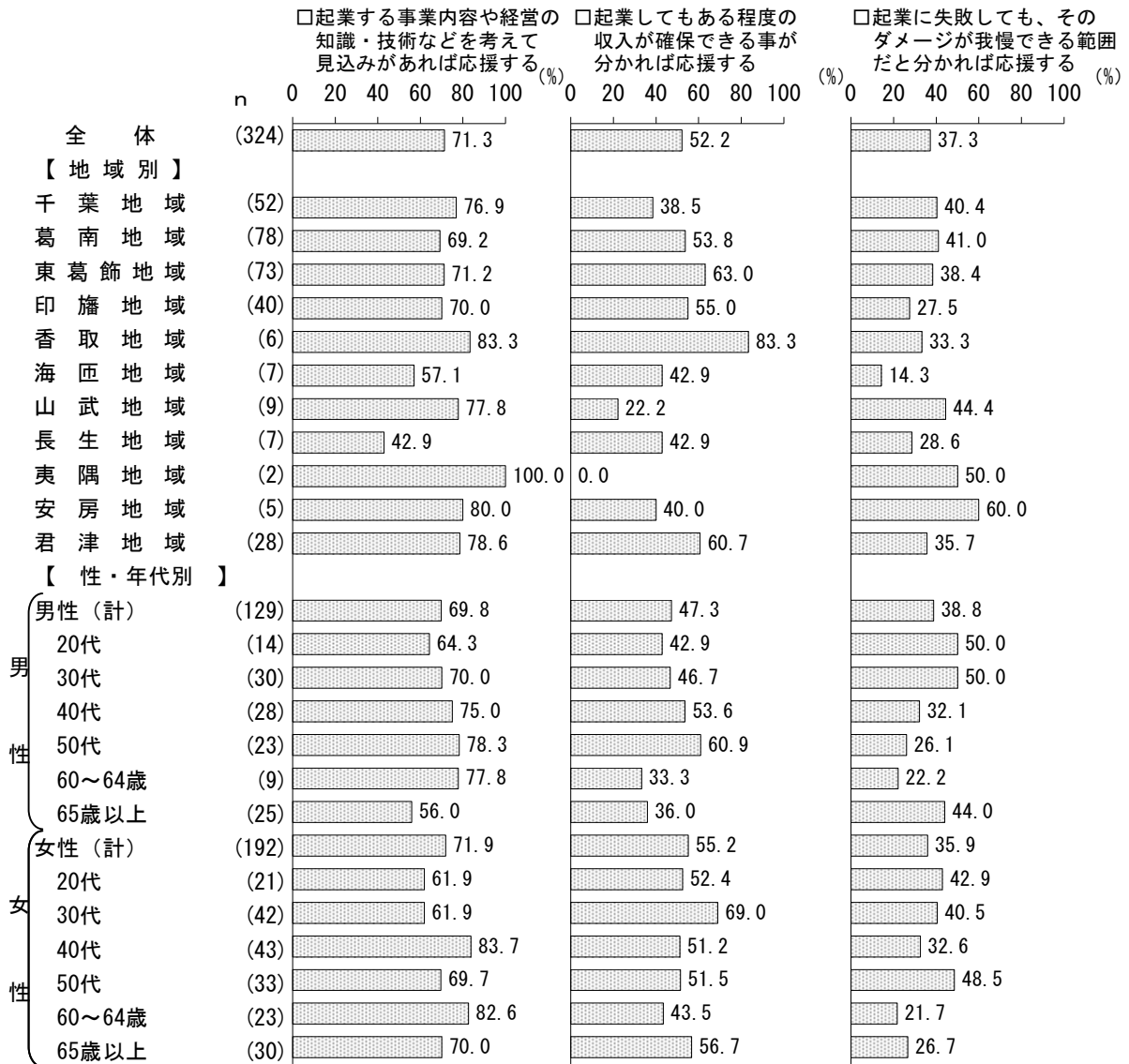
地域別にみると、「起業してもある程度の収入が確保できる事が分ければ応援する」は“東葛飾地域”で(63.0%)が6割を超えて高くなっている。(図表 7－6)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「起業してもある程度の収入が確保できる事が分ければ応援する」は女性30代(69.0%)で約7割と高くなっている。

「起業に失敗しても、そのダメージが我慢できる範囲だと分ければ応援する」は、男性の20代(50.0%)、30代(50.0%)、女性の50代(48.5%)で高くなっている。(図表 7－6)

<図表 7-6> 起業を応援する場合の条件／地域別、性・年代別（上位3項目）

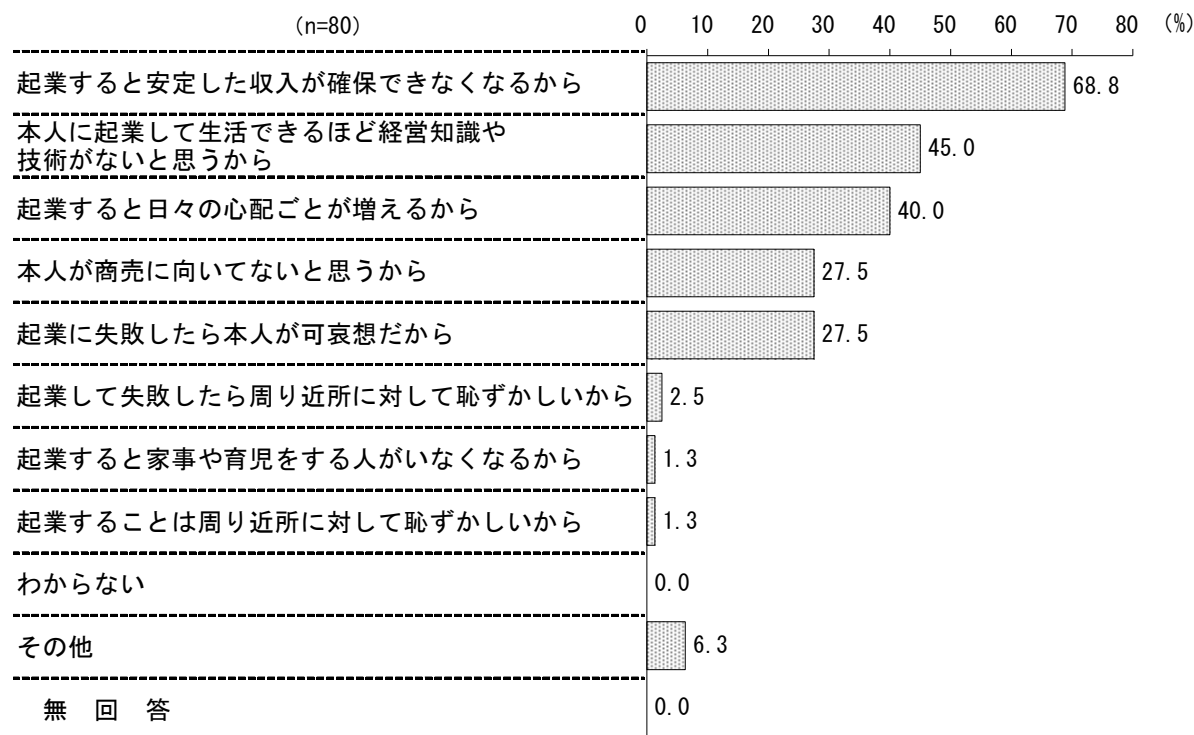


(4) 起業を応援しない理由

◇「起業すると安定した収入が確保できなくなるから」が約7割

問26 その理由は何だと思いますか。(○はいくつでも)

<図表7-7>起業を応援しない理由



家族やごく身近な方から起業したいと相談を受け、「反対する」と評価した80人のうち、起業を応援しない理由として「起業すると安定した収入が確保できなくなるから」(68.8%)が約7割と最も多い。

(図表7-7)

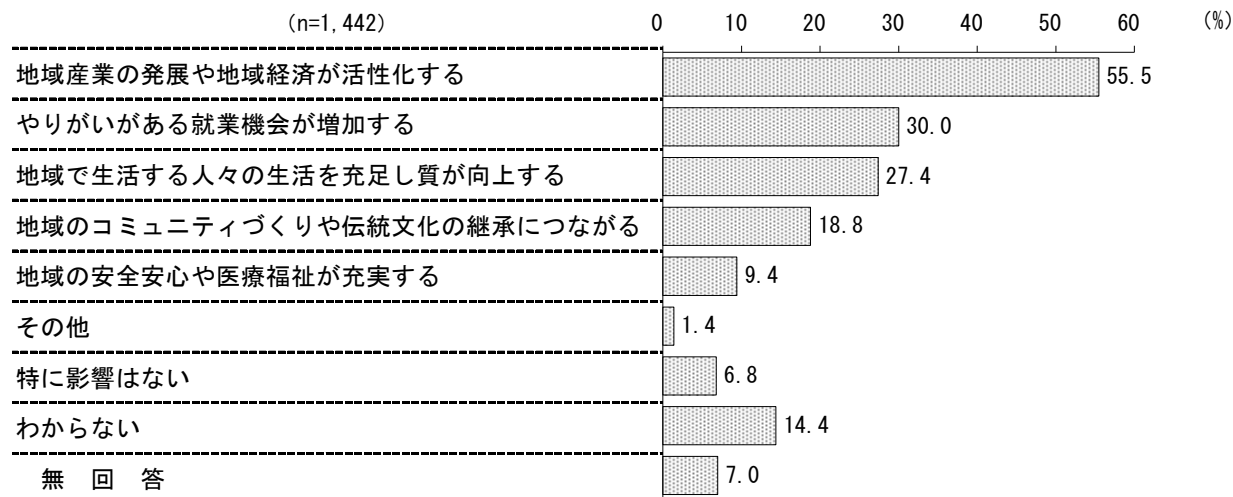
【地域別】【性・年代別】は人数が少ないため割愛した。

(5) 起業が増えると影響する内容

◇「地域産業の発展や地域経済が活性化する」が５割台半ば

問27 地域で起業が増えるとどんな影響があると思いますか。(○はいくつでも)

<図表 7－8> 起業が増えると影響する内容



起業が増えることでの影響は、「地域産業の発展や地域経済が活性化する」(55.5%)が５割台半ばと最も多い。

以下、「やりがいがある就業機会が増加する」(30.0%)、「地域で生活する人々の生活を充足し質が向上する」となっている。(図表 7－8)

【地域別】

地域別にみると、「地域産業の発展や地域経済が活性化する」が“安房地域”(71.4%)で７割、“君津地域”(67.9%)で約７割と、他の地域に比べて高くなっている。

また、「地域で生活する人々の生活を充足し質が向上する」が“安房地域”(50.0%)で５割、“山武地域”(41.9%)、“夷隅地域”(40.0%)で４割、“君津地域”(39.3%)で約４割と高くなっている(図表 7－9)

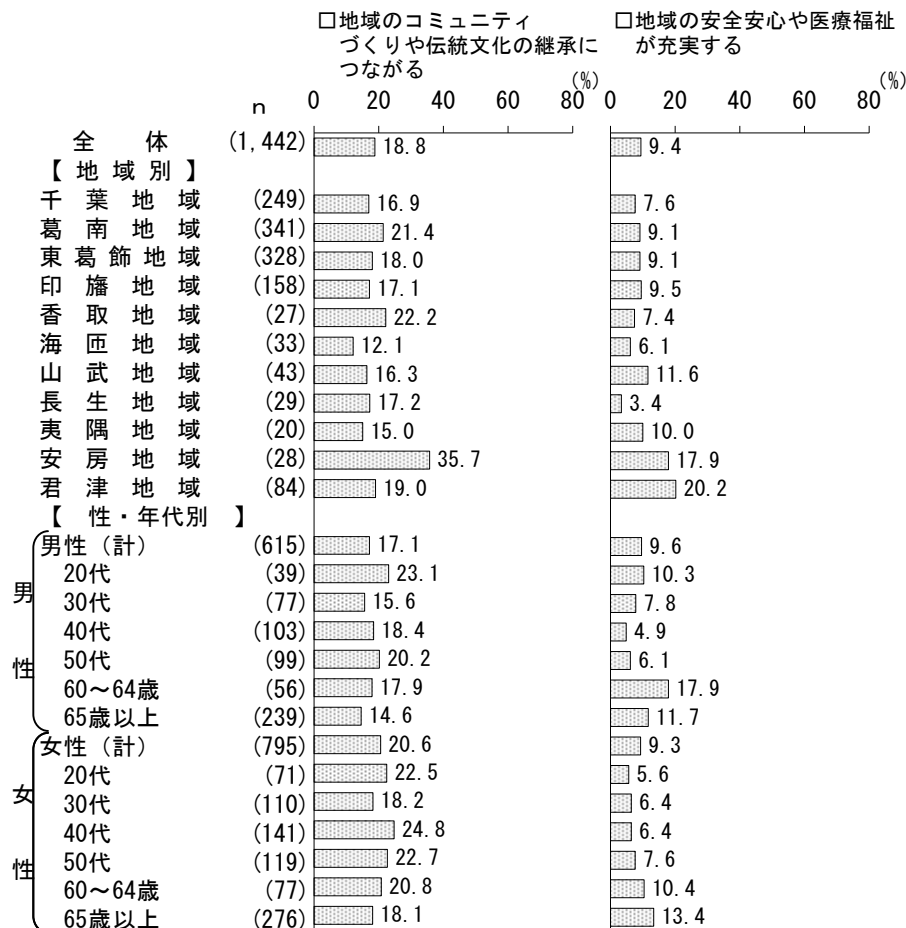
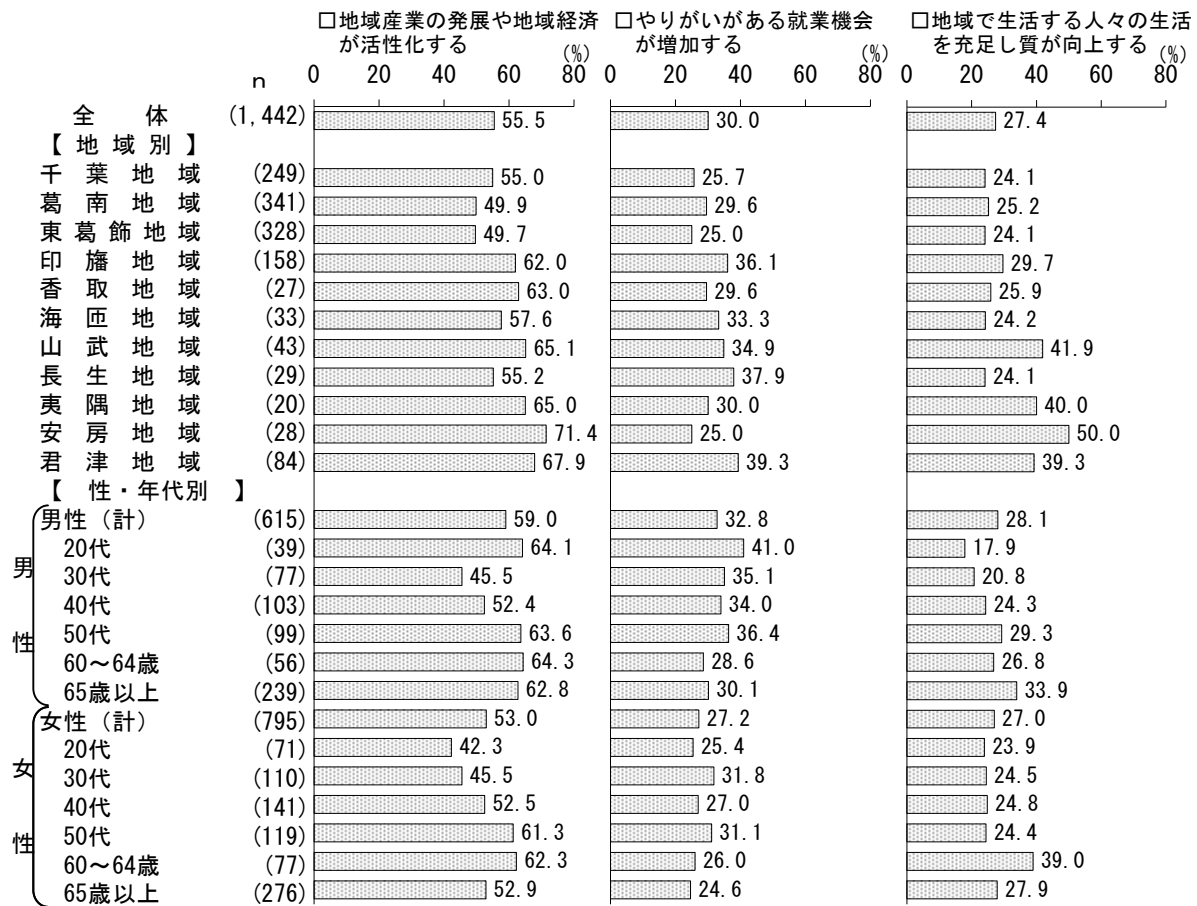
【性・年代別】

「地域産業の発展や地域経済が活性化する」は、男性(59.0%)の方が約６割と高い。性・年代別にみると、男性の60～64歳(64.3%)、20代(64.1%)、50代(63.6%)、65歳以上(62.8%)、女性の60～64歳(62.3%)、50代(61.3%)で６割を超えている。

「地域のコミュニティづくりや伝統文化の継承につながる」は、女性(20.6%)が男性(17.1%)より高くなっている。

「地域で生活する人々の生活を充足し質が向上する」が女性の60～64歳(39.0%)で約４割と高くなっている。(図表 7－9)

＜図表７－９＞起業が増えると影響する内容／地域別、性・年代別



このほかに、「起業・創業について」やここまでの質問（問23～問27）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、77人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「起業・創業について」の自由回答（抜粋）

○以前は起業していたが資金に困り店を閉めた。市の資金対策を必要と考えている（もっと自由に借り得る方法）。（男性、60～64歳、千葉地域）

○海外のように、その起業内容などに興味があれば、少額でも投資できるような仕組みがあれば主婦でも投資が出来、起業者や創業者にもメリットがあると思います。その仲介役に県がなればみんな信用できるのでは？（女性、40代、千葉地域）

○起業すると、盆踊りなどに寄付したり、地元の人の名を（町会長など）覚えたりして積極的にかかわれるのでコミュニケーション作りにも役立つと思う。（女性、40代、東葛飾地域）

○起業に関心があってもそれだけで終わってしまう人がほとんどだと思います。後押しがあると増えて、活性化すると思います。（女性、50代、印旛地域）

○高齢になると雇用先が無くなるので自分で起業してみたいと思う時があるが、自信が無い。
（男性、65歳以上、千葉地域）

○自分では難しいと思うが、若者の働く所が増え、地方にとどまり、高齢化がくい止められれば良いと思う。（女性、50代、安房地域）

○日本政策公庫や商工会議所等と行政の連携を図り、起業者への総合的支援の充実が必要ではないかと考える。またリスクをとりたがらないため、「七転八起」できるよう、失敗した際のセーフティネットの拡充も必要ではないか（モラルハザードの起きない範囲内で！！）。
（男性、40代、東葛飾地域）

○若い人がトライしやすい、支援環境（セミナーとか経済的援助とか）を作って欲しい。またそういういった情報に触れやすい工夫をして欲しい。（女性、30代、葛南地域）

○新しいことにどんどんチャレンジすることはすばらしいと思うので、私自身もっと勉強してモチベーションを上げて、起業、創業について具体的に考えようと思いました。自分のやる気が他人のニーズに重なって本当に大切なことだと思います。（女性、30代、安房地域）

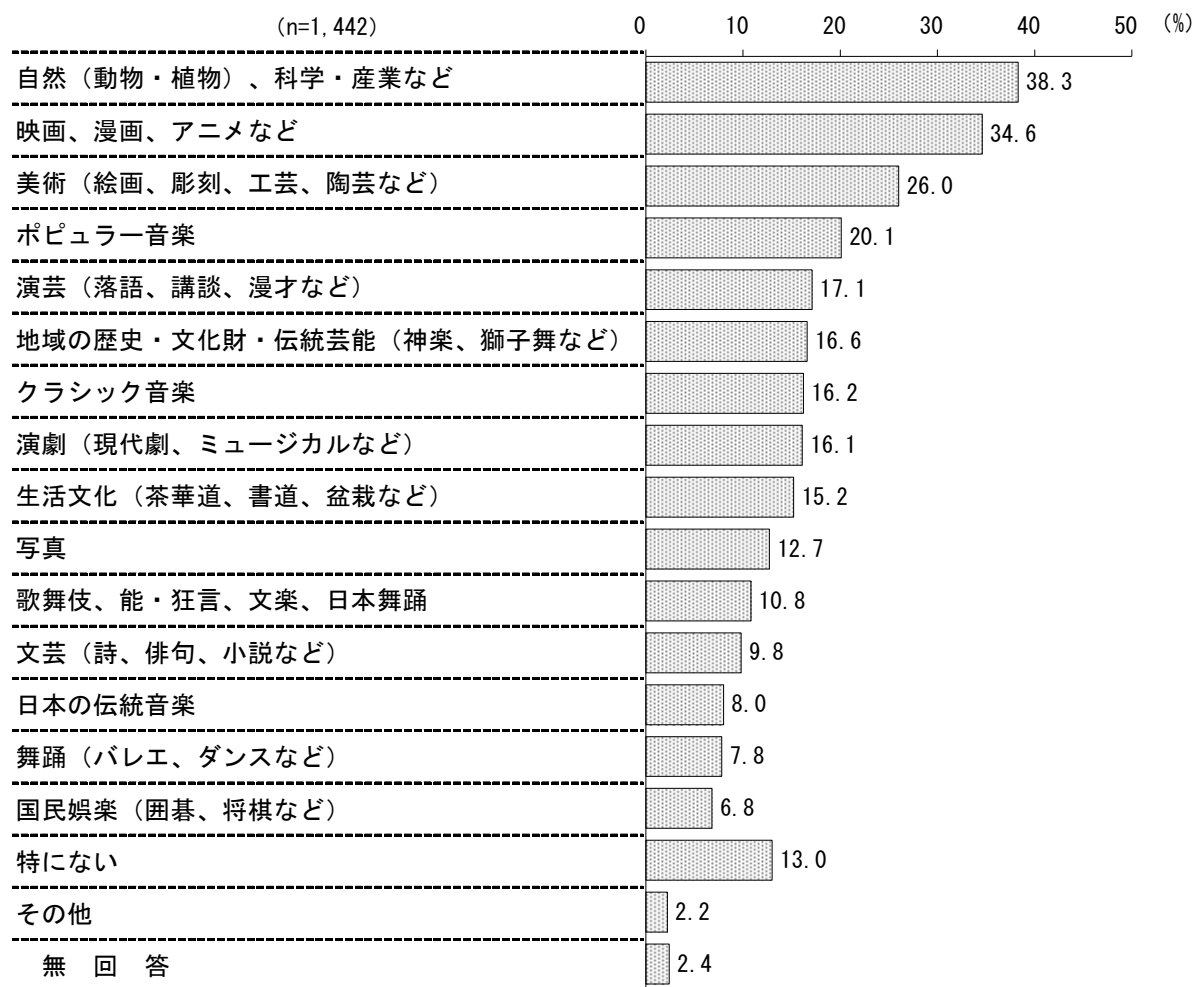
8 県民の文化芸術活動について

(1) 特に関心を持っている文化芸術

◇「自然（動物・植物）、科学・産業など」が約4割

問28 あなたが、特に関心を持っている文化芸術はありますか。（○はいくつでも）

<図表8-1>特に関心を持っている文化芸術



特に関心を持っている文化芸術として「自然（動物・植物）、科学・産業など」（38.3%）が約4割と最も多くあげられた。以下、「映画、漫画、アニメなど」（34.6%）、「美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸など）」（26.0%）、「ポピュラー音楽」（20.1%）となっている。

「特にない」（13.0%）は全体の1割程度となっている。（図表8-1）

【地域別】

地域別にみると、「自然（動物・植物）、科学・産業など」は“山武地域”（48.8%）、“長生地域”（48.3%）で約5割、“君津地域”（42.9%）と“印旛地域”（41.8%）で4割を超え、「クラシック音楽」は“安房地域”（28.6%）で約3割と他の地域に比べて高くなっている。（図表8－2）

【性・年代別】

「映画、漫画、アニメなど」は、女性の20代（66.2%）、男性の20代（64.1%）で6割台半ばと特に高く、若年層で関心が高い傾向がみられる。

「美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸など）」は、男性の50代（38.4%）で約4割、女性の60～64歳（36.4%）、50代（35.3%）で3割台半ばと高くなっている。

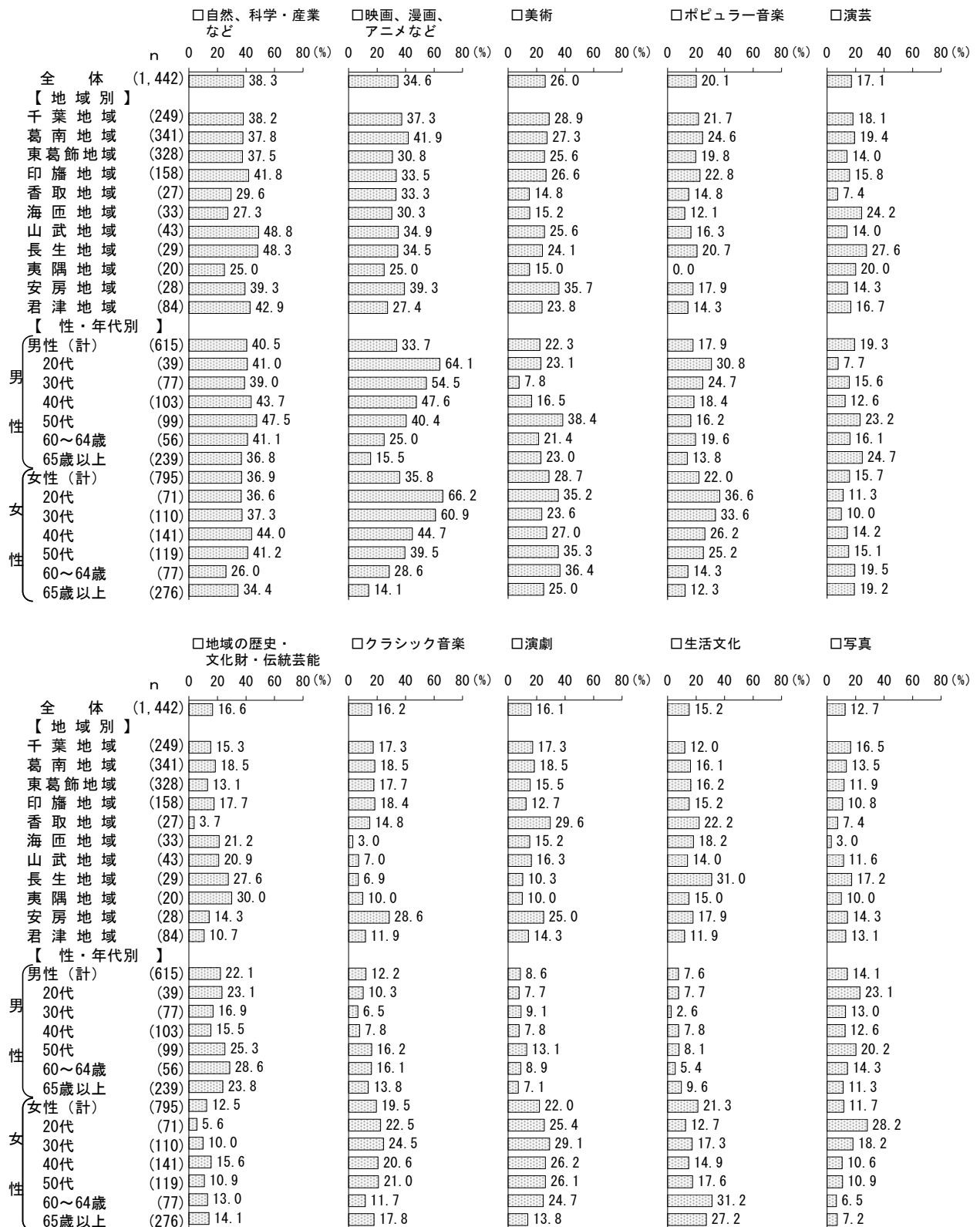
「ポピュラー音楽」は女性の20代（36.6%）、30代（33.6%）で3割台半ば、男性の20代（30.8%）も3割と特に高く、若年層で関心が高い傾向がみられる。

「演劇（現代劇、ミュージカルなど）」は、女性（22.0%）の方が男性（8.6%）より高く、女性の30代（29.1%）で約3割と特に高くなっている。

「生活文化（茶華道、書道、盆栽など）」は、女性の60～64歳（31.2%）で3割を超え、65歳以上（27.2%）で約3割と、他の年代に比べて高くなっている。

「写真」は、女性の20代（28.2%）で約3割、男性の20代（23.1%）で2割台半ば、50代（20.2%）で2割を超え、他の年代に比べて高くなっている。（図表8－2）

＜図表８－２＞特に関心を持っている文化芸術／地域別、性・年代別（上位 10 項目）

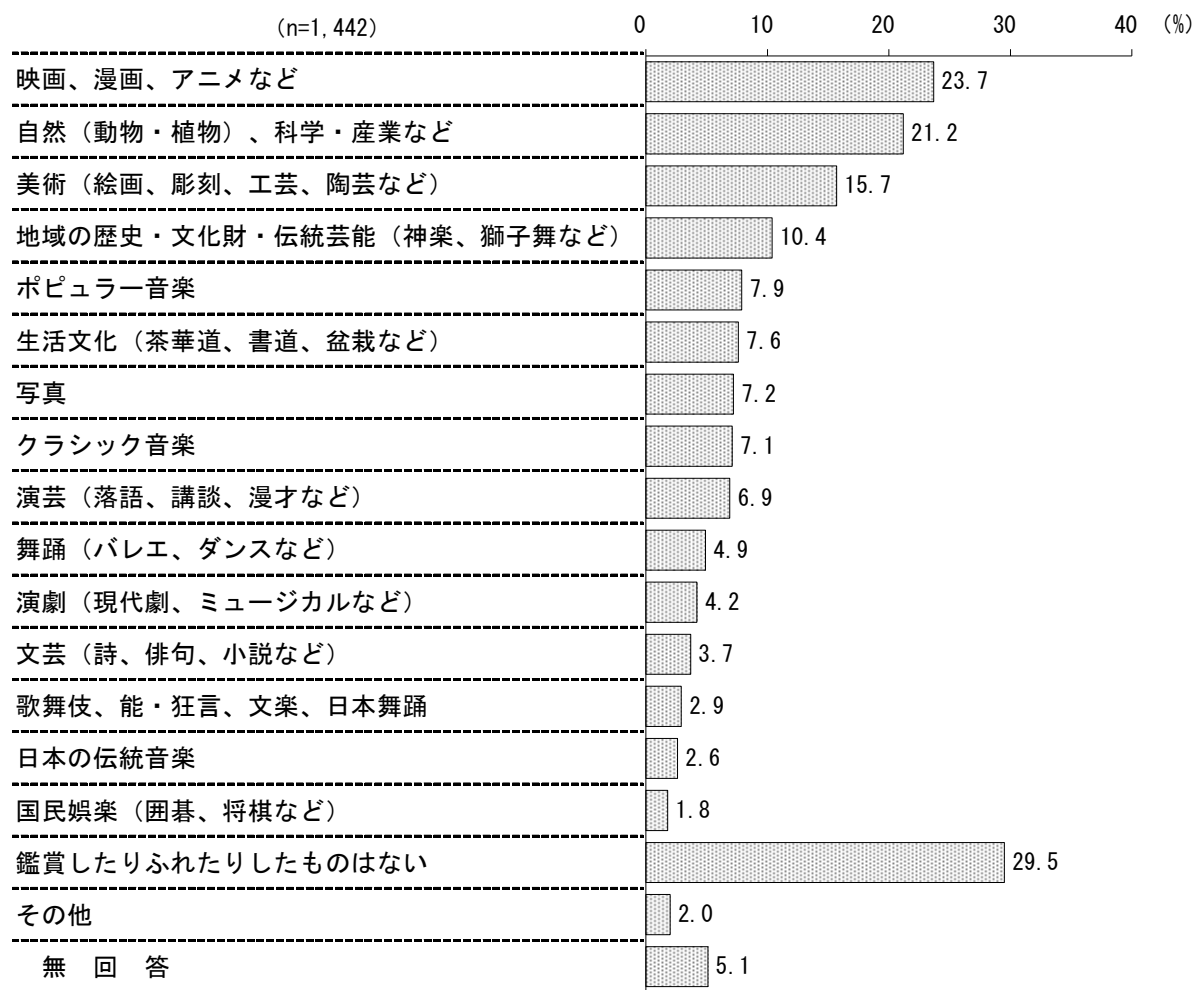


(2) この１年間に県内でふれた文化芸術

◇「映画、漫画、アニメなど」が２割台半ば

問29 この１年間にあなたが住んでいる地域や県内の文化施設などで、直接鑑賞したり、ふれたりした文化芸術はありますか。(○はいくつでも)

<図表 8－3>この１年間に県内でふれた文化芸術



この１年間に県内でふれた文化芸術では、「映画、漫画、アニメなど」(23.7%)が２割台半ばで最も多く、以下、「自然（動物・植物）、科学・産業など」(21.2%)、「美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸など）」(15.7%)が続く。

一方、「鑑賞したりふれたりしたものはない」(29.5%)が全体の約３割となっている。(図表 8－3)

【地域別】

地域別にみると、「映画、漫画、アニメなど」が“香取地域”（33.3％）で3割台半ば、“千葉地域”（29.7％）で約3割、「自然（動物・植物）、科学・産業など」が“千葉地域”（26.5％）で2割台半ばと、他の地域に比べて高くなっている。

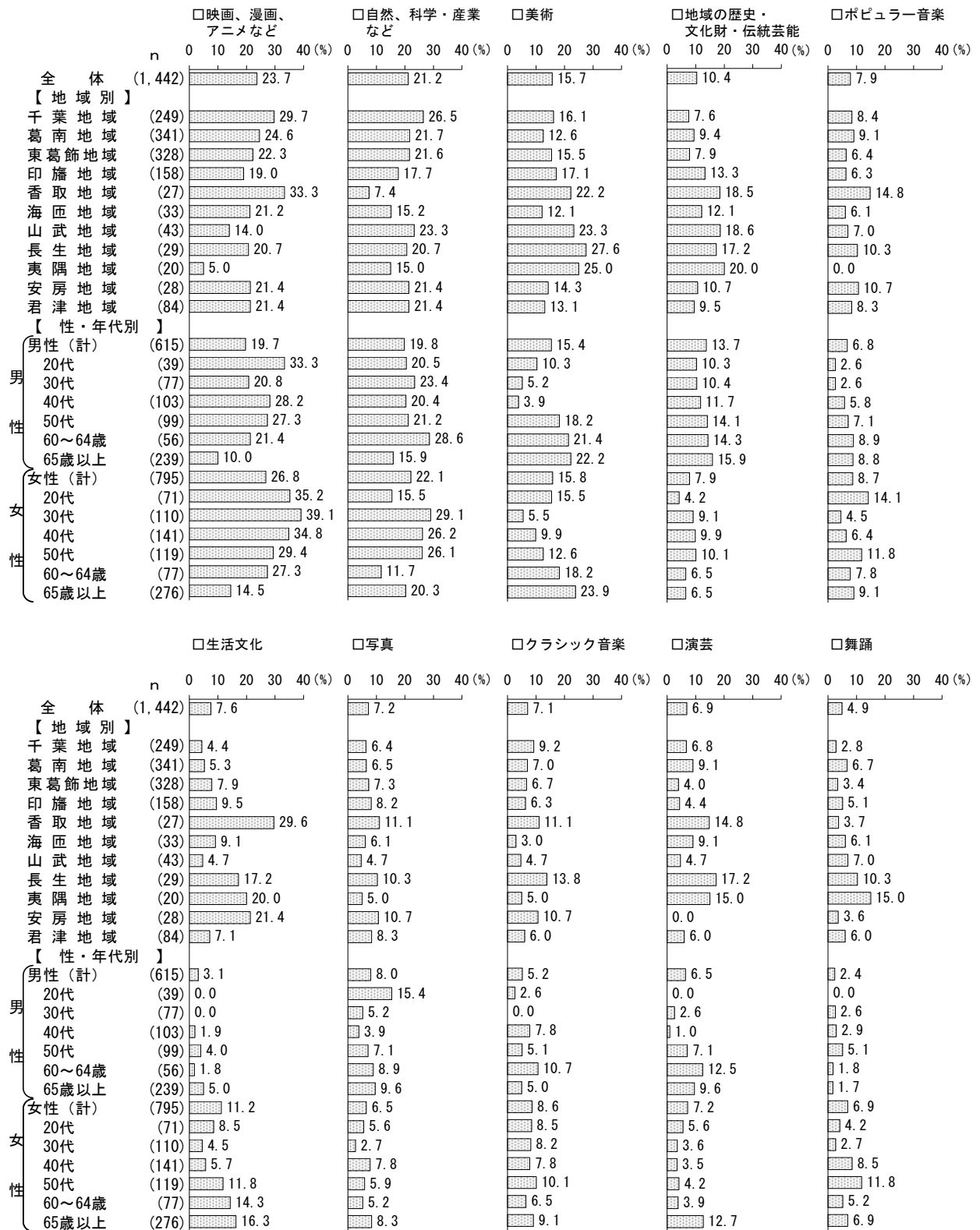
「生活文化（茶華道、書道、盆栽など）」は“香取地域”（29.6％）で約3割と、他の地域に比べて高くなっている。（図表8－4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「映画、漫画、アニメなど」は女性の30代（39.1％）で約4割と他の年代に比べて特に高くなっている。

「自然（動物・植物）、科学・産業など」は女性の30代（29.1％）、男性の60～64歳（28.6％）で約3割と、他の年代に比べて高くなっている。（図表8－4）

＜図表８－４＞この１年間に県内でふれた文化芸術／地域別、性・年代別（上位１０項目）

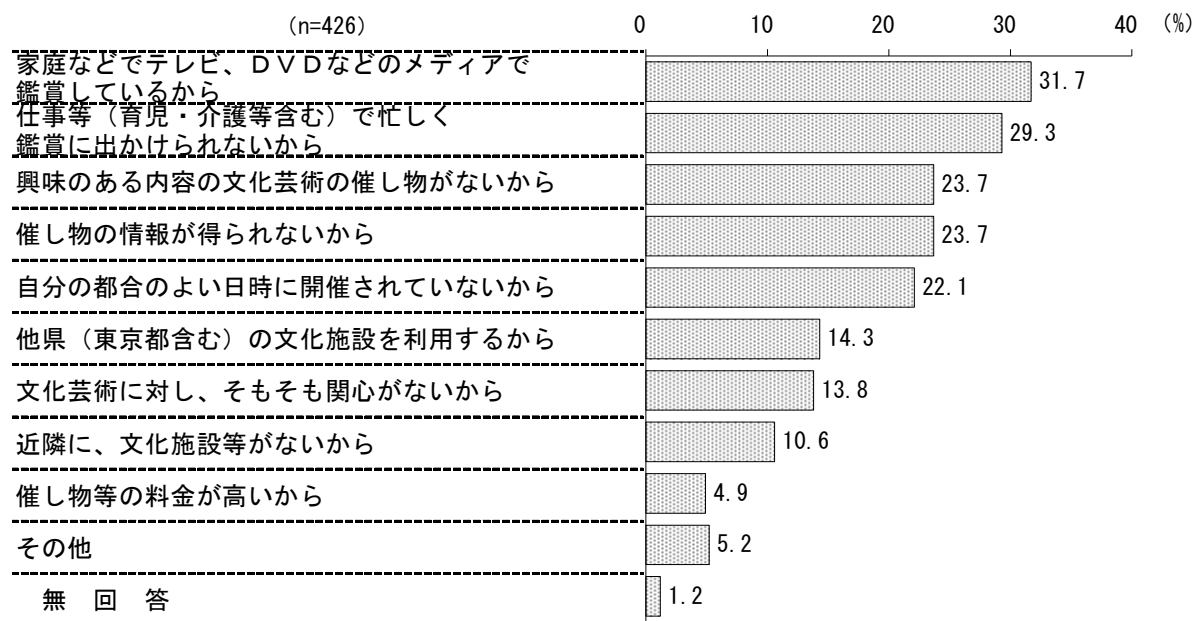


(3) この1年間に県内の文化芸術にふれなかった理由

◇「家庭などでテレビ、DVDなどのメディアで鑑賞しているから」が3割

問30 その理由は何ですか。(○はいくつでも)

<図表8-5>この1年間に県内の文化芸術にふれなかった理由



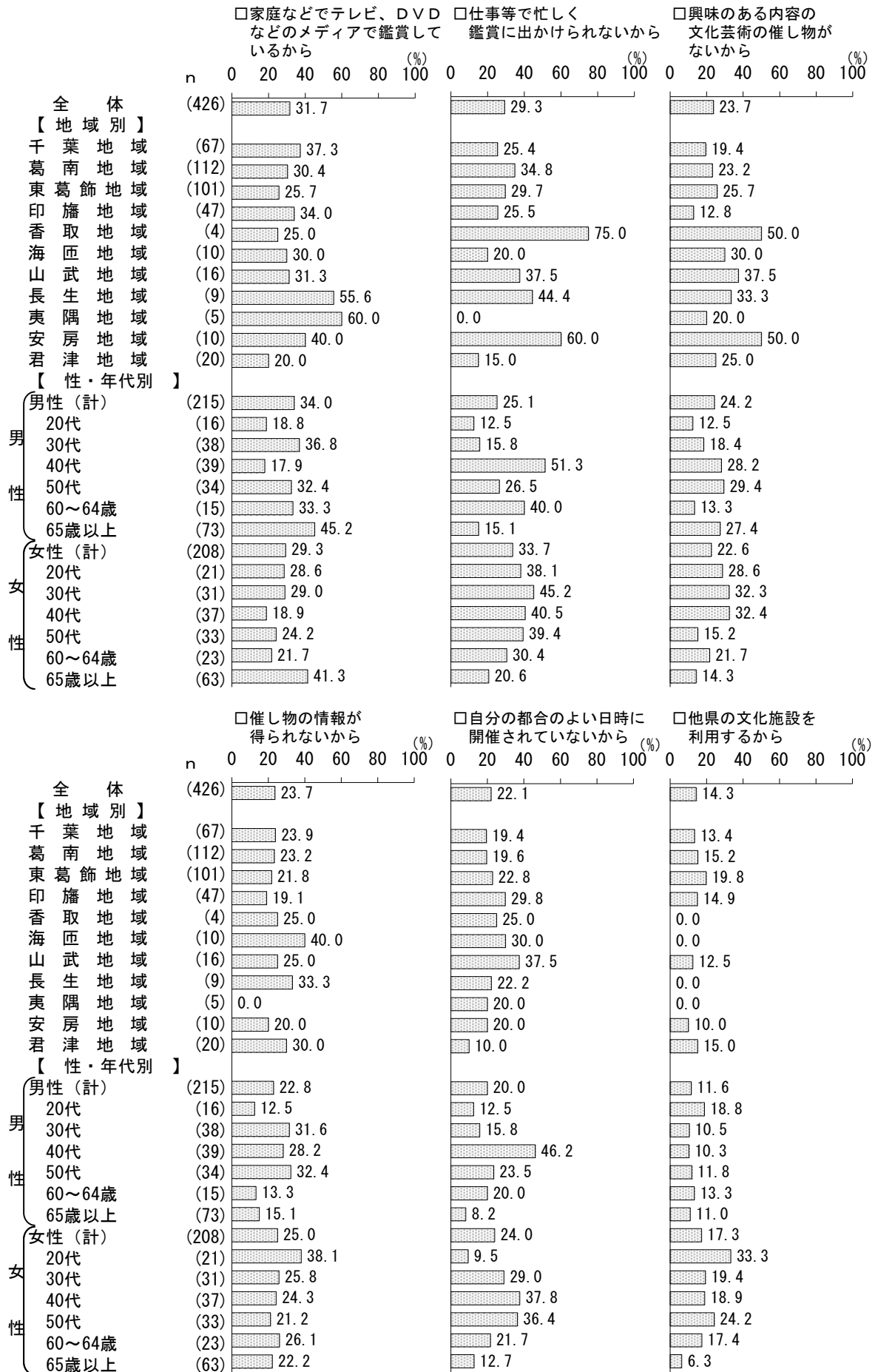
この1年間に県内で文化芸術を「鑑賞したりふれたりしたものはない」と回答した426人について、文化芸術にふれなかった理由を聞いたところ、「家庭などでテレビ、DVDなどのメディアで鑑賞しているから」が(31.7%)で3割を超えて最も多く、以下、「仕事等（育児・介護等含む）で忙しく鑑賞に出かけられないから」(29.3%)、「興味のある内容の文化芸術の催し物がないから」「催し物の情報が得られないから」(ともに23.7%)、「自分の都合のよい日時に開催されていないから」(22.1%)となっている。(図表8-5)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「家庭などでテレビ、DVDなどのメディアで鑑賞しているから」は男性の65歳以上(45.2%)で4割台半ば、女性の65歳以上(41.3%)で4割を超え、性別を問わず65歳以上が他の年代に比べて高くなっている。

「仕事等（育児・介護等含む）で忙しく鑑賞に出かけられないから」は男性の40代(51.3%)で5割を超え、「自分の都合のよい日時に開催されていないから」も男性の40代(46.2%)で4割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。(図表8-6)

＜図表８－６＞この１年間に県内の文化芸術にふれなかった理由／地域別、性・年代別（上位６項目）

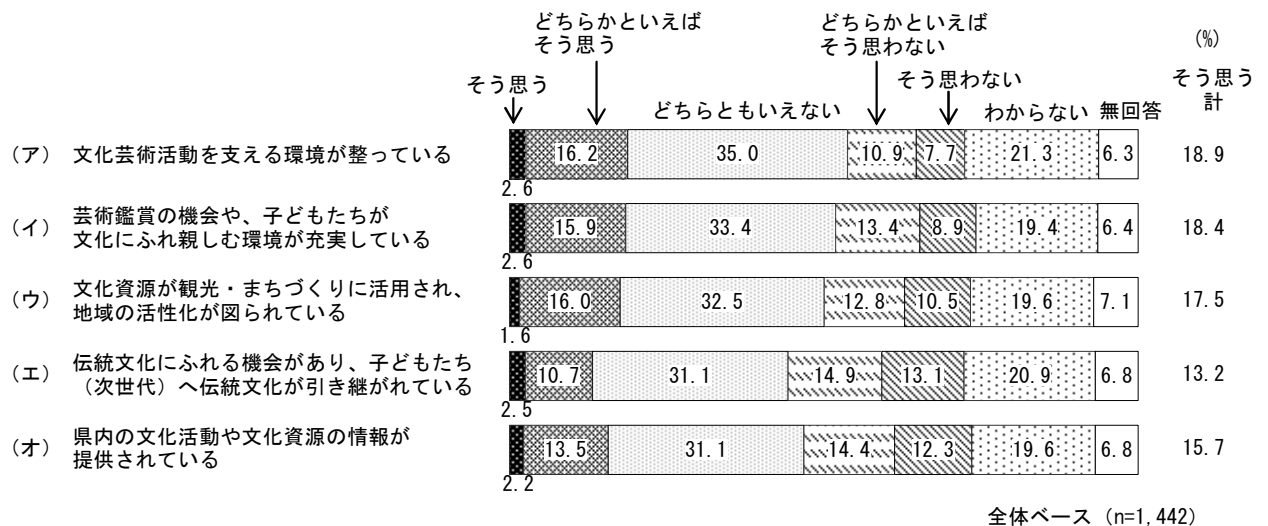


(4) 文化振興にあたっての県の取り組み評価

◇いずれの項目も「どちらともいえない」が3割

問31 あなたは、文化振興にあたっての県の取り組みに関する次の項目について、どう思いますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

＜図表8-7＞文化振興にあたっての県の取り組み評価



文化振興に関する県の取り組み評価では、いずれの項目も「どちらともいえない」が3割を超えて最も多くなっている。(図表8-7)

【地域別】

地域別にみると、「芸術鑑賞の機会や、子どもたちが文化にふれ親しむ環境が充実している」は“印旛地域”(29.7%)、“安房地域”(21.4%)、“夷隅地域”(20.0%)を除く全ての地域で「どちらともいえない」が最も高くなっている。(図表8-8-2)

「文化資源が観光・まちづくりに活用され、地域の活性化が図られている」は“千葉地域”(36.1%)、“葛南地域”(35.2%)“東葛飾地域”(34.5%)で「どちらともいえない」が3割半ばとなっており、他の地域と比べて高くなっている。(図表8-8-3)

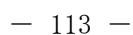
「伝統文化にふれる機会があり、子どもたち(次世代)へ伝統文化が引き継がれている」を「どちらかといえばそう思わない」(17.2%)、「そう思わない」(31.0%)を合わせた『そう思わない』が“長生地域”(48.3%)で約5割と、他の地域に比べて高くなっている。(図表8-8-4)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「文化資源が観光・まちづくりに活用され、地域の活性化が図られている」は、男性の20代(20.5%)、60～64歳(30.4%)を除く全ての性・年代で「どちらともいえない」が最も高くなっている。(図表8-8-3)

「県内の文化活動や文化資源の情報が提供されている」を『そう思わない』が男性の30代(42.9%)、で4割を超え、他の年代に比べて高くなっているが、女性では全世代で「どちらともいえない」が最も高くなっている。(図表8-8-5)

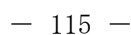
(ア) 文化芸術活動を支える環境が整っている



(イ) 芸術鑑賞の機会や、子どもたちが文化にふれ親しむ環境が充実している



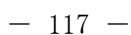
(ウ) 文化資源が観光・まちづくりに活用され、地域の活性化が図られている



(エ) 伝統文化にふれる機会があり、子どもたち（次世代）へ伝統文化が引き継がれている



(オ) 県内の文化活動や文化資源の情報が提供されている

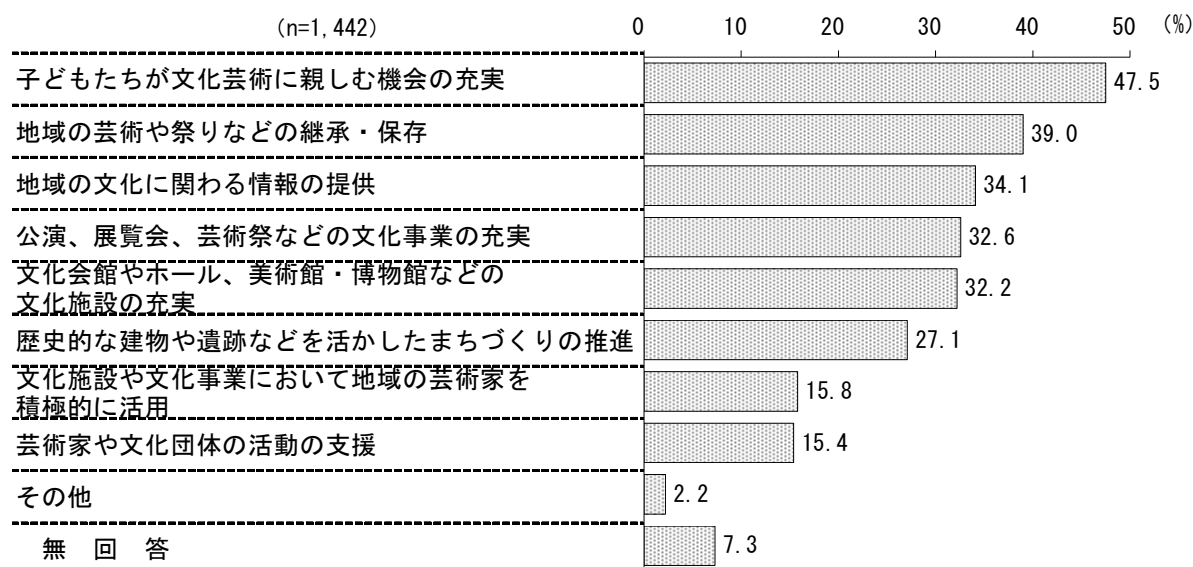


(5) 地域の文化的環境に必要なこと

◇「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」が約5割

問32 あなたは、あなたが住んでいる地域の文化的環境を満足できるものとするために、何が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

<図表8-9>地域の文化的環境に必要なこと



地域の文化的環境を満足できるものとするために必要なこととして、「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」(47.5%)が約5割と最も多くあげられ、以下、「地域の芸術や祭りなどの継承・保存」(39.0%)、「地域の文化に関わる情報の提供」(34.1%)、「公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実」(32.6%)、「文化会館やホール、美術館・博物館などの文化施設の充実」(32.2%)となっている。(図表8-9)

【地域別】

地域別にみると、「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」が“香取地域”(66.7%)で6割台半ば、「地域の芸術や祭りなどの継承・保存」が“夷隅地域”(85.0%)で8割台半ばで、他の地域に比べて高くなっている。(図表8-10)

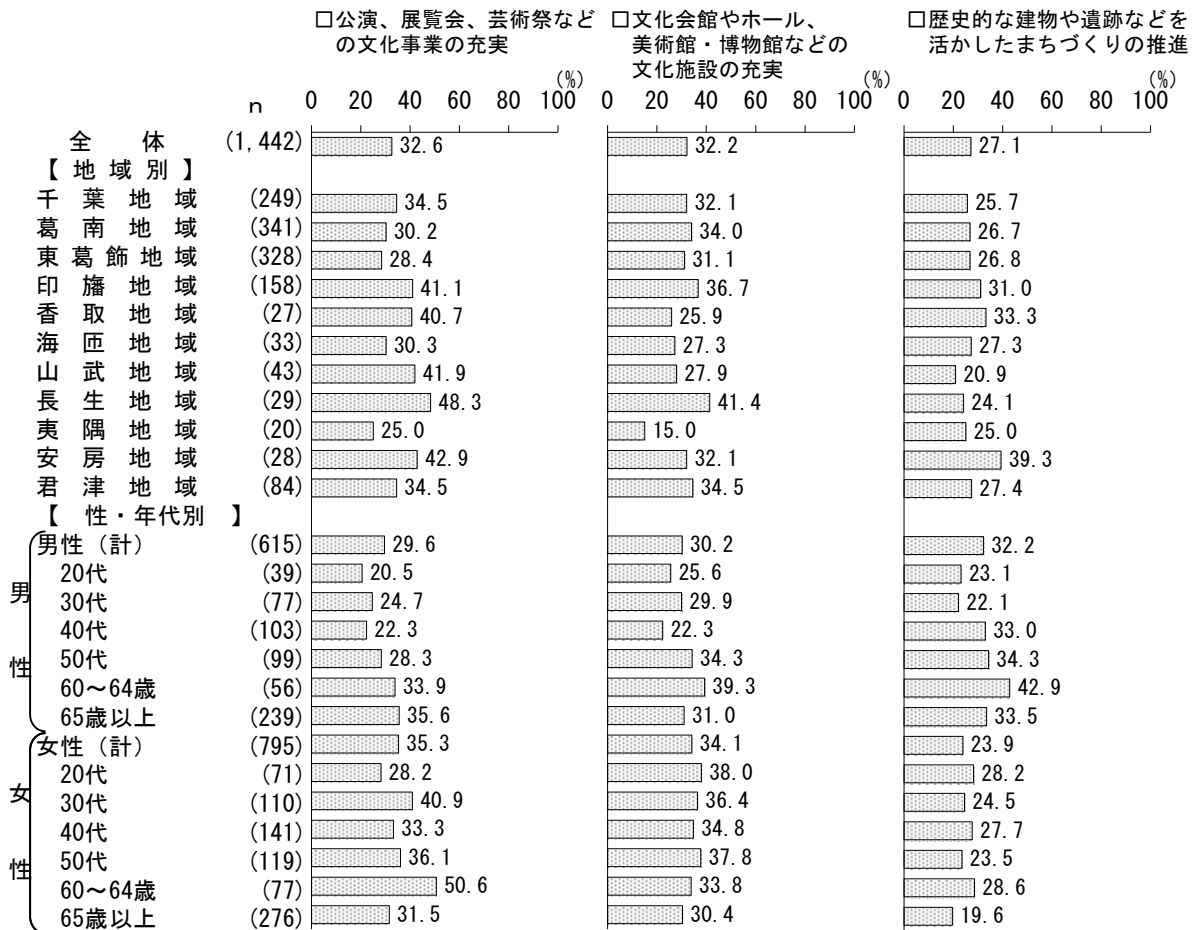
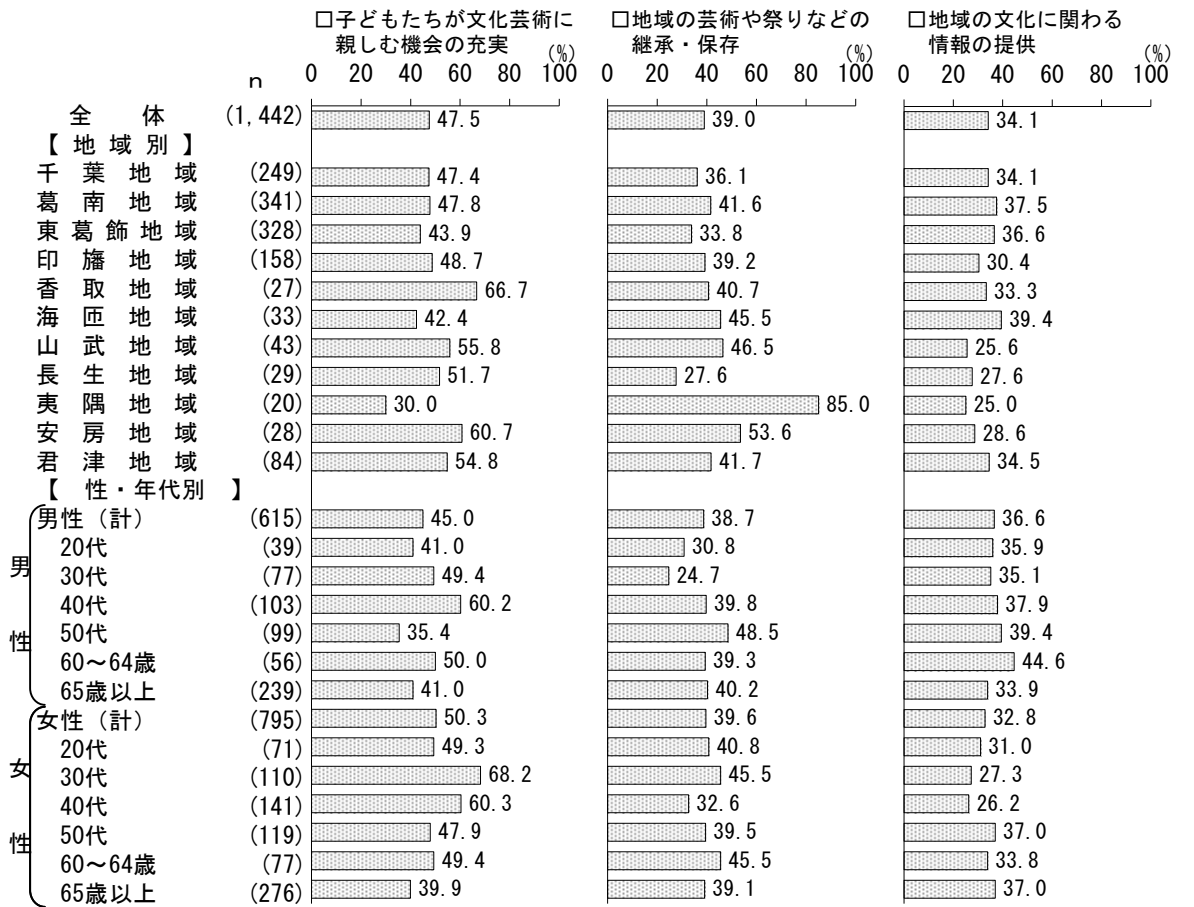
【性・年代別】

性・年代別にみると、「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」が女性の30代(68.2%)で約7割、40代(60.3%)、男性の40代(60.2%)で6割と、他の年代に比べて高くなっている。

「地域の芸術や祭りなどの継承・保存」は、男性の50代(48.5%)で約5割と、他の年代に比べて高くなっている。

「公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実」は、女性の60～64歳(50.6%)で5割と、「歴史的な建物や遺跡などを活かしたまちづくりの推進」は、男性の60～64歳(42.9%)で4割を超えており、他の年代に比べて高くなっている。(図表8-10)

＜図表８－１０＞地域の文化的環境に必要なこと／地域別、性・年代別

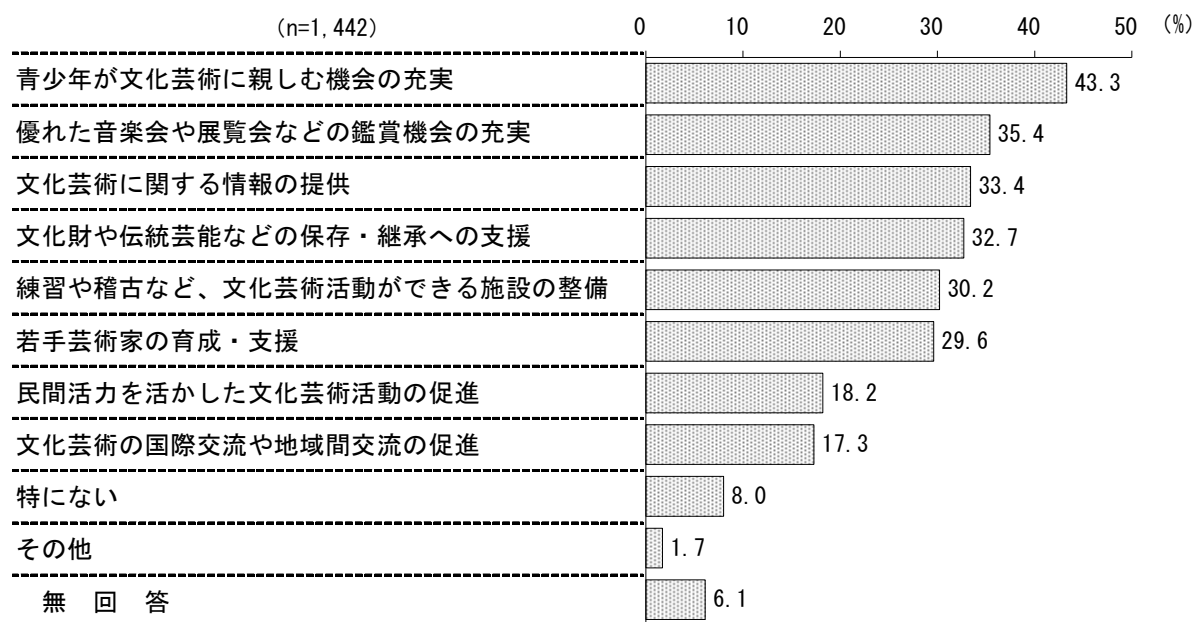


(6) 文化芸術を振興するために県が果たす役割

◇「青少年が文化芸術に親しむ機会の充実」が4割

問33 あなたは、千葉県の文化芸術を振興するために、県が果たす役割はどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

<図表 8-11>文化芸術を振興するために県が果たす役割



文化芸術を振興するために県が果たす役割として、「青少年が文化芸術に親しむ機会の充実」(43.3%)が4割台半ばと最も高く、以下、「優れた音楽会や展覧会などの鑑賞機会の充実」(35.4%)、「文化芸術に関する情報の提供」(33.4%)、「文化財や伝統芸能などの保存・継承への支援」(32.7%)となっている。(図表 8-11)

【地域別】

地域別にみると、「青少年が文化芸術に親しむ機会の充実」は“長生地域”(62.1%)、“安房地域”(60.7%)で6割以上、“印旛地域”(51.3%)で5割を超え、他の地域に比べて高くなっている。

「文化財や伝統芸能などの保存・継承への支援」は“山武地域”(51.2%)で5割を超え、“夷隅地域”(50.0%)で5割と、他の地域に比べて高くなっている。(図表 8-12)

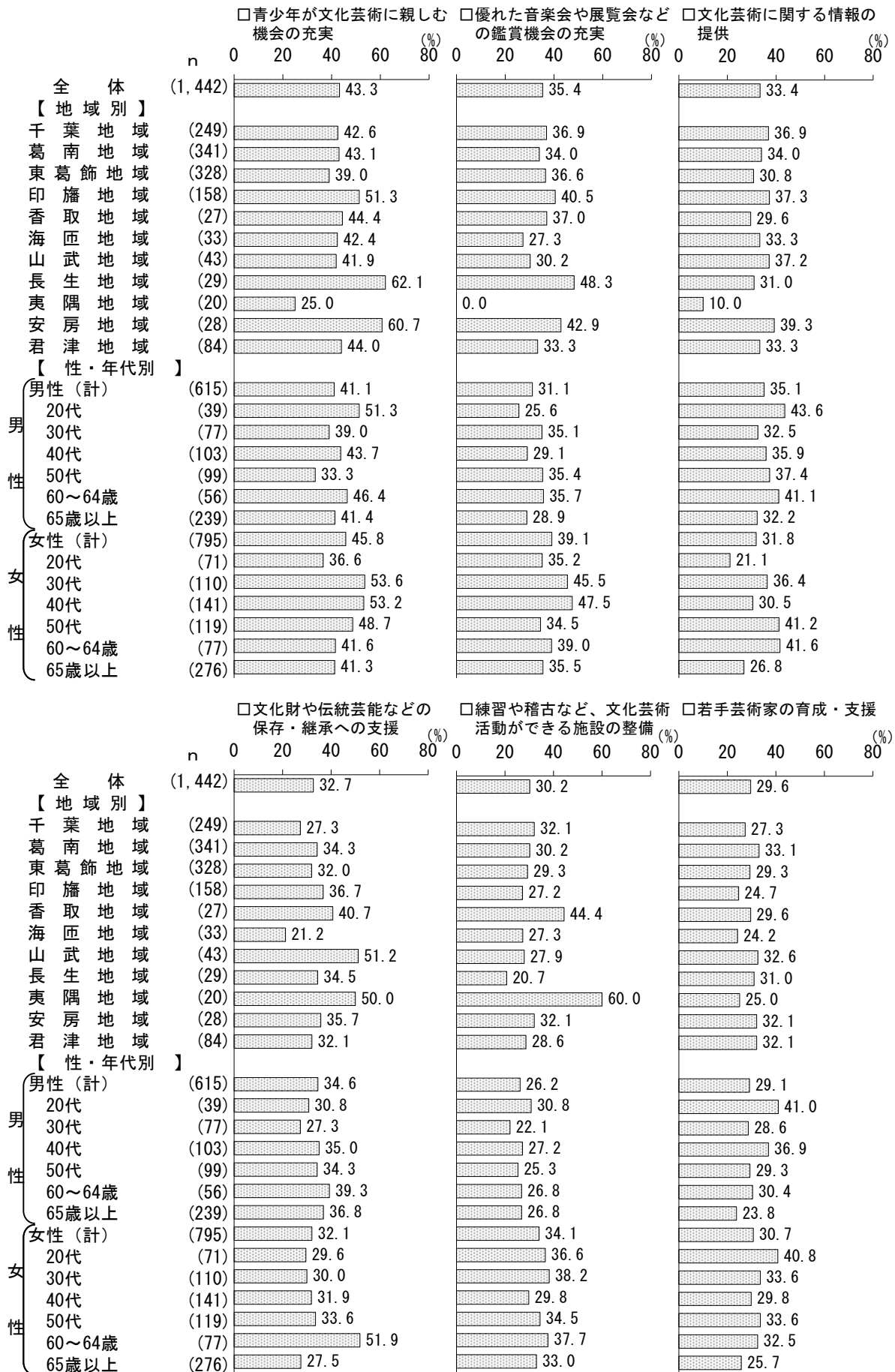
【性・年代別】

性・年代別にみると、「青少年が文化芸術に親しむ機会の充実」は女性の30代(53.6%)、40代(53.2%)、男性の20代(51.3%)で5割を超え、他の年代に比べて高くなっている。

「優れた音楽会や展覧会などの鑑賞機会の充実」でも、女性の40代(47.5%)で約5割、30代(45.5%)で4割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。

「文化財や伝統芸能などの保存・継承への支援」は、女性の60～64歳(51.9%)で5割を超えて、他の年代に比べて高くなっている。(図表 8-12)

＜図表８－１２＞文化芸術を振興するために県が果たす役割／地域別、性・年代別（上位６項目）



このほかに、「県民の文化芸術活動について」やここまでの質問（問28～問33）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、89人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「県民の文化芸術活動について」の自由回答（抜粋）

- 千葉県でも伝統芸能が沢山あると思います。地元でやっている伝統芸能をもっと県で取り入れて新聞、報道等で大きく取り入れられてもっと千葉を知ってもらえると楽しい県になると思います。（女性、40代、海匝地域）
- 自分の興味のあるものは、聞いて、見て、さわって…やってみたい…と思います。ぜひそんな機会があったら…と思います。（男性、65歳以上、君津地域）
- 若者が文化の継承者となれるよう、触れる機会を増やすと同時に、民間で歴史的な文化芸術活動に取り組もうとする主体には、予算や課税などで優遇できるような仕組みを考えていけないものかと思う。（女性、50代、君津地域）
- 小学生のうちから多様な文化芸術に触れる機会を増やして欲しい。また、高齢者なども安く近くで楽しめる催しを増やし、情報に触れやすくして欲しい。（女性、30代、葛南地域）
- 広報などで発信されていると思うが発信力が足りないと思われる。チラシやポスターを充実させた方が良くと思う。（男性、50代、東葛飾地域）
- 市によって差があるとは思いますが、もう少し市全体が芸術に興味を持てるように取り組むべきだと思う。また、地元の芸術家を支援する事で、市民も応援しようという気持ち生まれ、活気づくと思う。（女性、30代、千葉地域）
- 地域の歴史と伝統を大切に文化（郷土）を活かした活動が大切だ。それが地域活性化につながる。（男性、65歳以上、葛南地域）
- 地域への愛着心こそが街づくりの原動力だと考える。そのため、若者が地域への愛着を感じる「体験」の充実を希望する。（女性、20代、夷隅地域）
- つい東京都内に目が行ってしまいますので、千葉県は「これ」というのを育成してほしいです。（男性、60～64歳、東葛飾地域）
- 若い世代が文化芸術にふれる機会づくりに力を入れていただきたいです。（男性、40代、東葛飾地域）

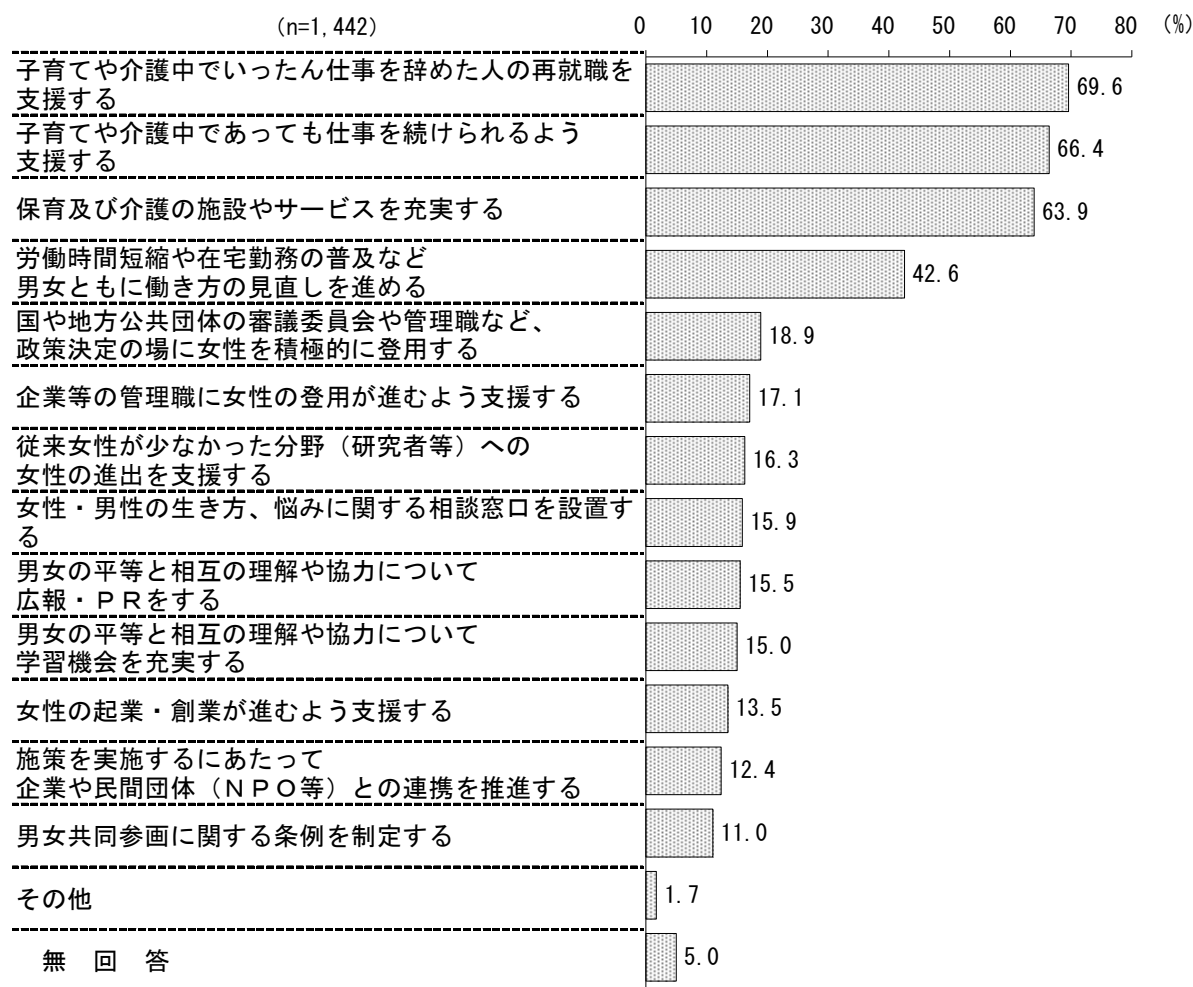
9 男女共同参画社会の形成促進について

(1) 今後、行政が力を入れるべきこと

◇「子育てや介護中でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が約7割

問34 あなたは男女共同参画社会を実現するための様々な取組のなかで、今後、行政はどのようなことにより力を入れるべきと考えますか。(〇はいくつでも)

<図表9-1>今後、行政が力を入れるべきこと



男女共同参画社会を実現するために、今後、行政が力を入れるべきこととして「子育てや介護中でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(69.6%)が約7割と最も多くあげられ、以下、「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」(66.4%)、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」(63.9%)、「労働時間短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」(42.6%)となっている。(図表9-1)

【地域別】

地域別にみると、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」が“香取地域”（88.9％）で約9割と、他の地域に比べて高くなっている。（図表9－2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「子育てや介護中でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」は男性の20代（79.5％）、女性の30代（79.1％）で約8割と、他の年代に比べて高くなっている。

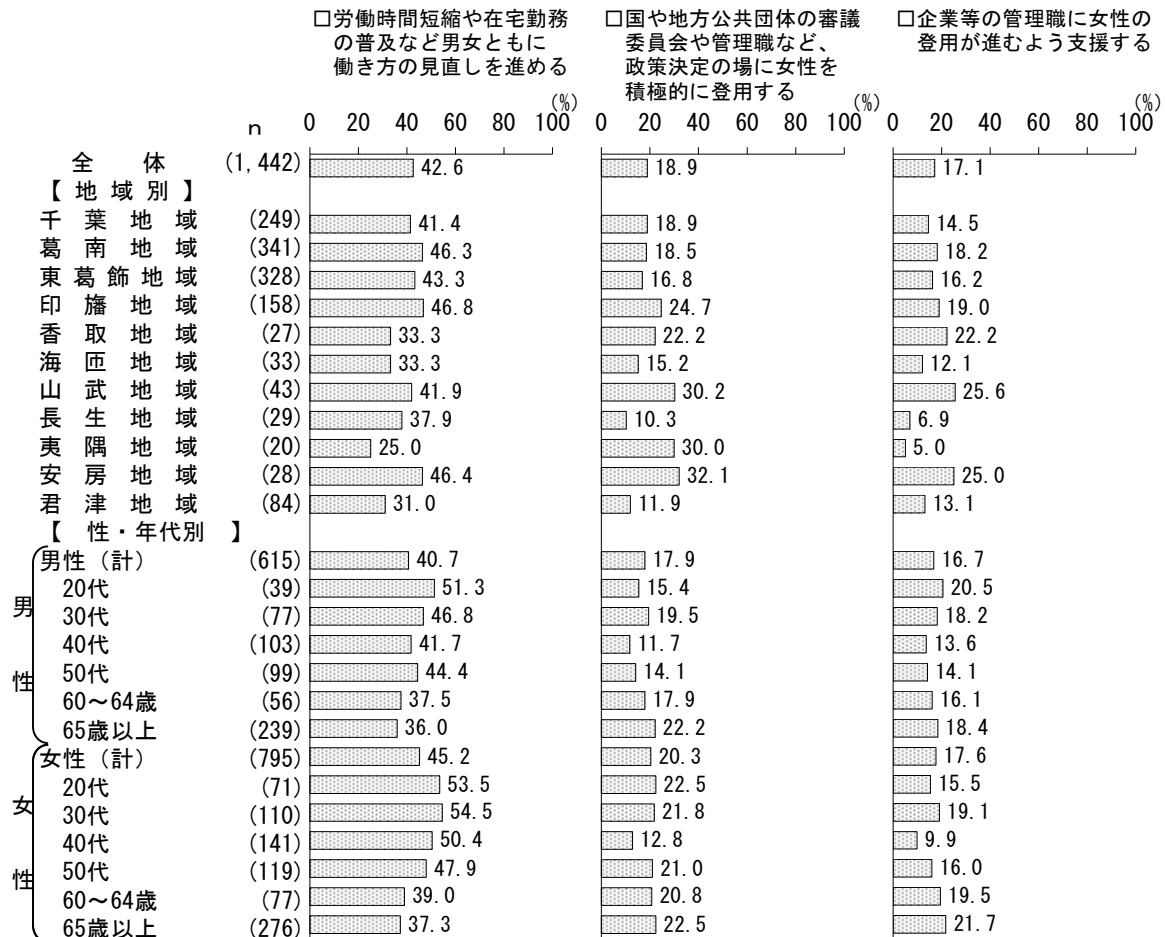
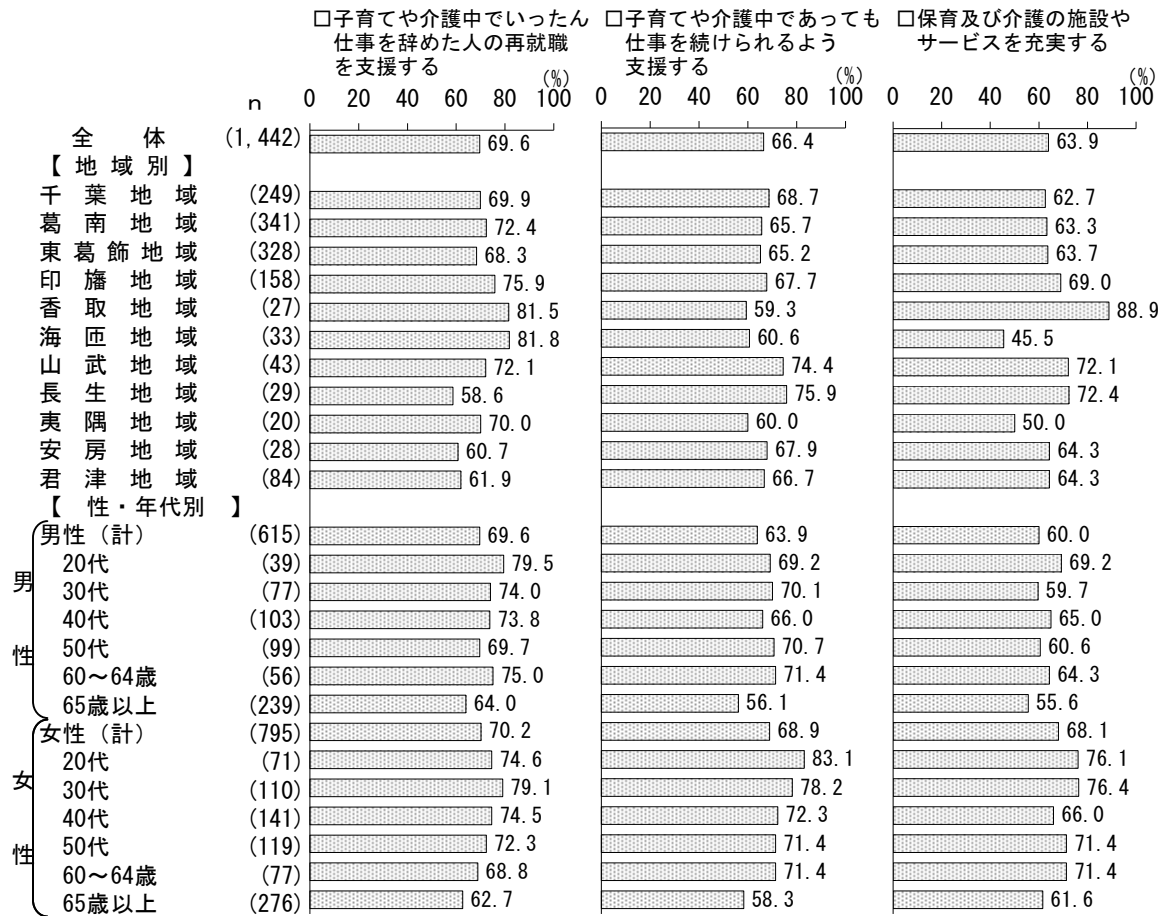
「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」は女性の20代（83.1％）で8割を超えて、他の年代に比べて高くなっている。

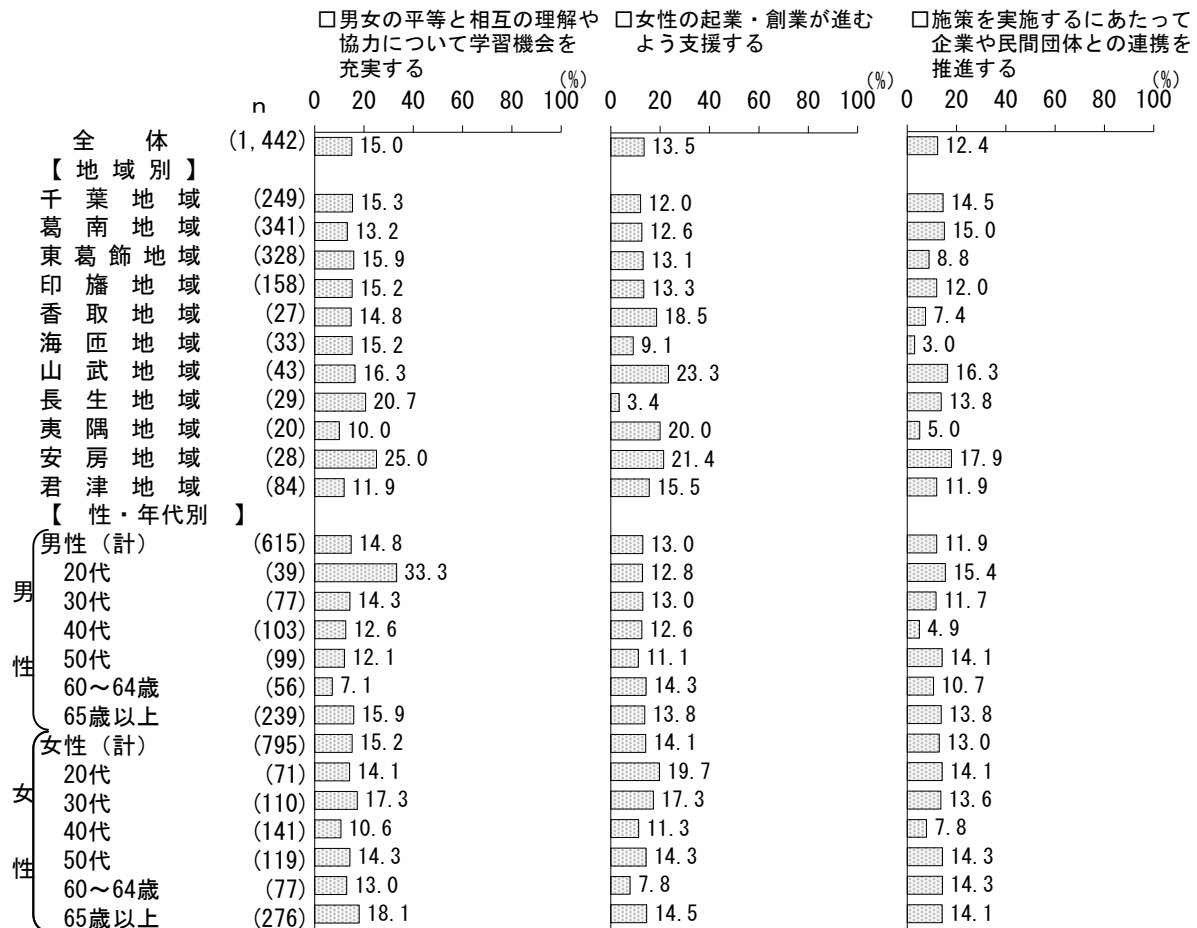
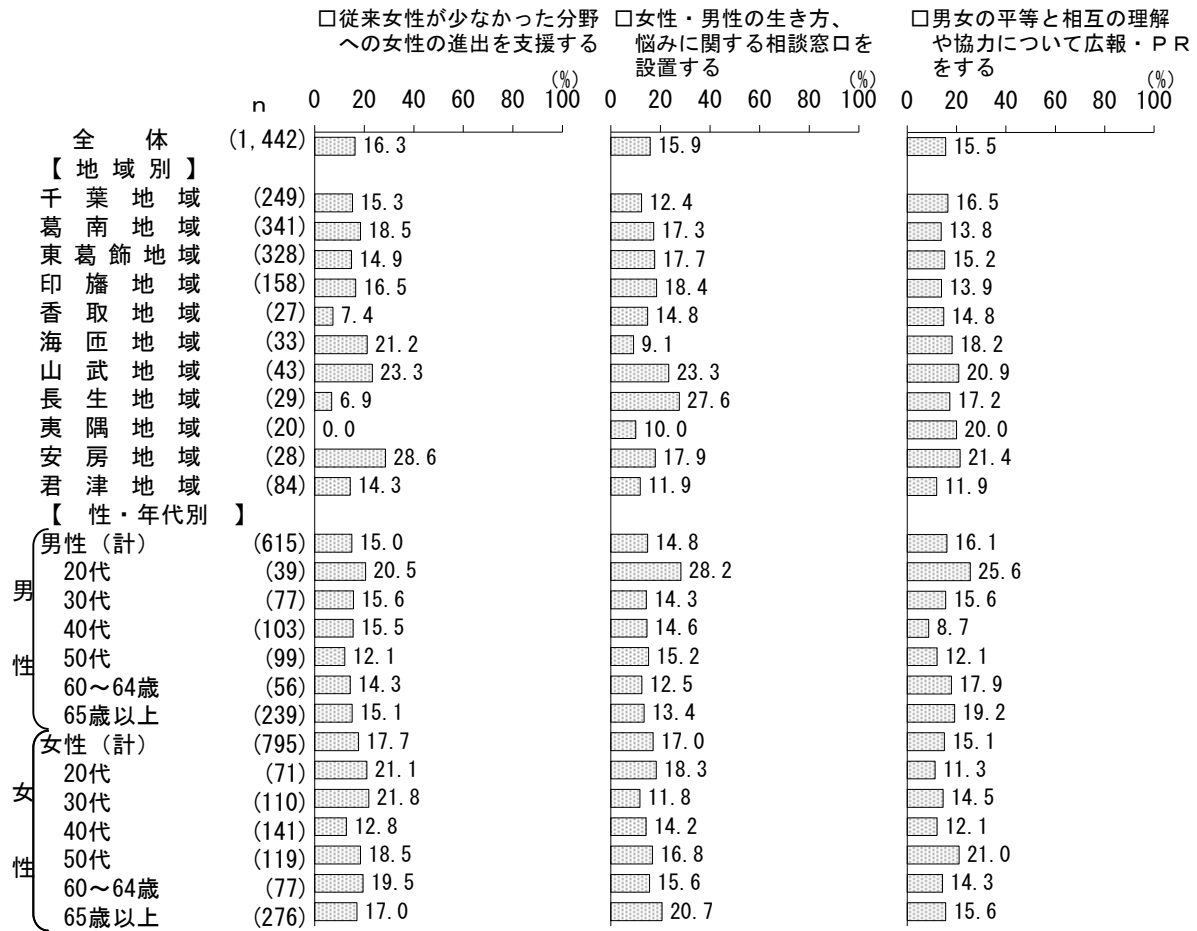
「保育及び介護の施設やサービスを充実する」は女性の30代（76.4％）、20代（76.1％）で7割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。

「労働時間短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」は女性の30代（54.5％）、20代（53.5％）で5割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。

「男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する」は男性の20代（33.3％）で3割を超え、「女性・男性の生き方、悩みに関する相談窓口を設置する」も男性の20代（28.2％）で約3割と、他の年代に比べて高くなっている。（図表9－2）

＜図表９－２＞今後、行政が力を入れるべきこと／地域別、性・年代別



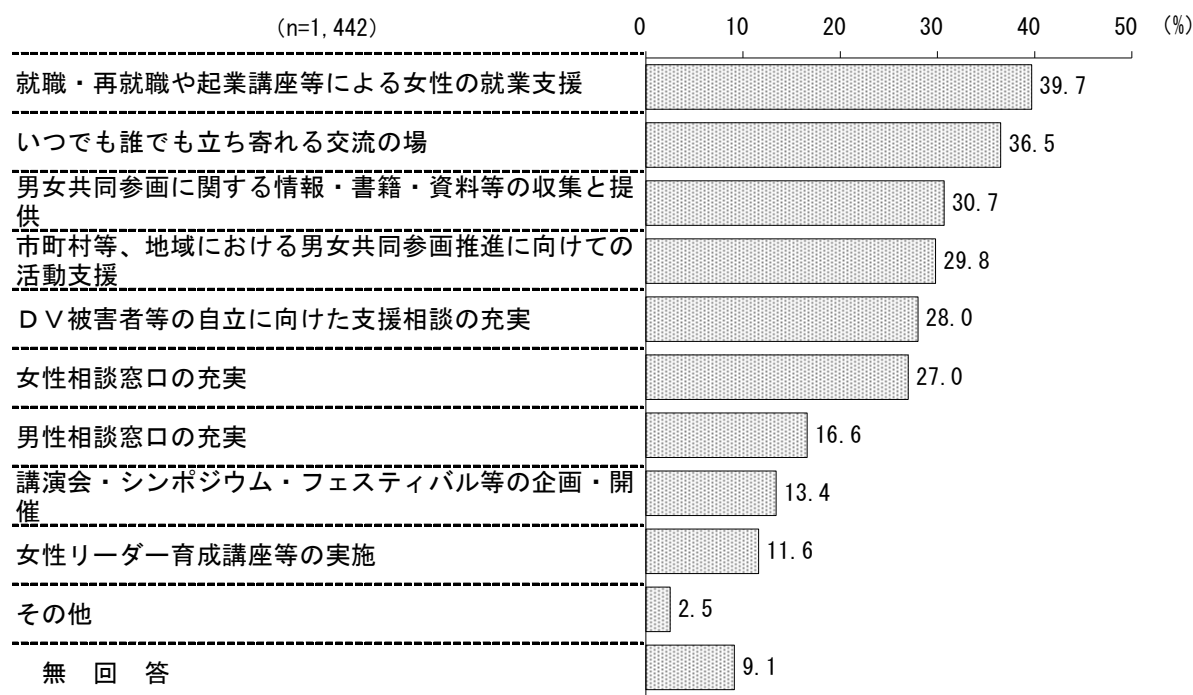


(2) 「男女共同参画センター」で充実すべき事業

◇「就職・再就職や起業講座等による女性の就業支援」が約4割

問35 県では男女共同参画推進拠点として、「男女共同参画センター」を設置しています。あなたは、この男女共同参画センターにどのような事業を充実させるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

<図表9-3> 「男女共同参画センター」で充実すべき事業



「男女共同参画センター」で充実すべき内容は、「就職・再就職や起業講座等による女性の就業支援」(39.7%) が約4割と最も高く、以下、「いつでも誰でも立ち寄れる交流の場」(36.5%)、「男女共同参画に関する情報・書籍・資料等の収集と提供」(30.7%)、「市町村等、地域における男女共同参画推進に向けての活動支援」(29.8%)、「DV被害者等の自立に向けた支援相談の充実」(28.0%)、「女性相談窓口の充実」(27.0%)が続く。(図表9-3)

【地域別】

地域別にみると、「就職・再就職や起業講座等による女性の就業支援」は“君津地域”（50.0％）で5割と、他の地域に比べて高くなっている。

「いつでも誰でも立ち寄れる交流の場」は“夷隅地域”（70.0％）で7割と、他の地域に比べて高くなっている。

「市町村等、地域における男女共同参画推進に向けての活動支援」は“長生地域”（48.3％）で約5割と、他の地域に比べて高くなっている。（図表9－4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「就職・再就職や起業講座等による女性の就業支援」は女性の30代（60.0％）、40代（59.6％）で約6割と、他の年代に比べて高くなっている。

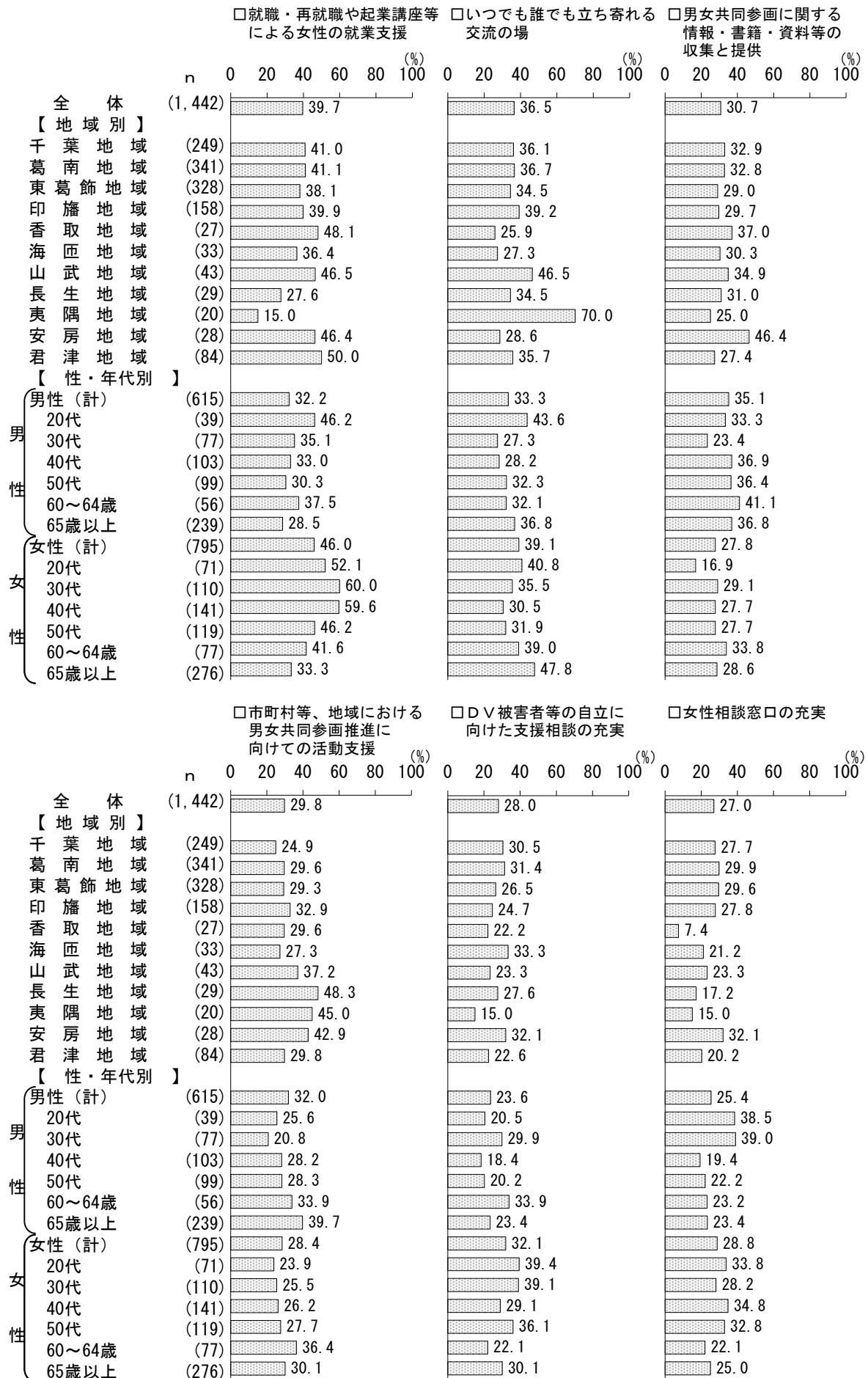
「いつでも誰でも立ち寄れる交流の場」は、女性の65歳以上（47.8％）で約5割と、他の年代に比べて高くなっている。

「市町村等、地域における男女共同参画推進に向けての活動支援」は、男性の65歳以上（39.7％）で約4割と、他の年代に比べて高くなっている。

「DV被害者等の自立に向けた支援相談の充実」は、女性の20代（39.4％）、30代（39.1％）で約4割と、他の年代に比べて高くなっている。

「女性相談窓口の充実」は、男性の30代（39.0％）、20代（38.5％）で約4割と、他の年代に比べて高くなっている。（図表9－4）

<図表9-4>「男女共同参画センター」で充実すべき事業／地域別、性・年代別（上位6項目）



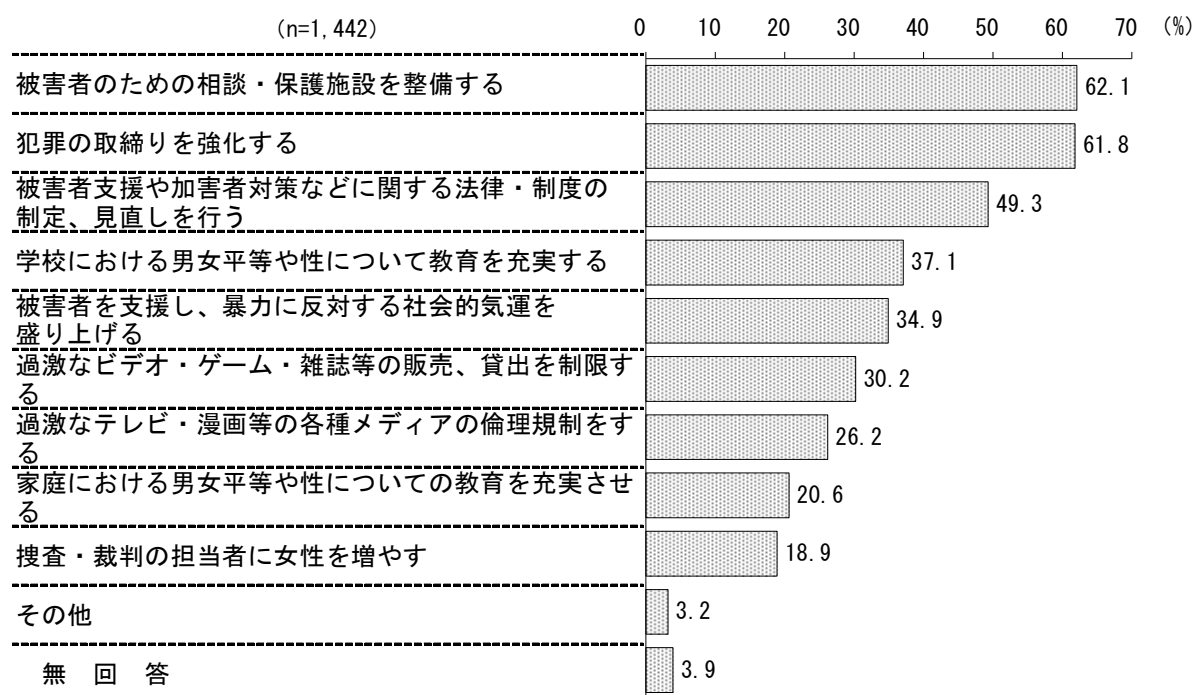
(3) DVやセクハラ、ストーカー行為をなくすためにすべきこと

◇「被害者のための相談・保護施設を整備する」、「犯罪の取締りを強化する」が6割

問36 性犯罪や配偶者・恋人等から受ける暴力であるドメスティック・バイオレンス（DV）、職場等での性的な嫌がらせのセクシャル・ハラスメント（セクハラ）、つきまとい等の行為をするストーカーなどの性に関する様々な問題が社会的な課題となっています。

あなたは、このような行為をなくすためには、どのようにしたら良いと思いますか。
（〇はいくつでも）

＜図表9－5＞DVやセクハラ、ストーカー行為をなくすためにすべきこと



DVやセクハラ、ストーカー行為をなくすためにすべきこととして「被害者のための相談・保護施設を整備する」（62.1%）、「犯罪の取締りを強化する」（61.8%）が6割を超え、多くあげられている。以下、「被害者支援や加害者対策などに関する法律・制度の制定、見直しを行う」（49.3%）、「学校における男女平等や性について教育を充実する」（37.1%）、「被害者を支援し、暴力に反対する社会的気運を盛り上げる」（34.9%）となっている。（図表9－5）

【性・年代別】

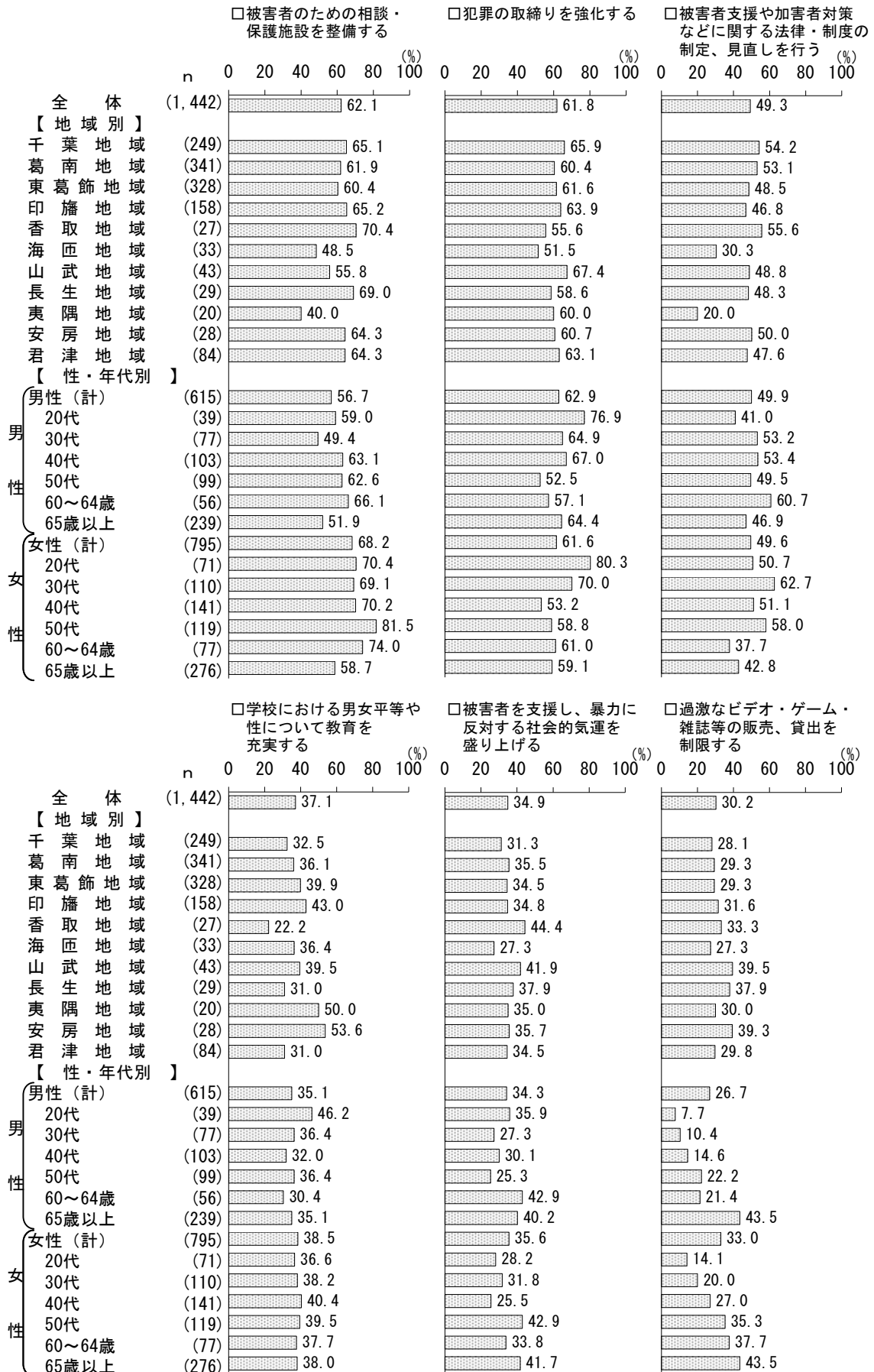
性・年代別にみると、「被害者のための相談・保護施設を整備する」は、女性の50代（81.5%）で8割を超えており、他の年代に比べて特になっている。

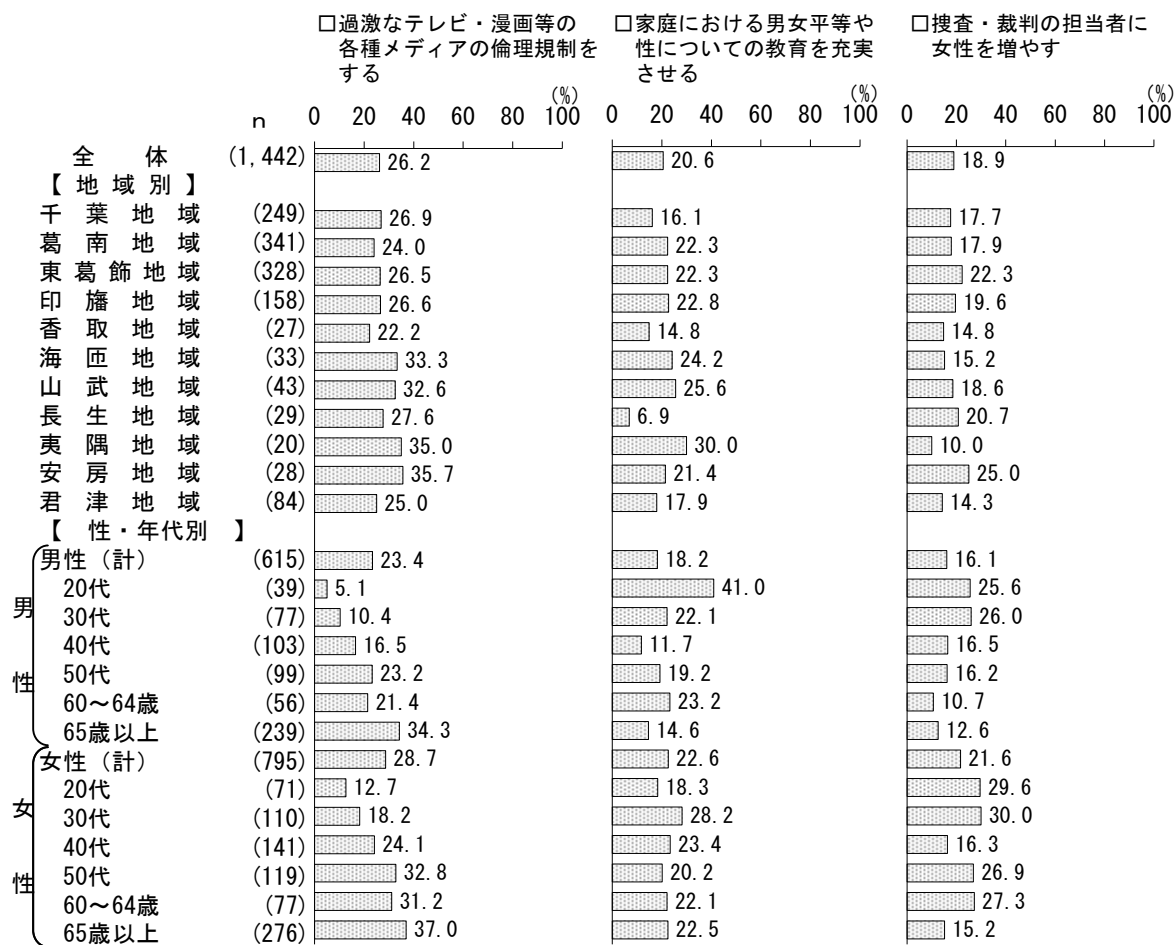
「犯罪の取締りを強化する」は、女性の20代（80.3%）で8割、男性の20代（76.9%）で7割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。

「被害者支援や加害者対策などに関する法律・制度の制定、見直しを行う」は、女性の30代（62.7%）、男性の60～64歳（60.7%）で6割を超えており、他の年代に比べて高くなっている。

「過激なビデオ・ゲーム・雑誌等の販売、貸出を制限する」は、男女の65歳以上（ともに43.5%）で4割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。（図表9－6）

＜図表９－６＞ＤＶやセクハラ、ストーカー行為をなくすためにすべきこと
／地域別、性・年代別





このほかに、「男女共同参画社会の形成促進について」やここまでの質問（問34～問36）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、99人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「男女共同参画社会の形成促進について」の自由回答（抜粋）

○DVなどから逃げるシェルターのようなものを、もっと分かりやすくした方がいいと思う。逃げる為の協力を積極的に行い、逃げる勇気を与えてあげた方がいいと思う。

（女性、30代、東葛飾地域）

○今の男女平等は偽りのように見える。本来は男女関係なく、適切な能力を持った者を登用すべきところを、男女何名ずつとすれば、おかしい事になると思う。（男性、30代、千葉地域）

○男とか女とかの区別なく、人として管理職やリーダーになれるよう仕事や教育を行っていくことが大切と考える。「女性を積極的に登用する」のではなく、人間として、優秀なリーダーたるものを起用する。（男性、60～64歳、東葛飾地域）

○企業における女性管理職登用は、ある程度法的拘束力を行使し、国や都道府県が先導していく必要があると思う。（女性、30代、葛南地域）

○子育てや介護などで一旦仕事を辞めざるを得なかった方への支援は、早急に実施すべきだと思う。又、企業の理解も重要である。企業リーダーの意識改革をお願いしたい。

（男性、40代、東葛飾地域）

○育児、介護という問題で仕事を辞めざるを得ないのは、実際には女性である。男性も休暇をとれる環境を、社会全体に取り組んでほしい。（女性、40代、君津地域）

○やはり子供の時からの教育が一番大事だと思います。大人になってからでは無理です。

（女性、60～64歳、葛南地域）

○ストーカー被害のニュースなどマスコミで目にしますが警察などもう少し事件を未然に防げるよう何とかできないものかと思います。（女性、50代、安房地域）

○千葉は全国的にも、先進地であったはずだったと思います。更なる推進を。

（男性、40代、長生地域）

○DVやストーカーなどについては、加害者の更生を支援する施設も整備し、加害者を減らしていく取り組みも行うべきだと思う。（男性、20代、印旛地域）

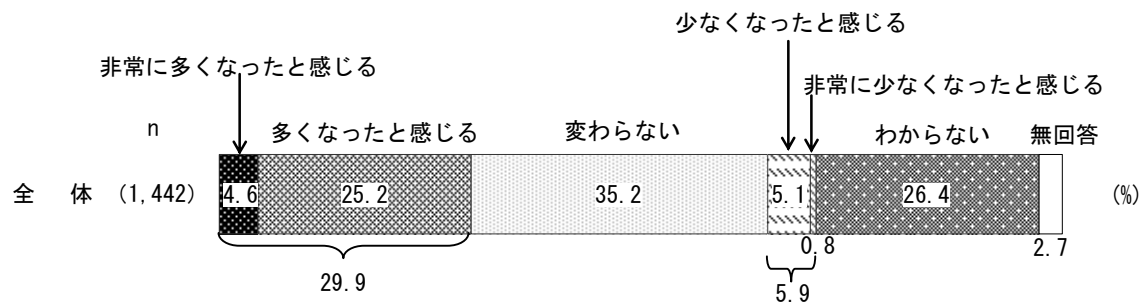
10 県民の治安に対する意識と警察に求めることについて

(1) 居住地域における最近の犯罪発生状況

◇『多くなったと感じる』は約3割

問37 あなたが住んでいる地域における最近の犯罪の発生状況についてどう感じますか。
(○は1つ)

＜図表 10－1＞居住地域における最近の犯罪発生状況



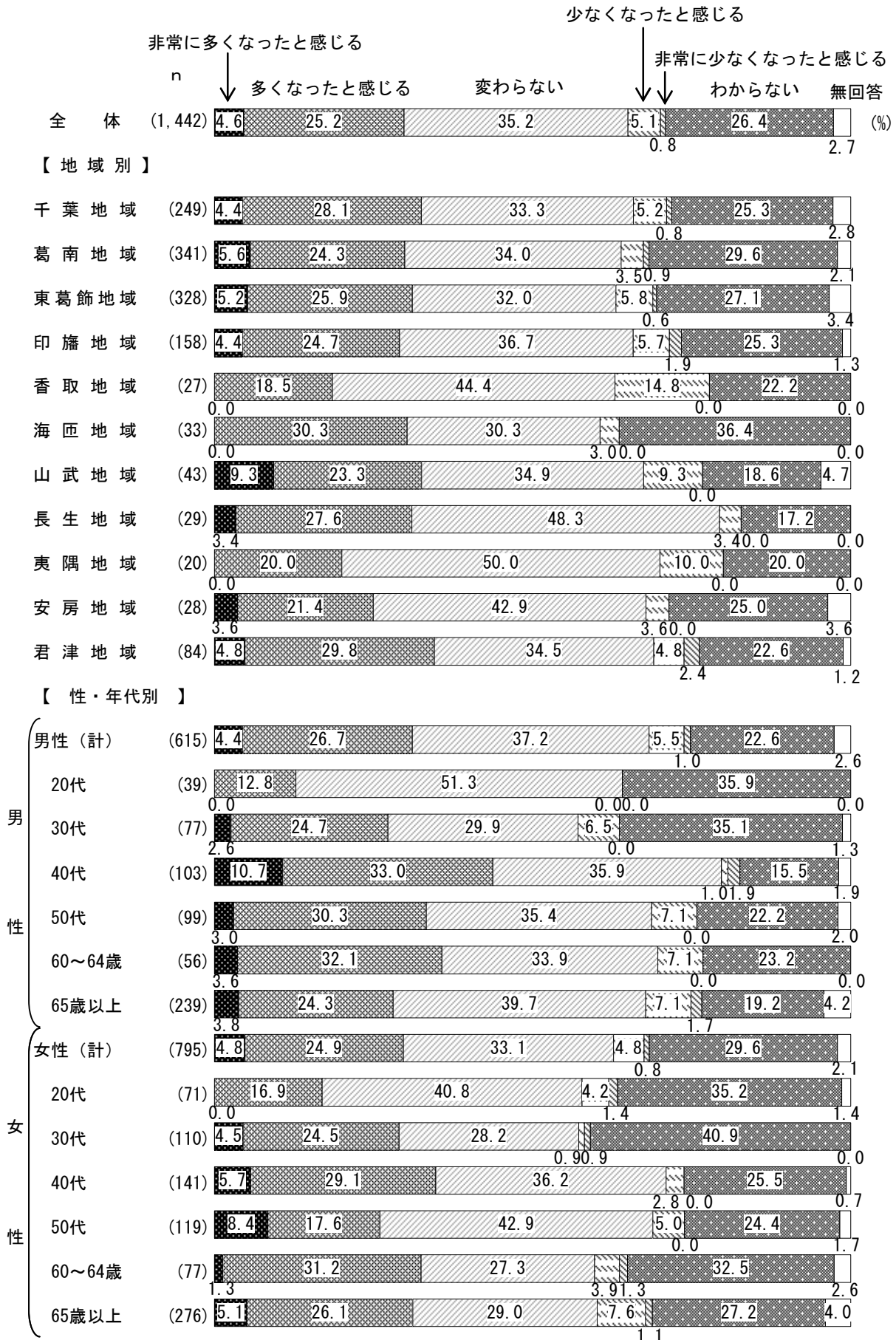
住んでいる地域で最近の犯罪の発生状況を、「非常に多くなったと感じる」(4.6%)、「多くなったと感じる」(25.2%)を合わせた『多くなったと感じる』(29.9%)は約3割である。

一方、「少なくなったと感じる」(5.1%)、「非常に少なくなったと感じる」(0.8%)を合わせた『少なくなったと感じる』は5.9%となっている。(図表10－1)

【性・年代別】

性・年代別にみると、男性の40代(43.7%)で『多くなったと感じる』が4割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。(図表10－2)

<図表 10-2> 居住地域における最近の犯罪発生状況／地域別、性・年代別

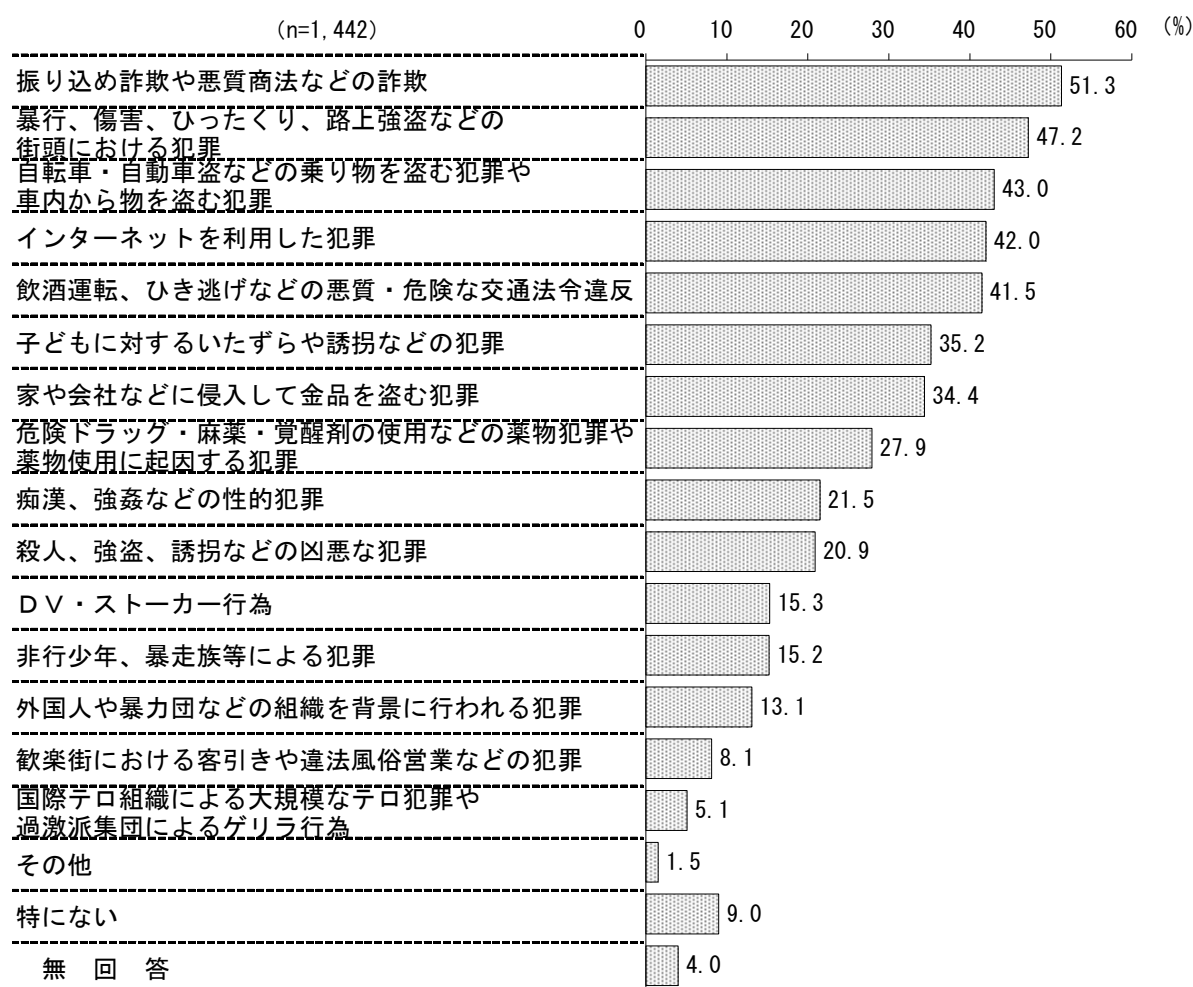


(2) 身近な人が巻き込まれる危険性について不安を感じる犯罪

◇「振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺」が5割を超えている

問38 あなたが、あなた自身やあなたの家族、友人、同僚などの身近な人が犯罪に巻き込まれる危険性について不安を感じている犯罪はありますか。(〇はいくつでも)

<図表 10－3>身近な人が巻き込まれる危険性について不安を感じる犯罪



身近な人が巻き込まれる危険性について、不安を感じる犯罪として「振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺」(51.3%)が5割を超えて最も多くあげられ、以下、「暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪」(47.2%)、「自転車・自動車盗などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪」(43.0%)、「インターネットを利用した犯罪」(42.0%)、「飲酒運転、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反」(41.5%)が続く。(図表10－3)

【地域別】

地域別にみると、「暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪」は“千葉地域”（57.0%）、“葛南地域”（55.4%）で5割台半ばと、他の地域に比べて高くなっている。

「飲酒運転、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反」は“長生地域”（65.5%）で6割台半ばと、他の地域に比べて高くなっている。

「子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪」は“香取地域”（55.6%）で5割台半ばと、他の地域に比べて高くなっている。（図表10－4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺」は、女性の60～64歳（66.2%）で6割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。

「暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪」は、男性の20代（61.5%）、女性の20代（57.7%）、男性の40代（57.3%）で約6割と、他の年代に比べて高くなっている。

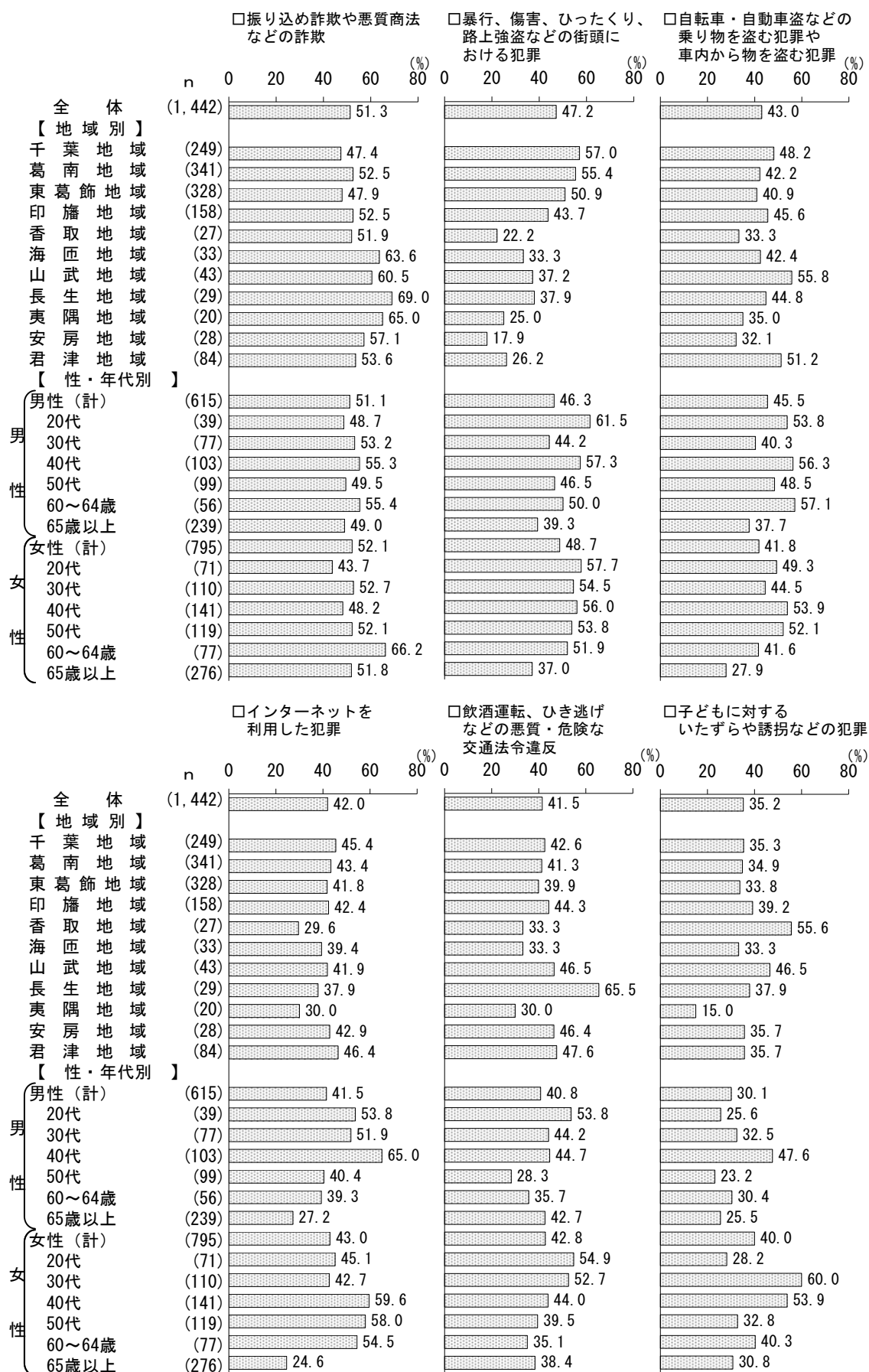
「自転車・自動車盗などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪」は、男性の60～64歳（57.1%）、40代（56.3%）、女性の40代（53.9%）で5割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。

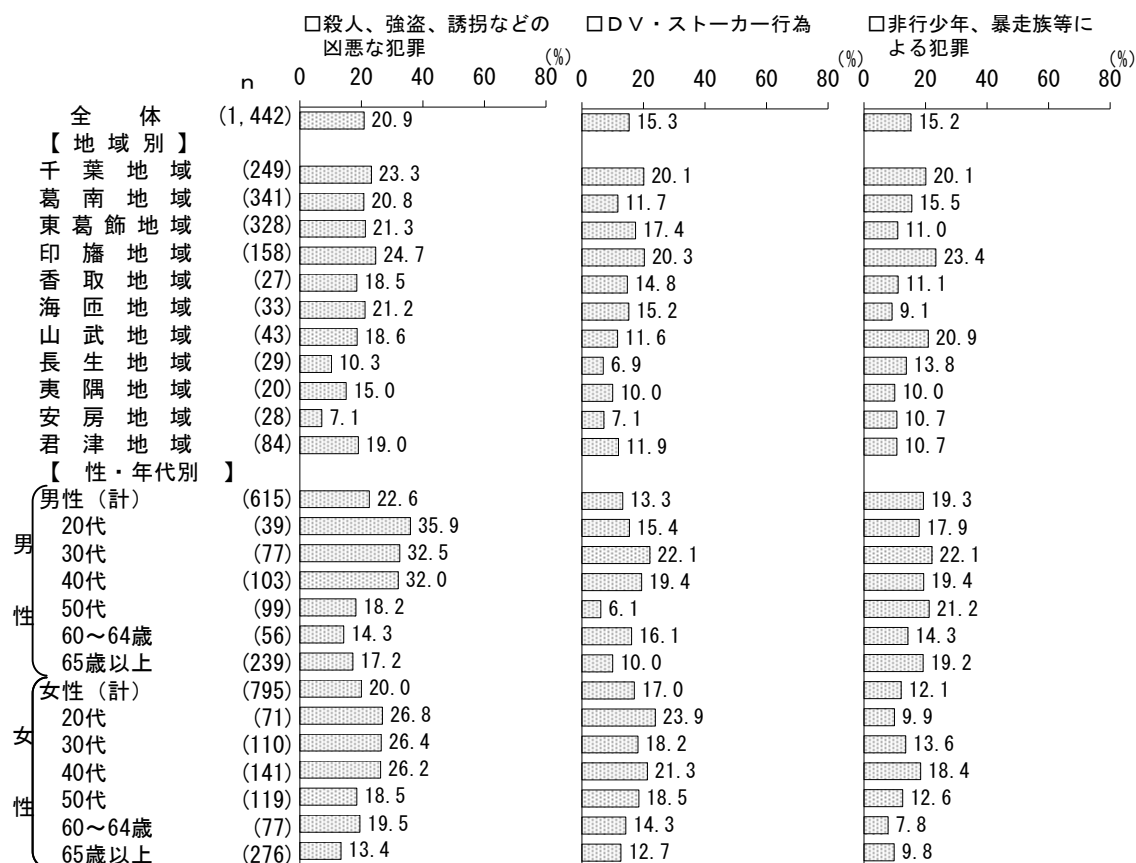
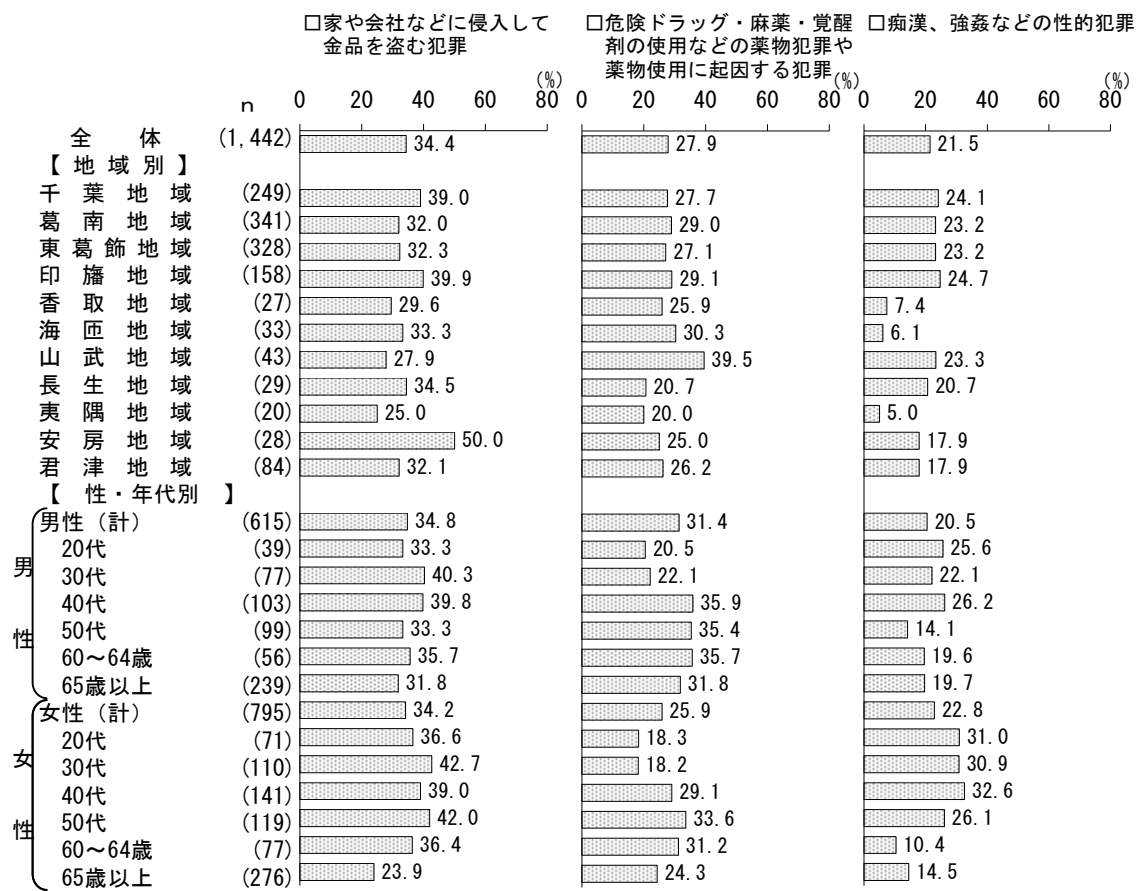
「インターネットを利用した犯罪」は、男性の40代（65.0%）で6割台半ば、女性の40代（59.6%）、50代（58.0%）で約6割と、他の年代に比べて高くなっている。

「飲酒運転、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反」は、女性の20代（54.9%）、男性の20代（53.8%）、女性の30代（52.7%）で5割を超えており、他の年代に比べて高くなっている。

「子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪」は、女性の30代（60.0%）で6割、40代（53.9%）で5割台半ばで、他の年代に比べて高くなっている。（図表10－4）

＜図表 10－4＞身近な人が巻き込まれる危険性について不安を感じる犯罪／地域別、性・年代別





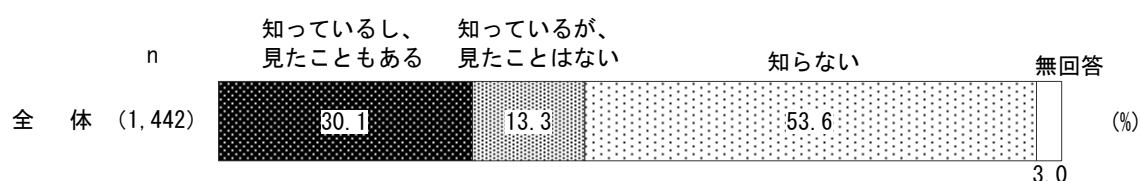
(3) 移動交番車の認知度

◇「知らない」が5割を超えている

問39 県警では、平成22年4月から、安全で安心できる県民生活の確保と地域の防犯力を強化するために、移動交番車を段階的に整備し、平成25年1月からは、県下で計50台の移動交番車を運用しています。

あなたは、千葉県で移動交番車が運用されていることを知っていますか。(○は1つ)

＜図表 10－5＞移動交番車の認知度



移動交番車を「知らない」(53.6%)が5割を超えており、「知っているし、見たこともある」(30.1%)は3割である。(図表10－5)

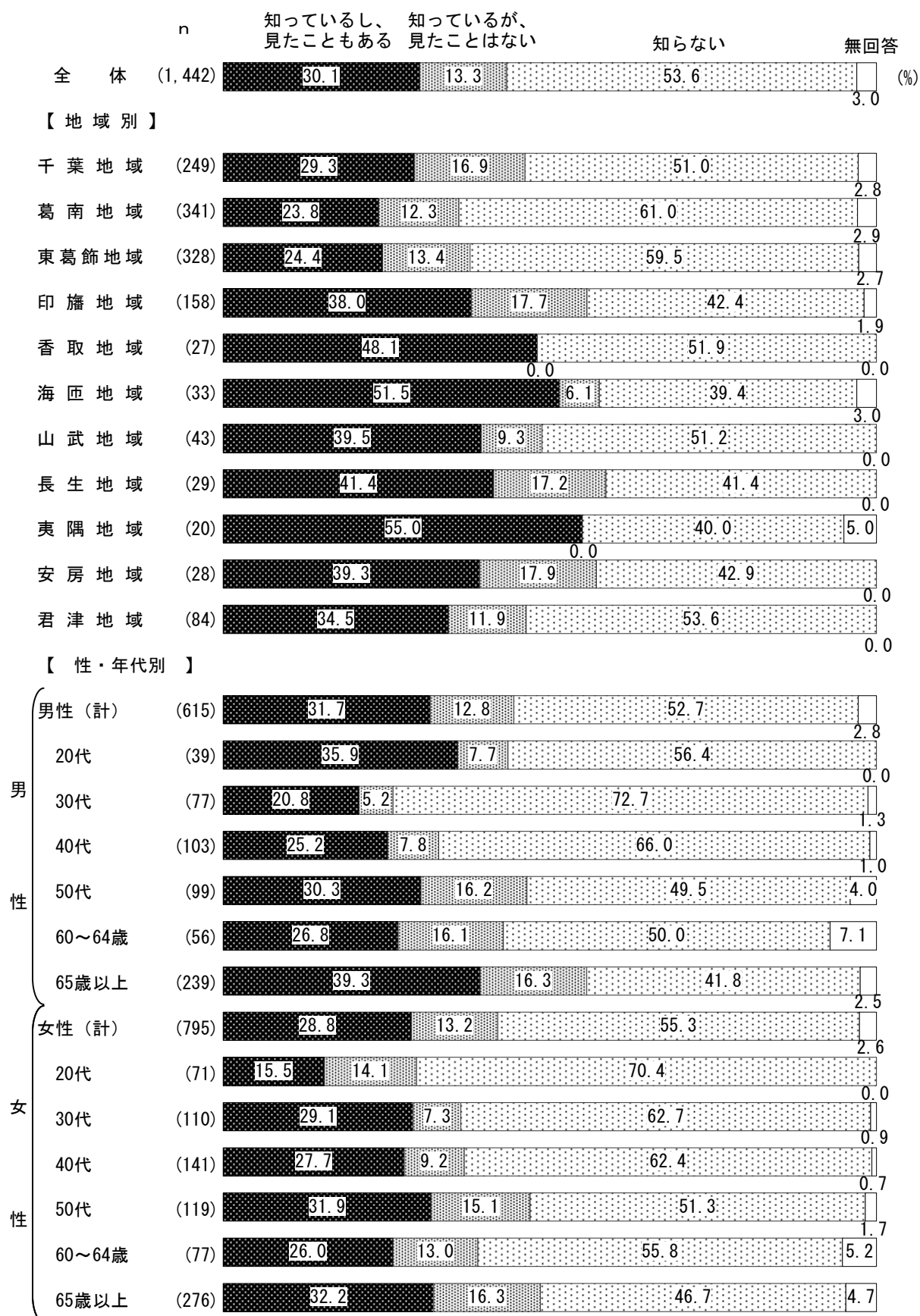
【地域別】

地域別にみると、“葛南地域”(61.0%)で6割、“東葛飾地域”(59.5%)で約6割が「知らない」となっており、他の地域に比べて高くなっている。(図表10－6)

【性・年代別】

性・年代別にみると、男性の30代(72.7%)、女性の20代(70.4%)で7割が「知らない」となっており、他の年代に比べて高くなっている。(図表10－6)

<図表10-6>移動交番車の認知度／地域別、性・年代別

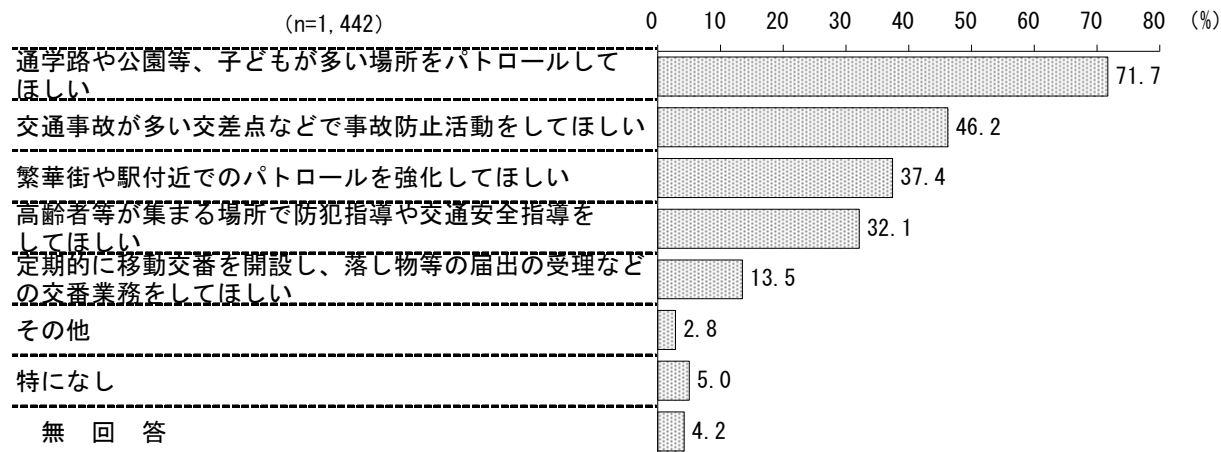


(4) 移動交番車の運用に期待すること

◇「通学路や公園等、子どもが多い場所をパトロールしてほしい」が7割

問40 あなたが移動交番車の運用に期待することは何ですか。(○はいくつでも)

<図表 10－7> 移動交番車の運用に期待すること



移動交番車の運用に期待することは、「通学路や公園等、子どもが多い場所をパトロールしてほしい」(71.7%)が7割を超えて最も多く、以下、「交通事故が多い交差点などで事故防止活動をしてほしい」(46.2%)、「繁華街や駅付近でのパトロールを強化してほしい」(37.4%)が続く。

(図表10－7)

【地域別】

地域別にみると、「交通事故が多い交差点などで事故防止活動をしてほしい」は“安房地域”(78.6%)で約8割と、他の地域に比べて高くなっている。

「繁華街や駅付近でのパトロールを強化してほしい」は“葛南地域”(45.7%)で4割台半ばと、他の地域に比べて高くなっている。(図表10－8)

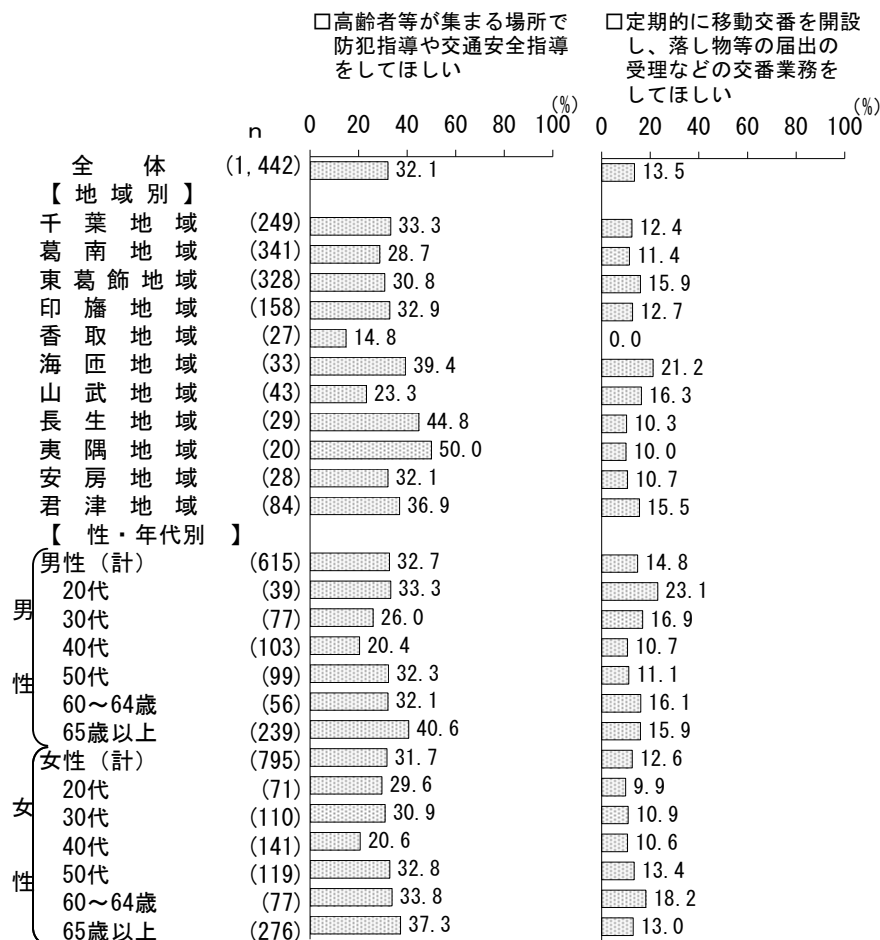
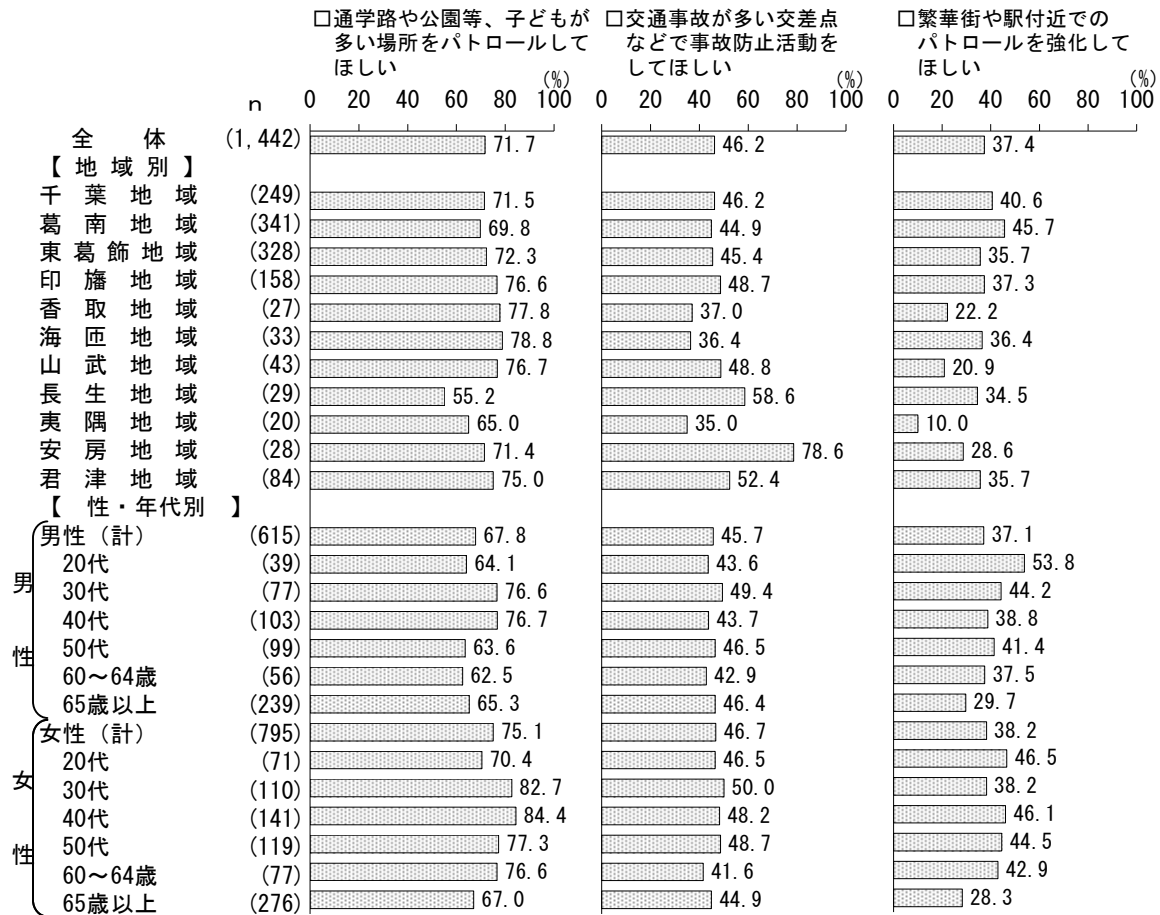
【性・年代別】

性・年代別にみると、「通学路や公園等、子どもが多い場所をパトロールしてほしい」は、女性の40代(84.4%)、30代(82.7%)で8割を超えており、他の年代に比べて高くなっている。

「繁華街や駅付近でのパトロールを強化してほしい」は、男性の20代(53.8%)で5割台半ばと、他の年代に比べて特に高くなっている。

「高齢者等が集まる場所で防犯指導や交通安全指導をしてほしい」は、男性の65歳以上(40.6%)で4割と、他の年代に比べて高くなっている。(図表10－8)

＜図表 10－8＞移動交番車の運用に期待すること／地域別、性・年代別（上位5項目）

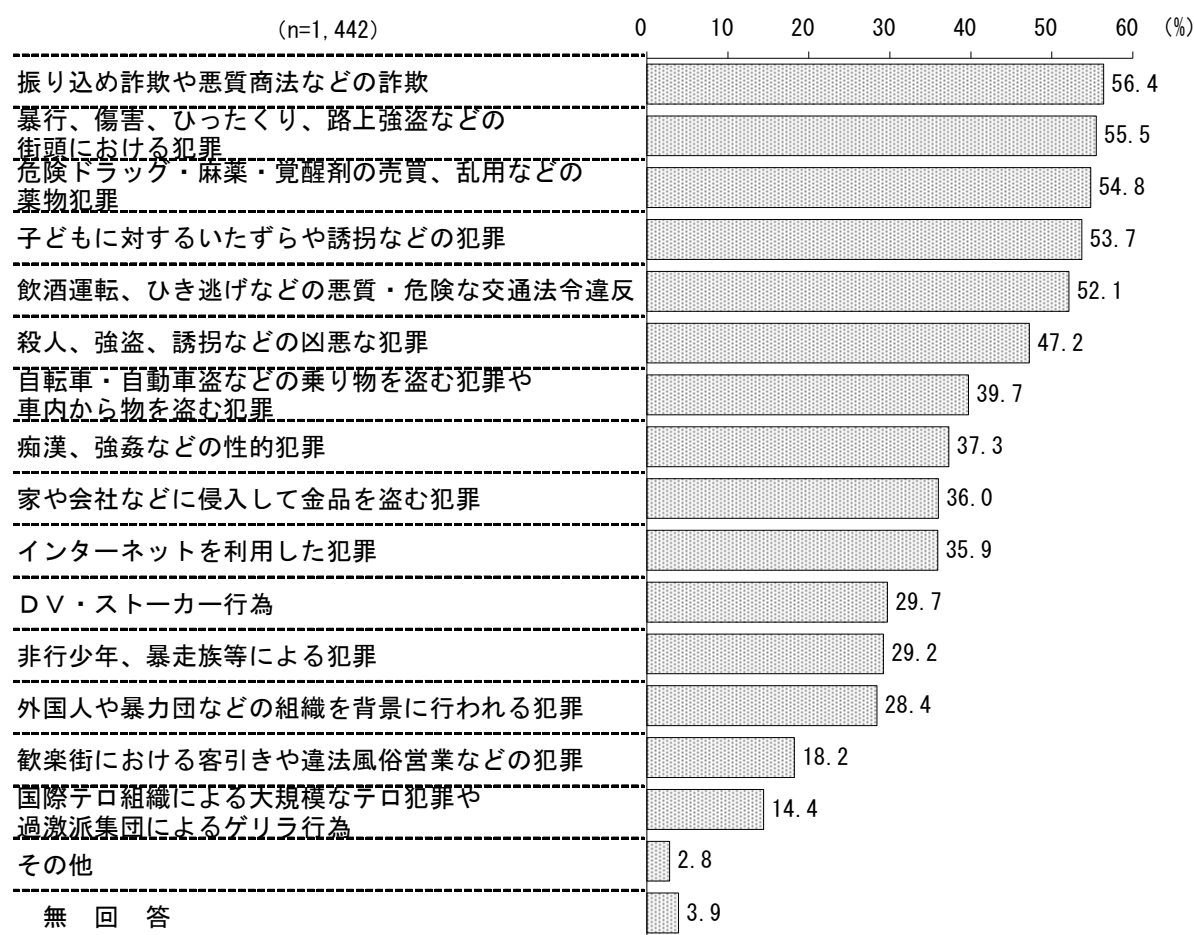


(5) 警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪

◇「振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺」、「暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪」、「危険ドラッグ・麻薬・覚醒剤の売買、乱用などの薬物犯罪」、「子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪」、「飲酒運転、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反」が5割以上

問41 あなたが、警察に力を入れて取り締まって欲しい犯罪は何ですか。(○はいくつでも)

<図表 10－9>警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪



警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪は、「振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺」(56.4%)、「暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪」(55.5%)、「危険ドラッグ・麻薬・覚醒剤の売買、乱用などの薬物犯罪」(54.8%)、「子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪」(53.7%)、「飲酒運転、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反」(52.1%)が5割以上と多い。(図表10－9)

【地域別】

地域別にみると、「暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪」は“葛南地域”（66.3%）で6割台半ばと、他の地域に比べて高くなっている。

「殺人、強盗、誘拐などの凶悪な犯罪」は“印旛地域”（58.2%）で約6割と、他の地域に比べて高くなっている。

「痴漢、強姦などの性的犯罪」は“千葉地域”（44.2%）で4割台半ばと、他の地域に比べて高くなっている。（図表10－10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺」は男性の40代（67.0%）、女性の60～64歳（63.6%）、男性の65歳以上（62.3%）、20代（61.5%）、女性の65歳以上（62.0%）で6割を超えており、他の年代に比べて高くなっている。

「暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪」は女性の30代（65.5%）で6割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。

「子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪」は女性の30代（77.3%）で約8割と、他の年代に比べて高くなっている。

「飲酒運転、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反」は男性の20代（66.7%）、女性の30代（61.8%）で6割を超えており、他の年代に比べて高くなっている。（図表10－10）

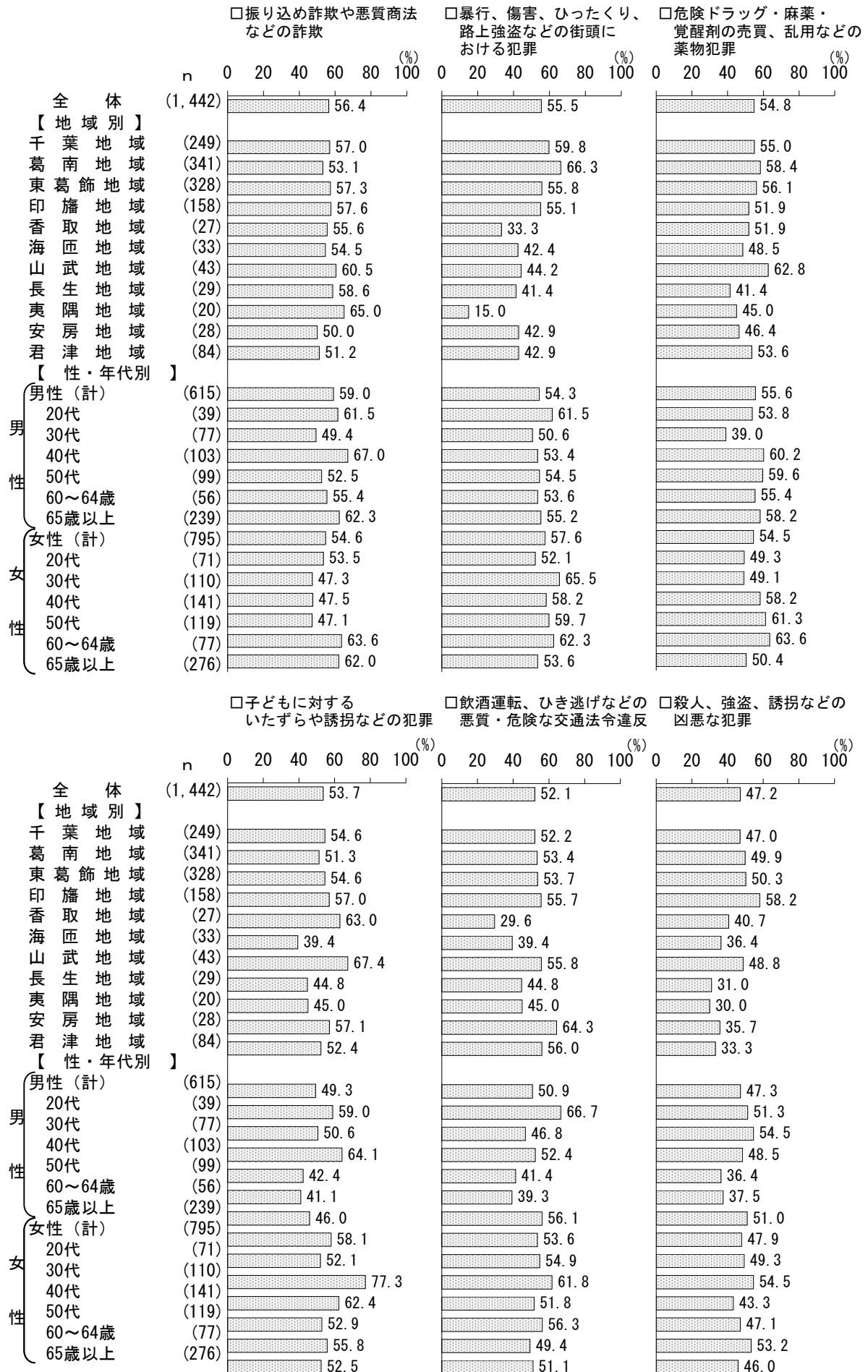
「痴漢、強姦などの性的犯罪」は、女性の40代（53.2%）で5割を超えており、他の年代に比べて高くなっている。

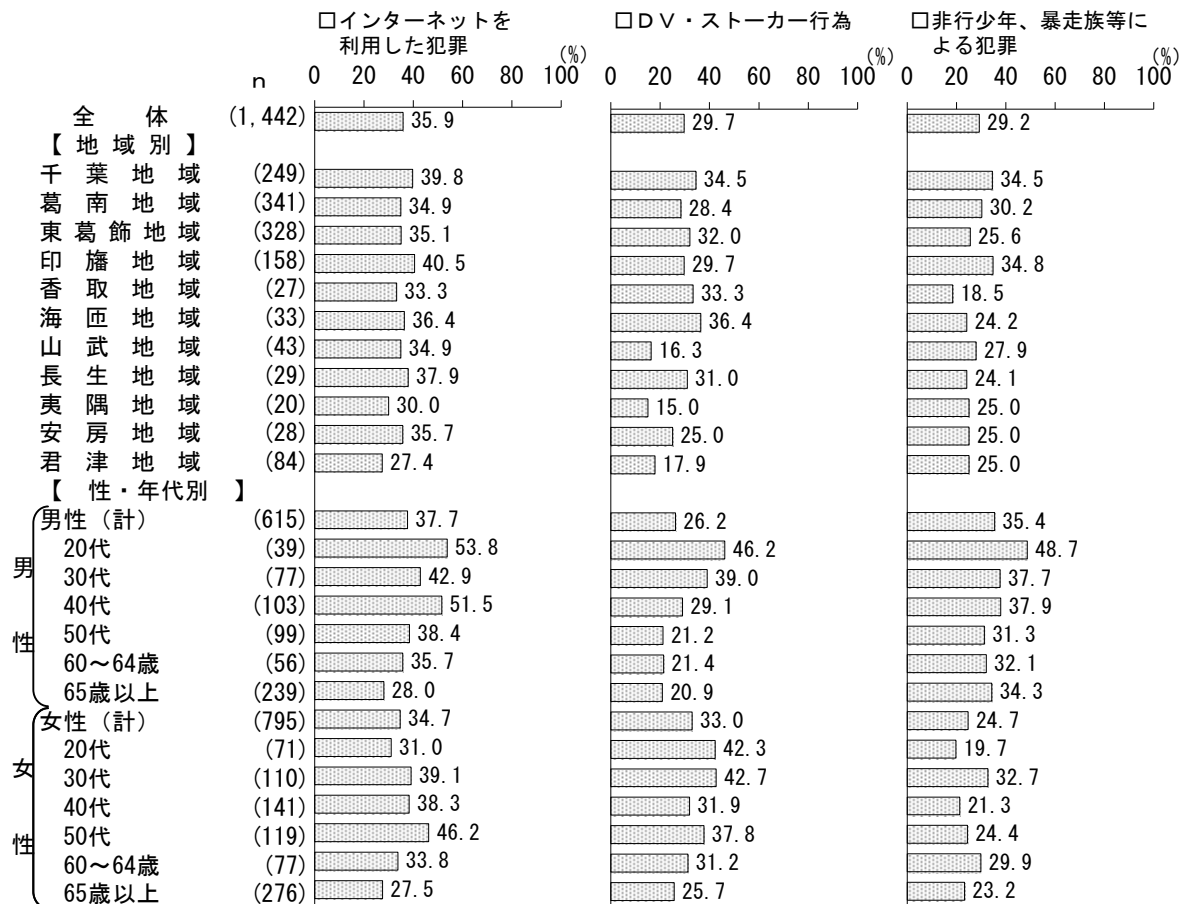
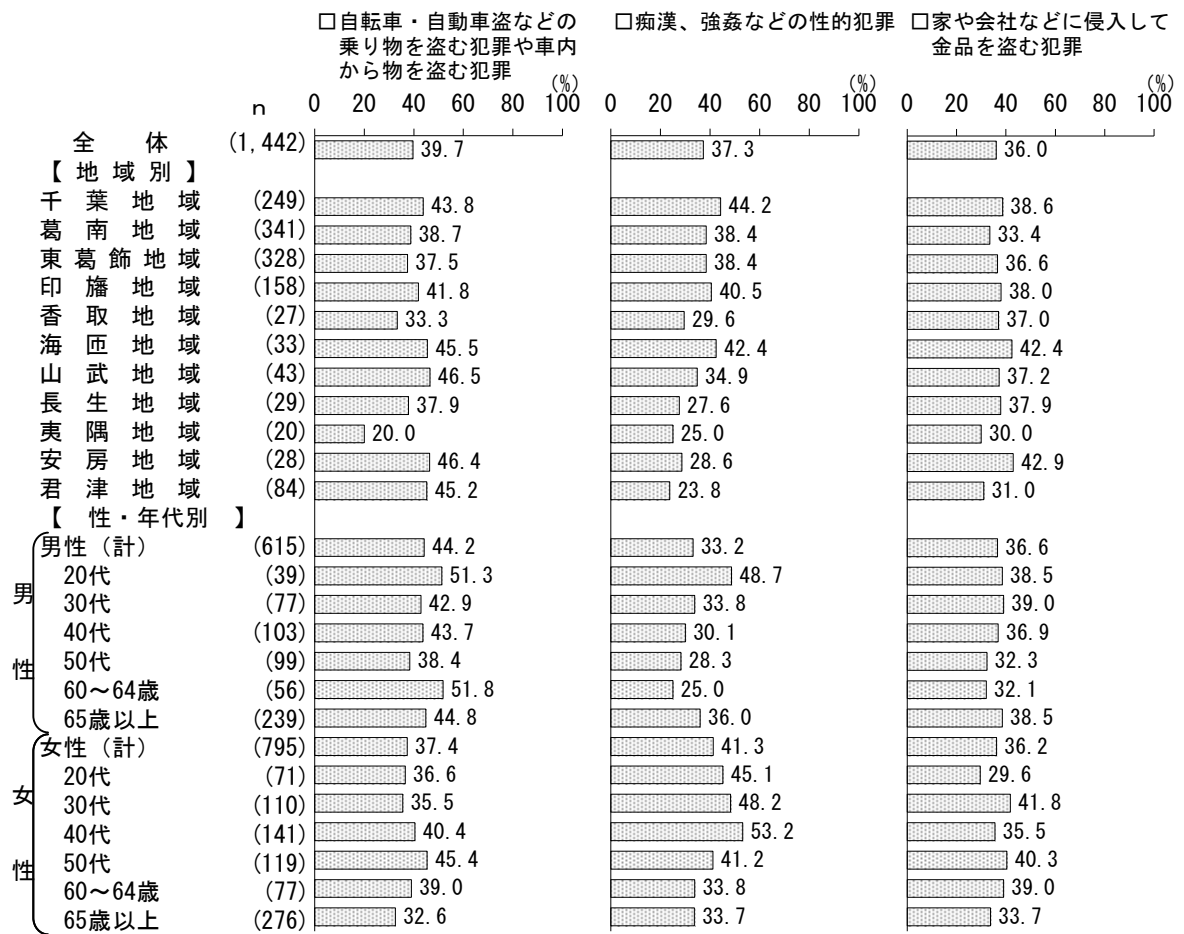
「インターネットを利用した犯罪」は男性の20代（53.8%）、40代（51.5%）で5割を超えており、他の年代に比べて高くなっている。

「DV・ストーカー行為」は、男性の20代（46.2%）で4割台半ば、女性の30代（42.7%）、20代（42.3%）で4割を超えており、他の年代に比べて高くなっている。

「非行少年、暴走族等による犯罪」は、男性の20代（48.7%）で約5割と、他の年代に比べて高くなっている。（図表10－10）

<図表 10-10> 警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪／地域別、性・年代別



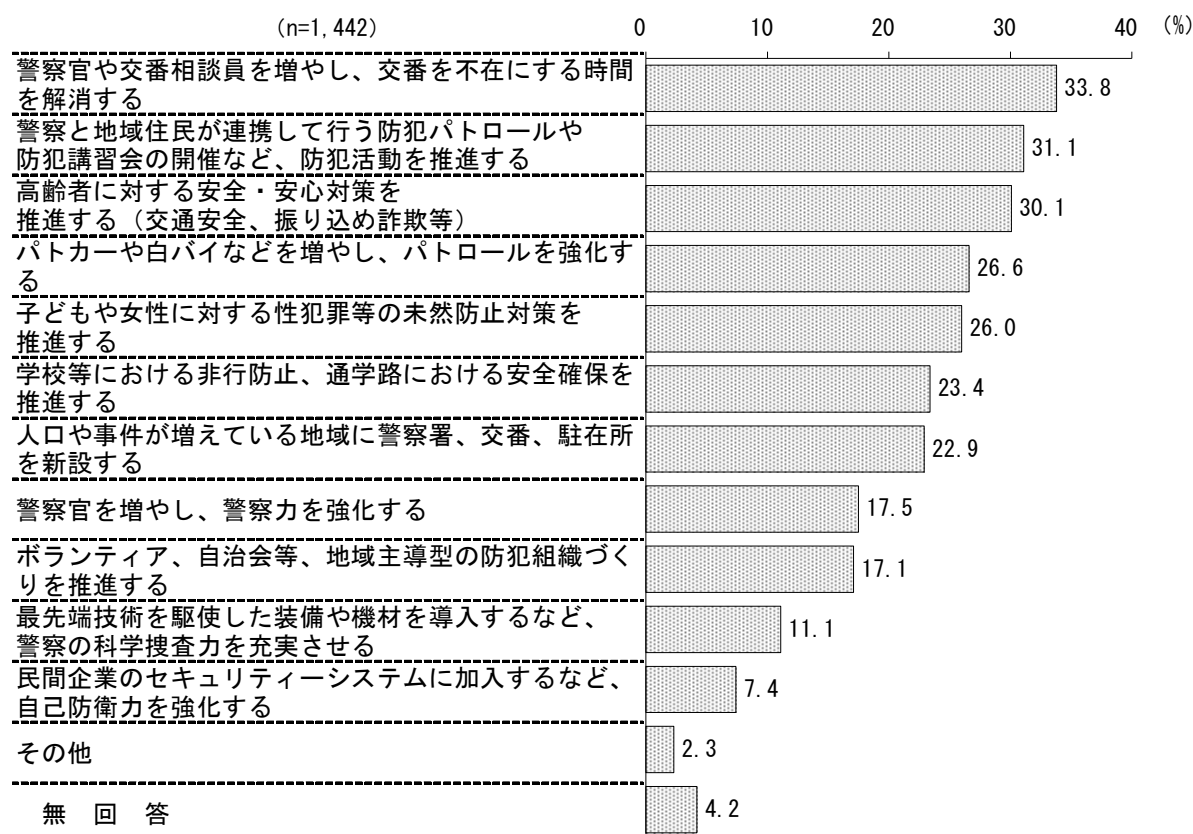


(6) 安全で安心できる生活を守るために必要なこと

◇「警察官や交番相談員を増やし、交番を不在にする時間を解消する」が3割台半ば

問42 あなたは犯罪や事故の心配のない、安全で安心できる生活を守っていくために、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

<図表 10-11>安全で安心できる生活を守るために必要なこと



安全で安心できる生活を守るために必要なこととして3つまで選んでもらったところ、「警察官や交番相談員を増やし、交番を不在にする時間を解消する」(33.8%)が3割台半ばと最も多く、以下、「警察と地域住民が連携して行う防犯パトロールや防犯講習会の開催など、防犯活動を推進する」(31.1%)、「高齢者に対する安全・安心対策を推進する(交通安全、振り込め詐欺等)」(30.1%)が続く。(図表10-11)

【地域別】

地域別にみると、「パトカーや白バイなどを増やし、パトロールを強化する」は「葛南地域」(31.4%)「君津地域」(31.0%)「山武地域」(30.2%)で3割を超えて、他の地域に比べてやや高くなっている。

「子どもや女性に対する性犯罪等の未然防止対策を推進する」は「長生地域」(48.3%)で約5割、「学校等における非行防止、通学路における安全確保を推進する」は「山武地域」(39.5%)が約4割と、他の地域に比べて高くなっている。(図表10-12)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「警察官や交番相談員を増やし、交番を不在にする時間を解消する」は女性の65歳以上（46.4%）で4割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。

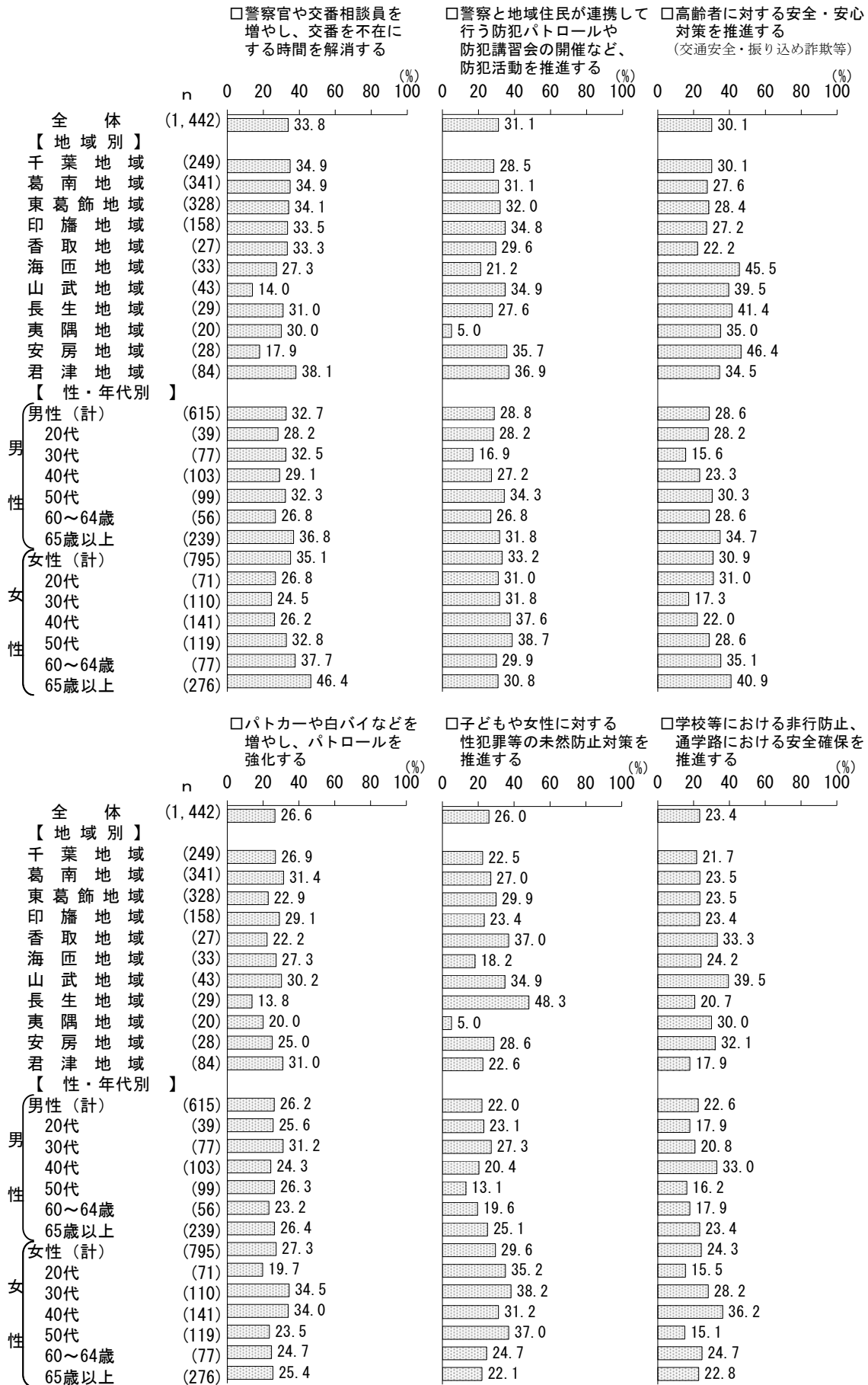
「高齢者に対する安全・安心対策を推進する（交通安全、振り込め詐欺等）」は女性の65歳以上（40.9%）で4割を超えており、他の年代に比べて高くなっている。

「子どもや女性に対する性犯罪等の未然防止対策を推進する」は女性の30代（38.2%）、50代（37.0%）で約4割と、他の年代に比べて高くなっている。

「学校等における非行防止、通学路における安全確保を推進する」は女性の40代（36.2%）で3割台半ば、男性の40代（33.0%）で3割を超えており、他の年代に比べて高くなっている。

（図表10－12）

<図表 10-12>安全で安心できる生活を守るために必要なこと／地域別、性・年代別
(上位6項目)



このほかに、「県民の治安に対する意識と警察に求めることについて」やここまでの質問（問37～問42）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、137人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「県民の治安に対する意識と警察に求めることについて」の自由回答（抜粋）

- 青色の防犯灯のパトロールカーが地域の中を走っているのを見かけますが防犯の役目も安心感もありとてもいいことだと思います。（女性、65歳以上、千葉地域）
- 外国人による犯罪等も増加傾向にあるように思います。何らかの対応策が必要ではないでしょうか。（男性、65歳以上、東葛飾地域）
- 警察官が不足している分、OBをもっと積極的に活用し、地域の防犯講習会等での手助けをして頂く。（男性、60～64歳、東葛飾地域）
- 女子児童が誘拐される事件が起きています。地域のパトロールを強化してほしい。移動交番は見たことはありません。自分の近くにぜひ来てほしいです。（女性、60～64歳、東葛飾地域）
- 犯罪の起きやすい時間帯や、非行少年、暴走族等が活動する時間等にパトロールの強化をお願いしたい。また、地域からそういった情報を提供しやすい体制、連絡から行動までの的確な対応を強化してほしい。（男性、40代、千葉地域）
- 犯罪や事故について、夜中のパトロールをもっと徹底的にやっていくことで防げることが多いと思います。本当に犯罪等を防ぎたいと思えば、警察官やボランティア等を利用してパトロール強化をすべきだと思います。（女性、40代、海匝地域）
- 身近な場所で起こっている犯罪や被害の情報を得る機会がないので、情報提供の場が生活圏内にあれば良いと思います。（女性、20代、東葛飾地域）
- 交番に何度か行ったが、現在立ち廻り中と看板があり、交番に誰もいないことがある。まず、これを解決して欲しい。いつ行っても、いる状態だと安心感が違う。（男性、65歳以上、東葛飾地域）
- 近隣との関係が希薄な昨今です。パトロールの強化など、警察がもっと身近な存在であつたらと思います。町中で見かけることがほとんどありませんから。事故の処理以外。（女性、60～64歳、葛南地域）
- 犯罪が一件でも減るような取組をし、安心して生活できる環境づくりに力を入れていただきたい。（男性、20代、印旛地域）

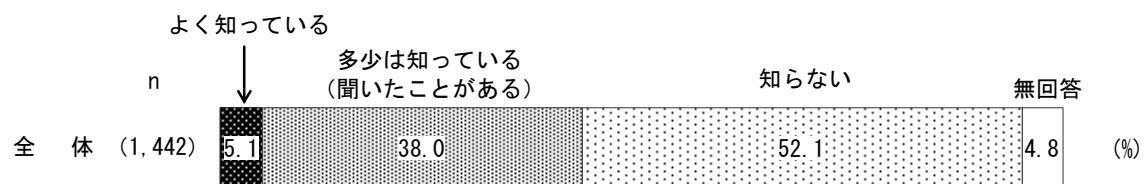
11 社会全体での暴力団排除の推進について

(1) 千葉県暴力団排除条例の認知度

◇「知らない」が5割を超えている

問43 千葉県では、社会全体として、暴力団が悪質な存在であるという認識の下に、暴力団を恐れないこと、暴力団に対して資金を提供しないこと及び暴力団を利用しないことを基本に暴力団の排除を推進することを定めた千葉県暴力団排除条例が制定されていますが、あなたはこの千葉県暴力団排除条例が制定されていることを知っていますか。
(○は1つ)

＜図表 11－1＞千葉県暴力団排除条例の認知度



千葉県暴力団排除条例が制定されていることを「知らない」(52.1%)が5割を超えている。一方、「よく知っている」は5.1%となっている。(図表11－1)

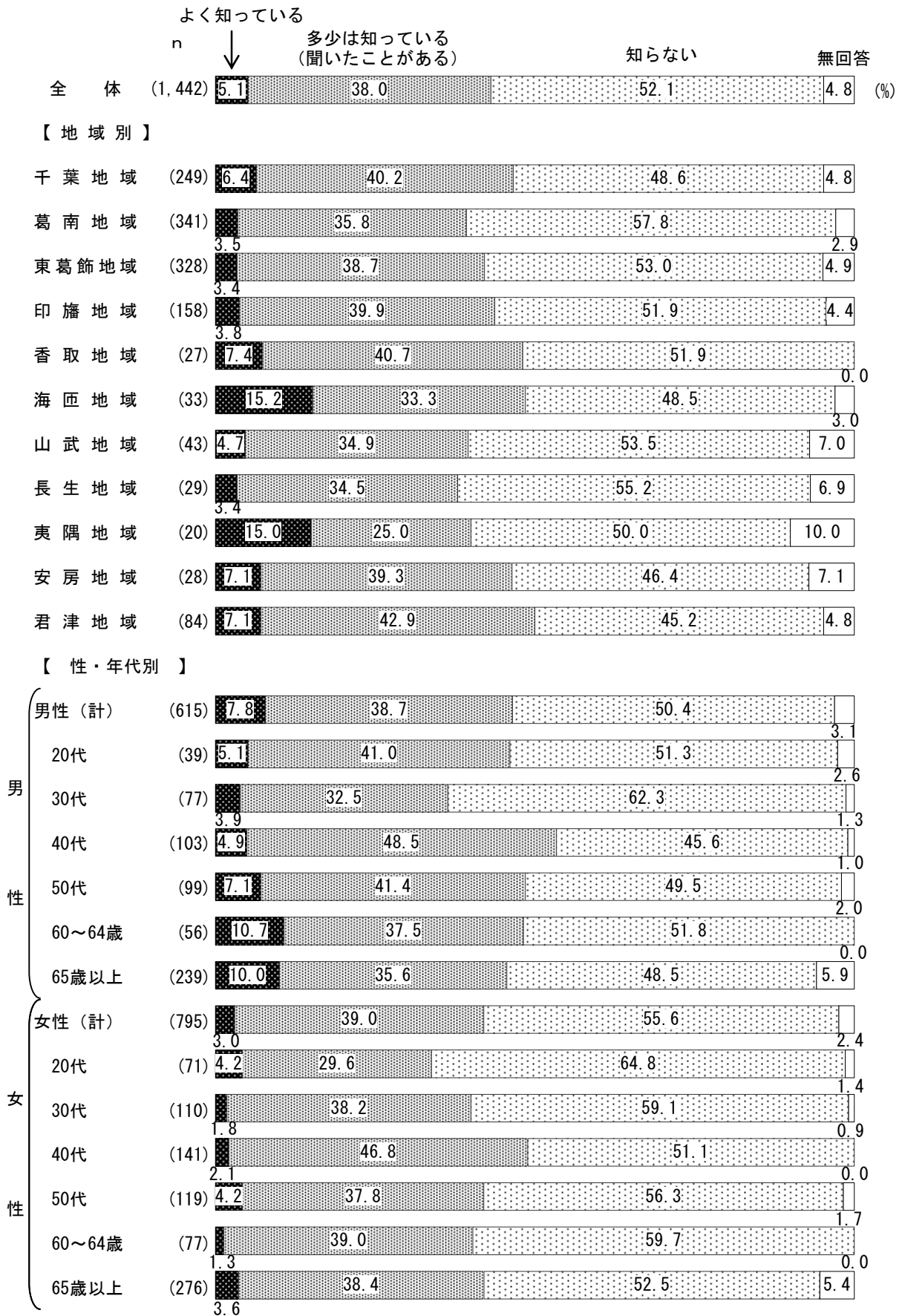
【地域別】

地域別にみると、“葛南地域”(57.8%)で「知らない」が約6割と、他の地域に比べて高くなっている。(図表11－2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「知らない」が女性の20代(64.8%)、男性の30代(62.3%)で6割を超えており、他の年代に比べて高くなっている。(図表11－2)

<図表 11-2>千葉県暴力団排除条例の認知度／地域別、性・年代別

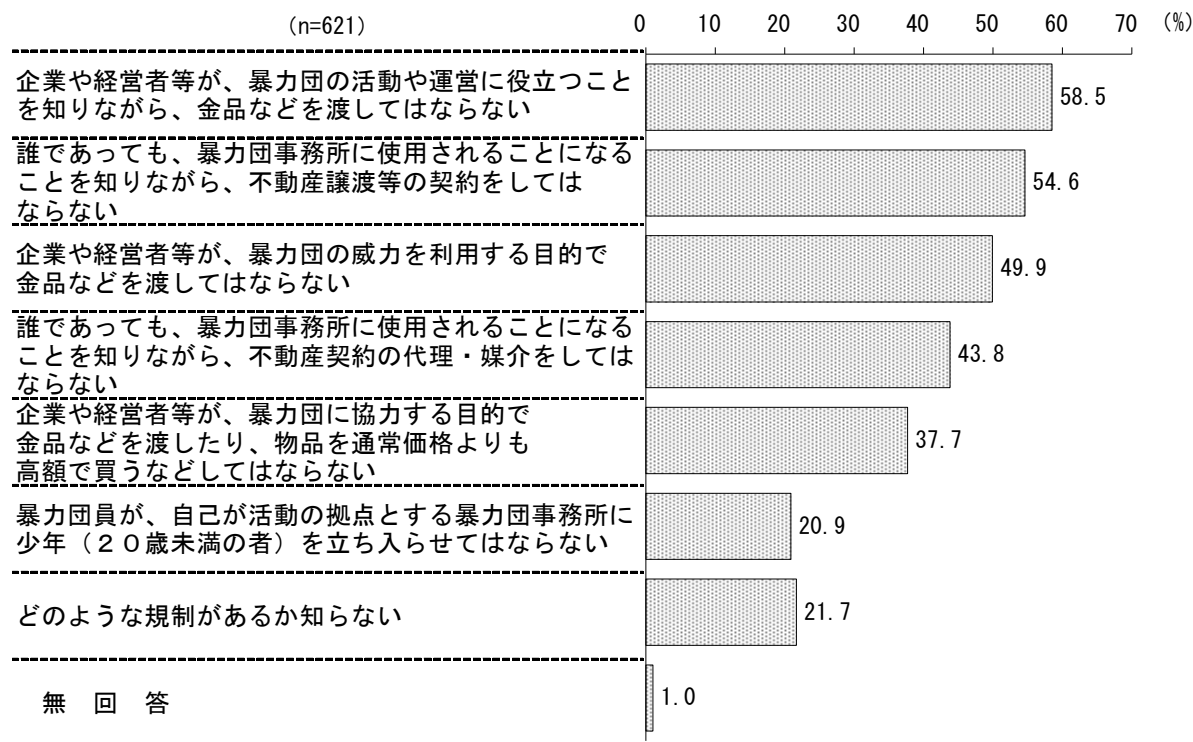


(2) 千葉県暴力団排除条例の規制内容の認知度

◇「企業や経営者等が、暴力団の活動や運営に役立つことを知りながら、金品などを渡してはならない」が約6割

問44 千葉県暴力団排除条例で定められている規制等として、どのようなものがあるか知っていますか。(〇はいくつでも)

＜図表 11－3＞千葉県暴力団排除条例の規制内容の認知度

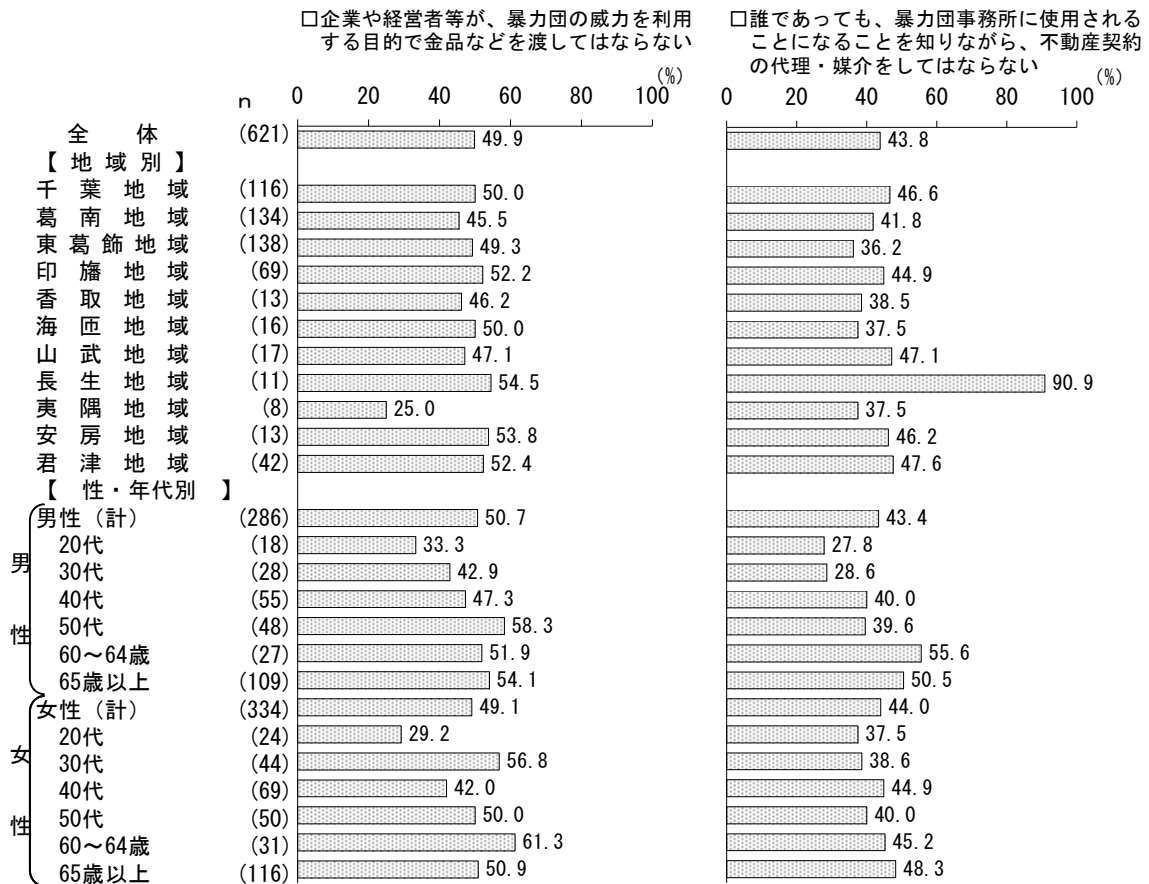
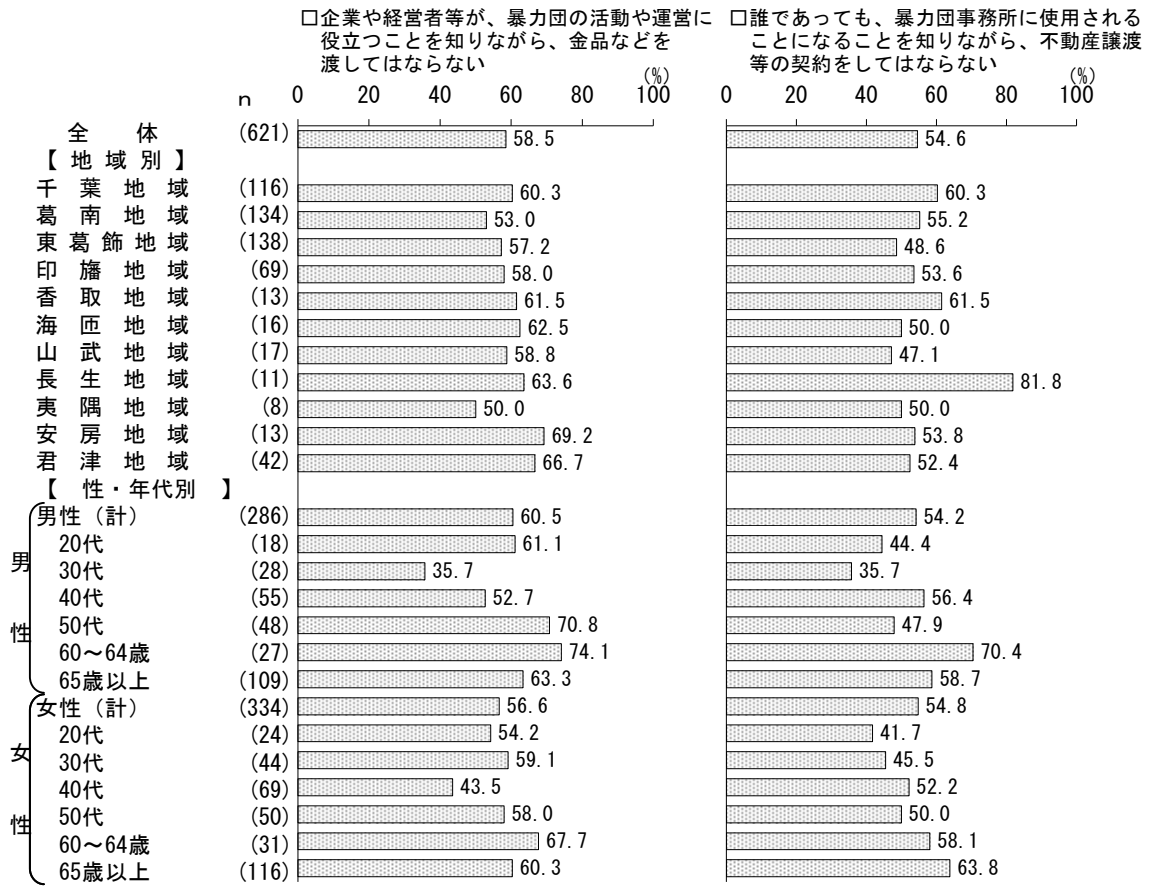


千葉県暴力団排除条例が制定されていることを「よく知っている」、「多少は知っている」を合わせた『知っている』人(621人)に、規制等の内容で知っているものを聞いたところ、「企業や経営者等が、暴力団の活動や運営に役立つことを知りながら、金品などを渡してはならない」(58.5%)が約6割で最も多く、以下、「誰であっても、暴力団事務所に使用されることになることを知りながら、不動産譲渡等の契約をしてはならない」(54.6%)、「企業や経営者等が、暴力団の威力を利用する目的で金品などを渡してはならない」(49.9%)、「誰であっても、暴力団事務所に使用されることになることを知りながら、不動産契約の代理・媒介をしてはならない」(43.8%)が続く。(図表11－3)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「企業や経営者等が、暴力団の活動や運営に役立つことを知りながら、金品などを渡してはならない」は、男性の60～64歳(74.1%)、50代(70.8%)で7割を超えており、他の年代に比べて幾分高くなっている。(図表11－4)

<図表 11-4>千葉県暴力団排除条例の規制内容の認知度／地域別、性・年代別（上位4項目）

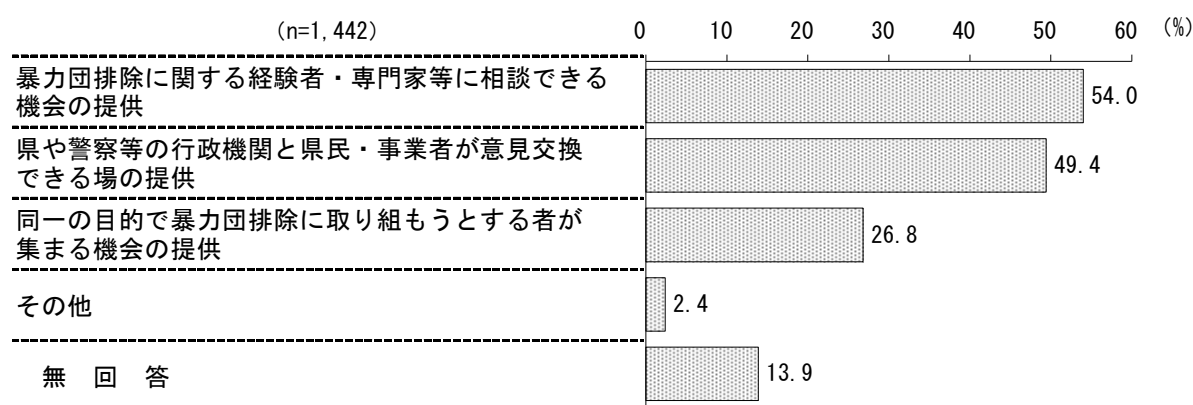


(3) 暴力団排除の取組に参加する上で必要な支援

◇「暴力団排除に関する経験者・専門家等に相談できる機会の提供」が5割台半ば

問45 県（警察を含む。）では、千葉県暴力団排除条例に基づき、暴力団排除に関する情報の提供、暴力団排除に取り組んだ人への保護措置、広報活動等の支援を講ずることとしていますが、このほかに、あなたが暴力団排除の取組に参加する上でどのような支援が必要であると考えますか。（〇はいくつでも）

＜図表 11－5＞暴力団排除の取組に参加する上で必要な支援

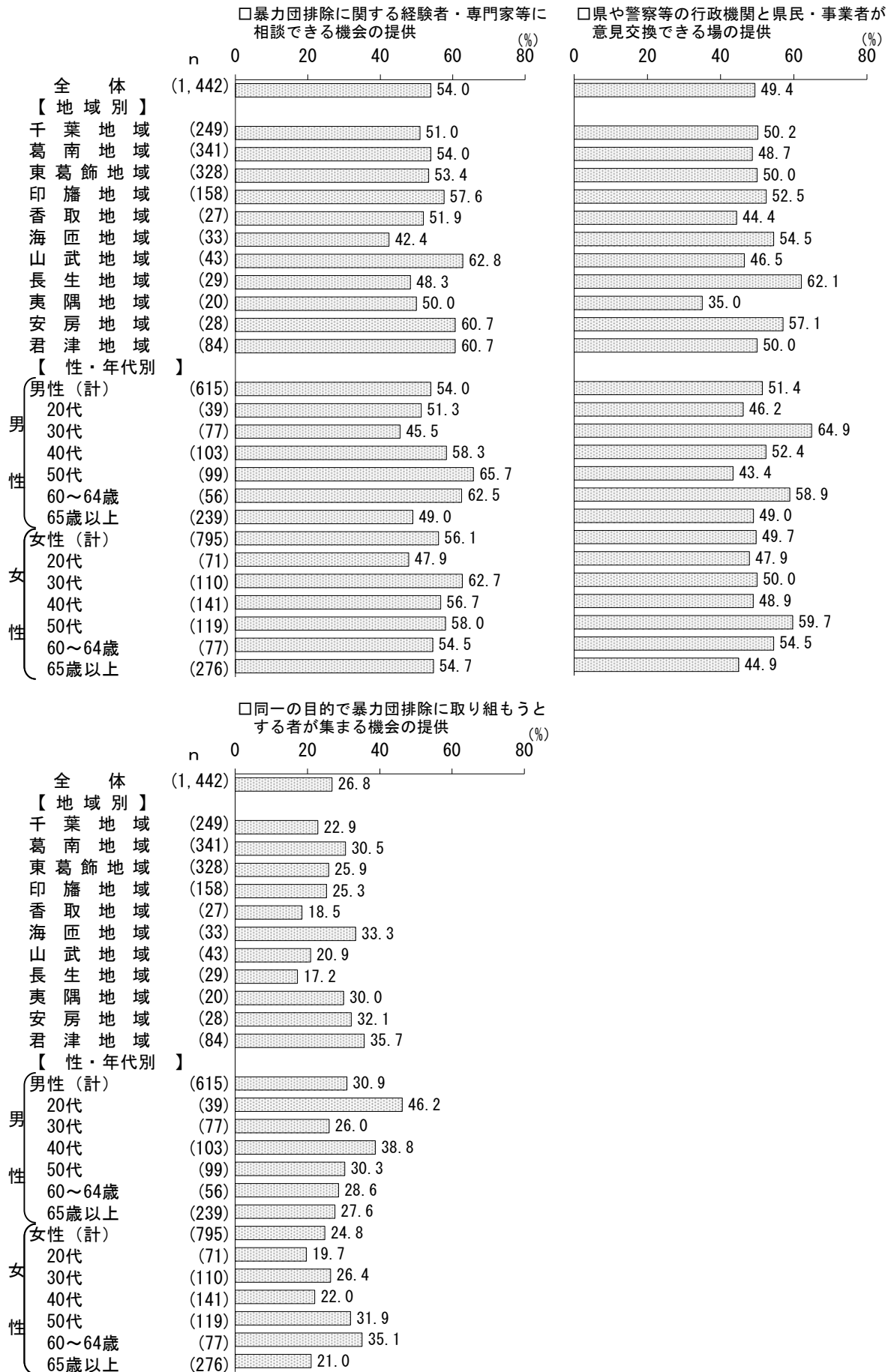


暴力団排除の取組に参加する上で必要な支援として、「暴力団排除に関する経験者・専門家等に相談できる機会の提供」（54.0%）が5割台半ばで最も多く、次いで「県や警察等の行政機関と県民・事業者が意見交換できる場の提供」（49.4%）となっている。（図表11－5）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「暴力団排除に関する経験者・専門家等に相談できる機会の提供」は男性の50代（65.7%）で6割台半ば、「県や警察等の行政機関と県民・事業者が意見交換できる場の提供」は男性の30代（64.9%）で6割台半ば、「同一の目的で暴力団排除に取り組もうとする者が集まる機会の提供」は男性の20代（46.2%）で4割台半ばと、他の年代に比べて高くなっている。（図表11－6）

<図表 11-6> 暴力団排除の取組に参加する上で必要な支援／地域別、性・年代別

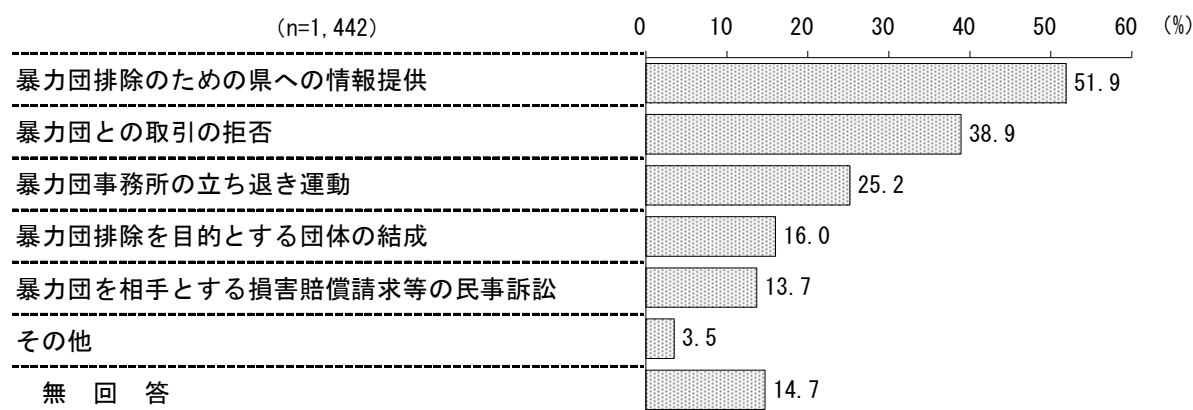


(4) 暴力団排除の取組で参加する内容

◇「暴力団排除のための県への情報提供」が5割を超える

問46 暴力団を排除するためには、警察による取締りの他、住民運動や、事業活動において暴力団との関係遮断を図ることが必要とされていますが、あなたは、どのような取組であれば参加しますか。次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

<図表 11－7> 暴力団排除の取組で参加する内容



暴力団排除の取組で参加する内容では、「暴力団排除のための県への情報提供」(51.9%)が5割を超えて最も多く、以下、「暴力団との取引の拒否」(38.9%)、「暴力団事務所の立ち退き運動」(25.2%)が続く。(図表11－7)

【地域別】

地域別にみると、「暴力団排除のための県への情報提供」は“安房地域”(64.3%)、“香取地域”(63.0%)、“印旛地域”(60.8%)が6割を超えており、他の地域に比べて高くなっている。

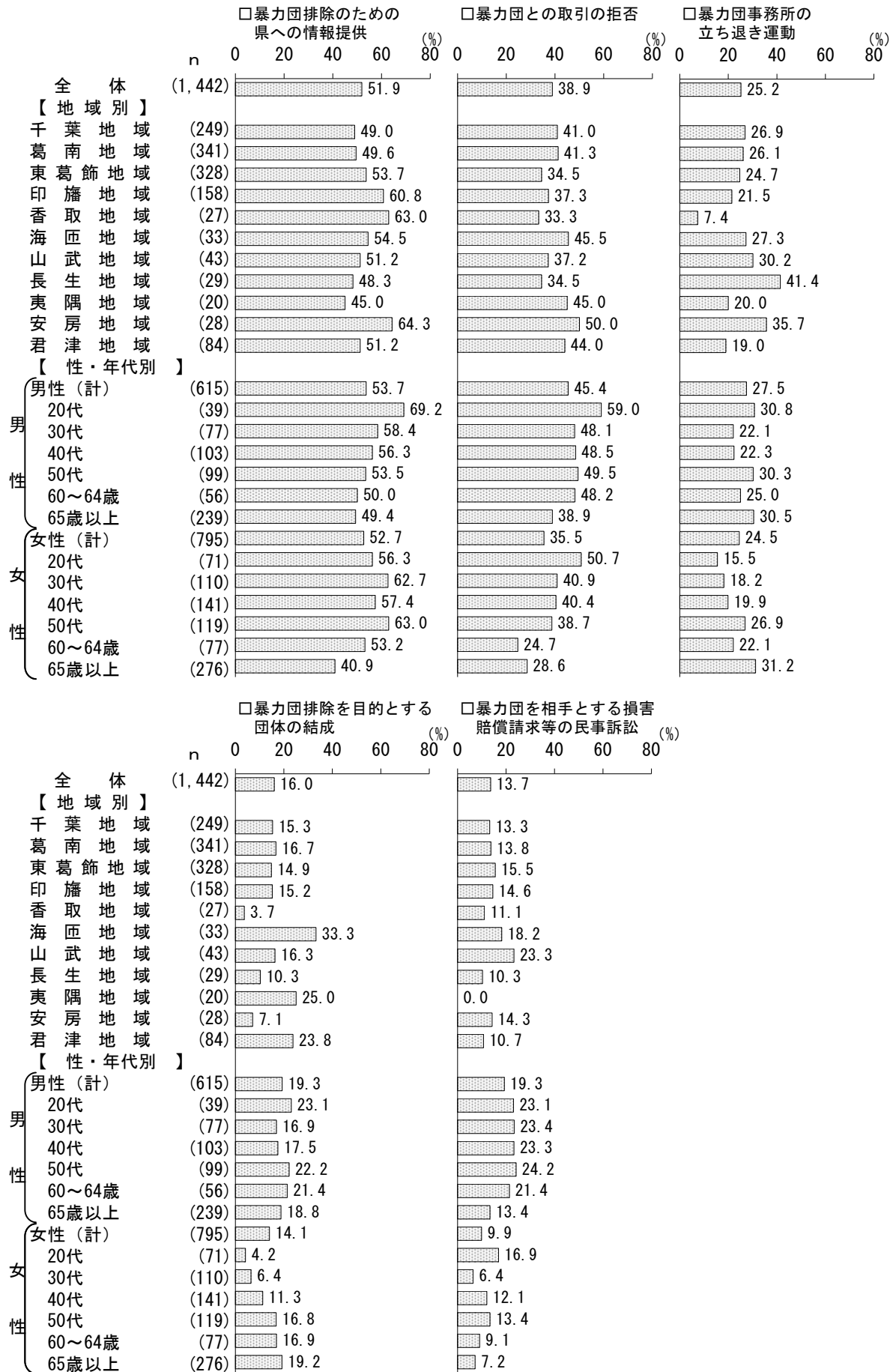
「暴力団排除を目的とする団体の結成」は“海匝地域”(33.3%)で3割台半ばとなっており、他の地域に比べて高くなっている。(図表11－8)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「暴力団排除のための県への情報提供」は男性の20代(69.2%)で約7割、女性の50代(63.0%)、30代(62.7%)で6割を超えており、他の年代に比べて高くなっている。

「暴力団との取引の拒否」は男性の20代(59.0%)で約6割、女性の20代(50.7%)で5割を超えており、他の年代に比べて高くなっている。(図表11－8)

<図表 11-8> 暴力団排除の取組で参加する内容／地域別、性・年代別



このほかに、「社会全体での暴力団排除の推進について」やここまでの質問（問43～問46）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、76人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「社会全体での暴力団排除の推進について」の自由回答（抜粋）

○1人だと言いつけられてしまいましたが、一丸となってできれば何とかできるのかもしれないね。（女性、20代、葛南地域）

○実際こわい。プロの相談窓口が必要。

（男性、30代、東葛飾地域）

○暴力団にかかわり拒否した時、仕返し等の不安がある時に、どこに相談・報告すればいいか？警察が真剣に聞いてくれるか不安。（女性、30代、葛南地域）

○暴力団は凶悪事件を起こしたり、オレオレ詐欺にも関わっています。このような社会悪に通じる組織は、更に社会運動を強化し、無くす様にしていきたいと思います。

（女性、65歳以上、長生地域）

○もし、暴力団から被害を受ける様な事があれば困るが、では彼らが生きていける為の「なりわい」を他に見つける事が出来なければ、結局は犯罪に走るような事につながるのではないかな。また、水面下でもっと取り締まれないような、合法的に出来る「非法行為」を見つけ出すような気がして怖い。（男性、40代、千葉地域）

○暴力団とは、基本的に余り係りをもたない。事が起こったら泣き寝入りしない。警察に届ける。当り前のことを当り前に勇気を持って解決して皆が楽しく生活できるような世の中を。（女性、65歳以上、君津地域）

○暴力団から脱出し、真面目になろうとしている人を支援してほしい。暴力団排除の推進が進めばそういう人も増えるはず。（女性、50代、東葛飾地域）

○誰でも安全で安心して暮らせる町を望んでいると思います。自分のできる事は協力していきたいと思っています。（男性、65歳以上、君津地域）

○報復をおそれて、積極的に行動できないと思います。県の予算を警察官増員に努力してほしい。パトロールの強化があれば市民も安心して協力できると思う。（女性、65歳以上、印旛地域）

○暴力は絶対に認められないとの県民の意識が大切だ。PR活動を行うべきだ。（男性、65歳以上、葛南地域）

12 自由回答

問 県への意見があればご自由にお書きください。

県への意見を自由に記述していただいたところ、260人から延べ314件の回答が寄せられた。
記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った形（合計30項目）で整理した。

なお、一人の回答が複数の内容に渡る場合には、原文の内容の趣旨がそこなわないよう回答を分け、それぞれの項目へ分類した。

また、紙面の都合上、全ての意見を掲載することはできないが、意見の多い項目に関しては、一部抜粋してご意見を記載するものとする。

【自由回答の項目順位】

順位	項目	件数
第1位	県政全般に関する要望	69
第2位	次世代を担う子どもの育成支援を充実する	23
〃	道路を整備する	23
第4位	高齢者の福祉を充実する	17
第5位	便利な交通網を整備する	16
第6位	県政情報の発信について	12
第7位	観光を振興する	11
〃	犯罪防止対策をすすめる	11
第9位	障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する	10
第10位	雇用の場を広げる	8
第11位	災害から県民を守る	5
〃	公園・緑地・水辺を整備する	5
第13位	中心市街地の活性化を推進する	4
〃	農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する	4
〃	学校教育を充実する	4
第16位	医療サービス体制を整備する	3
〃	仕事と子育てが両立する働き方を実現する	3
〃	芸術・文化活動を振興する	3
〃	アクアラインについて	3
第20位	交通事故から県民を守る	2
〃	市民活動団体やボランティアへの活動支援を充実する	2
〃	省資源やリサイクルをすすめる	2
〃	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業や創業への支援を充実する	2
〃	下水道を整備する	2
〃	東京電力福島第一原子力発電所事故の影響から県民を守る	2
第26位	食品の安全を守る	1
〃	健康づくりをすすめて、病気を予防する	1
〃	大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる	1
〃	暴力団対策	1
	その他	64
	うち、住んでいる市町村への要望	17
	うち、国政への要望	14
合 計		314

【自由回答の記述】（意見の多い項目の一部抜粋）

■県政全般に関する要望

- 今、県が何をしてくれているのかが、とにかくわかりづらい。いろいろなものに手をつけるのではなく、優先順位を決めて1つ1つ片づけていってほしい。また、県民が何を必要としているのかをよく見極めて頂きたいです。（女性、20代、東葛飾地域）
- 県職員・各自治体職員が各自の職務に目的意識をしっかりと持ち、各自の立場を自覚して働いて頂きたい。（男性、65歳以上、葛南地域）
- 子供も今後、成長するにあたって、千葉県にいたいと言っています。千葉県がより発展するように、できることは協力し、願いたいと思います。（女性、50代、印旛地域）
- 少子高齢化社会で、県の役割は増大しているが、民間の力を大いに活用し、小さな県政を目指すべきだ。財政的にも厳しくなる。（男性、65歳以上、葛南地域）
- 税金を使うにあたり、無駄のないようにしていただきたい。（女性、30代、葛南地域）
- 普段は県の政策を意識することはほとんどない。町の施策になってはじめて身近に感じられる。都市部と郡部は同一県内でも生活は全く異なる。町との連携を良くして、地域の要望を多く取り上げてもらいたい。（男性、40代、長生地域）
- 文書ではなかなか思った様子に書けないので、世論調査をいただきました事は良い事と思っておりますが、できたら議員の方々と話し合いのできる場を作ってほしい。国民の生の声を聞いてもらいたい。（女性、65歳以上、東葛飾地域）
- 私たちも千葉県に住んでいるのですが「県」という言葉にはどこか違う世界のように感じます。千葉の片田舎に住んでいる私たちにとって、県という言葉はどこか遠く離れた都会の響きに聞こえます。私達の住む片田舎ではお年寄りが生活しにくくなっています。運転のできない方、一人暮らしの方の足になっていたバス等がなくなり、予約制のタクシーになり、面倒臭さから病院に行くのもおっくうになっている方もいます。その辺を県全体で考えてほしいです。
（女性、60～64歳、夷隅地域）
- 私だけかも知れませんが、居住している土地からあまり千葉県民だという感覚がありません。市内に県に関連したものもないので、埼玉なのか？茨城なのか？千葉なのか？何か誇れるものが欲しいですね。子供を育てるなら千葉とか、老後に住むなら千葉とか、器ではなく多様な面からお願いします。（女性、40代、東葛飾地域）

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

○保育園、学童の整備をすぐにしてほしい。時間をかけている間に子供は成長しています。

(女性、30代、印旛地域)

○3歳の娘がなかなか保育園に入れません。待機児童を減らして欲しいです。共働きの収入でないと、なかなか養えないので。(男性、30代、葛南地域)

○子育て支援の中に障害児への支援だけでなく、健常児と障害児の間に位置するグレーゾーンの子供達に対しても県からの支援があると嬉しいです。(女性、30代、印旛地域)

○当地区の農村部も、近隣の町々も若い人達が都会に進出し子供の数も減少しております。小学校に於いては1学年10名以下という所もあります。このままでは将来、学校が無くなり、地域や町の存在も危うくなってしまいます。若い人達が喜んで住み、子どもを育て、地域が活性化していく様な政策を更に推進していただきたいと思います(県の農、山、漁村地域全てに共通する事かと思います)。(女性、65歳以上、長生地域)

■道路を整備する

○不要な横断橋は早期に撤去をお願いしたい。県道における跨線橋及び下水道の整備。必要時(地震等)にライフラインの確保のための整備。(男性、65歳以上、印旛地域)

○既存道路の改善(歩道の拡幅、標識、白ラインの改修等が遅れている)。

(男性、60～64歳、葛南地域)

○高速道路も良いですが、一般道路の渋滞を少なくすること。

(女性、65歳以上、山武地域)

○道路整備など地域差がある様に感じます。もっと危険な所から整備して頂けるように検討して下さい。(女性、40代、葛南地域)

○道路をもっと走りやすく。歩道と車道を分けるように。

(男性、50代)

■高齢者の福祉を充実する

○高齢者が住み良い県であってほしいと思います。子供に優しく、高齢者に厳しい世の中になっている様に思います。（女性、60～64歳、葛南地域）

○年金（国民）のわずかなお金で老々介護（いずれか）しなくてはならない。わずかな年金で入れる介護施設を心より願いたい。（女性、65歳以上、千葉地域）

○今後ますます高齢者が多くなると思います。県で各市、町、村での良い高齢者の活動について（これから、高齢者を元気で活動させることが大きな課題となってくると思います）。高齢者の年間の計画を作成していただき、研修の場所・運動の場所を各市・町・村の広報に出していただきたい。（男性、65歳以上、東葛飾地域）

○高齢者、障害者に優しい安心した暮しが続けられる様な制度をもっと作ってほしい。県独自の物でも良いと思う。福祉サービスなど介護保険だけではまかなえない人もたくさんいるので、低料金・無料であればとても助かると思いますのでよろしくお願い致します。

（男性、65歳以上、海匝地域）

○東京都にあるシルバーパスの様なものが千葉県でもあれば、バスなど公共機関を利用した高齢者の通院などの負担が軽減されると思う。老化が原因で運転免許の更新を諦める人もいるので少しの負担で利用できるシステムが出来ると良いと思う。（女性、40代、千葉地域）

○特養の待ち人数が何百人もいるらしい。お金がなくても入れる老人ホームを作って欲しい。古くて廃校になった小学校を老人ホームにしたら、子どもの頃を思い出して喜ぶ（？）かも。ムダな選挙に税金を使わず、福祉に使ってもらいたい。危険ドラッグも千葉県として強い規制をかけて下さい。向精神薬も安易に処方しないように、各々の病院へ呼びかけ、お願い致します。

（女性、40代、東葛飾地域）

■便利な交通網を整備する

○県内の移動をもっと便利にしてもらいたい。柏→千葉だと車は国道16号があるが、電車だと船橋経由になる。県の行事があるとたいがい千葉市で行われる為、移動が面倒である。（男性、40代、東葛飾地域）

○高齢者が運転をしなくても生活ができるような公共交通やサービス、移動手段の充実を図って欲しいです。（女性、40代、印旛地域）

○県内の観光地やショッピングセンターが、車で行かないと不便な場所にある所が多い気がする。車を運転しない人が「行くのが面倒だ」と感じないような場所に作るか、電車やバスの交通網に不便を感じないような工夫が必要だと感じます。（女性、40代、東葛飾地域）

○JR 千葉駅からの各方面への終電をもっと遅くしてほしい。（男性、20代、印旛地域）

○総武本線の本数を増やしてほしい。路線バスを増やしてほしい。安心して歩ける道を作ってほしい。（男性、65歳以上、印旛地域）

■県政情報の発信について

○アンケートなど県民はどのような分野に関心・要望が多くあるのか、県はどのような取り組みに力を入れているのか、取り組んだ結果はどうなのか、課題・改善点はあるのか、半期ぐらいに総括した情報提供を紙面またはインターネットでいただけたらと思います。

（男性、30代、葛南地域）

○このアンケートを読んで、県政にほとんど関心が向いてなく、新聞に入ってくるちば県民だよりも、旬のレシピちばの味だけ見ていたので、これがいい機会となると思います。

（女性、60～64歳、山武地域）

■観光を振興する

○観光等アピールを強化し、千葉県を一人でも多くの人に知ってもらうようにして欲しい。地域の名産品等をアピールする機会を増やし、周知して欲しい（千葉県は落花生だけが名産ではなく、様々なものがあることを一人でも多く知ってもらいたい）。（男性、20代、葛南地域）

○観光業に力を入れているはずが、大事なところが欠けている。外房や内房にも目を向けてほしい。（女性、20代、夷隅地域）

○千葉の観光をもっとアピールしていただきたいです。また、観光地の道路はきれいに草刈りをして、お花や飾り物などしてほしいです。アクアラインはきれいに整備されていても、その周りが汚いと残念です。市町村と協力して、もっともっと千葉を盛り上げてください。そうすることで、商店や食堂など小さなお店も、がんばれるのではないかと思います。

（女性、40代、君津地域）

■犯罪防止対策をすすめる

○殺人犯がまだつかまらず、ここ数年治安が悪くなり、道路事情（特に歩道）も悪く、不安がいつぱいです。もっと楽しく、生き生きとした町にして頂きたいです。

（女性、65歳以上、葛南地域）

○若い女性や小さい子供に対する犯罪が増えています。ボランティア等を通して見守り隊を作っていただき、警察、市役所等を通して管理できる体制があると良いと思われます。すきのない町や市であれば犯罪を防ぐ事ができます。又、生活保護で身体に障害を持っていない方やハローワーク等で職を探している方に優先的にボランティアの参加をし社会に貢献できる様にしてほしいです。（女性、40代、海匝地域）

○東金線の終電が早すぎて困る。治安悪すぎる。（女性、20代、山武地域）

■障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する

○障害者（身体、知的、精神等）、生活保護者に対する雇用の職業支援制度について、国の方針に基づき（事業者で2%の雇用）、県並びに市町村に相談窓口を設置し、民間業者、NPO、ハローワークと連携し、就労支援を積極的に活動援助して下さい。就労することにより、所得の増大、生活が安定します。（男性、65歳以上、東葛飾地域）

○介護保険の質問は、障害者には質問外ばかりで無視されている。精神的に滅入ります。（若い方には）介護保険から福祉障害者は別に分けてほしい。介護保険と一緒にしてから（私は身体障害者、車イス）マイナスが多いのです。（女性、50代、東葛飾地域）

○私の子供に内部疾患、3級の障害手帳を頂いている息子がおります。毎月病院代が3万円窓口と薬で支払います。その後領収書を福祉事務所に提出し、その後入金されます。もっとスムーズに窓口支払いがないようにしてほしいです。（女性、50代、千葉地域）

■雇用の場を広げる

○定年後も安心して生活できる収入の確保ならびに再就職の充実に期待したい。

（男性、60～64歳、東葛飾地域）

○千葉県南部地域は、高齢社会、過疎化に歯止めがかからない状況は変わらず、高校卒業後、大学に進学後、地元に戻ることなく流出してしまうのが現状です…。就職先に悩んでしまうからです。企業誘致、交通網の整備等、考えていかなければいけないことなのかなと思います。観光にもまだまだアピールする余地があるように思うのですが…（スポーツ合宿とかも）。東京からもこれだけ近いのですから…。（女性、40代、安房地域）

○旧湖北高校の跡地に湖北支援学校が開校して良かったと思います。今後、支援学校周辺に就労できる会社や施設ができるとよいと思います。地域ぐるみで応援できると、特色のある街づくりになると思います。（男性、50代、印旛地域）

問 この「世論調査」について、ご意見やご提案があればお書きください。

この「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、172人からの回答が寄せられた。これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載した。

○千葉県民になって3年半が過ぎました。この調査を通じて、知らない事だらけだとつくづく感じたと同時に、もっと千葉県の事を勉強しなければと思いました。

(女性、60～64歳、君津地域)

○この「世論調査票」が届いたのが11月末で、今年は12月に総選挙があるなど気忙しく、時期をもう少し早くするなどしていただけたら、ゆっくり考えられるのにと感じました。

(女性、60～64歳、葛南地域)

○今回の世論調査の質問事項は70歳以上の高齢者にはちょっと難しいような気がしました。そしてまた質問事項が多過ぎる。(男性、65歳以上、東葛飾地域)

○今回初めて世論調査に参加したが、今までなんとなく不満に思っていた事など、言葉にして書く事が出来て良かったと思う。もっと調査対象の人数を増やしてもいいのでは…。みんな自分の県を良くしたいと思っているのは間違いないから、協力したいです。

(女性、30代、東葛飾地域)

○サラッと書いたもので、字が汚くて申し訳ないです。こういう調査をやっていることは、これがきて初めて知りました。県民にしろ国民にしろ、民が思っていることを言える機会があるのはいい事だと思います。普段の生活で思っている事はたくさんあるので、こうやって意見が言える機会はもっとあっていいと思います。(女性、20代、千葉地域)

○設問が多く、内容も難しいものが多かったように思います、多少負担に感じるアンケートではありました。(男性、30代、印旛地域)

○調査用紙を見て、いかに自分が世間を知らないかということが、分かったような気がします。県政に対しても無関心で、自分に何かなければ、そのまま過ごしてしまい、少し考えなければと思いました。(女性、65歳以上、安房地域)

○ネットでの対応も可になるようにして欲しい。

(男性、50代、葛南地域)

○このような調査がある事を知りませんでした。地域、社会について考える事ができて良かったです。日常生活で思っている事や考えている事を伝える事ができて良かったです。県民一人として意見を述べる事ができ、うれしいです。(女性、40代、君津地域)

第49回 千葉県政に関する世論調査

ご記入にあたってのお願い

- 1 ご回答は、この調査票に黒か青のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
- 2 回答は、原則としてあてはまるものに○をつけてください。質問は、
(○は1つ)、(○は3つまで)、(○はいくつでも) などと表示しています
ので、そちらに合わせてください。

また、質問によって回答していただく方が限られる場合がありますので、
ことわり書きや矢印にしたがってください。特にことわりのない場合は、
次の質問に進んでください。
- 3 お答えが選択肢の中にない場合は、「その他」を選び、() 内に
その内容を具体的に記入してください。
- 4 ご回答いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、
12月15日（月）までに郵便ポストにご投函ください。
※調査票は、折りに合わせて三つ折をお願いします。
- 5 このアンケートのご記入に当たってご不明な点等がございましたら、
お手数ですが下記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

千葉県 総合企画部 報道広報課広聴室

〒260-8667 千葉市中央区市場町1番1号

電 話 043-223-2469

FAX 043-227-3613

【高齢者福祉施策について】

本県では、急速に高齢化が進むと予想されたことから、団塊の世代が高齢期を迎える平成 27 年の本県高齢社会を念頭に、「千葉県高齢者保健福祉計画」を策定し、様々な施策を積極的に展開してまいりました。今後、さらなる施策推進のため次期「千葉県高齢者保健福祉計画」を策定します。

問 1 あなたは、「高齢者」とは何歳くらいと考えますか。 n=1,442 (○は1つ)

14.7	65歳以上	0.3	85歳以上
43.6	70歳以上	6.5	年齢では決められない
23.2	75歳以上	0.4	その他
9.2	80歳以上	2.1	無回答

問 2 「高齢者」のイメージはどのようなものですか n=1,442 (○はいくつでも)

38.1	知識や知恵が豊かである		
42.4	時間にしばられず、好きなことに取り組める		
15.2	健康的な生活習慣を実践している		
18.0	ボランティアや地域活動で、社会に貢献している		
14.9	貯蓄や住宅などの資産があり、経済的にゆとりがある		
72.7	心身が衰え、健康面での不安が大きい		
47.9	収入が少なく、経済的な不安が大きい		
24.9	古い考え方にとらわれがちである		
26.1	周りの人とのふれあいが少なく、孤独である		
6.8	仕事をしていないため、社会の役に立っていない		
2.8	その他 ()	1.9	無回答

問 3 あなたは、高齢者が年齢にとらわれず、意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っていると思いますか。 n=1,442 (○は1つ)

7.1	そう思う	20.7	どちらかといえばそう思わない
18.7	どちらかといえばそう思う	16.7	そう思わない
31.6	どちらともいえない	3.2	わからない
		2.0	無回答

問 4 高齢者が、意欲や能力に応じて活躍できる生活を送るためには、どのような施策が必要だと思いますか。 n=1,442 (○はいくつでも)

25.5	ボランティアや地域活動に必要な技術や知識を得る場の提供		
47.4	ボランティアや地域活動参加への機会と場の提供		
35.2	老人クラブや自治会などの活動支援による多様な社会参加の推進		
55.1	高齢者が働きやすい職場環境や就業形態の整備		
34.8	高齢者雇用企業への支援		
19.6	「高齢者＝支えられる人」という固定的なイメージの解消のための啓発		
3.6	その他 ()	3.1	無回答

問5 あなたは、高齢者が多様な社会参加を通じ、社会とかかわりを持ちながら生活を送っていると思いますか。 n=1,442 (○は1つ)

4.7	そう思う	24.8	どちらかといえばそう思わない
18.0	どちらかといえばそう思う	13.3	そう思わない
28.4	どちらともいえない	7.8	わからない
			2.9 無回答

→ (問5で「3」「4」「5」とお答えの方に)

問6 その理由は何だと思えますか。 n=959 (○はいくつでも)

42.6	社会参加の機会や場が少ない	13.7	外出するのが好きではない
47.9	社会参加に関する情報が得にくい	3.9	忙しいため、社会参加する時間がない
30.2	社会参加に参加する仲間がいない	38.6	経済的な余裕がない
22.6	参加したい活動がない	44.6	健康上の理由により活動できない
21.1	交通手段がなく、外出できない	3.8	その他 ()
			0.2 無回答

(すべての方に)

このほかに、「高齢者福祉施策について」やここまでの質問(問1～問6)について、
ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

【医療について】

問7 あなたは、千葉県内の医療についてどう感じですか。 n=1,442 (○は1つ)

2.0 非常に満足している	34.1 やや不満である	13.9 わからない
41.5 まあ満足している	6.2 非常に不満である	2.3 無回答

→ (問7で「3」「4」とお答えの方に)

問8 あなたは、どのような点に不満を感じていますか。 n=582 (○は3つまで)

67.4 診療までの待ち時間が長い
9.8 近くに医療機関がない
39.7 夜間・休日の診療体制が十分ではない
19.2 初診の際にどの医療機関（診療科）を受診したらいいのかわかりにくい
25.4 医療機関ごとに得意とする診療科がわからない
22.3 症状や治療に関しての説明が十分ではない
7.2 他の医療機関への紹介がスムーズに行われない
18.4 医療機関の連携体制に関する情報提供が十分ではない
18.6 長期療養のための入院施設等が十分に整備されていない
9.8 その他（具体的に)
0.2 無回答

問9 あなたが、今後、県に力を入れて欲しい医療について、次の中から選んでください。

n=1,442 (○は3つまで)

31.2 がん医療	37.5 在宅（訪問）医療
21.1 循環器（心臓病・脳卒中）医療	24.8 地域単位の医療
34.0 救急救命医療	(その地域で完結する医療全般)
5.7 精神科（救急）医療	6.1 特になし
19.3 小児科（救急）医療	2.5 その他
13.6 産科・周産期医療	(具体的に)
30.4 老年医療	2.1 無回答

(すべての方に)

このほかに、「医療について」やここまでの質問（問7～問9）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

【ワーク・ライフ・バランスについて】

県では、「仕事と生活の調和」が図れる働き方の実現を目指して取り組みを進めています。

ワーク・ライフ・バランスは、あらゆる世代の人が人生の各段階に応じて仕事と仕事以外の生活について多様な生き方が選択・実現できる社会を目指す考え方であり、全ての人に関わるものです。

問 10 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉を知っていますか。
n=1,442（○は1つ）

18.8	言葉も内容も知っている	46.9	言葉も内容も知らない
32.5	言葉は聞いたことがあるが、内容まで知らない	1.8	無回答

※ ワーク・ライフ・バランスの定義

老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態を言います。

問 11 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現された社会」に近づくための取り組みに関する次の項目について、どう思いますか。

n=1,442（○はそれぞれ1つ）

	非常に重要である	重要である	どちらでもない	重要でない	まったく重要でない	無回答
(ア) 企業の経営者がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む	37.7	41.1	11.4	2.0	0.6	7.2
(イ) 企業の中でワーク・ライフ・バランスを推進する責任者を決める	19.2	45.6	20.4	5.8	1.2	7.7
(ウ) 管理職の意識改革を行う	35.1	42.9	10.8	2.1	0.8	8.3
(エ) 管理職以外の意識改革を行う	20.2	49.8	17.7	2.7	1.1	8.5
(オ) 仕事の量を減らす	9.0	23.8	44.5	11.5	2.8	8.4
(カ) 無駄な業務・作業をなくす	32.2	43.8	13.5	2.4	1.0	7.1
(キ) 休暇の取得計画をつくる	20.7	45.4	21.0	3.6	1.5	7.8
(ク) 取引先、下請け企業に無理な要求をしない	26.4	41.8	21.0	2.2	0.7	7.8
次のページへ続く						

	非常に重要である	重要である	どちらでもない	重要でない	まったく重要でない	無回答
n = 1, 442						
(ケ) 社員数を増やす	9.7	30.7	41.5	7.5	1.5	9.1
(コ) 給料を上げる	21.9	42.6	23.2	3.1	0.6	8.5
(サ) 残業をしない日（ノー残業デー）を設ける	18.9	41.7	23.5	5.8	1.3	8.8
(シ) 育児・介護休業を取りやすくする	36.9	45.1	8.5	0.6	0.5	8.4
(ス) 時間短縮勤務ができるようにする	22.7	45.4	20.6	2.1	0.4	8.7
(セ) 在宅勤務ができるようにする	14.1	33.5	36.4	5.5	1.7	8.8

問 12 問 11 でお答えいただいたうち、もっとも重要だと思うものはどれですか。

n = 1, 442 (○は 1 つ)

- 25.6 企業の経営者がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む
- 5.9 企業の中でワーク・ライフ・バランスを推進する責任者を決める
- 11.4 管理職の意識改革を行う
- 2.1 管理職以外の意識改革を行う
- 2.0 仕事の量を減らす
- 12.4 無駄な業務・作業をなくす
- 2.6 休暇の取得計画をつくる
- 1.9 取引先、下請け企業に無理な要求をしない
- 2.7 社員数を増やす
- 11.4 給料を上げる
- 1.3 残業をしない日（ノー残業デー）を設ける
- 6.7 育児・介護休業を取りやすくする
- 2.6 時間短縮勤務ができるようにする
- 2.1 在宅勤務ができるようにする
- 9.4 無回答

問 13 雇用されている女性が活躍できる仕事・職場環境にするためには何が必要だと思いますか。
n=1,442 (○はいくつでも)

42.9	企業の経営者が女性の活躍の促進に積極的であること	
62.5	職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること	
68.4	育児・介護との両立について職場の支援体制が整っていること	
34.8	企業内で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること	
13.3	身近に活躍している女性（ロールモデル）がいること	
49.1	仕事が適正に評価されること	
35.2	仕事の内容にやりがいがあること	
2.8	その他（具体的に	5.5 無回答

問 14 あなたは、1年前と比べて次の生活ごとの時間について、どう変わりましたか。
n=1,442 (○はそれぞれ1つ)

	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った	無回答
n=1,442						
(ア) 仕事	13.0	13.0	48.3	6.1	9.4	10.2
(イ) 家族のために行う家事、育児、介護、看護等	9.4	15.9	54.7	6.2	5.6	8.2
(ウ) 家族団らん等の家庭生活	3.1	8.7	58.2	12.5	9.6	8.0
(エ) 学習や趣味・娯楽	4.2	12.5	48.1	15.3	12.5	7.4
(オ) 自治会、市民活動団体などの地域・社会活動	2.0	5.8	63.2	8.8	11.4	8.7
(カ) 健康づくり、休養	3.9	14.8	51.0	15.0	9.2	6.2

(すべての方に)

このほかに、「ワーク・ライフ・バランスについて」やここまでの質問（問10～問14）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

【環境保全に関する取組について】

現在の環境問題は、人間のあらゆる活動がもたらす環境への負荷が自然の持つ復元能力を上回っていることから生じています。この解決のためには、一人ひとりの県民が日常生活において環境への配慮を行うとともに、環境保全のための活動に取り組んでいく必要があります。

問 15 あなたは普段の生活で次のようなことを行っていますか。（○はそれぞれ1つ）

	実施している	ときどき実施している	あまり実施していない	実施していない	該当するものがない	該当するものがない
n = 1,442						
(ア) 節電に努めている	48.7	38.8	8.2	1.9	0.1	2.4
(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする	61.0	27.3	6.2	2.4	0.6	2.6
(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ	36.7	30.4	20.0	6.0	2.9	3.9
(エ) レジ袋をもらわない	36.3	31.3	16.4	12.6	0.7	2.8
(オ) 車の急発進・急加速はしない	47.7	16.6	7.4	2.5	18.4	7.5

問 16 あなたはこれまでに県・市町村などの行政や民間団体などが実施する環境保全に関する講演やセミナー、あるいは植林や清掃活動などの環境ボランティア活動などに参加したことがありますか。 n = 1,442 (○は1つ)

24.4	参加したことがある	
32.6	参加したことはないが、機会があれば参加してみたい	
23.1	参加したことはなく、あまり参加したいと思わない	
15.7	参加したことはなく、今後とも参加するつもりはない	
2.2	その他（具体的に	2.0 無回答

（すべての方に）

このほかに、「環境保全に関する取組について」やここまでの質問（問 15～問 16）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

【道路整備について】

道路は、自動車、自転車、歩行者の通行、人や物資の輸送のための役割を持つほか、市街地の形成、災害時救援活動の支援や延焼の防止、緩衝空間、ライフラインの収容などの様々な役割を有しています。

問 17 あなたは普段の生活の中でどのような目的で「道路」を利用することが多いですか。

n=1,442 (○は1つ)

39.9	通勤・通学	4.2	業務（営業・配送など）	
43.9	家事・買物	0.3	業務（長距離の運送など）	
1.7	観光・レジャー	1.5	その他（具体的に	8.5 無回答

※「道路」を利用する手段は、徒歩・自転車・バイク・自動車など全てを含みますので、その中で一番と思われるものを選んでください。

※4は営業や宅配などの近距離の業務を、5は大都市間の荷物の運送など長距離の業務を指します。

問18 あなたは、千葉県内の道路状況について、満足していますか。

n=1,442 (○は1つ)

14.5	満足している	37.2	どちらでもない
46.0	満足していない	2.4	無回答

問 19 あなたは、今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題は何だと思えますか。

n=1,442 (○はいくつでも)

13.4	高速道路の整備（大都市圏の環状道路の整備、拠点を結ぶ道路の整備）	
25.4	幹線道路の整備（隣接市などの地域間を結ぶ道路の整備）	
61.0	生活道路の整備（通勤、通学などの日常の暮らしを支える道路の整備）	
41.9	渋滞対策（バイパスの整備・開かずの踏切対策・交差点の改良など）	
46.4	交通事故対策（通学路の歩道設置など）	
40.8	バリアフリー対策（歩道の段差の解消など）	
39.5	自転車利用の促進（自転車道・駐輪場の整備など）	
21.1	バスなどの公共交通機関への支援（バスレーンの整備など）	
16.7	既存道路の有効活用（高速道路料金の引下げ、インターチェンジの増設など）	
45.7	大雨や地震などの災害への備え（避難路の整備・橋の補強など）	
28.0	維持管理の充実（清掃など日常的な維持管理、老朽化した橋の予防対策など）	
19.5	わかりやすい案内標識などの整備	
15.0	道路景観の改善（電線類の地中化、植樹など）	
20.9	大気汚染や騒音などの環境対策	
7.4	カーナビ情報の充実（地図情報、渋滞情報の充実など）	
2.6	その他（具体的に	1.9 無回答

(すべての方に)

このほかに、「道路整備について」やここまでの質問（問 17～問 19）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

【青少年の健全育成について】

社会生活や学校生活を円滑に営む上で、困難を有する若者が増えています。また、有害情報の氾濫など、近年、青少年を取り巻く環境は急激に悪化しています。

問 20 あなたのまわりに「ひきこもり」と呼ばれる状態の若者はいますか。

n=1,442 (○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|---------|
| 9.3 近隣住民にいる | |
| 3.7 親戚（家族以外）にいる | |
| 1.8 家族にいる | |
| 7.0 親戚や、近隣住民以外の友人・知人にいる | |
| 10.2 若者ではないが、そのような状態の人が周りにいる | |
| 71.2 いない（知らない） | 2.0 無回答 |

問 21 あなたは「ひきこもり」と呼ばれる状態の若者に対し、行政はどのような支援を行うことが必要だと思われますか。

n=1,442 (○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------------|---------|
| 24.3 ひきこもりの若者やその家族向けの県の総合相談窓口の充実 | |
| 47.0 ひきこもりの若者やその家族向けの市町村の相談窓口の設置促進 | |
| 30.0 ひきこもり家庭への訪問支援 | |
| 43.0 家庭以外に若者が安心して通えるような居場所の設置 | |
| 32.9 対人関係の練習など、初歩的な社会性などを学べる機会の提供 | |
| 25.2 学力向上や資格取得など就労支援を行う機会の提供 | |
| 30.4 医療機関との連携を含んだ総合的な支援の促進 | |
| 25.9 ひきこもりに関する支援活動を行っている民間団体への支援 | |
| 16.2 行政以外の地域社会等による支援の充実 | |
| 4.7 特に支援は必要ない | |
| 3.5 その他（具体的に | 3.3 無回答 |

問22 県では、青少年を有害環境から保護するため青少年健全育成条例を制定しています。条例の中の次の項目のうち、知っているものはありますか。

- | | | |
|------|--|---------|
| 43.8 | 有害図書等の指定及び販売等の禁止 | |
| 28.4 | 有害図書等の陳列場所の制限（区分陳列） | |
| 33.8 | 青少年の深夜外出の制限 | |
| 48.7 | 深夜における店舗（カラオケボックス、インターネットカフェ等）への入場の禁止等 | |
| 22.3 | 携帯電話事業者等の保護者に対する説明義務 | |
| 23.9 | いずれも知らない | 2.8 無回答 |

(すべての方に)

【起業・創業について】

問 23 あなたご自身が、起業したいと考えたことがありますか。 n=1,442 (○は1つ)

- 4.8 自分が起こした事業を経営している
- 1.7 自分以外の人が起こした事業を継いで経営している
- 0.6 自分以外の人が起こした事業を継ぐ予定である
- 1.5 今後起業したい、または起業準備中である
- 14.2 多少起業に関心がある
- 16.4 以前は起業に関心があった
- 55.7 以前も今も起業に関心はない
- 5.0 無回答

問 24 配偶者や子どもなど家族やごく身近な方から起業したいと相談されたらどう評価しますか。(一番近い方を想定して回答してください。) n=1,442 (○は1つ)

- | | | |
|------|-----------------------------|----------------|
| 19.8 | 自分のやりたいことをやってほしいから、積極的に応援する | |
| 32.4 | 応援も反対もしない（本人の気持ちを尊重する） | |
| 22.5 | 起業する事業内容による | → 12 ページ問 25 へ |
| 5.5 | 反対する | → 12 ページ問 26 へ |
| 16.4 | わからない | |
| 0.3 | その他（ ） | 3.1 無回答 |

問 25 どのような場合に応援しますか。

n=324 (○はいくつでも)

- | |
|---|
| 71.3 起業する事業内容や経営の知識・技術などを考えて見込みがあれば応援する |
| 52.2 起業してもある程度の収入が確保できる事が分かれば応援する |
| 37.3 起業に失敗しても、そのダメージが我慢できる範囲だと分かれば応援する |
| 0.6 わからない |
| 1.9 その他 () |
| 1.5 無回答 |

(問 24 で「4」とお答えの方に)

問 26 その理由は何だと思えますか。

n=80 (○はいくつでも)

- | |
|------------------------------------|
| 40.0 起業すると日々の心配ごとが増えるから |
| 68.8 起業すると安定した収入が確保できなくなるから |
| 1.3 起業すると家事や育児をする人がいなくなるから |
| 27.5 本人が商売に向いてないと思うから |
| 45.0 本人に起業して生活できるほど経営知識や技術がないと思うから |
| 27.5 起業に失敗したら本人が可哀想だから |
| 1.3 起業することは周り近所に対して恥ずかしいから |
| 2.5 起業して失敗したら周り近所に対して恥ずかしいから |
| 0.0 わからない |
| 6.3 その他 () |
| 0.0 無回答 |

問 27 地域で起業が増えるとどんな影響があると思えますか。n=1,442(○はいくつでも)

- | |
|--------------------------------|
| 30.0 やりがいがある就業機会が増加する |
| 55.5 地域産業の発展や地域経済が活性化する |
| 18.8 地域のコミュニティづくりや伝統文化の継承につながる |
| 27.4 地域で生活する人々の生活を充足し質が向上する |
| 9.4 地域の安全安心や医療福祉が充実する |
| 1.4 その他 (具体的に) |
| 6.8 特に影響はない |
| 14.4 わからない |
| 7.0 無回答 |

(すべての方に)

このほかに、「起業・創業について」やここまでの質問(問 23～問 27)について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

【県民の文化芸術活動について】

県では、「ちば文化」の創造と千葉県民のアイデンティティの醸成を通じて、心豊かに暮らし、活力ある千葉県を目指して、「ちば文化振興計画」を策定し、「ちば文化」に親しめる環境を創るとともに、情報発信や文化資源の活用に取り組んでいます。

問 28 あなたが、特に関心を持っている文化芸術はありますか。

n=1,442 (〇はいくつでも)

9.8 文芸（詩、俳句、小説など）	17.1 演芸（落語、講談、漫才など）
16.2 クラシック音楽	15.2 生活文化（茶華道、書道、盆栽など）
20.1 ポピュラー音楽	6.8 国民娯楽（囲碁、将棋など）
8.0 日本の伝統音楽	16.6 地域の歴史・文化財・伝統芸能（神楽、獅子舞など）
26.0 美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸など）	38.3 自然（動物・植物）、科学・産業など
12.7 写真	13.0 特になし
34.6 映画、漫画、アニメなど	2.2 その他
16.1 演劇（現代劇、ミュージカルなど）	(具体的に)
7.8 舞踊（バレエ、ダンスなど）	2.4 無回答
10.8 歌舞伎、能・狂言、文楽、日本舞踊	

問 29 この１年間にあなたが住んでいる地域や県内の文化施設などで、直接鑑賞したり、ふれたりした文化芸術はありますか。

n=1,442 (〇はいくつでも)

3.7 文芸（詩、俳句、小説など）	6.9 演芸（落語、講談、漫才など）
7.1 クラシック音楽	7.6 生活文化（茶華道、書道、盆栽など）
7.9 ポピュラー音楽	1.8 国民娯楽（囲碁、将棋など）
2.6 日本の伝統音楽	10.4 地域の歴史・文化財・伝統芸能（神楽、獅子舞など）
15.7 美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸など）	21.2 自然（動物・植物）、科学・産業など
7.2 写真	29.5 鑑賞したりふれたりしたものはなし
23.7 映画、漫画、アニメなど	2.0 その他
4.2 演劇（現代劇、ミュージカルなど）	→ 14 ページ問 30 へ
4.9 舞踊（バレエ、ダンスなど）	(具体的に)
2.9 歌舞伎、能・狂言、文楽、日本舞踊	5.1 無回答

(問 29 で「16」とお答えの方に)

問 30 その理由は何ですか。

n = 426

(○はいくつでも)

- 13.8 文化芸術に対し、そもそも関心がないから
 23.7 興味のある内容の文化芸術の催し物がないから
 23.7 催し物の情報が得られないから
 10.6 近隣に、文化施設等がないから
 14.3 他県（東京都含む）の文化施設を利用するから
 4.9 催し物等の料金が安いから
 31.7 家庭などでテレビ、DVDなどのメディアで鑑賞しているから
 29.3 仕事等（育児・介護等含む）で忙しく鑑賞に出かけられないから
 22.1 自分の都合のよい日時に開催されていないから
 5.2 その他（具体的に) 1.2 無回答

問 31 あなたは、文化振興にあたっての県の取り組みに関する次の項目について、どう
 思いますか。 n = 1,442 (○はそれぞれ1つずつ)

	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
(ア) 文化芸術活動を支える環境が整っている	2.6	16.2	35.0	10.9	7.7	21.3	6.3
(イ) 芸術鑑賞の機会や、子どもたちが文化にふれ親しむ環境が充実している	2.6	15.9	33.4	13.4	8.9	19.4	6.4
(ウ) 文化資源が観光・まちづくりに活用され、地域の活性化が図られている	1.6	16.0	32.5	12.8	10.5	19.6	7.1
(エ) 伝統文化にふれる機会があり、子どもたち（次世代）へ伝統文化が引き継がれている	2.5	10.7	31.1	14.9	13.1	20.9	6.8
(オ) 県内の文化活動や文化資源の情報が提供されている	2.2	13.5	31.1	14.4	12.3	19.6	6.8

問 32 あなたは、あなたが住んでいる地域の文化的環境を満足できるものとするために、何が必要だと思いますか。 n = 1, 442 (○はいくつでも)

- | | | |
|-------|----------------------------|------------|
| 15. 4 | 芸術家や文化団体の活動の支援 | |
| 15. 8 | 文化施設や文化事業において地域の芸術家を積極的に活用 | |
| 32. 6 | 公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実 | |
| 47. 5 | 子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実 | |
| 32. 2 | 文化会館やホール、美術館・博物館などの文化施設の充実 | |
| 27. 1 | 歴史的な建物や遺跡などを活かしたまちづくりの推進 | |
| 39. 0 | 地域の芸術や祭りなどの継承・保存 | |
| 34. 1 | 地域の文化に関わる情報の提供 | |
| 2. 2 | その他（具体的に | ） 7. 3 無回答 |

問 33 あなたは、千葉県文化芸術を振興するために、県が果たす役割はどのようなことだと思いますか。 n = 1, 442 (○はいくつでも)

- | | | |
|-------|-------------------------|------------|
| 35. 4 | 優れた音楽会や展覧会などの鑑賞機会の充実 | |
| 43. 3 | 青少年が文化芸術に親しむ機会の充実 | |
| 33. 4 | 文化芸術に関する情報の提供 | |
| 30. 2 | 練習や稽古など、文化芸術活動ができる施設の整備 | |
| 29. 6 | 若手芸術家の育成・支援 | |
| 32. 7 | 文化財や伝統芸能などの保存・継承への支援 | |
| 18. 2 | 民間活力を活かした文化芸術活動の促進 | |
| 17. 3 | 文化芸術の国際交流や地域間交流の促進 | |
| 8. 0 | 特になし | |
| 1. 7 | その他（具体的に | ） 6. 1 無回答 |

(すべての方に)

このほかに、「県民の文化芸術活動について」やここまでの質問（問 28～問 33）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

【男女共同参画社会の形成促進について】

千葉県では、男女が、ともに認め合い、支え合うパートナーとして、いきいきと活躍できる男女共同参画社会を目指しています。

問 34 あなたは男女共同参画社会を実現するための様々な取組のなかで、今後、行政はどのようなことにより力を入れるべきと考えますか。 n=1,442 (○はいくつでも)

- 66.4 子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する
- 69.6 子育てや介護中でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
- 63.9 保育及び介護の施設やサービスを充実する
- 42.6 労働時間短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める
- 13.5 女性の起業・創業が進むよう支援する
- 18.9 国や地方公共団体の審議委員会や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
- 17.1 企業等の管理職に女性の登用が進むよう支援する
- 11.0 男女共同参画に関する条例を制定する
- 16.3 従来女性が少なかった分野（研究者等）への女性の進出を支援する
- 15.9 女性・男性の生き方、悩みに関する相談窓口を設置する
- 15.0 男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する
- 15.5 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRをする
- 12.4 施策を実施するにあたって企業や民間団体（NPO等）との連携を推進する
- 1.7 その他（具体的に) 5.0 無回答

問 35 県では男女共同参画推進拠点として、「男女共同参画センター」を設置しています。あなたは、この男女共同参画センターにどのような事業を充実させるべきだと思いますか。 n=1,442 (○はいくつでも)

- 30.7 男女共同参画に関する情報・書籍・資料等の収集と提供
- 27.0 女性相談窓口の充実
- 16.6 男性相談窓口の充実
- 28.0 DV被害者等の自立に向けた支援相談の充実
- 29.8 市町村等、地域における男女共同参画推進に向けての活動支援
- 13.4 講演会・シンポジウム・フェスティバル等の企画・開催
- 11.6 女性リーダー育成講座等の実施
- 39.7 就職・再就職や起業講座等による女性の就業支援
- 36.5 いつでも誰でも立ち寄れる交流の場
- 2.5 その他（具体的に) 9.1 無回答

問 36 性犯罪や配偶者・恋人等から受ける暴力であるドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）、職場等での性的な嫌がらせのセクシャル・ハラスメント（セクハラ）、つきまとい等の行為をするストーカーなどの性に関する様々な問題が社会的な課題となっています。

あなたは、このような行為をなくすためには、どのようにしたら良いと思いますか。

n = 1, 442 (○はいくつでも)

- | | | |
|------|----------------------------------|-----------|
| 61.8 | 犯罪の取締りを強化する | |
| 62.1 | 被害者のための相談・保護施設を整備する | |
| 49.3 | 被害者支援や加害者対策などに関する法律・制度の制定、見直しを行う | |
| 30.2 | 過激なビデオ・ゲーム・雑誌等の販売、貸出を制限する | |
| 26.2 | 過激なテレビ・漫画等の各種メディアの倫理規制をする | |
| 37.1 | 学校における男女平等や性について教育を充実する | |
| 20.6 | 家庭における男女平等や性についての教育を充実させる | |
| 18.9 | 捜査・裁判の担当者に女性を増やす | |
| 34.9 | 被害者を支援し、暴力に反対する社会的気運を盛り上げる | |
| 3.2 | その他（具体的に | ） 3.9 無回答 |

(すべての方に)

このほかに、「男女共同参画社会の形成促進について」やここまでの質問（問 34～問 36）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

【県民の治安に対する意識と警察に求めることについて】

問 37 あなたが住んでいる地域における最近の犯罪の発生状況についてどう感じますか。

n = 1, 442 (○は 1 つ)

- | | | | | | |
|------|--------------|------|---------------|-----|-----|
| 4.6 | 非常に多くなったと感じる | 5.1 | 少なくなったと感じる | | |
| 25.2 | 多くなったと感じる | 0.8 | 非常に少なくなったと感じる | | |
| 35.2 | 変わらない | 26.4 | わからない | 2.7 | 無回答 |

問 38 あなたが、あなた自身やあなたの家族、友人、同僚などの身近な人が犯罪に巻き込まれる危険性について不安を感じている犯罪はありますか。

n = 1, 442 (○はいくつでも)

20.9	殺人、強盗、誘拐などの凶悪な犯罪	
51.3	振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺	
47.2	暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪	
43.0	自転車・自動車盗などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪	
34.4	家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪	
13.1	外国人や暴力団などの組織を背景に行われる犯罪	
27.9	危険ドラッグ・麻薬・覚醒剤の使用などの薬物犯罪や薬物使用に起因する犯罪	
21.5	痴漢、強姦などの性的犯罪	
15.3	DV・ストーカー行為	
35.2	子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪	
8.1	歓楽街における客引きや違法風俗営業などの犯罪	
15.2	非行少年、暴走族等による犯罪	
42.0	インターネットを利用した犯罪	
5.1	国際テロ組織による大規模なテロ犯罪や過激派集団によるゲリラ行為	
41.5	飲酒運転、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反	
1.5	その他（具体的に	）
9.0	特になし	4.0 無回答

問 39 県警では、平成22年4月から、安全で安心できる県民生活の確保と地域の防犯力を強化するために、移動交番車を段階的に整備し、平成25年1月からは、県下で計50台の移動交番車を運用しています。

あなたは、千葉県で移動交番車が運用されていることを知っていますか。

n = 1, 442 (○は1つ)

30.1	知っているし、見たこともある	53.6	知らない
13.3	知っているが、見たことはない	3.0	無回答

問40 あなたが移動交番車の運用に期待することは何ですか。

n = 1, 442 (○はいくつでも)

13.5	定期的に移動交番を開設し、落とし物等の届出の受理などの交番業務をしてほしい	
32.1	高齢者等が集まる場所で防犯指導や交通安全指導をしてほしい	
71.7	通学路や公園等、子どもが多い場所をパトロールしてほしい	
37.4	繁華街や駅付近でのパトロールを強化してほしい	
46.2	交通事故が多い交差点などで事故防止活動をしてほしい	
2.8	その他（具体的に	）
5.0	特になし	4.2 無回答

問 41 あなたが、警察に力を入れて取り締まって欲しい犯罪は何ですか。n=1,442 (○はいくつでも)

- 47.2 殺人、強盗、誘拐などの凶悪な犯罪
- 56.4 振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺
- 55.5 暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪
- 39.7 自転車・自動車盗などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪
- 36.0 家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪
- 28.4 外国人や暴力団などの組織を背景に行われる犯罪
- 54.8 危険ドラッグ・麻薬・覚醒剤の売買、乱用などの薬物犯罪
- 37.3 痴漢、強姦などの性的犯罪
- 29.7 DV・ストーカー行為
- 53.7 子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪
- 18.2 歓楽街における客引きや違法風俗営業などの犯罪
- 29.2 非行少年、暴走族等による犯罪
- 35.9 インターネットを利用した犯罪
- 14.4 国際テロ組織による大規模なテロ犯罪や過激派集団によるゲリラ行為
- 52.1 飲酒運転、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反
- 2.8 その他（具体的に) 3.9 無回答

問 42 あなたは犯罪や事故の心配のない、安全で安心できる生活を守っていくために、何が必要だと思いますか。n=1,442 (○は3つまで)

- 17.5 警察官を増やし、警察力を強化する
- 33.8 警察官や交番相談員を増やし、交番を不在にする時間を解消する
- 26.6 パトカーや白バイなどを増やし、パトロールを強化する
- 22.9 人口や事件が増えている地域に警察署、交番、駐在所を新設する
- 30.1 高齢者に対する安全・安心対策を推進する（交通安全、振り込め詐欺等）
- 26.0 子どもや女性に対する性犯罪等の未然防止対策を推進する
- 23.4 学校等における非行防止、通学路における安全確保を推進する
- 11.1 最先端技術を駆使した装備や機材を導入するなど、警察の科学捜査力を充実させる
- 31.1 警察と地域住民が連携して行う防犯パトロールや防犯講習会の開催など、防犯活動を推進する
- 7.4 民間企業のセキュリティーシステムに加入するなど、自己防衛力を強化する
- 17.1 ボランティア、自治会等、地域主導型の防犯組織づくりを推進する
- 2.3 その他（具体的に) 4.2 無回答

(すべての方に)

このほかに、「県民の治安に対する意識と警察に求めることについて」やここまでの質問（問 37～問 42）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

【社会全体での暴力団排除の推進について】

問 43 千葉県では、社会全体として、暴力団が悪質な存在であるという認識の下に、暴力団を恐れないこと、暴力団に対して資金を提供しないこと及び暴力団を利用しないことを基本に暴力団の排除を推進することを定めた千葉県暴力団排除条例が制定されていますが、あなたはこの千葉県暴力団排除条例が制定されていることを知っていますか。 n=1,442 (○は1つ)

5.1 よく知っている	52.1 知らない
38.0 多少は知っている (聞いたことがある)	4.8 無回答

→ (問 43 で「1」「2」とお答えの方に)

問 44 千葉県暴力団排除条例で定められている規制等として、どのようなものがあるか知っていますか。 n=621 (○はいくつでも)

54.6 誰であっても、暴力団事務所に使用されることになることを知りながら、不動産譲渡等の契約をしてはならない	
43.8 誰であっても、暴力団事務所に使用されることになることを知りながら、不動産契約の代理・媒介をしてはならない	
58.5 企業や経営者等が、暴力団の活動や運営に役立つことを知りながら、金品などを渡してはならない	
49.9 企業や経営者等が、暴力団の威力を利用する目的で金品などを渡してはならない	
37.7 企業や経営者等が、暴力団に協力する目的で金品などを渡したり、物品を通常価格よりも高額で買うなどしてはならない	
20.9 暴力団員が、自己が活動の拠点とする暴力団事務所に少年(20歳未満の者)を立ち入らせてはならない	
21.7 どのような規制があるか知らない	1.0 無回答

問 45 県(警察を含む。)では、千葉県暴力団排除条例に基づき、暴力団排除に関する情報の提供、暴力団排除に取り組んだ人への保護措置、広報活動等の支援を講ずることとしていますが、このほかに、あなたが暴力団排除の取組に参加する上でどのような支援が必要であると考えますか。 n=1,442 (○はいくつでも)

26.8 同一の目的で暴力団排除に取り組もうとする者が集まる機会の提供	
49.4 県や警察等の行政機関と県民・事業者が意見交換できる場の提供	
54.0 暴力団排除に関する経験者・専門家等に相談できる機会の提供	
2.4 その他(具体的に)	13.9 無回答

問 46 暴力団を排除するためには、警察による取締りの他、住民運動や、事業活動において暴力団との関係遮断を図ることが必要とされていますが、あなたは、どのような取組であれば参加しますか。次の中から選んでください。n=1,442 (○はいくつでも)

25.2	暴力団事務所の立ち退き運動		
16.0	暴力団排除を目的とする団体の結成		
38.9	暴力団との取引の拒否		
13.7	暴力団を相手とする損害賠償請求等の民事訴訟		
51.9	暴力団排除のための県への情報提供		
3.5	その他（具体的に	14.7	無回答

(すべての方に)

このほかに、「社会全体での暴力団排除の推進について」やここまでの質問(問 43～問 46)について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

以上で質問は終わりですが、調査結果を統計的に分析するために必要なことがらをお聞かせください。

F 1 あなたの性別は。 n=1,442 (○は1つ)

42.6	男性	55.1	女性	2.2	無回答
------	----	------	----	-----	-----

F 2 あなたは満何歳ですか。 n=1,442 (○は1つ)

7.6	20～29 歳	16.9	40～49 歳	9.2	60～64 歳		
13.0	30～39 歳	15.1	50～59 歳	35.7	65 歳以上	2.4	無回答

F 3 あなたのご職業は何ですか。 n=1,442 (○は1つ)

自営業主	家族従業者	勤め人	無職
0.8 農林漁業	0.8 農林漁業	6.5 管理職	33.2 主婦・主夫
2.4 商工サービス業	0.7 商工サービス業	18.2 専門技術・事務職	1.2 学生
3.2 自由業	0.6 自由業	11.0 販売・サービス職	10.1 その他
		6.2 労務職	()
			5.0 無回答

F 4 あなたは、主としてあなたのご家庭の家計を支えている方ですか。n=1,442 (○は1つ)

46.1 はい → F 5 へ	43.3 いいえ	10.6 無回答
-----------------	----------	----------

(F 4で「2」とお答えの方に)

→ F 4-1 あなたのご家庭の家計を主として支えている方のご職業は何ですか。
n=624 (○は1つ)

自営業主	家族従業者	勤め人	無職
1.1 農林漁業	0.6 農林漁業	14.1 管理職	28.0 無職
2.6 商工サービス業	0.3 商工サービス業	23.6 専門技術・事務職	
5.6 自由業	0.5 自由業	9.6 販売・サービス職	
		9.1 労務職	

4.8 無回答

F 5 あなたは、結婚していらっしゃいますか。n=1,442 (○は1つ)

17.8 未婚	64.1 既婚 (配偶者有)	10.1 既婚 (配偶者離死別)
---------	----------------	------------------

8.0 無回答

F 6 あなたは、お子さんが何人いらっしゃいますか。同居、別居は問いません。

n=1,442 (○は1つ)

15.3 1人	11.1 3人	0.4 5人以上
39.0 2人	2.1 4人	22.3 子どもはいない → F 7 へ

9.7 無回答

(F 6で「1」～「5」のいずれかをお答えの方に)

→ F 6-1 一緒にお住まいのあなたのお子さんで次の中にあげるような方はいらっしゃいますか。
n=981 (○はいくつでも)

7.8 0～2歳の子ども	5.4 大学・大学院在学中の子ども
8.6 3歳以上の未就学の子ども	26.2 学校を終えた未婚の子ども
18.6 小学校・中学校在学中の子ども	15.6 結婚した子ども
9.0 高校在学中の子ども	20.6 同居している子どもはいない
2.0 短大・高専・各種学校・専修学校 に在学中の子ども	8.1 無回答

F 7 あなたと一緒に住まいのご家族の構成は次の中のどれに該当しますか。

n=1,442 (○は1つ)

10.2 単身	8.3 三世代世帯 (親と子と孫)
25.2 夫婦のみ	4.4 その他
41.5 二世代世帯 (親と子)	(具体的に) 10.5 無回答

F 8 一緒にお住まいのご家族には 65 歳以上の方がいらっしゃいますか。あなたご自身も含めてお答えください。 n=1,442 (○は1つ)

49.7	いる	41.6	いない	8.7	無回答
------	----	------	-----	-----	-----

F 9 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。 n=1,442 (○は1つ)

63.0	持家（一戸建）	4.4	公社・UR 都市機構・県市町村営住宅
11.5	分譲マンション	0.8	社宅などの給与住宅
2.4	民間の借家（一戸建）	0.3	住み込み・寮・寄宿舍
10.4	賃貸のアパート・マンション	0.3	その他（具体的に
			） 6.8 無回答

F 10 あなたは、千葉県に通算して何年くらいお住まいですか。 n=1,442 (○は1つ)

0.4	1 年未満	4.0	5 年～10 年未満	14.4	20 年～30 年未満
1.6	1 年～3 年未満	4.5	10 年～15 年未満	61.1	30 年以上
2.1	3 年～5 年未満	5.0	15 年～20 年未満	0.1	わからない
				6.8	無回答

F 11 あなたは、次のどの市町村にお住まいですか。 n=1,442 (○は1つ)

14.1	千葉市	2.6	八千代市	0.5	大網白里市
0.8	銚子市	2.0	我孫子市	0.0	印旛郡酒々井町
6.8	市川市	0.3	鴨川市	0.5	印旛郡栄町
9.4	船橋市	1.8	鎌ケ谷市	0.0	香取郡神崎町
1.0	館山市	1.7	君津市	0.3	香取郡多古町
2.1	木更津市	0.9	富津市	0.0	香取郡東庄町
7.3	松戸市	2.3	浦安市	0.0	山武郡九十九里町
2.6	野田市	1.6	四街道市	0.3	山武郡芝山町
1.0	茂原市	1.1	袖ヶ浦市	0.6	山武郡横芝光町
1.6	成田市	1.1	八街市	0.0	長生郡一宮町
2.5	佐倉市	1.1	印西市	0.4	長生郡睦沢町
0.9	東金市	1.4	白井市	0.0	長生郡長生村
1.0	旭 市	1.2	富里市	0.6	長生郡白子町
2.6	習志野市	0.6	南房総市	0.0	長生郡長柄町
6.7	柏 市	0.5	匝瑳市	0.0	長生郡長南町
0.6	勝浦市	1.5	香取市	0.3	夷隅郡大多喜町
3.2	市原市	0.8	山武市	0.0	夷隅郡御宿町
2.4	流山市	0.5	いすみ市	0.0	安房郡鋸南町

7.1 無回答

以上で質問はすべて終わりです。

このほかにも、県への意見があればご自由にお書きください。

また、この「世論調査」について、ご意見やご提案があればお書きください。

お忙しいところをご協力いただき、ありがとうございました。
ご記入いただいた調査用紙は、同封の返信用封筒に入れて、
12月15日（月）までにポストにご投函ください。なお、切手は不要です。

平成 26 年度

(第 49 回)

県 政 に 関 す る 世 論 調 査

平成 27 年 5 月発行

(平成 26 年 11 月実施)

千葉県総合企画部報道広報課

千葉市中央区市場町 1 番 1 号

(広聴室) 電話 0 4 3 - 2 2 3 - 2 4 6 9
